

令和6年度

三重県ひきこもり 実態調査報告書

当事者・家族・支援機関の声から
見えてきた支援の課題と提言

一般社団法人ひきこもりUX会議

調査・分析アドバイス
関水徹平（社会学者）

はじめに 調査の背景と目的

三重県では、「誰一人取り残さない」地域共生社会の実現に向けて、ひきこもり支援を総合的に推進するため、令和4年3月に「三重県ひきこもり支援推進計画」を策定している。

これまでも「みんな広く包みこむ地域社会 三重」の実現をめざし、地域課題を全体的にとらえ、包括的な支援体制の構築を進めるため、令和元年度に「三重県地域福祉支援計画」（計画期間：令和2年度～6年度）を策定した。この計画において、ひきこもり状態にある方を含む「生きづらさを抱える方」を支援対象として明確に位置付け、相談支援や市町職員等の人材育成などに取り組んできた。

その間、国では令和2年6月の社会福祉法改正にあたり、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、アウトリーチ（訪問型）支援を含む、断らない相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する「重層的支援体制整備事業」が新たに創設された（令和3年4月施行）。三重県でも5市町で取組が開始されるなど、市町におけるひきこもり支援を推進するための基盤整備が進み始めていた。

この機をとらえて策定された「三重県ひきこもり支援推進計画」は、「誰一人取り残さない」地域共生社会の実現に向けて、ひきこもり支援を総合的に推進していくことを趣旨としている。また、計画の推進を通じて、ひきこもり当事者に限らず、誰もが自分らしい生き方を選択できる社会の再構築（リ・デザイン）につなげていくことを目指した。

このたび本計画が令和6年度に最終年度を迎えることから、約2万人いると推計される県内におけるひきこもりの実態や支援ニーズを把握し、それに応じた施策を構築することを目的に「三重県ひきこもりに関する実態調査」を実施することとなった。

ひきこもりは大きな社会問題として認知されつつあるものの、依然その実態は見えづらい。今回の調査では、すでに支援を受けている当事者や家族だけでなく、支援につながっていない当事者や家族も含め、一人でも多くの声を集めることを目指した。また、県内の支援機関にも調査への協力を依頼し、ひきこもり支援に取り組む現場で感じている課題や、今後の支援への展望など支援者側からの声やニーズも聞き取ることとした。そのために今回は、（1）当事者/経験者調査、（2）家族調査、（3）支援機関調査の3つの調査を設計・実施した。

なお本調査は三重県より委託を受け、ひきこもり、不登校、発達障害、性的マイノリティなどの当事者/経験者らで構成される一般社団法人ひきこもりUX会議が実施した。当事者団体として活動してきた実績や視点から、当事者やその家族のより具体的な課題やニーズを明らかにできる調査の設計および回答の分析を目指した。ヒアリング調査においても、ひきこもり状態にある人や家族、支援者に向けた安心できる場づくり等の活動をしてきた経験を活かし、ヒアリングの協力者が安心して実情や思いを語れるよう信頼関係を築きつつ、一人ひとりのお話を深くお聞きすることができたと考えている。本調査を通じ、より実態に即した現状把握がなされ、誰も取り残されることがない、新たなひきこもり支援計画の構築に資することができれば幸甚である。

目次

はじめに 調査の背景と目的.....	1
序章.....	3
第1節 調査概要.....	4
第2節 内閣府調査にもとづく概観.....	7
第1章 ひきこもり当事者/経験者調査の結果.....	11
第1節 アンケート調査の結果.....	12
第2節 ヒアリング調査の結果.....	38
第2章 家族調査の結果.....	45
第1節 アンケート調査の結果.....	46
第2節 ヒアリング調査の結果.....	68
第3章 支援機関調査の結果.....	74
第1節 アンケート調査の結果.....	75
第2節 ヒアリング調査の結果.....	97
第4章 分析・考察 ～実態調査から見えてきたこと～.....	108
第1節 当事者/経験者調査.....	109
第2節 家族調査.....	115
第3節 支援機関調査.....	119
第5章 実態調査に基づく「ひきこもり支援」への提言.....	127
おわりに.....	135
付録.....	136
単純集計・当事者/経験者調査.....	137
単純集計・家族調査.....	180
単純集計・支援機関調査.....	214
調査票・当事者/経験者調査.....	248
調査票・家族調査.....	263
調査票・支援機関調査.....	277
調査実施告知チラシ.....	291

序章

第1節 調査の概要

第2節 内閣府調査にもとづく概観

序章

第1節 調査の概要

Ⅰ 調査の背景と目的

本調査は、令和4年3月に策定した「三重県ひきこもり支援推進計画」が令和6年度に計画期間の最終年度を迎えることから、県内におけるひきこもりの実態や支援ニーズを把握し、それに応じた施策を構築することを目的に実施した。なお、内閣府の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」における「広義のひきこもり」の出現率（15歳以上39歳以下で2.05%、40歳以上64歳以下では2.02%）をもとにすると、県内のひきこもり状態にある人は合計約2万人と推計される（本章第2節参照）。

Ⅱ 実施体制

事業名：ひきこもり当事者・家族に対する実態調査事業

調査主体：三重県

受託団体：一般社団法人ひきこもりUX会議

調査・分析アドバイス：関水徹平（明治学院大学社会学部社会福祉学科 准教授）

Ⅲ 本調査における「ひきこもり」の定義と捉え方

本調査では、三重県内のひきこもり当事者/経験者、家族、支援機関を対象に調査を実施した。各調査における「ひきこもり」の定義について説明する。まず、三重県では以下のように「ひきこもり」を定義している。

1. 学校や仕事等の社会活動に参加せず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、原則6か月以上にわたって自宅にとどまり続けている状態の方
2. 学校や仕事等の社会活動に参加せず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物や趣味の用事など他者と交わらない形で外出することがある方
（「三重県ひきこもり支援推進計画」より）

【当事者/経験者調査における定義】 三重県の定義とは異なった定義を採用した。ひきこもりは一般的に社会的孤立の状態を指すが、外出頻度の低さや非交流的な期間によって社会的孤立を客観的に定義しても、その状態にある本人が主観的にも社会的孤立を自認・自覚しているかどうかは分からない。そこで本調査では、「ひきこもり」という社会的孤立を表現する用語を自分に当てはめていることを重視してひきこもりを定義した。つまり、自分を「ひきこもり」だと考えている人（自認・自覚のある人）をひきこもり当事者としてとらえ、その経験やニーズを調査することとした。

【家族調査における定義】 三重県の定義をベースにしつつ、定義に厳密に当てはまらなくても、家族が「ひきこもり」状態にあるとみなしている場合には調査対象とする。

【支援機関調査における定義】 三重県の定義をベースにしつつ、ひきこもり期間や程度が確認できていない場合でも、定義に当てはまると推定されるケースは「ひきこもり」に含める。

Ⅰ 調査設計

本調査では、当事者/経験者、家族、支援機関を対象に、量的調査（アンケート調査）と質的調査（ヒアリング調査）を実施した。以下それぞれの調査の対象、方法、分析方法について述べる。

【アンケート調査の実施方法】

●調査対象・調査方法：以下の調査対象者に対して、Googleフォームを用いたアンケートフォームでの回答、および郵送によるアンケート用紙での回答（返送）を求めた。

1. 当事者/経験者：三重県在住で、現在ひきこもり状態にある方、または過去にひきこもり経験がある方（性別、年齢問わず）
2. 家族：三重県在住で、現在ひきこもり状態のご家族がいる方（性別、年齢問わず）
3. 支援機関：三重県が把握している、ひきこもりに関わる県内の支援機関

調査の周知（回答依頼）は、一般社団法人ひきこもりUX会議（以下本報告書では「UX会議」）が三重県と協力し、以下の方法で行った。

- ・三重県知事定例記者会見での発表
 - ・報道機関へのプレスリリース
 - ・三重県内の市役所、図書館等の公共施設でのチラシ設置
 - ・支援機関を通じた当事者/経験者・家族への調査協力依頼チラシ配布
 - ・UX会議のブログやSNSでの告知
 - ・関連イベントとして「ひきこもり経験者による体験談&小さな交流会」を四日市市、津市の2会場で開催（令和6年8月8日、9日）し、参加者に調査への協力を募る
- * 本報告書巻末に当事者/経験者・家族向けの調査告知チラシを掲載した。

●調査期間：調査期間は以下の通りである。
令和6年8月1日（木）～8月31日（土）

●有効回答数：各調査の有効回答数は以下の通りである。

- ・当事者/経験者調査：有効回答数39件（オンライン回収数38件、書面回収数1件）
- ・家族調査：有効回答数61件（オンライン回収数60件、書面回収数1件）
- ・支援機関調査：有効回答数155件（オンライン回収数154件、書面回収数1件）

●分析手法

分析は基本的に、統計ソフトのSPSSを用いて単純集計およびクロス集計を行った。

なお、自由記述を引用する際には、表記や語法等の明らかな誤りと認められる箇所の修正および文意が通りにくい箇所の補足などを行った。また、プライバシー保護のため一部を伏せ字としたり紙幅の都合上省略して記載している場合もある。

●図表で用いるデータの数値

本書で用いる図表の数値は、小数点第二位以下を四捨五入して表記した。そのため、単一回答の設問において合計が100%とならない場合がある。

【ヒアリング調査の実施方法・分析方法】

●調査対象・調査方法

アンケート末に付したヒアリング調査への協力依頼に対して協力の意向を示した回答者の中から、同意を得た6名の当事者、5名の家族と10の支援機関を対象として、個別ヒアリングを実施した。ヒアリング調査対象者は、地域、年齢、性別、機関等ができるだけ多様になるよう考慮した上で選定した。ヒアリングは、対面もしくはオンライン会議ツールZoomを使用して実施した。1件あたりの所要時間は、当事者・家族は平均1時間程度、支援機関は平均40分程度であった。

調査への協力を得るにあたっては、調査データは「個人が特定できない形で、三重県のWebサイトや受託者（ひきこもりUX会議）のブログ等において公表する」ことを事前に調査協力者に説明し、同意書にサインしていただいた。

●調査期間：調査期間は以下の通りである。

令和6年8月19日（月）～10月28日（月）

●分析手法

ヒアリング内容については、収録した音声データの文字起こしを行い、支援に関する言及部分を中心に要約を作成した。

アンケート調査の自由記述と同様に、文字起こしの中で文意が通りにくい箇所は補足した。また、プライバシー保護のため一部を伏せ字としたり省略したりした箇所もある。

第2節 内閣府調査にもとづく概観

本節では、これまでに国や他自治体が行った調査結果を概観する。なお、内閣府調査における「広義のひきこもり」の定義は、本調査における当事者の自認を重視する定義とは異なり、社会的孤立の実態が十分に反映されていない可能性もある。

これらの点を踏まえつつ、以下では国や他自治体が行った調査で得られた結果から、ひきこもり状態にある当事者の属性、ひきこもったきっかけ、期間、就労経験、支援とのつながりについて概観する。

1. 「ひきこもり」の人数

内閣府の「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」（以下「R4内閣府報告書」という。）によると、「広義のひきこもり※」の出現率は15歳以上39歳以下で2.05%、40歳以上64歳以下では2.02%と報告されている（40歳以上69歳以下では2.97%）。

以上の結果から、ひきこもりが若者特有の現象ではなく、中高年層にも若年層と同程度みられることがわかる。

三重県の人口調査（令和5年10月1日現在）における15歳以上39歳以下の人口、40歳以上64歳以下の人口にそれぞれ2.05%、2.02%を乗じて推計値を算出すると、三重県における「広義のひきこもり」は、約2万人と推計される。

【三重県の「広義のひきこもり」推計値】

年齢層	人口	割合	推計値
15歳以上39歳以下	399,517人	2.05%	8,190人
40歳以上64歳以下	570,432人	2.02%	11,523人
			合計 19,713人

2. 性別

R4内閣府報告書では、15歳以上39歳以下の「広義のひきこもり」のうち、「男性」の割合が53.5%、「女性」が45.1%、「その他」が1.4%となり、40歳以上69歳以下では、「男性」の割合が59.4%、「女性」が40.6%となっている。いずれも男性が多いという結果だが、他の調査では必ずしも男性が多いという結果ではない。たとえば、15歳以上を対象とした東京都江戸川区の「江戸川区ひきこもり実態調査（令和3年度）」では、「男性」の割合が48.3%、「女性」が51.4%、「その他」が0.4%となっている。他にも15歳以上64歳以下を対象とした仙台市の令和5年度「市民の生活状況に関する調査－ひきこもり支援の充実に向けて－結果報告書」によると「男性」の割合が48.4%、「女性」の割合が47.5%、「無回答」が4.1%となっている。このように、ひきこもりの性別の比率は、調査によって異なる結果が出ている。

3. 年齢層

R4内閣府報告書で、15歳から39歳の若年層の「広義のひきこもり」における年代別の割合は、15歳から19歳が21.5%、20歳から24歳が18.1%、25歳から29歳が23.6%、30歳から34歳が16.0%、35歳から39歳が20.8%となっている。

一方、40歳から69歳の中高年層における年代別の割合は、40歳から44歳が5.2%、45歳から49歳が7.1%、50歳から54歳が10.3%、55歳から59歳が12.9%、60歳から64歳が20.0%、65歳から69歳が44.5%となっている。

なお、中高年層では65歳から69歳の割合が突出して高くなっているが、これは定年退職後の高齢者が、調査の定義上「広義のひきこもり」に該当しているケースが含まれていることが考えられる。

4. ひきこもり状態になってからの期間

R4内閣府報告書では、15歳以上39歳以下の「広義のひきこもり」の、ひきこもり状態（現在の外出状況）になってからの期間は「6か月～1年未満」の割合が21.5%で最も高く、次いで「3年～5年未満」が17.4%となっている。一方、40歳以上69歳以下の「広義のひきこもり」では、「2年～3年未満」の割合が21.9%で最も高く、次いで「3年～5年未満」が16.1%となっている。

「7年以上」と回答した人は、15歳以上39歳以下では21.6%、40歳以上69歳以下では23.2%となっており、どちらの年齢層でも長期化しているケースが一定数存在することがわかる。

5. ひきこもり状態になったきっかけ

R4内閣府報告書では、15歳以上39歳以下の「広義のひきこもり」の、ひきこもり状態（現在の外出状況）になった最も大きな理由（単一回答）は、「不登校」（小学校・中学校・高等学校・大学のいずれか）を選択した人が合わせて18.5%で最も高く、次いで「退職したこと」が14.9%、「人間関係がうまくいかなかったこと」が14.9%となっている。一方、40歳以上69歳以下の「広義のひきこもり」では「退職したこと」の割合が42.2%、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」17.0%、「病気」14.8%の順に高くなった。

以上の結果から、若年層では「不登校」からひきこもり状態に至ることが多く、中高年層では「退職」「病気」がきっかけとなる傾向がある。

ただし、「退職」や「病気」がきっかけであると回答されていても、なぜ社会的交流の途絶や孤立に至り、またそれらが長期化するのかを掘り下げることの方が、ひきこもりの実相を理解するためには重要だと考える。

6. 働いた経験

R4内閣府報告書では、15歳以上39歳以下の「広義のひきこもり」の働いた経験について、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」と回答した人の割合は62.5%だった。40歳以上69歳以下の「広義のひきこもり」では、90.3%だった。

以上のように、若年層で6割強、中高年層で9割強と、就業経験のある人が多いという結果だった。

7. 関係機関に相談した経験

R4内閣府報告書では、「あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。」という設問に対して、15歳以上39歳以下の「広義のひきこもり」のうち22.9%、40歳以上69歳以下のうち18.1%が、「誰にも相談したくない」と回答した。相談したくない理由としては、15歳以上39歳以下では、「相談しても解決できないと思うから」が51.5%と最も高く、次いで「相手がどんな人かわからないから」が27.3%、「相手にうまく伝えられないから」が24.2%という結果だった。一方、40歳以上69歳以下では、「相談しても解決できないと思うから」が57.1%と最も高く、次いで「嫌なこと、できないことをするように言われそうだから」が25.0%という結果だった。

また、15歳以上39歳以下の45.5%、40歳以上69歳以下の55.6%は支援機関の利用経験がなく、いずれの年齢層でも多くが支援につながっていない。

上記からは、ひきこもり当事者が相談につながるにはさまざまな心理的ハードルがあることがうかがえる。当事者の現状や思い、不安などをしっかりと把握した上で、ニーズに合ったつながりやすい支援が提供できるよう、支援内容の改善と充実を図っていく必要性が示唆されている。

8. 年齢層や経年変化の比較

内閣府による、平成28年度（2016）・平成30年度（2018）・令和4年度（2022）、それぞれの調査報告書（下表）を比較し、若年層と中高年層の傾向、また経年変化の概況について考察する。

報告書名	調査対象	本稿での呼称
内閣府 平成28年度 「若者の生活に関する調査報告書」	15歳以上39歳以下	H28年
内閣府 平成30年度 「生活状況に関する調査報告書」	40歳以上64歳以下	H30年
内閣府 令和4年度 「こども・若者の意識と生活に関する調査」	15歳以上69歳以下	R4年

1. ひきこもりの人数と出現率：

- H28年：15歳以上39歳以下で54.1万人（出現率1.57%）
- H30年：40歳以上64歳以下で61.3万人（出現率1.45%）
- R4年：15歳以上39歳以下で出現率2.05%、40歳以上64歳以下で出現率2.02%（40歳以上69歳以下では2.97%）
- 変化：H28年・H30年と比べて、R4年は両年齢層で出現率が増加している。

2. 性別：

- H28年：15歳以上39歳以下で男性63.3%、女性36.7%
- H30年：40歳以上64歳以下で男性76.6%、女性23.4%
- R4年：15歳以上39歳以下で男性53.5%、女性45.1%、その他1.4%、40歳以上69歳以下で男性59.4%、女性40.6%
- 変化：H28年・H30年と比べて、R4年では両年齢層で女性の割合が増加しているが、コロナ禍の影響にはジェンダー格差があり※、女性で無業化や在宅生活の長期化が顕著に表れている可能性が考えられる。
（※内閣府男女共同参画局「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」緊急提言より）

3. ひきこもり期間：

- H28年：15歳以上39歳以下で「7年以上」が34.7%で最多。
- H30年：40歳以上64歳以下で「7年以上」は40.3%
- R4年：15歳以上39歳以下で「7年以上」は21.6%、40歳以上69歳以下で「7年以上」は23.2%
- 変化：7年以上におよぶ長期ひきこもりはやや減少している。ただし、5件に1ケースは7年以上と、長期化するケースは依然として多く存在する。

4. ひきこもりのきっかけ（主な理由）：

- H28年（複数回答）：15歳以上39歳以下で「不登校」18.4%、「職場になじめなかった」18.4%が最多。
- H30年（複数回答）：40歳以上64歳以下で「退職」36.2%が最多。
- R4年（複数回答）：15歳以上39歳以下で「退職したこと」21.5%、「人間関係がうまくいかなかったこと」20.8%の順。40歳以上69歳以下で「退職したこと」44.5%、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」20.6%の順。
- 変化：H28年・H30年と比べて、R4年では若年層では大きな変化は見られないが、中高年層で「退職」の割合が増加しているのは、調査対象が69歳まで広がったことで、定年退職者が一定数含まれていると考えられる。また「コロナ流行」も主要なきっかけとなっている。

5. 働いた経験：

- H28年：15歳以上39歳以下において「働いたことはない」の割合が35.3%
- H30年：40歳以上64歳以下で「いままで働いたことはない」の割合が2.2%
- R4年：15歳以上39歳以下で30.6%、40歳以上69歳以下で3.2%が「これまでに就業経験はない」と回答。
- 変化：H28年・H30年と比べて、R4年で大きな変化はない。

6. 関係機関を利用した経験：

- H28年：15歳以上39歳以下で44.1%が何らかの支援機関を利用した経験あり。
- H30年：40歳以上64歳以下で44.4%が何らかの支援機関を利用した経験あり。
- R4年：15歳以上39歳以下で52.7%、40歳以上69歳以下で42.1%が何らかの支援機関の利用経験あり。
- 変化：H28年・H30年と比べて、R4年では若年層（15歳以上39歳以下）で支援機関の利用経験が若干増加していた。中高年層（40歳以上）ではほぼ変化はなかった。

これらの比較から、ひきこもりの出現率の増加、女性の割合の増加、コロナ禍の影響などの変化が見て取れる。

※「広義のひきこもり」の定義:普段の外出状況の間で「趣味の用事のときだけ」「近所のコンビニなど」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」と回答し、かつその状況が6か月以上と回答した者、かつ下記①～④以外の者
①統合失調症又は身体的病气、②「妊娠、介護・看護の担い手、出産・育児を理由に現在の状況になった、仕事が専業主婦・主夫や家事手伝い、普段自宅で家事、育児、介護・看護をしている」かつ「最近6か月間に家族以外のひとと会話をした」、③仕事が会社などの役員、自営業・自由業、④「家族従業者・内職、仕事がパート・アルバイト～正社員、自宅で仕事をしていることを理由に現在の状況になった、普段自宅で仕事をする」かつ「現在、就業している」（出典：内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」）

第1章

ひきこもり当事者/経験者調査の結果

第1節 アンケート調査の結果

第2節 ヒアリング調査の結果

第1章 ひきこもり当事者/経験者調査の結果

「三重県ひきこもりに関する実態調査」では、「ひきこもり当事者/経験者」「家族」「支援機関」の3つの対象別に調査を行った。本章では、「ひきこもり当事者/経験者」の調査結果を紹介する。回収数は39件である。

第1節 アンケート調査の結果

1-1 居住地（市町）

「居住地（市町）」の分布では、鈴鹿市が20.5%と最も多く、次いで松阪市が12.8%となっている。桑名市、四日市市、伊勢市がそれぞれ10.3%で続き、いなべ市と津市が7.7%、名張市が5.1%だった。その他の市町（木曽岬町、東員町、亀山市、明和町、伊賀市、熊野市）はそれぞれ2.6%だった。半数以上が北勢地域、3割強が中南勢地域在住者による回答となった。

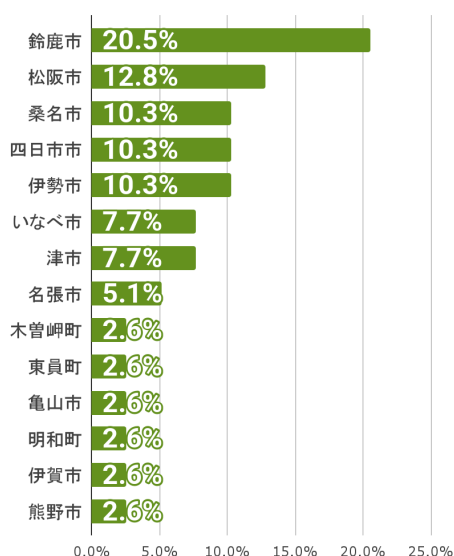


図1-1
居住地（市町）
※問2 / 単一回答
※n=39

1-2 年齢

「年齢」では、30代前半と40代後半が20.5%と最も多く、次いで40代前半が15.4%だった。30代後半までの若年層が53.8%、40代以上の中高年層が46.2%という結果となった。

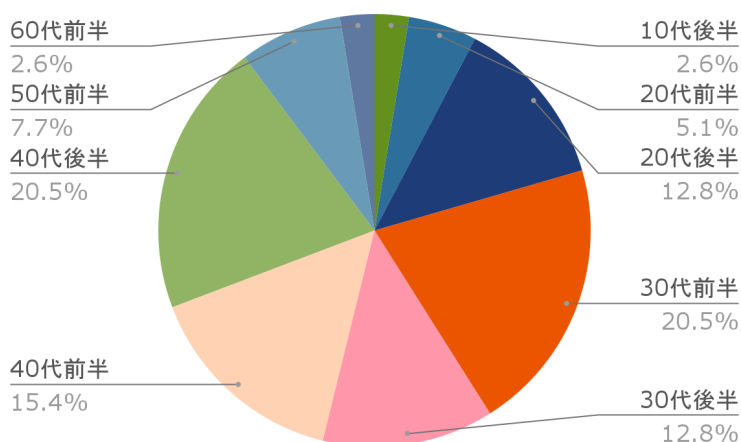


図1-2
年齢
※問3 / 単一回答
※n=39

1-3 性別（性自認）

「性別（性自認）」では、「男性」が18名で46.2%、「女性」が17名で43.6%と、1名のみ之差となっている。「その他」は0%、任意回答だったことにより無回答が4名（10.3%）いた。

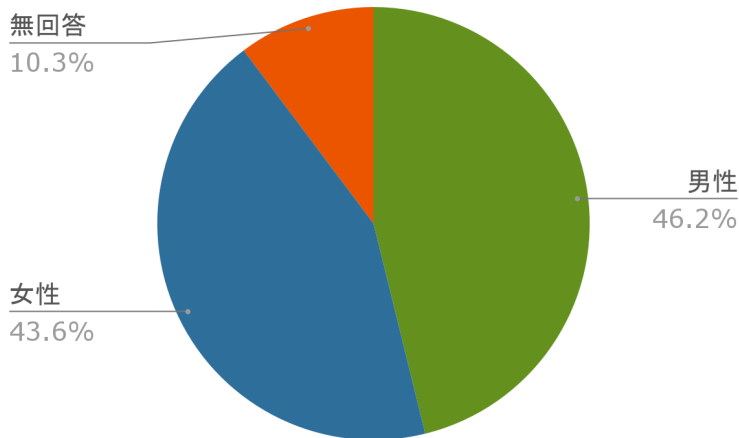


図1-3
性別（性自認）
※問4 / 単一回答
※n=39

1-4 同居者の有無

「同居者の有無」では、「いる」が84.6%である一方、一人暮らしをしている人も15.4%いた。

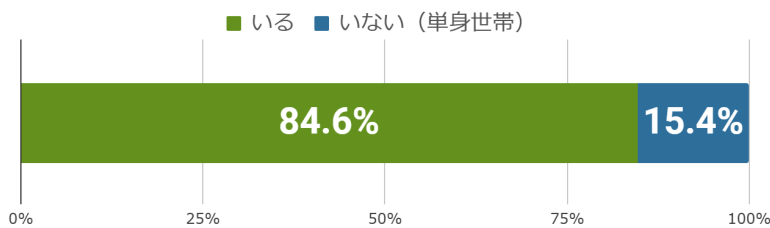


図1-4
同居者の有無
※問5 / 単一回答
※n=39

1-5 誰と同居しているか

同居者がいる人のうち、「誰と同居しているか」では、「母」が81.8%、「父」が66.7%と、親との同居が多かった。「配偶者／パートナー」が15.2%、「兄弟姉妹」と「祖父母」がそれぞれ12.1%、「子」が9.1%だった。

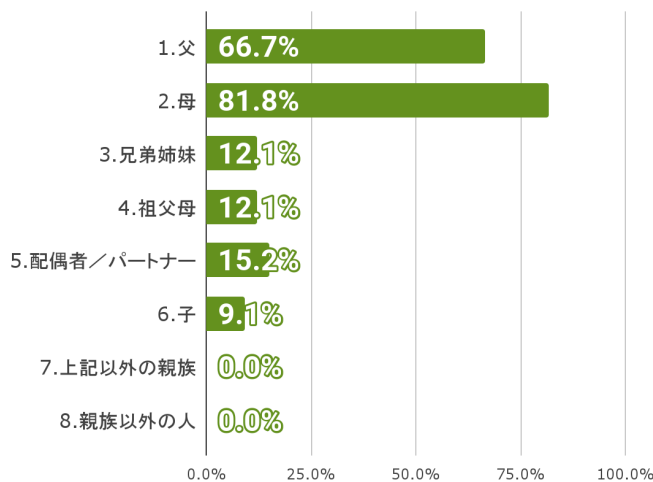


図1-5
誰と同居しているか
※問6 / 複数回答
※n=33

1-6 ひきこもり経験

「ひきこもり経験」では、「現在、『ひきこもり』である」が69.2%を占め、「過去に『ひきこもり』だったが、現在はそうではない」が30.8%だった。「『ひきこもり』の経験はない」という回答はなかった。

- 現在、「ひきこもり」である
- 過去に「ひきこもり」だったが、現在はそうではない

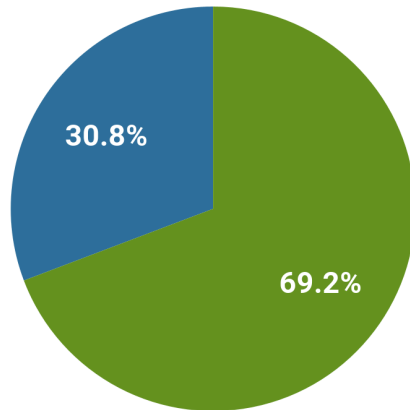


図1-6
ひきこもり経験
※問7 / 単一回答
※n=39

1-7 外出状況

「現在、『ひきこもり』である」と答えた人の「外出状況」では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事的时候は外出する」が40.7%と最も多く、次いで「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が37.0%だった。「人付き合いのためにときどき外出する」と「自室からは出るが、家からは出ない」がそれぞれ7.4%、「遊び等で頻繁に外出する」と「自室からほとんど出ない」がそれぞれ3.7%となっている。「仕事や学校で平日は毎日外出する」「仕事や学校で週3～4日外出する」の回答はなかった。外出頻度の観点からは、回答者のほとんどが、内閣府調査における「広義のひきこもり」にあてはまると考えられる。

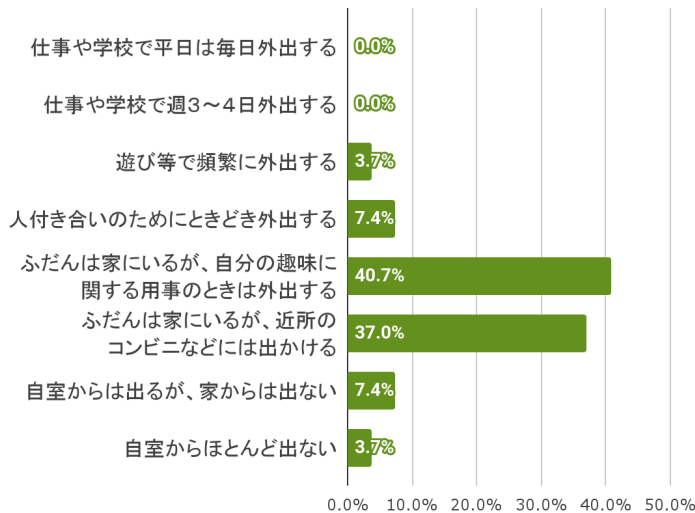


図1-7
外出状況
※問8 / 単一回答
※n=27 (現在「ひきこもり」)

1-8 ひきこもり期間（のべ）

「ひきこもり期間（のべ）」では、「5年～7年未満」が15.4%と最も多く、次いで「1年～2年未満」「3年～5年未満」「10年～15年未満」がそれぞれ12.8%となっている。5年以上のひきこもり期間がある人は全体の59.0%、10年以上でも38.5%を占めており、長期化している実態が浮かび上がっている。

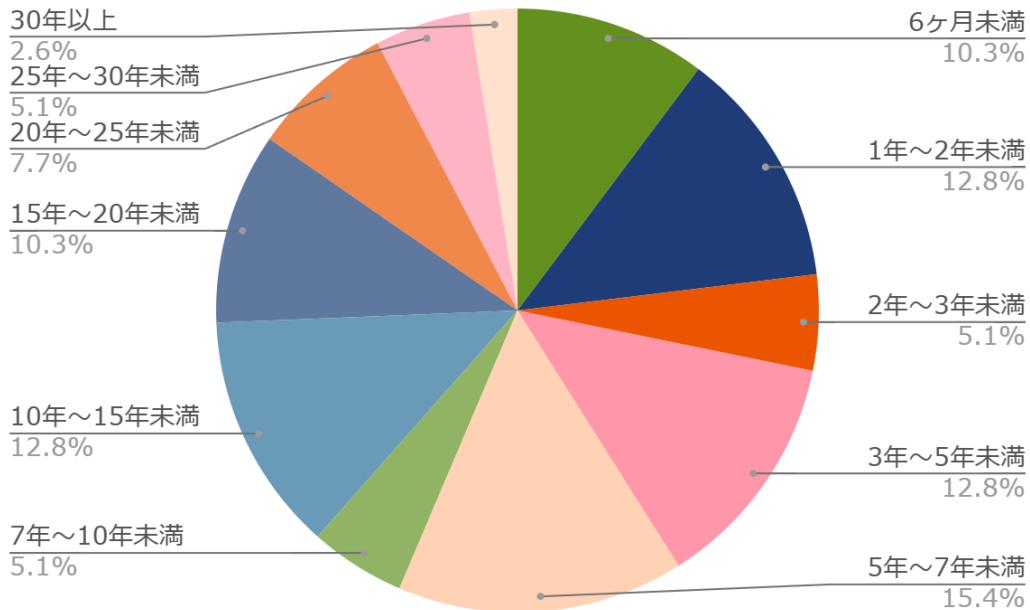


図1-8

ひきこもり期間（のべ）
 ※問9 / 単一回答
 ※n=39

1-9 継続的にひきこもった回数

「継続的にひきこもった回数」では、「1回」が35.9%と最も多く、次いで「2回」が28.2%、「3回」が20.5%だった。「4回」が5.1%、「5回以上」は7.7%となっており、断続的に複数回のひきこもり期間を経験している人が全体の61.5%を占めていることに注目したい。

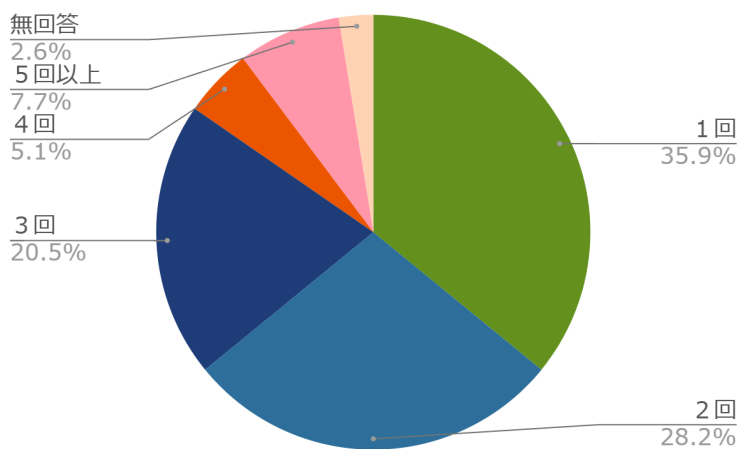


図1-9

継続的にひきこもった回数
 ※問10 / 単一回答
 ※n=39

1-10 ひきこもりの原因・きっかけ

「ひきこもりの原因・きっかけ」では、「うつ状態や不安などの、こころの不調」が71.8%と最も多く、次いで「(親以外との)人間関係がうまくいかなかった」と「人との会話、コミュニケーションへの苦手意識」がともに56.4%、「人からどう見られているかという不安や恐怖」が51.3%だった。「からだの不調・病気・障がい」は46.2%、「不登校」が41.0%、「職場になじめなかった」が38.5%、「気分障害、不安障害」「学校でのいじめ」「就職活動がうまくいかなかった」がいずれも33.3%で続いている。心の不調や対人関係の不全に関するもののほか、いじめや不登校、ハラスメント、失業など具体的でネガティブな出来事もきっかけになっており、複数の要因がひきこもりの原因やきっかけになっていることがわかる。

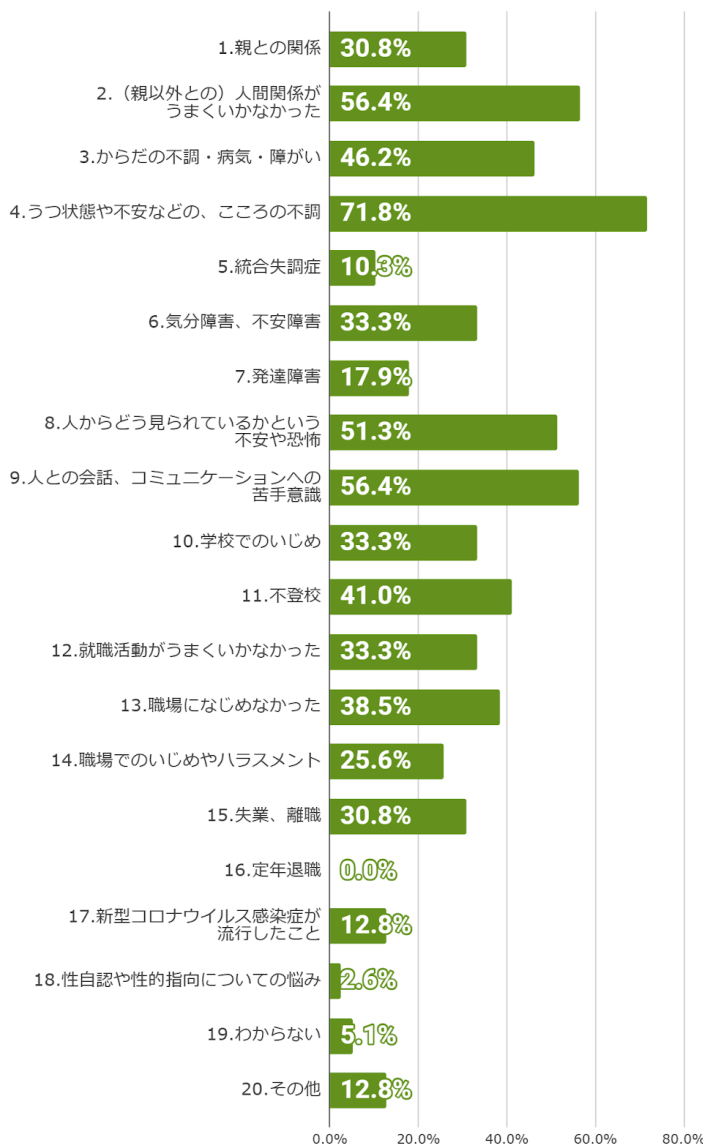


図1-10

ひきこもりの原因・きっかけ
 ※問11 / 複数回答
 ※n=39

1-11ひきこもっているときの心情

「ひきこもっているときの心情」では、「生きるのが苦しいと感じることがある」「死んでしまいたいと思うことがある」「絶望的な気分になることがよくある」がいずれも82.1%と最も高く、次いで「家族に申し訳ないと思う」「このままではいけないと強い焦りを感じる」が71.8%だった。「人に会うのが怖いと感じる」が61.5%、「自分のことが嫌いだとよく思う」「他人がどう思っているのか不安」「知り合いに会いたくない」がそれぞれ56.4%、「強い怒りや憤りを感じている」が51.3%と続き、いずれも多く回答があった。一方で「一時的に安心感を得られる」「気持ちが楽だと感じる」はともに23.1%で、社会と距離を置いてひきこもっていると気持ちが楽になるという側面もあることが見受けられる。「当てはまるものはない」という回答は0%だった。回答者の多くが深刻な精神的苦痛を抱えている状況が見られる。



図1-11

ひきこもっているときの心情
※問12/ 複数回答
※n=39

1-12 ひきこもり状態から抜け出すことを妨げている要因

「ひきこもり状態から抜け出すことを妨げている要因」では、「精神的な不調、病気、障がい」が71.8%と最も多く、次いで「『ふつう』になりたいが、方法がわからない」「社会の中に、無理なく参加できる場が見つからない」が69.2%、「現状を打開するための方法や解決策がわからない」が66.7%だった。「過去のトラウマやネガティブな経験の記憶」「生きる意欲や気力の低下」が64.1%、「自分に合った相談先や支援機関が見つからない」が61.5%、「コミュニケーションへの苦手意識」が59.0%と続いている。「失敗に対する恐れや不安」「社会生活に必要な知識や常識、経験の不足」が56.4%、「自分を否定的に捉えてしまうこと」「からだの不調、病気、障がい」が51.3%となっている。

19の選択肢のうち50%を超える回答が12項目あり、ひきこもり状態から抜け出す困難さには複数の要因が絡み合っていることがうかがえる。

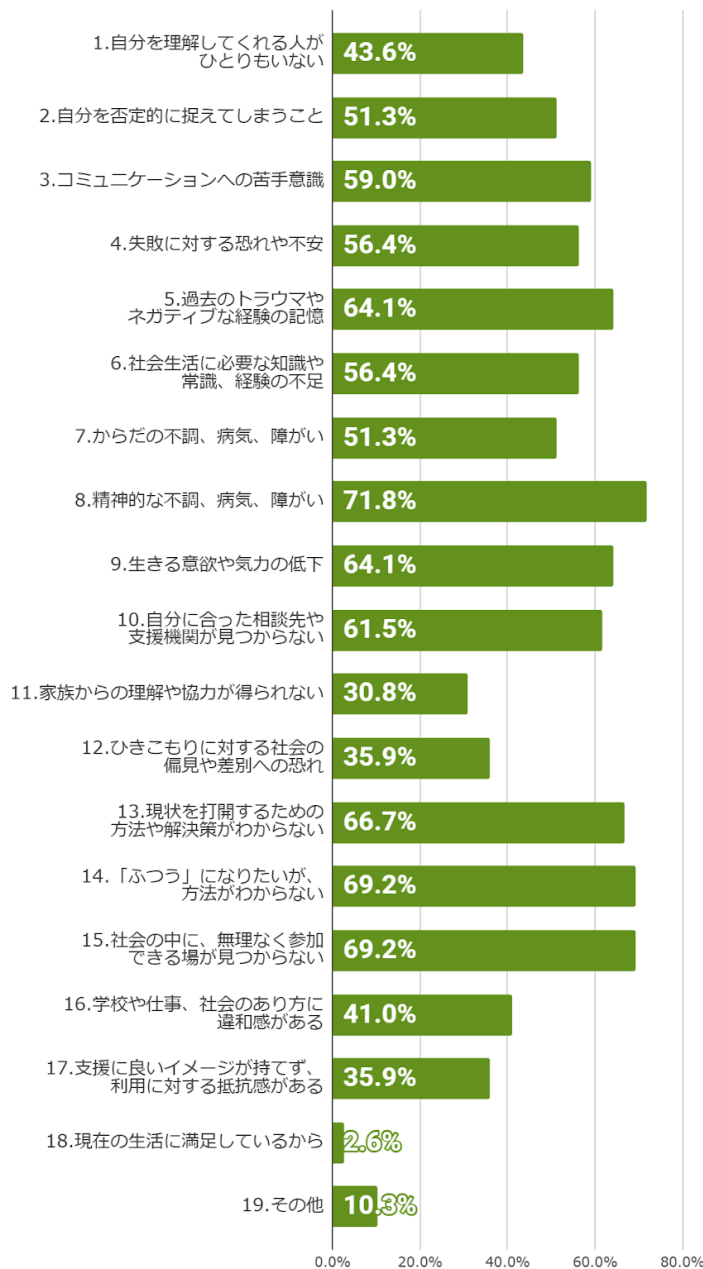


図1-12

ひきこもり状態から抜け出すことを妨げている要因
 ※問13 / 複数回答
 ※n=39

1-13 生活困窮度

「生活困窮度」では、生活費について「とても困っている」が30.8%、「やや困っている」が28.2%と、経済的に困窮している人が合わせて59.0%と約6割を占めている。

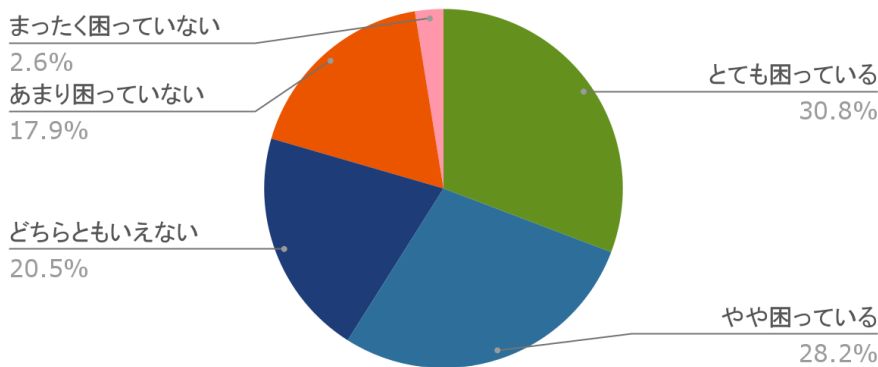


図1-13

生活困窮度
※問14 / 単一回答
※n=39

1-14 家族との関係性

「家族との関係性」について、父親との関係は「どちらともいえない」が33.3%と最も多く、「どちらかといえば良い」が17.9%、「良い」「どちらかといえば悪い」「悪い」がそれぞれ12.8%となっている。

母親との関係は「どちらかといえば良い」が33.3%と最も多く、「良い」が25.6%、「どちらともいえない」が20.5%となっており、父親と比べて概ね良好な関係性がうかがえる。

兄弟姉妹との関係は「どちらかといえば良い」「どちらともいえない」「悪い」「いない」がそれぞれ17.9%と均等に分布している。

配偶者／パートナーについては、「いない」が64.1%を占めており、無回答が17.9%、「どちらかといえば良い」が7.7%となっている。

グラフにはないが、分母から「いない」「無回答」を除いた割合を見ておくと、父親との関係は「良い」14.3%、「どちらかといえば良い」20.0%、「どちらともいえない」37.1%、「どちらかといえば悪い」14.3%、「悪い」14.3%である。同様に母親との関係は「良い」27.8%、「どちらかといえば良い」36.1%、「どちらともいえない」22.2%、「どちらかといえば悪い」2.8%、「悪い」11.1%である。兄弟姉妹との関係は「良い」10.7%、「どちらかといえば良い」25.0%、「どちらともいえない」25.0%、「どちらかといえば悪い」14.3%、「悪い」25.0%である。配偶者／パートナーとの関係は、「良い」28.6%、「どちらかといえば良い」42.9%、「どちらともいえない」28.6%、「どちらかといえば悪い」0.0%、「悪い」0.0%である。

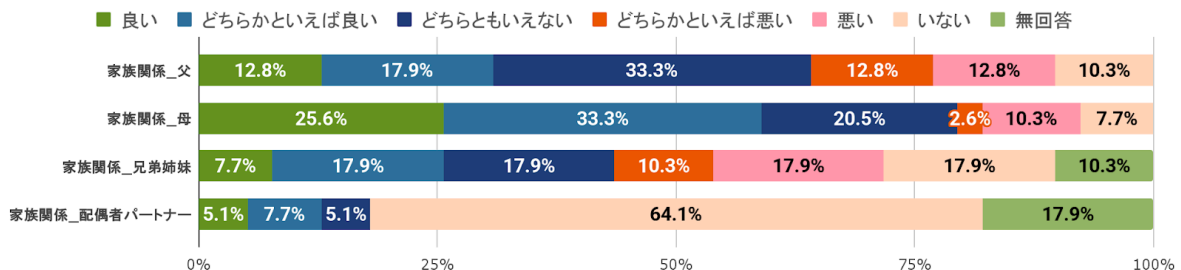


図1-14

家族との関係性
※問15 / 単一回答
※n=39

1-15 現在の就学・就労状況

「現在の就学・就労状況」では、「無職」が51.3%と半数以上を占め、「自営業／フリーランス」「家事手伝い」がそれぞれ10.3%で続いている。次いで「勤めている（正社員）」「勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）」がそれぞれ7.7%おり、これは問7において「過去に『ひきこもり』だったが、現在はそうではない」と答えた人たちと重なるものと思われる。

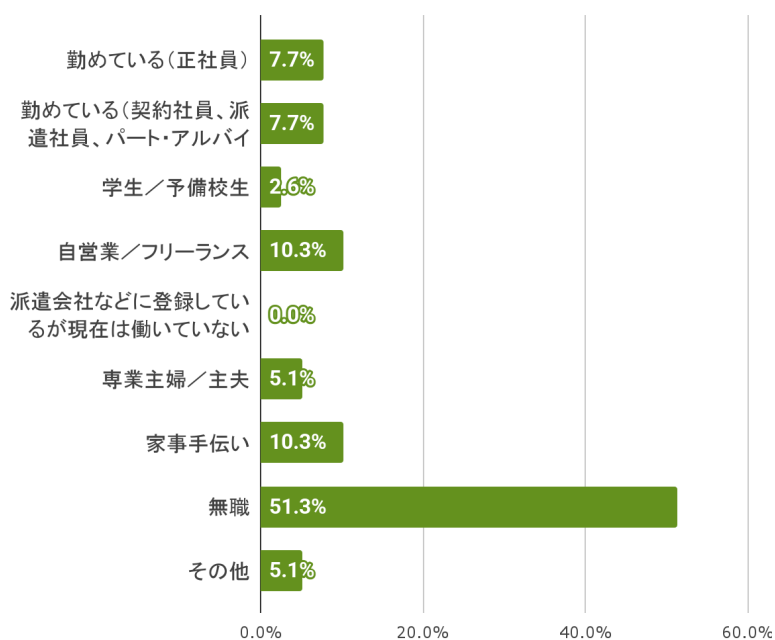


図1-15

現在の就学・就労状況

※問16 / 単一回答

※n=39

1-16 希望する職場環境・労働条件

1-15で現在就労状態にない項目*を選択した人に聞いた「希望する職場環境・労働条件」では、「上司や同僚がひきこもりに理解がある」が64.3%と最も多く、「体力的な負担が少ない」が57.1%、「メンタルヘルスへのサポート体制がある」が53.6%、「短時間（1日4時間程度）から働ける」「失敗が許容される」が50.0%だった。「どのような条件であっても働くことは考えられない」という人は10.7%で、全体の傾向としてひきこもりに理解のある労働環境であれば就労する意欲があることが見て取れる。

* 「派遣会社などに登録しているが現在は働いていない」「専業主婦／主夫」「家事手伝い」「無職」「その他」を選択

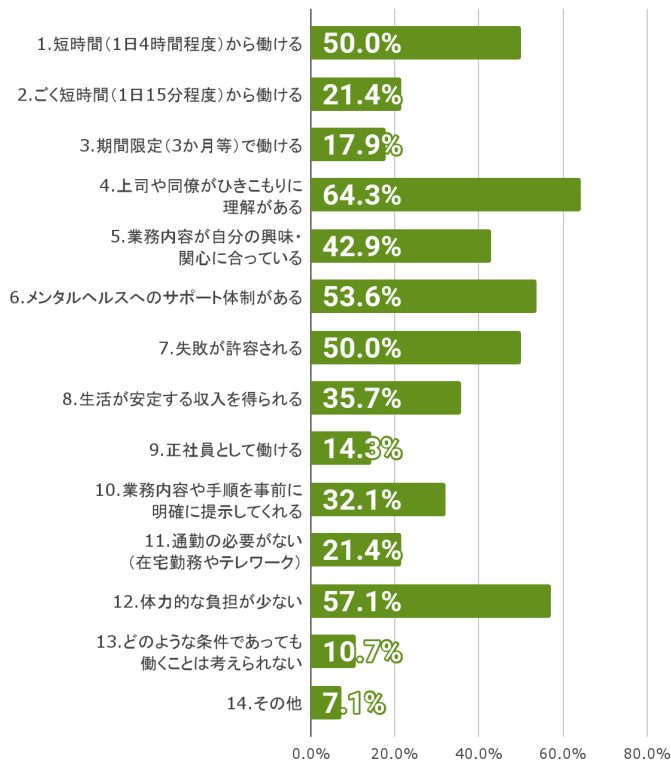


図1-16

希望する職場環境・労働条件

※問17 / 複数回答

※n=28

1-17 ひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っている機関

「ひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っている機関」では、「就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）」が43.6%と最も多く、「三重県ひきこもり地域支援センター」「市町ひきこもり相談窓口」が35.9%、「社会福祉協議会」が33.3%だった。また「（選択肢の各）機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった」は20.5%となっている。いずれの機関もひきこもり支援に対する認知度は半数に達しておらず、全体的に低い傾向にある。

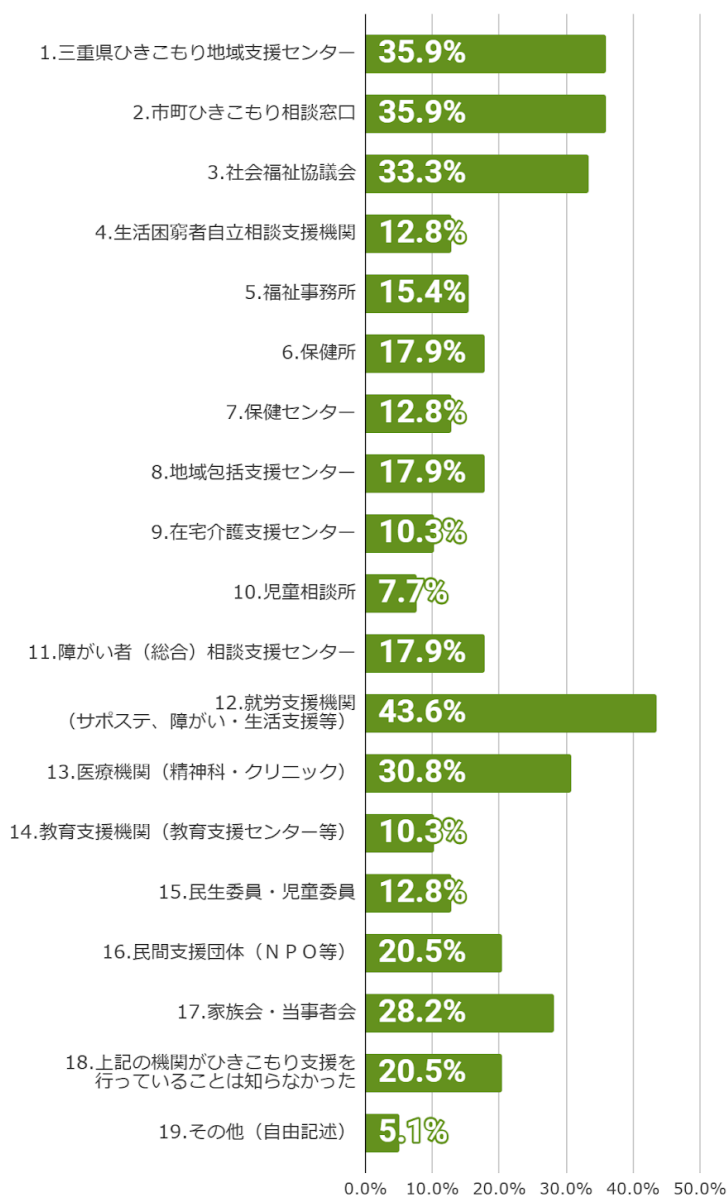


図1-17

ひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っている機関

※問18 / 複数回答

※n=39

1-18 ひきこもり支援機関・サービスを知ったきっかけ

「ひきこもり支援機関・サービスを知ったきっかけ」では、「インターネット検索」が48.7%と最も多く、「自治体の広報紙や回覧板」「支援機関のウェブサイト」が23.1%、「家族」が17.9%だった。今回の調査が主としてオンラインフォームを回答手段としたことも影響していると思うが、インターネット検索を利用した情報へのアクセスが抜きん出ていることは注目すべきポイントである。

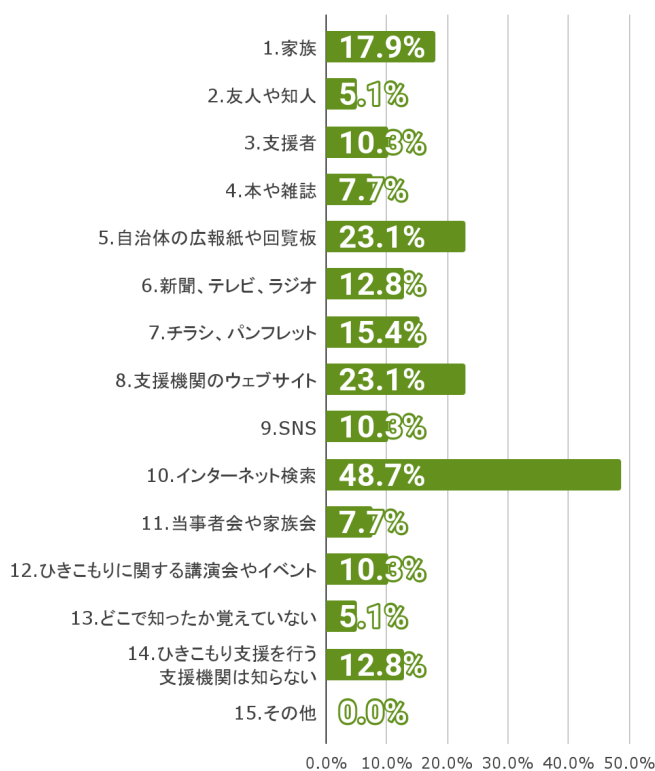


図1-18

ひきこもり支援機関・サービスを知ったきっかけ
 ※問19 / 複数回答
 ※n=39

1-19 支援・サービスの利用経験

「支援・サービスの利用経験」では、「今まで一度も利用したことはない」が51.3%と過半数を占め、「現在利用している」が25.6%、「過去に利用したことがあるが、現在は利用していない」が23.1%だった。支援につながっていない人、つながろうとしていない人が多いことがうかがえる。

- 現在利用している
- 過去に利用したことがあるが、現在は利用していない
- 今まで一度も利用したことはない

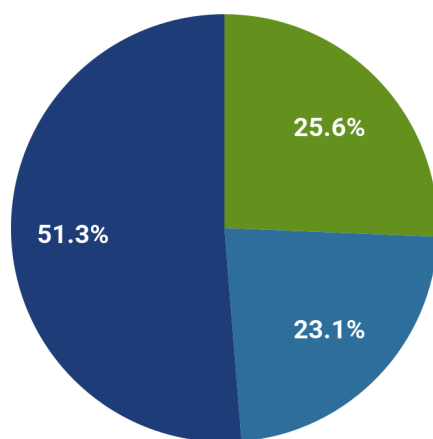


図1-19

支援・サービスの利用経験
 ※問20 / 単一回答
 ※n=39

1-20 利用したことがあるひきこもり支援・サービス

「利用したことがある支援機関・サービス*」では、「医療機関（精神科・クリニック）」が47.4%と最も多く、「就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）」が42.1%、「市町ひきこもり相談窓口」が36.8%だった。「家族会・当事者会」の利用も26.3%あった。一方で、「三重県ひきこもり地域支援センター」「生活困窮者自立相談支援機関」「保健所」「保健センター」「地域包括支援センター」「在宅介護支援センター」の利用はいずれも0%となっている。ひきこもりの相談窓口よりも、医療機関や就労支援機関を利用する人が多いことが見てとれる。

*問20で「現在利用している」「過去に利用したことがあるが、現在は利用していない」と回答した人のみ回答対象

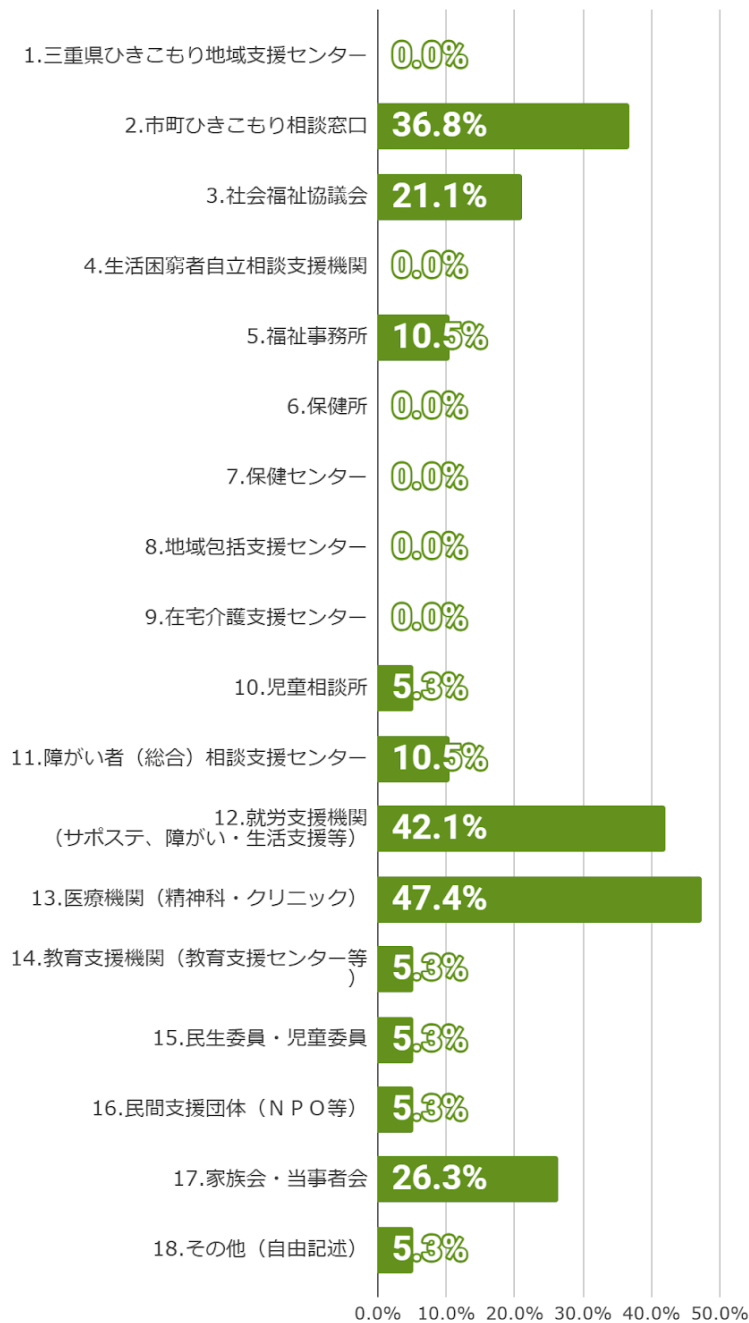


図1-20

利用したことがあるひきこもり支援・サービス

※問21 / 複数回答

※n=19

1-21 支援が中断した理由

「支援が中断した理由*」では、「効果を感じられなかったから」「支援者と話がかみ合わなかったから」が53.3%と最も多く、「支援内容や雰囲気合わなかったから」「支援者から説教や説得をされたから」が40.0%となっている。支援者のひきこもりへの理解度や対応、支援方法に課題があることがうかがえる。

*問20で「現在利用している」「過去に利用したことがあるが、現在は利用していない」と回答した人のみ回答

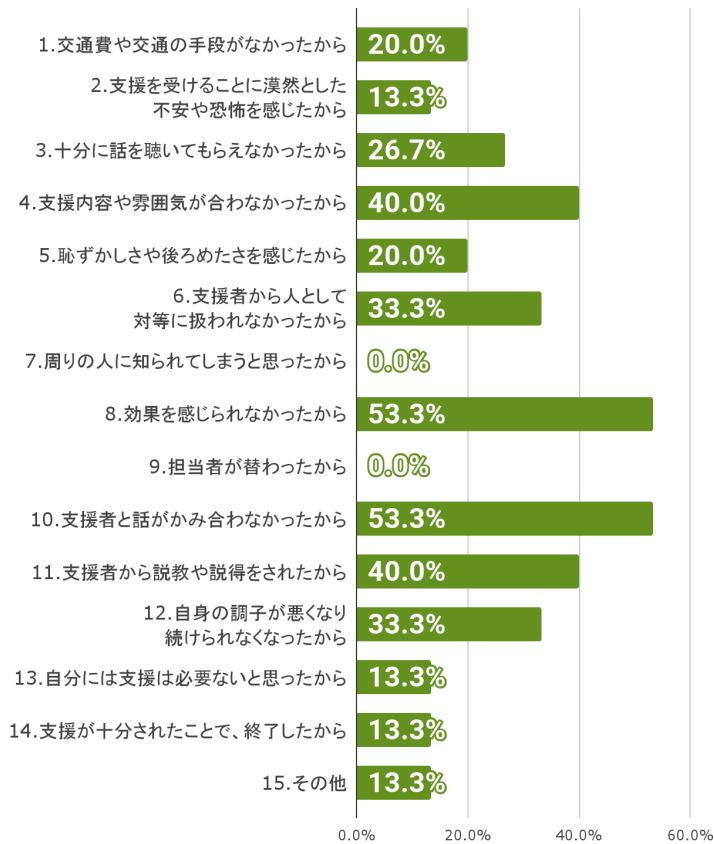


図1-21
支援が中断した理由
※問22 / 複数回答
※n=15

1-22 支援・サービスを利用しない理由

「支援・サービスを利用しない理由*」では、「支援があることを知らなかったから」が60.0%と最も多く、「就労を強く促されるだけだと思うから」が50.0%、「十分に話を聞いてもらえないと思うから」が40.0%となっており、「自分が支援対象にあてはまるか分からないから」が35.0%と続いた。支援の存在を知らないことに加え、支援機関の情報（発信）不足から来る懸念が利用への動機付けを妨げている様子がうかがえる。

*問20で「今まで一度も利用したことはない」と回答した人のみ回答

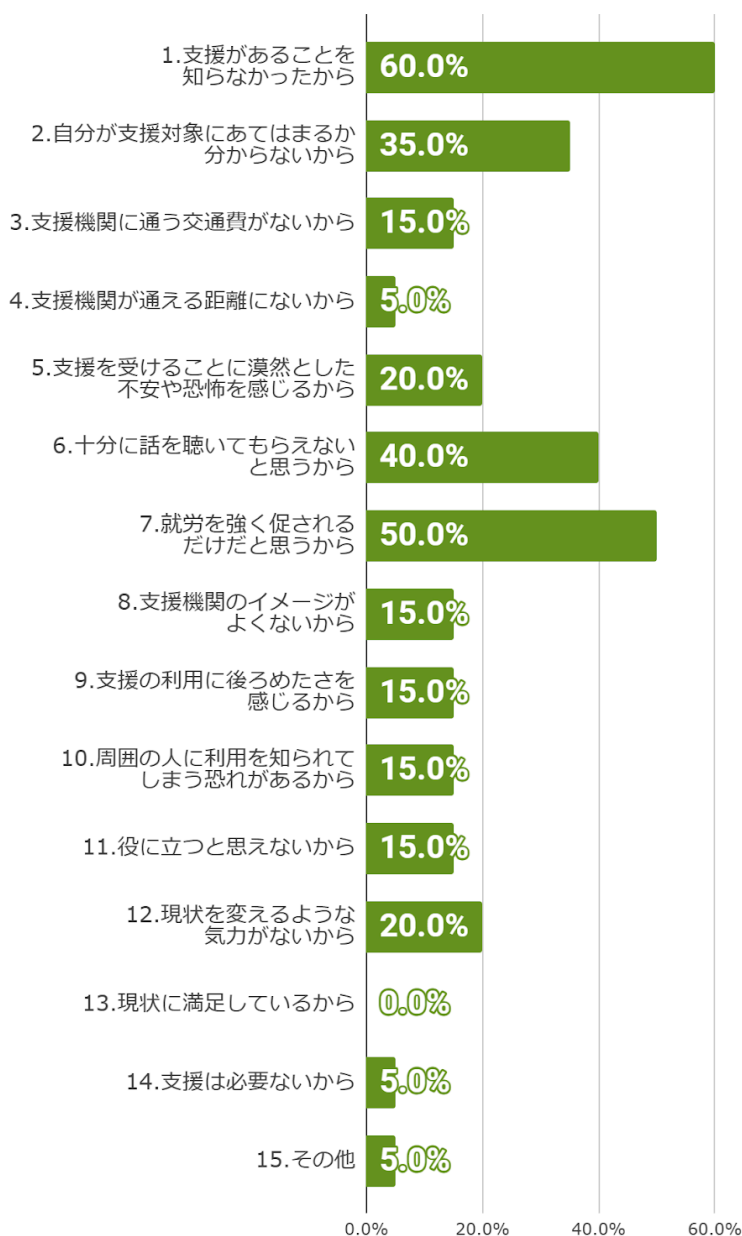


図1-22

支援・サービスを利用しない理由

※問23 / 複数回答

※n=20

1-23 利用してみたい支援・サービス【相談支援、カウンセリング、生活支援】

「利用してみたい支援・サービス【相談支援、カウンセリング、生活支援】」では、「支援者が困りごとをじっくり聞いてくれる」が53.8%と最も多く、「同じ担当者が切れ目なく寄り添ってくれる支援」が48.7%、「ひきこもりに関するあらゆることに対応する総合窓口」が46.2%となっている。17項目中13項目で20%超とニーズは多岐にわたり、中でもまずは相談者の話にじっくり耳を傾け、継続的に関わってくれる支援を求める傾向が表れている。

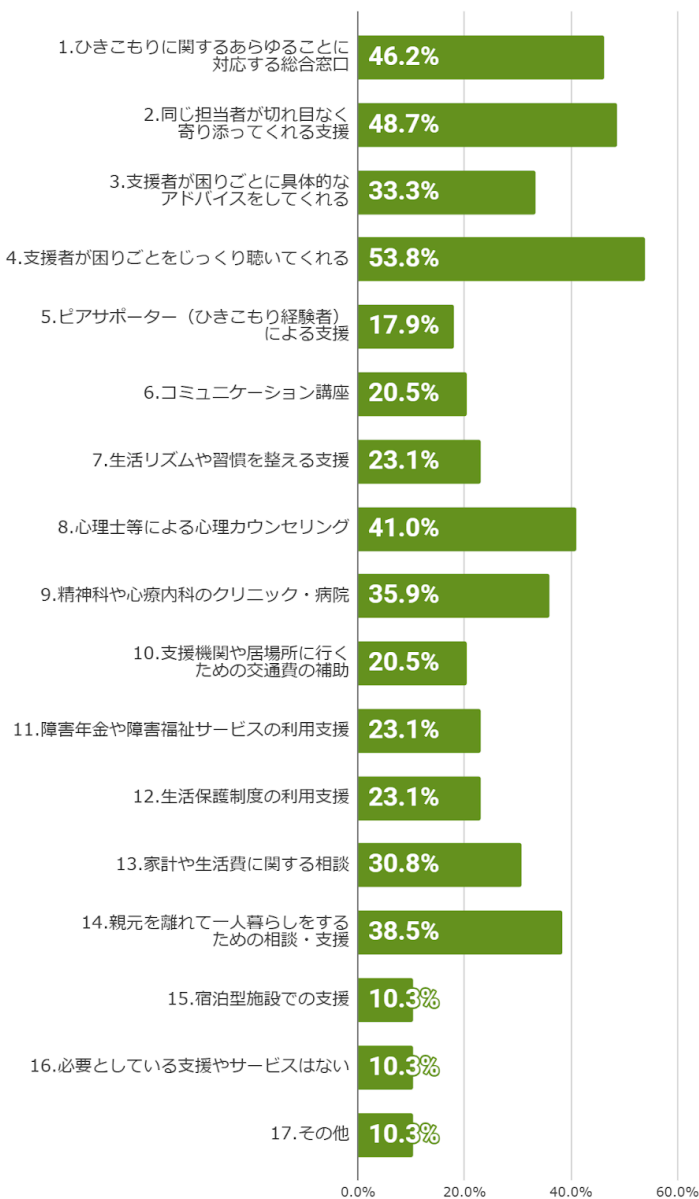


図1-23

利用してみたい支援・サービス
【相談支援、カウンセリング、生活支援】

※問24 / 複数回答

※n=39

1-24 利用してみたい支援・サービス【居場所、交流の場】

「利用してみたい支援・サービス【居場所、交流の場】」では、「自分と同じ年齢層の人が集まる当事者の交流の場」が51.3%と最も多く、「いつでも自由に行けて、自由に過ごせる場」「役割があり、手伝えることがある場」が48.7%だった。同じような経験をした人と出会い、自由に過ごせ、自らの力を活かせる場を求めている様子が見える。

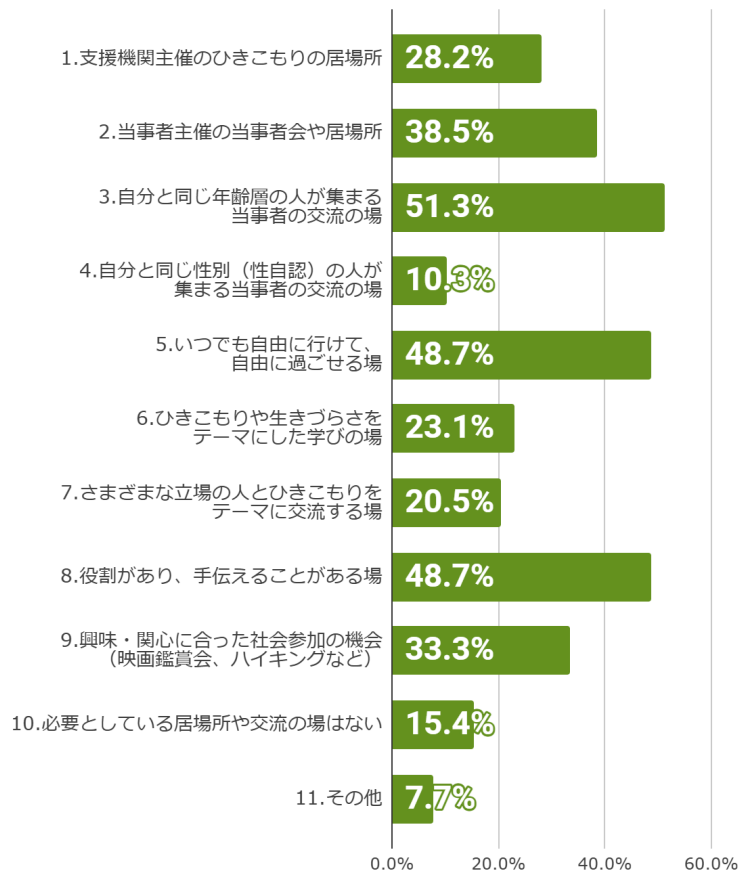


図1-24
利用してみたい支援・サービス【居場所、交流の場】
※問25 / 複数回答
※n=39

1-25 利用してみたい支援・サービス【就労支援】

「利用してみたい支援・サービス【就労支援】」では、「短時間（1日4時間程度）から働ける職場の紹介」「ひきこもりに理解がある職場の紹介」が56.4%と最も多く、「在宅でできる仕事の紹介」が43.6%、「就労準備段階や就労後にも継続的に相談ができる」が38.5%だった。一方「就労支援は利用したくない」は15.4%となっている。短時間労働など負担の少ない働き方への配慮があり、かつひきこもりに理解のある職場環境を求める傾向が表れている。また、就労して終わりではなくその後の支援も求められている。

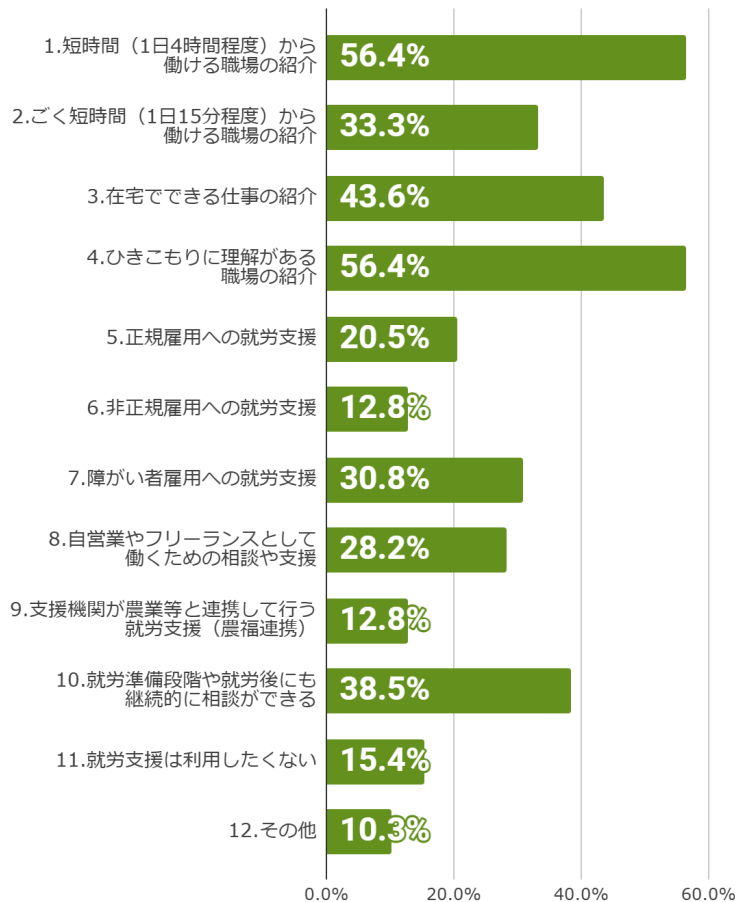


図1-25
利用してみたい支援・サービス【就労支援】
※問26 / 複数回答
※n=39

1-26 利用しやすい支援の手段や条件

「利用しやすい相談の手段や条件」では、「メールやチャットなどオンラインで相談する」が59.0%と最も多く、「相談が無料である」が48.7%、「匿名で相談できる」が46.2%となっている。「相談窓口が住んでいる地域にある」が41.0%、「支援者が自宅等を訪問して相談に乗ってくれる（アウトリーチ）」が30.8%と続いている。匿名性が担保され、かつ対面や電話よりオンラインでの相談を希望している人が多いことがうかがえる。

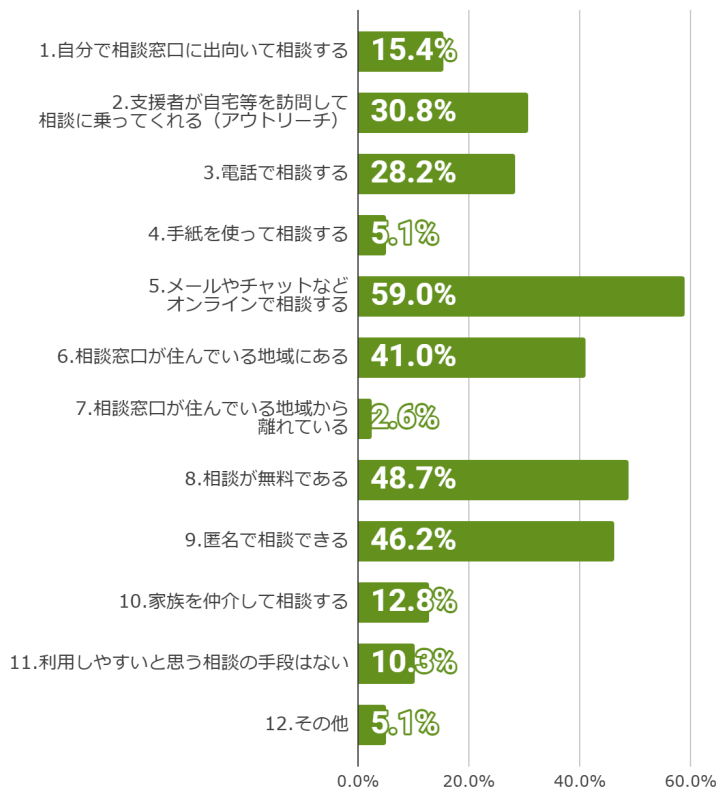


図1-26

利用しやすい相談の手段や条件
※問27 / 複数回答
※n=39

1-27 支援者に望む姿勢や態度、経験値

「支援者に望む姿勢や態度、経験値」では、「相談者の話をじっくり聴いてくれる」が74.4%と最も多く、「相談者に共感し、同じ目線に立って、寄り添う姿勢がある」が69.2%、「長期的・継続的な支援を行ってくれる」が64.1%となっている。「就労に限らず、多様な社会参加を支援できる」が61.5%、「相談者の状況に合わせた解決策を提案できる」が56.4%と続いている。回答者の多くが、傾聴と共感を土台とした信頼関係の構築を重視する傾向が表れている。

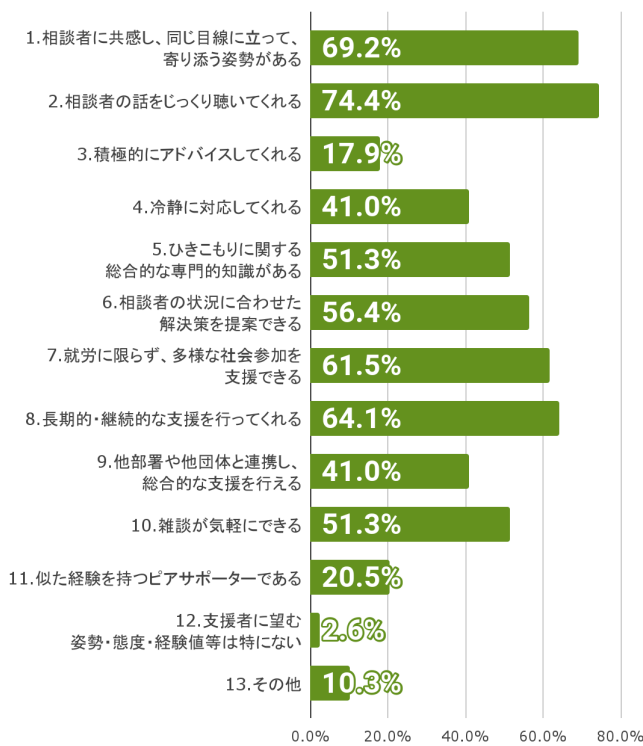


図1-27

支援者に望む姿勢や態度、経験値
※問28 / 複数回答
※n=39

1-28 アウトリーチ型支援への考え

「アウトリーチ型支援への考え」では、「本人の希望があれば、行った方がよい」が69.2%と最も多く、「わからない」が15.4%、「本人や家族の希望がなくても、行った方がよい」が7.7%となっている。アウトリーチ型支援には本人の意思の尊重を求める声が圧倒的であった。

- 本人の希望の有無にかかわらず、行わない方がよい
- 本人の希望があれば、行った方がよい
- 家族の希望があれば、本人の希望がなくても、行った方がよい
- 本人や家族の希望がなくても、行った方がよい
- わからない

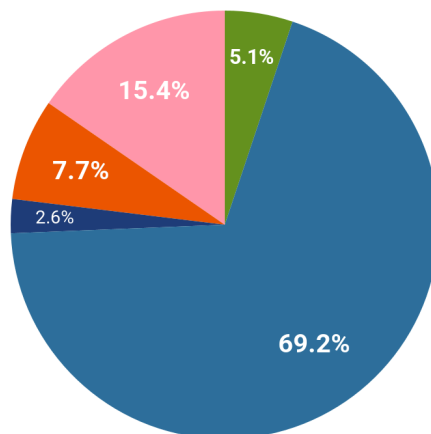


図1-28

アウトリーチ型支援への考え
※問29 / 単一回答
※n=39

1-29 利用したいオンライン支援・サービス

「利用したいオンライン支援・サービス」では、「Zoomなどのビデオ通話による相談やカウンセリング」が35.9%と最も多く、「Zoomなどのビデオ通話による交流の場」が33.3%、「LINEチャットなどによるテキストでの交流の場」が30.8%となっている。一方「オンラインでの支援・サービスを利用したいとは思わない」人も25.6%おり、オンラインでの交流経験や、端末やオンラインツールの習熟度や利用環境などによりニーズにばらつきが出るものと思われる。

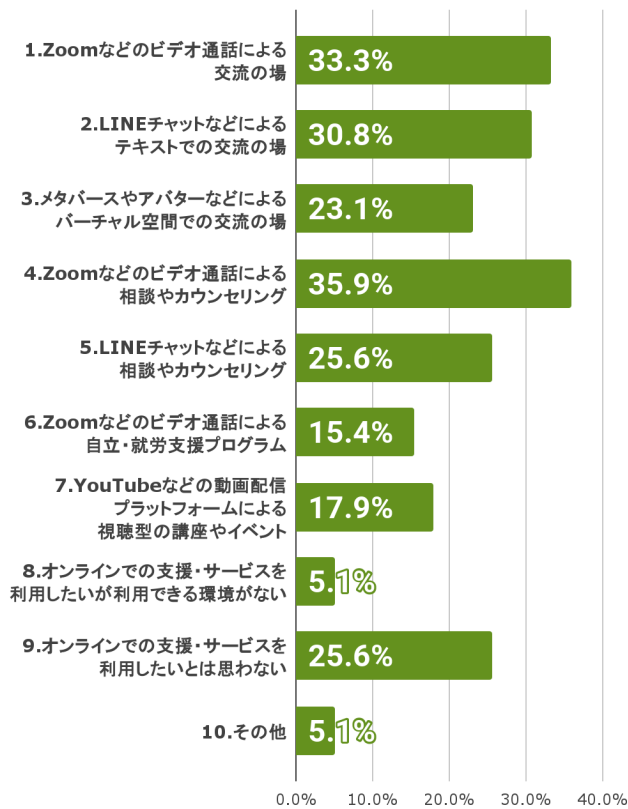


図1-29

利用したいオンライン支援・サービス

※問30 / 複数回答

※n=39

【利用した支援・サービスについて、良かったことや改善してほしいこと*】

1.良かったこと

施設に個室があり、一人になりたい時自由に利用できた（30代・女性）

取り敢えず一時的には気分が良くなったり時間の有効利用ができた。（40代・男性）

高卒認定が受けられたこと（30代・女性）

障害者福祉の移動支援ヘルパーさんが、私の過去の趣味を見つけて、外に少し引き出してくださったので良かった（50代・男性）

ありのままにいられた。負の感情を出せる。（40代・女性）

引きこもり当事者としての経験が他者の役に立つことが分かった（20代・性別無回答）

心療クリニックにて、筆記法による、個人分析が受けられたこと。（30代・性別無回答）

恥ずかしいけど、心の中を少しさらせたかな。（40代・男性）

お菓子がもらえる 家にいなくてすむ事（40代・男性）

現在、相談支援を利用しています。以前に別の場所で、相談・就労支援などを利用した時には、あくまで就労がベースにある支援という印象で、周りのサポートして下さる方も、働く事が当たり前に行える方ばかり（ひきこもり経験者の方も含めて）でした。自分が感じている悩みや課題とはあまりにギャップがあり、社会に居場所などないように感じました。今回通っている場所では丁寧な聞き取りと寄り添いをしていただいている、不安についても共有していただけています。もしかしたら自分なりに進んでいける道があるかもしれないと、少し希望を持つことができます。（40代・女性）

2.改善してほしいこと

どうしても最終目標が就労を目的としていることが嫌である（40代・男性）

就労移行支援の支援体制では不十分だと感じた。自分はある程度社会人経験があるため、仕事に関するマナー等の支援にはあまり意味がない。それよりも、実際就労する際の支援をして貰いたかった。精神疾患を抱え、不安な状態のまま、全く誰も知らない職場へ行くことに不安がある。（30代・女性）

精神由来の引きこもりになったときに医療機関を受けても「まだ若いんだから大丈夫」「ストレスに慣れない」という対応しかされないで疾患や障害由来の場合放置される（20代・女性）

体調や気分に対応した支援をして欲しい（50代・男性）

支援者に理解がない、及び当事者として支援者へアドバイスをしてもらっても全く受け入れられない事が多く、傷付けられるような事を平然と言われる事も多かった。ボランティア精神に頼り過ぎている。（20代・性別無回答）

カウンセリングを受けられる場所や他のひきこもり当事者との交流の場を教えてほしい。医療機関にかかっても、次のアクションに繋がらなかった。（30代・性別無回答）

ネット上で身近な公的支援の情報が得られるポータルサイトや、相談できる窓口、写真や動画をまじえた活動の紹介、交流場所などがあれば、もう少し利用のハードルが下がるのではと思いました。（40代・女性）

時間制限や場所制限など（があったこと）（40代・男性）

*ひきこもりの支援・サービスを利用したことのある人のみ回答
※問31/自由記述

【ひきこもりの当事者/経験者の現状や思い】

支援者は引きこもりの当事者の意見をよく聞くことが大事だと思います。中々、実現は難しいかもしれませんがオープンダイアログ*という方法も大事だと思います。後、家族支援は多く見受けられますが当事者の支援は少ないように思います（40代・男性）

*精神医療でクライアント（相談に来た人）本人のみならず家族や治療者など関係者が集まり対話を重ねる治療方法のこと

高校に進学してから自分のコミュニケーション能力の低さに気づき、学校生活が苦しくなり不登校になり、精神科医にかかるようになりました。そこでお医者さんから特別支援学校への転校と病院への入院を提案していただきました。結果として、人間関係をリセットできたことや自分らしくいられる友人に恵まれたこと、規則正しい生活をできたことで、卒業後は専門学校への進学を経て就職し社会復帰することができました。義務教育から高校生の期間は、学校に居場所が見いだせない世界に居場所がないような気持ちになります。そういった気持ちを抱えた方に、転校や生活場所を変えるという選択肢が持てる出会いがあるといいなと思います。（30代・女性）

好き好んで引きこもって居るわけでは決してありませんが、ひきこもりから抜けだそうと思っても自分ではどうする事も出来ないのので行政からのサポート体制が必要だとおもっています。（50代・男性）

ほっておいてほしいと思うが、年齢から焦燥感がものすごいです。人と関わるのが非常に怖く、どのサービスも自分にできるとは思えません。（40代・男性）

ひきこもり=部屋から出てこない人ではないです。「見た目は他の人と変わらないように見えるけど社会との接点を持たない」も広い意味でひきこもりに入ると思います。孤独でかわいそうな人ではなく、普通の一人の人間として接してもらいたい。（30代・女性）

なぜ怖がっていたのか、こだわっていたのか、後になって考えると「どうでもよかった」ことが沢山ありました。社会に出て働いていると、良くも悪くも自分が考えているほど、世の中の人（私）のことを意識していないことが分かりました。今でも心配しすぎる性格は直りませんが、ある程度鈍感

であった方が、世の中ではうまくやって行けるのではないかと思います。「やってみる」「どうでも良いと思える」と意識改革ができれば良いのに、と思います。（40代・男性）

とにかく家族以外の人付き合い/出会いの機会ともにほぼ無い為、自力で探したり調べたりしているが見つからない。当町は成人の障害者への支援程度が悪く県の現状としても愛知県より悪く、名古屋市に引越して1人暮らししたい、残される実家の家と土地の両親死後の維持管理（特に税金などの負担）は一切したくない。（40代・男性）

こういったアンケートに感謝します。なんらか変わっていく助けになればと思いますし、支援者の皆様や気にかけている皆様にも感謝を伝えたいです。（30代・女性）

高校卒業後就職し、仕事による適応障害と不安障害で退職し引きこもり無職になった人間です。自殺未遂をして複数の精神科に受診し「まだ若いんだから」「ストレスに慣れない」という対応をされハローワークで紹介された仕事先も求人内容と違い上手く出来ずに就労と無職引きこもりを繰り返して現在派遣として欠勤を繰り返しながら働いています。就労に関しては、

- とにかく違法就労企業を根絶やす
- 人権教育をする
- 男女問わずハラスメント教育をする
- 短時間就労でも生きていける給料設定にする

しかないんだと思います。

話し合いや思いやりなんて小学生の帰りの会じみたことでは無く、精神疾患の有無に関わらず心身に支障が出るような就労がまかり通っている現状を問題視すべきだと考えます。引きこもりは誰でもなり得ます。（長時間労働の後遺症で肉体が疲弊して外に出られない人、パワハラを受けて怒鳴り声が脳内でリフレインするため外の騒音が耐えられない人、セクハラや性被害を受けてトラウマから外出が出来ない人、昨日まで出来ていた外出が明日には出来なくなるかもしれないのが引きこもりです）。次にサポートする方の善意に甘えない体制を整えることかと思えます。無償ボランティアに頼るのではなくお金を払って雇用を生んだ上でサポート体制を整える必要があると思います。（20代・女性）

引き籠もりは、心の扉を全てとじる。その心の扉や引き出しを、誰がどうやって引き出すかにアプローチすれば、引き籠もり者は減るかも知れど、私は、すぐに籠る傾向です。家や部屋が快適なのかも（50代・男性）

助けられるだけではなくて役立つ情報が欲しい。（40代・女性）

孤独感がとてもありました。急に笑えなくなり学校に行こうとするだけで泣き叫びたい気持ちでいっぱいでした。親にも分かってもらえず、親戚の人に「死にたい」と悩みを話しても「病気で、生きたいのに生きれない人もいるんだから、そんな事言ったらダメ」と怒られました。親に「学校に行きたくない」と言うため息をつかれました。親にさえ分かってもらえないと分かり、その日から、あんなに好きだった親が苦手になりました。（10代・女性）

生きづらい世の中で生きていかななくてはならないと苦しんでいる人が多いんだと思います。自分自身も「皆は頑張っているのに、自分は何で出来ない？」って思いながらも、何も出来ずにイライラしています。そして働きたくても面接がとても怖いのです…。（30代・女性）

ひきこもり支援の前に、ひきこもりについて知ることが大事だと思います。

それは各々の当事者/経験者について知ることでもあり、なぜそういった状況を生むのかという社会的な背景を知ることでもあります。（最も影響の大きいのは、「ふつう」を強く求めてしまう性質を持つ競争社会の激化だと思います）。そのためには、当事者/経験者と支援者との間で、度重なる交流が必要かと思っています。ひきこもりになる理由については種々あると思いますが、それらはひきこもりになった者にしかわからないことがたくさんあると思います。

しかしひきこもりの性質上、そういったことを発信する者はほとんどいません。これではいつまで経っても、社会にひきこもりが認知されませんし、当然この問題が解消されません。ですからやはり交流などを通して、「真に問題なのは何か」を当事者/経験者が訴えられる環境の整備から始めるのが良いと思います。（30代・性別無回答）

昔の人から精神病院の事を差別的に教えられて勇気が出なかった。（40代・男性）

ひきこもりというのは個人の問題で、行政や他人がどうこうできることではない。あんまり思い上がらないでほしい。もし何かしたいと思うんだったら、まず親を変えてほしい。（30代・男性）

助けてほしいことはたくさんあるが精神的な障害を持っているので1人で相談に行けない（60代・女性）

ひきこもりの方や不登校の方の家族への支援も重要であると考えています。家族の在り方もそれぞれであり、引きこもり・不登校の当事者が家族の問題を引き受けて表現していることもままある様に思えます。（30代・男性）

言いたいことはいくらでもある。けれども、このフォームでの回答は三重県職員に対する忖度や迎合によって改竄されると思っているから、多く記述したところで、意味がないとさえ思っている。三重県職員か委託事業者のどちらかがそう思わせているというほうが、正確な表現であるが、三重県職員は、すぐに「言い換えだ」だの「概要だ」だのと言って改竄するから、表現や記述に事実上の制限がある。（形式上の制限がなくても。）（40代・男性）

人と話すのが苦手だったり、自分の思いを言葉に表現することが難しかったり、人が怖いと感じることがあるので、コミュニケーション面で不安を抱えている人が多いと思います。コミュニケーション能力の向上につながるような支援が望ましいのではないかと思います。（40代・男性）

私は外の世界を、未だに言葉の通じない外国のように感じています。多くの方が普通にできることが、自分にはできず、たくさんのそれら全てに、自分が逃げ続けてきたことのツケが積み重なっているように思えて、怖くなります。

自分だけで考えてもどうしようもない時、もし誰かがもっと広い視点から見て、「こういうやり方もあるよ」「こういう小さなステップにすれば、できるかもしれないよ」と提案してくれたら、どんなに心強いだろうかと思えます。

根気強く手を差し伸べてくれる支援者の方々には感謝しています。見守ってくれる人がいることに、とても勇気をもらえます。(40代・女性)

※問32/自由記述

第2節 ヒアリング調査の結果

「三重県ひきこもりに関する実態調査」では、アンケート調査とヒアリング調査を行った。本節では、当事者/経験者へのヒアリング調査結果の要約を掲載する。

ヒアリング協力者の概要

アンケート調査回答者の中でヒアリング調査に協力すると回答いただいた方のうち、当事者/経験者では6名の方に対面もしくはオンラインでヒアリングを実施した（下表参照）。発言中の支援に関する言及を中心に要約を作成し、本稿では協力者の了承を得たものを掲載している。

No.	表示名	年代	性別	ひきこもり歴	実施日	方法
1	Aさん	20代	女性	11年～12年	2024年9月15日	対面
2	Bさん	30代	女性	2年～3年	2024年9月4日	対面
3	Cさん	40代	男性	6年～7年	2024年9月15日	対面
4	Dさん	40代	男性	15年～20年	2024年9月19日	オンライン
5	Eさん	30代	男性	3年～5年	2024年9月3日	対面
6	Fさん	50代	男性	20年～25年	2024年9月27日	オンライン

※年代は2024年9月時点のもの

主なヒアリング項目

主に以下の内容を中心にヒアリングを実施した。

1. 現在、どのような生活を送っているか
2. ひきこもり状態になった経緯や背景について
3. ひきこもり状態のときの心情や葛藤について
4. これまで利用したことがある支援やサービスについて
5. 支援にどのようにつながったか
6. 利用したことがある支援やサービスの、良かった点や改善してほしい点
7. どのような支援なら利用してみたいと思うか
8. ひきこもり支援に携わる人たちや、社会に伝えたいメッセージ

Aさん 20代女性 ひきこもり歴11~12年

もともと小学校のときから学校が好きではなかった。

軍隊式教育とかも嫌だったし、同じクラスの中でも競い合ったり。提出物を出していない人間として黒板に名前を書かれたりとか、常にさらし上げをされている状態。ここについて行ったら、自分が消えてしまう感じがした。

現在は両親と兄と同居している。

（このような実態調査で当事者の声を集めても）大事なところは当事者の意見を無視して自分たちの都合のいいようにやっている。そんなことを繰り返している。

三重県の支援自体は形骸化している。東海三県の中では圧倒的に遅れている。

適応指導教室のような所は合わなかった。あまり支援の場や居場所に行きたいと思わない。基本的に話が合わない。

（支援分野の）年度のまとめのようなパネルディスカッションに当事者として出ても、県の偉い人や県の教育長とか校長が来て、自分たちが作り上げたシステムや功績を長々と語って帰っていく。主催者からは、当事者や支援の会の報告に時間を割かれるのは困ると、私たちはおまけのように言われた。それでも、自分の経験を話し活かせればと思っている。

自治体の職員が「本人に会えないからやりがいがない」と言ったり、教師に言われて嫌だった経験を語ったら「よくそんなこと覚えているね」と根に持っているような言い方をしたり、相談相手に対して「底辺の人」と言うのを聞いたりしている。また市議が「冷凍食品食わせてるからそうなる、母親が三食作って食べさせればそんな子どもは発生しない」と言うなど、意識が低すぎる。

「弱者」を社会から無くそうとするのではなくて、その人たちをまずは受け入れて、どうやって、たとえば命を断たないように支えていこうというところから始めてほしい。ひきこもることや死にたいと思うこと自体もおかしくなくて、誰にでもうつ病になる可能性があるというふうに変わってほしい。

Bさん 30代女性 ひきこもり歴2年~3年

高校3年で初めて不登校になった。なんとか卒業はしたが、専門学校入学後にも不登校だった時期があり、あまり就職活動ができなかった。卒業後に就職したが、結局仕事を辞めてしまった。

学校時代に2回、今は3回目のひきこもりで、家からあまり出なくなっていて2年ほどになる。

小学校の頃からいじめを受けた経験があり、人が怖いというイメージがある。同年代や年下、制服を着ている学生が怖かったり、子どもの泣き声が聞こえたりすると、少ししんどくなったりする。何かの拍子にフラッシュバックしてしまい、落ち込むことがある。浮いたり沈んだりという状態。

幼少期からどこかでずっと人間関係への苦手意識があった。大人になって「克服しなきゃ、前を向かなきゃ」と思っていたが、結局うまくいかない。職場でも常に気を張っている状態だった。

今は夫が色々サポートしてくれているのですごく安心感があり、支援を必要としていない。しかし、夫と年齢が離れているので、将来独りになったときへの不安がある。両親とはよく連絡を取るが、きょうだいとは疎遠。

自分自身はひきこもり当事者にあたると思うが、他の人からは「全然問題を抱えているように見えない」「普通の元気な人に見える」などと言われたりする。高校生のときにメンタルクリニックに行ったときは「問題ありません、ちょっと甘えてるだけじゃないですか」と言われ、ショックだった。

たまたま新聞のLINEアカウントが発信するニュースで今回の調査を知った。情報を発信してくれたことに感謝したい。三重県が、話を聞こうと考えてくれたことが嬉しかった。自分のように悩んでいる人がいると知ってもらっただけでも、少し気持ちが軽くなる。もし自分に助けが必要になり、市や県に助けてほしいと声を出したときには、「しんどかったですね」と受け入れてもらえたら嬉しい。

テレワークに少し興味がある。自宅で自分の生活リズムを崩さず、無理のない時間帯に働けるような働き方があると良い。あまり人と関わらずにできるような仕事で、無理なく自分一人で負担にならずにできる仕事があると良い。

メタバースにも興味があり、デジタル空間でアバターやキャラクターを作って動かすのが好き。そういう空間だと、もうちょっと自由に動けたりするかなと思う。そういう空間で人と会ったり、収入になるようなことができるようになったら、もうちょっと生きやすいのかなと思う。

Cさん 40代男性 ひきこもり歴6年~7年

学校でも職場でもいじめ、嫌がらせを受けていた。障害者の就労支援施設も転々としていたが、どういうわけか、すべての場所においていじめに遭った。嫌がらせなども。途中3年間ほど一人暮らしをしていたが現在は実家で両親と暮らしている。

なんとかひきこもり状態を脱したい、助けを求めたいという意味で、いじめの現状を知っていただきたいという意味で、アンケートに回答をした。

就労支援A型B型は利用したことがあるが、嫌な思いをしてしまった。

現在は、地元の役場と社協につながってはいるが、高齢者などの支援に力を入れざるを得ないようで、後回しにされてしまっている。半ば何も声をかけてくれず放置状態になったり、こちらから何か言わないと、また言ったところで「現状の福祉の支援はここまでしか出来ない」という話で終わってしまう。また、例えば災害時など、障害者や高齢者は優先的に何とかならないかと聞いたことがあるが、「どうにもならない、自分の身は自分で守ってください」と言われた。

希望しているのは、どこかに関わりを持てるきっかけを一緒に探してくれたり、何かをする時に付き添ってくれると良いと強く思う。特に住環境など。昔から住んでいるのに、昔からの歩みやいきさつを、障害者を把握して管理している割にはそういうところを把握しようとしてくれない、と自分は思っている。どれだけいじめを受けて苦しんできたかというのを。現状は、ほぼとあえず働けという感じで、就労に向けて引っ張られる組織がほとんど。

支援については、特に三重県の北西地域では少ないと思う。知る限り、県全体として支援をしている機関などは、隣の愛知県、特に名古屋市と比べると、だいぶ弱いと感じている。福祉課に関しては職員の絶対数も少ないような気がする。

現在、住居や遺産相続についても含め家族との間で問題を抱えている。何かを決断しても両親は自身の経済面、体調面を懸念し反対してくる。自分は地元を出て福祉面がより充実している自治体に住み替えたいが、この思いを代弁して親に伝えて説得してくれるような、間に入ってくれる第三者の方を強く希望している。

Dさん 40代男性 ひきこもり歴15年～20年

小中高でひどいじめを受け、大学3年頃から精神科に通い始めた。フラッシュバックや強迫行為に悩まされ、統合失調症と診断された。20代の頃は特に症状が重く、銀行でお金を下ろすことさえ困難だった。

20代の頃は、強い焦りと孤独感を感じていた。みんなが楽しく生活している中で、自分だけが取り残されているような気持ちに苛まれた。しかし、怒りや暴力的な感情はあまりなく、むしろ自分を責める気持ちが強かった。タバコを吸うことや猫を飼うことで気が紛れて、だいぶ救われた。現在は、ゲームやネット動画で時間を過ごすことが多く、ひきこもりに慣れてしまっていて、今はあまり苦にならないと感じている。

20代の終わりに病院が替わり、自分に合う薬に出合えたことで症状が少し改善した。それがきっかけで一人暮らしをしたいと思うようになった。福祉事務所に相談したところ、生活保護の受給につながり、その過程で精神障害者の相談所を紹介された。相談所の職員が親身になって対応してくれ、そこが運営するデイケアに通うようになった。

月に2回程度デイケアに通っていたが、最近には行っていない。B型作業所にも4つほど通ったが、全て1、2週間で辞めてしまった。2つの作業所では独りぼっちで誰も話しかけてくれず、孤立感を感じた。新しい場所では先輩などが優しく話しかけてくれることが必要だと思うが、そういったことが全然なかった。別の作業所では支援者の態度がキツイ感じで、職員同士でも「お前、何々しろ」といった言い方をされていて、そういうキツイ雰囲気だったので嫌になった。

支援者は当事者の気持ちを十分に理解していないと感じる。働くことを過度に勧められたり、気持ちを無視された場面があったりして困惑した。支援者の中にはヤンキーのような見た目が怖い人もいて、適切ではないと感じることもあった。

支援者からの連絡がないと、自分から連絡するのが難しい。月に1回でも「元気？」と声をかけてほしい。「誰一人取り残さない」と言うなら、支援者側からも積極的にアプローチしてほしい。当事者経験のある支援者や、より理解のある人を増やしてほしいと切実に思う。支援者との関係が途切れがちで、継続的なサポートを受けられていないと感じている。

安価で長時間滞在できるカフェのような居場所があったら嬉しい。

重度の睡眠障害があり、通常の勤務は難しい。でも、融通の利く在宅勤務や、いつでも自分のタイミングで行ける職場があれば働けるかもしれないと考えている。障害者が多く働いている職場で、配慮のある環境で働けたらいいと思う。

Eさん 30代男性 ひきこもり歴3年～5年

ひきこもった経験は、現在を含めて2回。1回目ときは大学生で、鬱になったことがきっかけ。完璧主義者の傾向が強くて、大学のレポート、バイト、地元の演劇サークルなどでオーバーワークになってしまっていて、ある日、ふと動けなくなった。だましだまし無理やりこなしていたけれど限界が来て、ひきこもった。

ひきこもる前から、自分が自分でないような感覚が強かった。自分で選択したことだが、それによって自分の行動が全て決定されて、自分というものが無い。だんだん自分が自分でない感覚、人の皮を被った身体の奥に、精神的に閉じ込められたような状態で、自分ではない者の身体を動かしている感覚がずっとあった。ひきこもって部屋の中にいるときもそんな感覚だった。だから、死ぬことよりも、自分が自分でなくなることが一番恐ろしいと思っている。

今回のひきこもりのきっかけは仕事とコロナ。派遣で、高速道路の現場監督の仕事をしていて、上司とうまくやれず、そんな中で自分が担当している現場で重大な事故が起きた。そのことで上司に叱られたり、うまくいかないことが重なった。ちょうどコロナ禍とも重なり、仕事でどこへ行っても上手くいかず辞めたことがきっかけ。

今まで受けてきた支援はクリニック、サポートステーション。サポステでは「あなたに支援は必要ない」と言われた。確かに、自分が求めているものとは違うなと思った。メンタルクリニックでも「通わなくてよい、治療も必要ない」と言われた。診断名もない。

支援は必要としていないが、強いて言うなら他のひきこもりや、なにか自分でやろうと思っている人とコミュニケーションが取りたい。現在の移動手段は徒歩だけなので、近場かオンラインだとありがたい。

ひきこもりは、性質上、人との繋がりを持たない、持てない。それを繋げるのが大事ななと思う。みんなひきこもり初心者なので、先輩がいない。こうするといいよ、ひきこもりの仕方を教えてあげるよ、という人と繋がる機会が必要。

両親に期待していることや望むことはない。昔から他人に期待することがない。介護で両親と関わらざるを得なくなると、単純に仕事量として多くなり、かつてのオーバーワークと似た状態になるかと思う。そういうときにまともな精神を保っていられるのか、それが恐怖。

今はYouTubeをやっていて、一応収益化まで通っている。ただ収益と言っても雀の涙なので、その状態だけではダメだろうと思っている。お金に対する不安はある。両親が退職したとき、両親の年金があるけれどそれで持つのかなというのもある。だんだんジリ貧で苦しい状態にはなっていくだろうなという不安がある。

Fさん 50代男性 ひきこもり歴20年～25年

生まれつきの身体の病気があったが、バブル期に就職、やりがいも感じられて給料もちゃんとあり、余暇にキャンプなども楽しんでいた。結婚して子どももいたが、30歳の頃に病気が悪化して入院。脚の皮膚が壊死するほどの重症だった。傷病手当金が切れ、経済的理由から離婚することになった。

失業や離婚で「そんなことで人は離れていくのか」という思いを抱き、人が怖くなった。この頃から精神科とも繋がり、家と病院の行き来だけのひきこもり生活が何年間か続いた。うつ病も発症し、踏ん張りが効かなくなった。怠け者じゃないかと自分を責め、死のうと思ってもなかなか死ねなかった。生きてたらまたいつか子どもに会えるんじゃないかと思って。

病院仲間が日中一時支援事業*のことを教えてくれ、外に出るきっかけになった。就労支援のA型作業所にも行ったが、しんどくて安定せず、また家にこもるようになった。

* 障害者等の日中における活動の場を確保し、障害者等の家族の就労支援及び障害者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を目的とする

家の中が荒れ、別の病気も併発し、市役所に行って困っていると伝えたら、ヘルパーと訪問看護を入れてもらった。上手く心の引き出しを開けてくれて、釣りや散歩に連れ出してくれる。膝が痛くて思うようにいかないが、外に出たい気持ちも出てきた。

支援を受けていて困るのは、外出したくないときでも予定をキャンセルしづらいこと。外出したくない日でも出かけなければならず、気分が悪いときもある。一方で、キャンセルを繰り返すことで元のひきこもり状態に戻ってしまう恐れや、支援を受けられなくなる不安もある。友達との約束をドタキャンされたら嫌だと思うのと同じで、支援者の立場も理解している。

社会参加として、精神疾患者同士の勉強会や相談会を開いたり、当事者支援プロジェクトに参加したりしている。B型作業所にも月1回通っているが、交通費程度にしかない。

65歳を過ぎてヘルパーの利用が介護保険に切り替わると負担が大きくなるのが怖い。今でも病院代で困っているのに、さらに払わないといけないのかと心配。健康な人がうらやましい。今は親が見守ってくれているが、親がいなくなった後のことを考えると不安。一軒家なので固定資産税を払わないといけないし、生活保護も受けられないんじゃないかと心配。こういった金銭的な不安について相談できる場所があれば良いと感じている。

支援者には、当事者が持っている宝物を探して引き出してほしい。僕には僕の引き出しがあるように、他の人にも心の中に引き出しがあって、必ずどこかに宝物がある。それをどうやって引き出してあげるかを探してほしい。

第2章

家族調査の結果

第1節 アンケート調査の結果

第2節 ヒアリング調査の結果

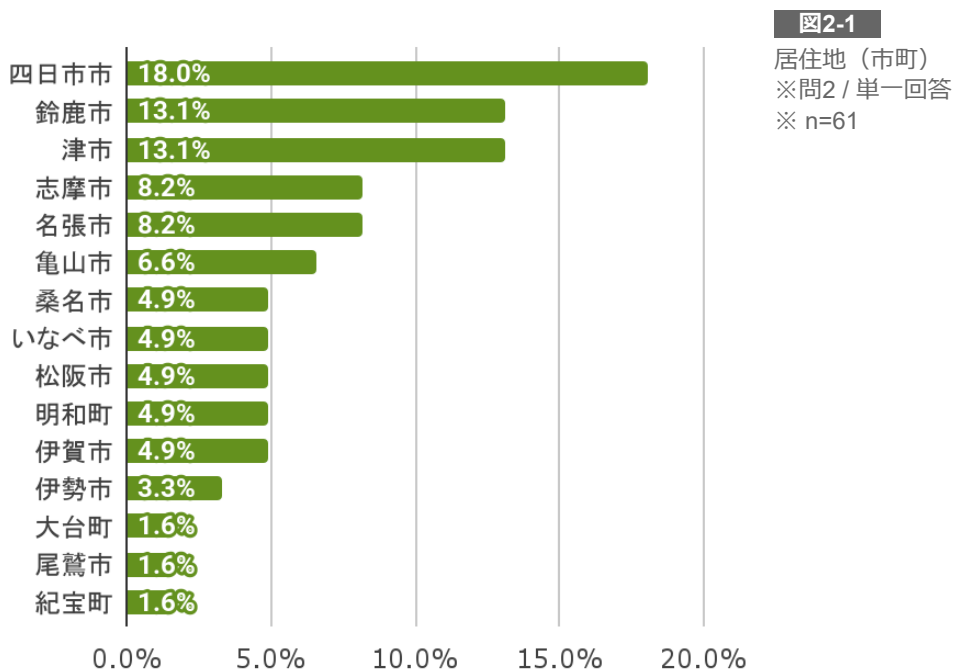
第2章 家族調査の結果

本章では、家族（現在ひきこもり状態のご家族がいる方）を対象とした調査の結果を紹介する。

第1節 アンケート調査の結果

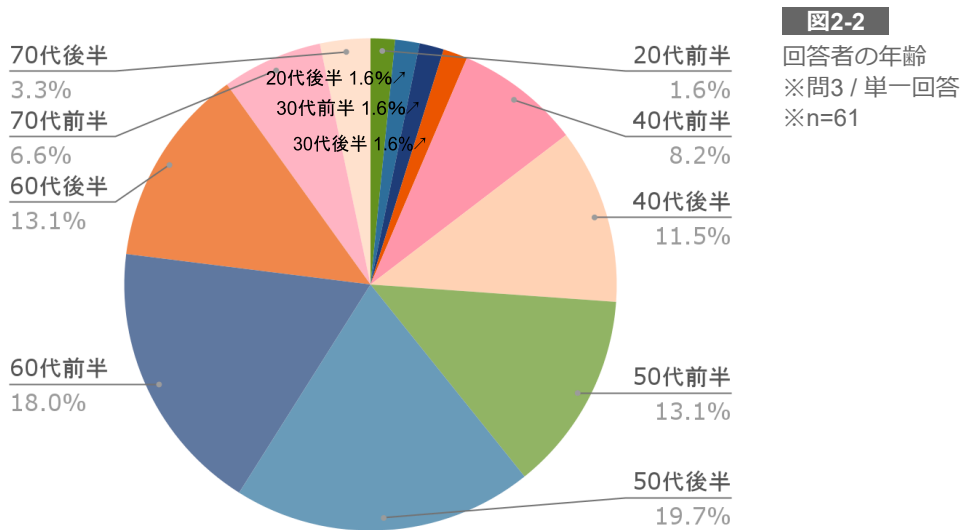
2-1 居住地（市町）

回答者の居住地（市町）では、四日市市が18.0%と最も多く、次いで鈴鹿市・津市が13.1%、志摩市・名張市が8.2%だった。人口規模の大きい都市部だけでなく、さまざまな地域からも回答が寄せられた。



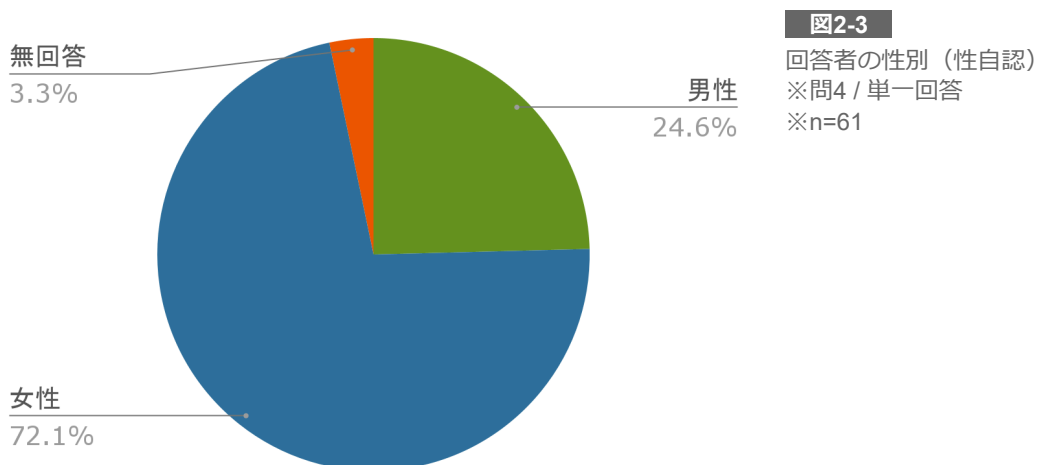
2-2 回答者の年齢

回答者の年齢では、50代後半が19.7%と最も多く、次いで60代前半が18.0%、50代前半と60代後半が13.1%となっており、回答者の約3分の2が50～60代であった。



2-3 回答者の性別（性自認）

回答者の性別（性自認）では、女性が72.1%、男性が24.6%、無回答が3.3%だった。女性と男性の比率はおよそ3：1となっている。



2-4 ひきこもり状態にある本人から見た回答者の続柄

ひきこもり状態にある本人から見た回答者の続柄では、母親が65.6%と最も多く、父親が19.7%、兄弟姉妹が13.1%となっている。親の立場からの回答が85.3%と大半を占めており、母親と父親の比率は約4：1であった。

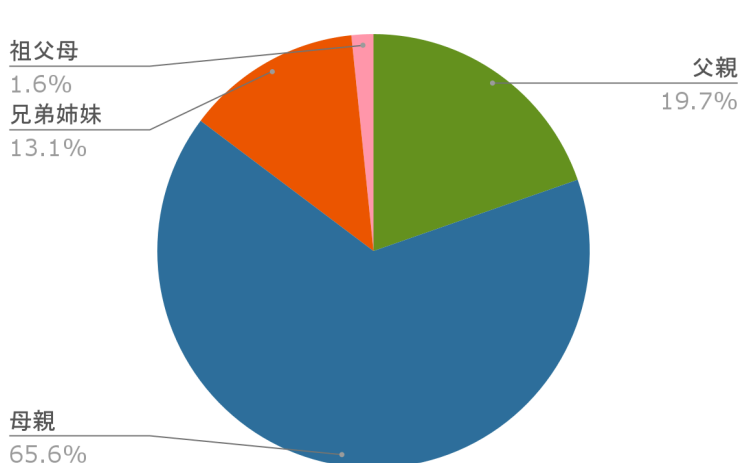


図2-4

ひきこもり状態にある本人から見た回答者の続柄
※問5-1 / 単一回答
※ n=61

2-5 ひきこもり状態にある本人と同居しているか

「ひきこもり状態にある本人と同居しているか」については、「同居している」が78.7%、「(ひきこもり状態の)本人*は三重県内に在住で、別居している」が21.3%だった。約2割は別居となっており、単身でひきこもり状態で暮らしている人も少なくないと思われる。

*以降、「本人」と表記されている場合はひきこもり状態の方を指す。

- 同居している
- 本人は三重県内に在住で、別居している

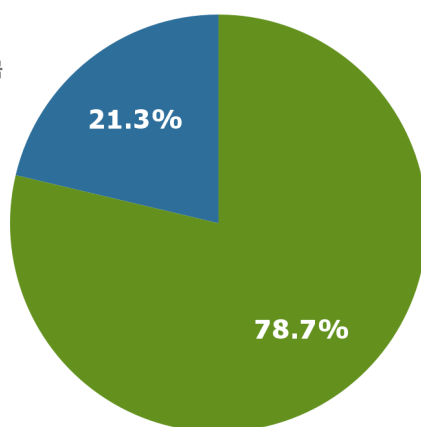


図2-5

ひきこもり状態にある本人と同居しているか
※問5-2 / 単一回答
※n=61

2-6 ひきこもり状態にある本人の年齢

「ひきこもり状態にある本人の年齢」では、20代後半と30代前半がともに18.0%と最も多く、次いで14歳以下、10代後半、20代前半、30代後半がそれぞれ11.5%となっている。10代以下～30代が全体の82.0%を占めており、本人の年齢は若年層が大半を占めている。

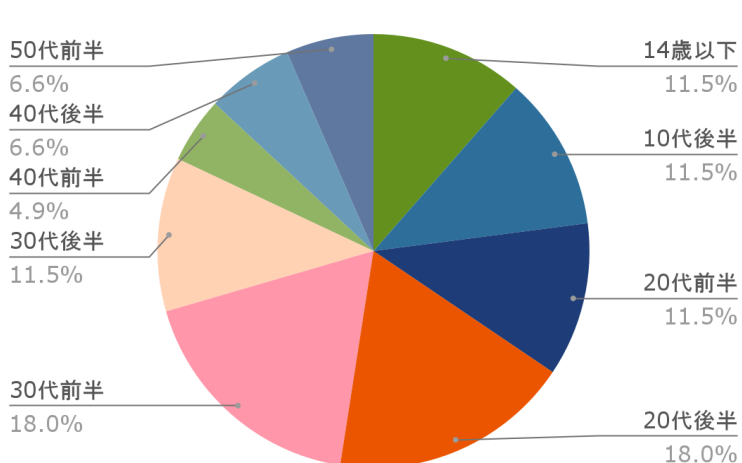


図2-6

ひきこもり状態にある本人の年齢
※問6 / 単一回答
※n=61

2-7 ひきこもり状態にある本人の性別（性自認）

「ひきこもり状態にある本人の性別」では、「男性」が68.9%、「女性」が27.9%、無回答が3.3%だった。当事者/経験者調査（以下、当事者調査）では男女比がほぼ半々だったのに対し、家族調査ではひきこもり状態にある本人の男女比がおよそ7：3となっている。

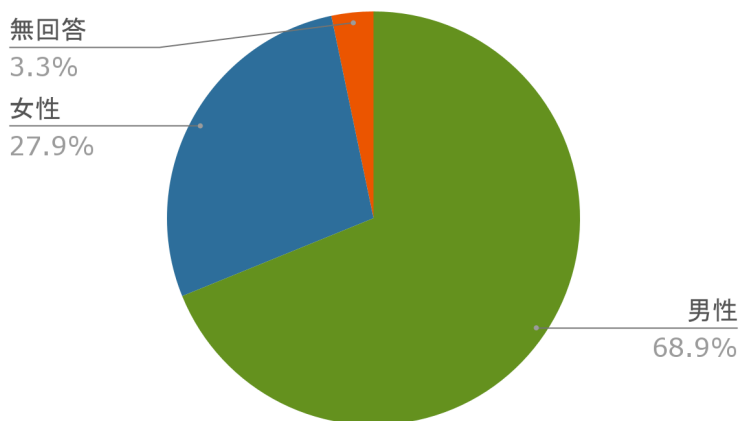
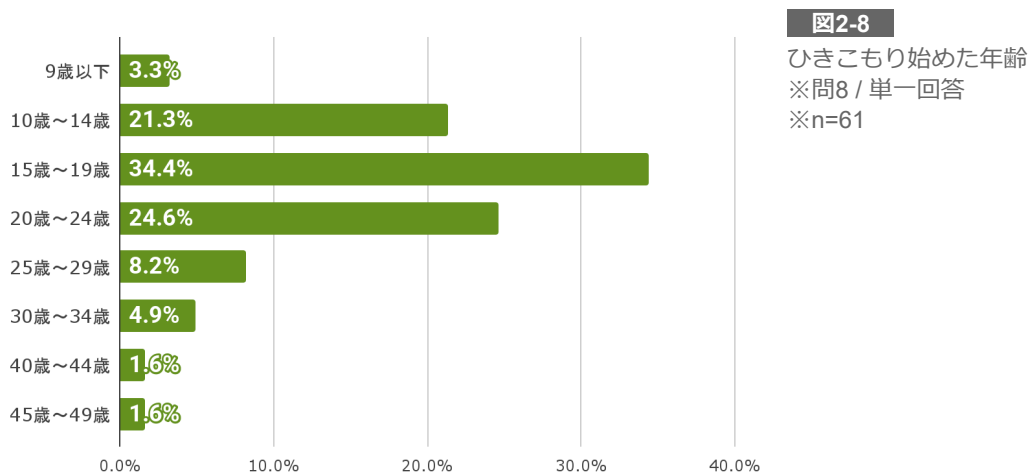


図2-7

ひきこもり状態にある本人の性別
（性自認）
※問7 / 単一回答
※n=61

2-8 ひきこもり始めた年齢

「ひきこもり始めた年齢」では、「15歳～19歳」が34.4%と最も多く、次いで「20歳～24歳」が24.6%、「10歳～14歳」が21.3%だった。10代～20代前半でひきこもり始める傾向が見られる。



2-9 ひきこもり期間（のべ）

「ひきこもり期間（のべ）」では、「3年～5年未満」が16.4%と最も多く、次いで「2年～3年未満」「7年～10年未満」「15年～20年未満」がそれぞれ13.1%だった。この家族調査では本人の年齢が30代までの若年層が8割以上を占めていたにもかかわらず、ひきこもり期間5年未満が37.7%であるのに対し、5年以上が62.3%を占めており、長期化しているケースが多い傾向が見られる。

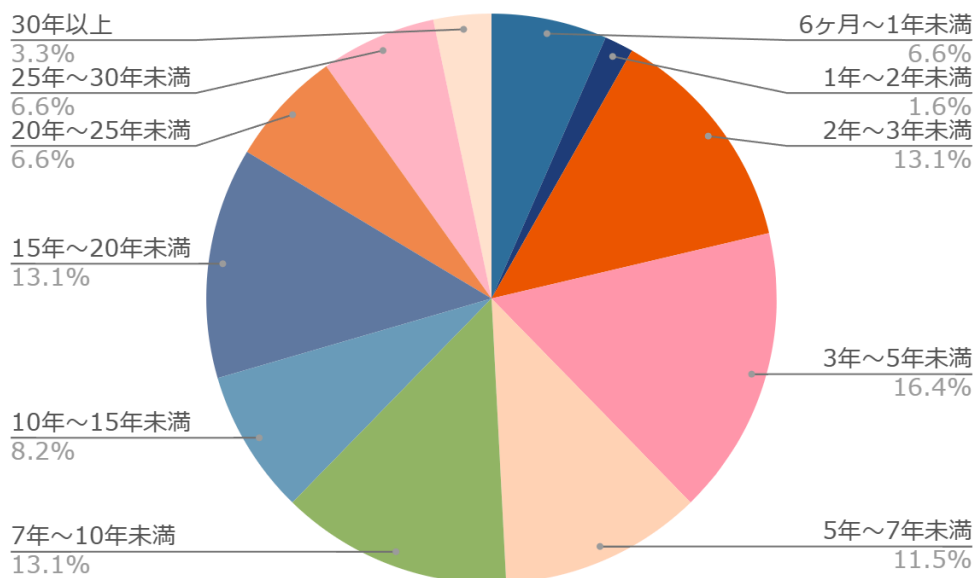


図2-9
ひきこもり期間（のべ）
※問9 / 単一回答
※n=61

2-10 考えられるひきこもりの原因・きっかけ

「考えられるひきこもりの原因・きっかけ」では、「不登校」が55.7%と最も多く、次いで「人間関係がうまくいかなかった」が52.5%、「こころの不調・病気・障がい」が44.3%だった。以下「家族との関係」が32.8%、「いじめ」が27.9%、「からだの不調・病気・障がい」が23.0%と続いている。家族から見た認識であり、本人の捉え方とは異なる可能性があるものの、複数の要因が重なっている様子が見えてくる。

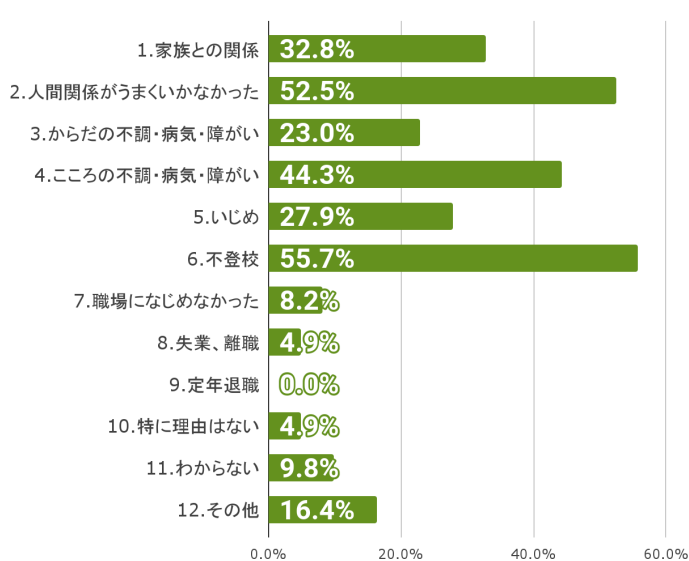


図2-10

考えられるひきこもりの原因・
きっかけ

※問10 / 複数回答

※n=61

2-11 ひきこもり状態にある本人の外出状況

「ひきこもり状態にある本人の外出状況」では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事的时候は外出する」が29.5%と最も多く、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」がそれぞれ26.2%だった。「わからない」という回答も4.9%あった。「自室からは出るが、家からは出ない」の割合が、当事者/経験者調査の回答（5.1%）と比べて20ポイント以上高くなっている。相対的に、外出の伴う対人交流や趣味的な用事の割合は低い傾向がある。

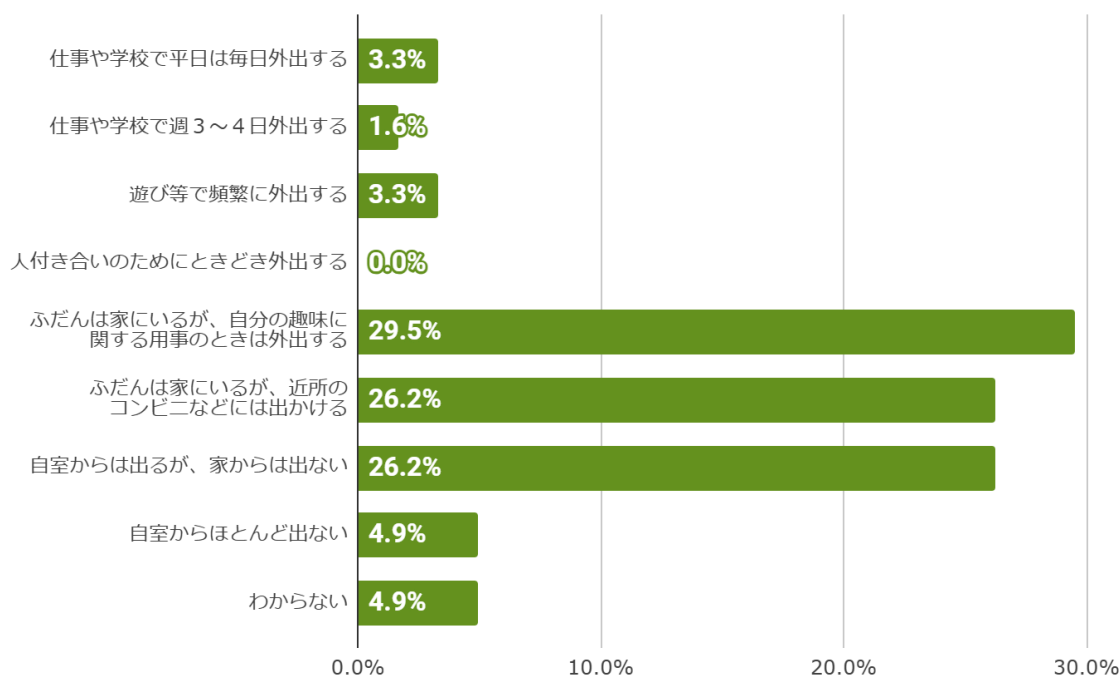


図2-11

ひきこもり状態にある本人の外出状況

※問11 / 単一回答

※n=61

2-12 ひきこもり状態にある本人は、現在支援・サービスを受けているか

「ひきこもり状態にある本人は、現在支援・サービスを受けているか」では、「本人は今まで一度も支援・サービスを受けていない」が63.9%と最も多く、「本人が以前支援・サービスを受けていたが、現在は受けていない」が16.4%、「本人が現在支援・サービスを受けている」が14.8%だった。支援・サービスにつながっていない人が多い状況がうかがえる。

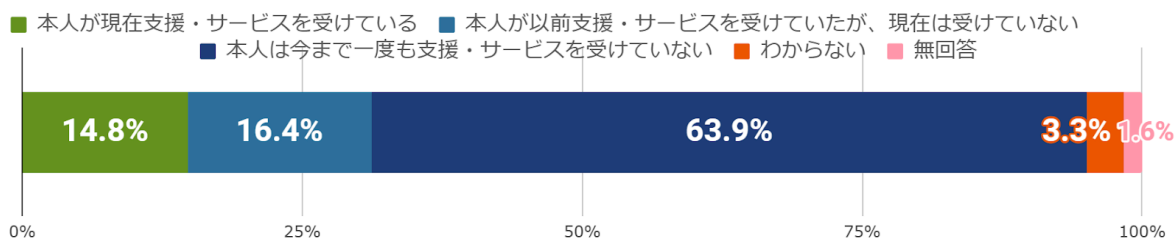


図2-12

ひきこもり状態にある本人は、現在支援・サービスを受けているか
 ※問12 / 単一回答
 ※n=61

2-13 ひきこもり状態にある本人の、この1年間の状態の変化

「ひきこもり状態にある本人の、この1年間の状態の変化」では、「変化はない」が41.0%と最も多く、「どちらかといえば改善傾向にある」が27.9%、「一進一退を繰り返している」が13.1%、「悪化している」が11.5%だった。状況にあまり変化がなかったり、一進一退を繰り返しているというケースが過半数を占めている。

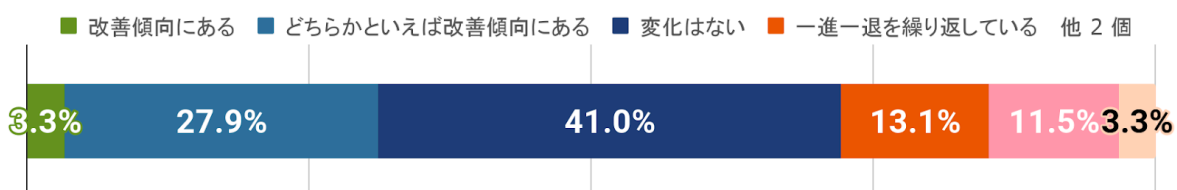


図2-13

ひきこもり状態にある本人の、この1年間の状態の変化
 ※問13 / 単一回答
 ※n=61

2-14 ひきこもり状態にある本人に関連する回答者の悩み

「ひきこもり状態にある本人に関連する回答者の悩み」では「本人の将来の自立や、社会参加への見通しが立たないこと」が82.0%と最も多く、次いで「親亡き後の本人の生活への不安」が67.2%、「本人のひきこもり状態が長期化していること」が60.7%だった。将来への不安を強く抱えていることがうかがえる。また「本人が支援につながることに消極的であること」「本人にとっての適切な相談先や支援サービスが見つからないこと」がともに4割前後にのぼっており、相談先や支援との接続に難渋していることが見て取れる。

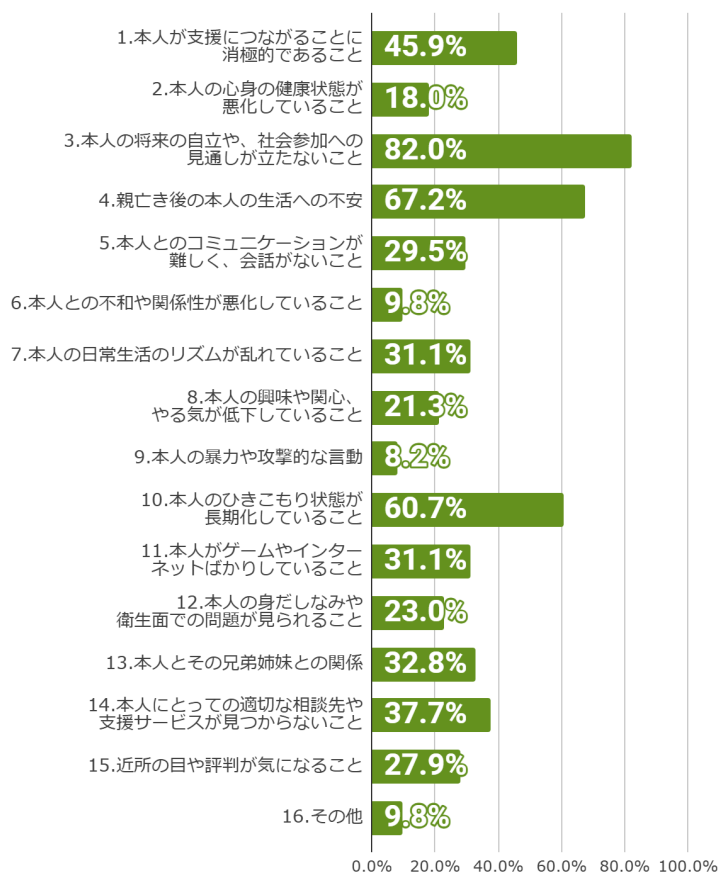


図2-14

ひきこもり状態にある本人に関連する回答者の悩み
 ※問14 / 複数回答
 ※n=61

2-15 回答者自身の悩み

「回答者自身の悩み」では、「ひきこもり状態の本人のこと」について「とても悩んでいる」が59.0%、「悩んでいる」が26.2%と合わせて85.2%と最も高かった。

「とても悩んでいる」「悩んでいる」を合わせると、「自身の心身の疲労」が59.0%で2番目に高い。次いで「生活費などの経済的なこと」が54.1%、以下「自身の老後」50.8%、「困ったときに頼れる人がいない」49.1%、「人生の充実感や幸福感がない」45.9%、「自身の病気や障がい」31.1%、「家族の介護」27.9%と続いている。

ひきこもり状態の本人への心配を中心に、回答者自身の心身の疲労や経済面など、複数の課題を抱えている状況がうかがえる。

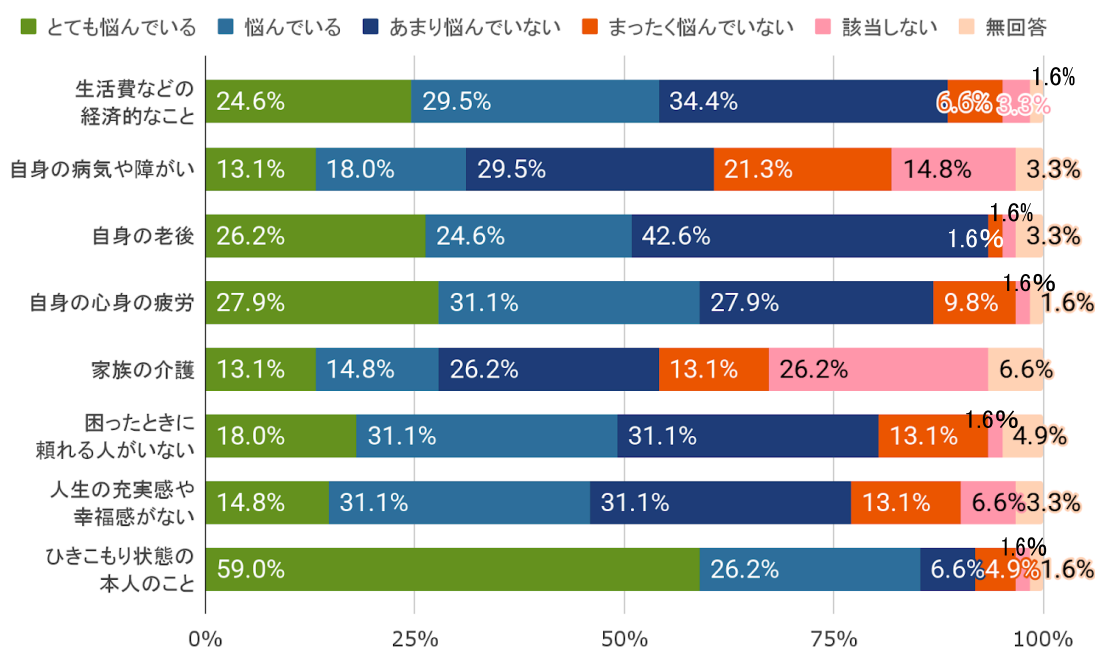
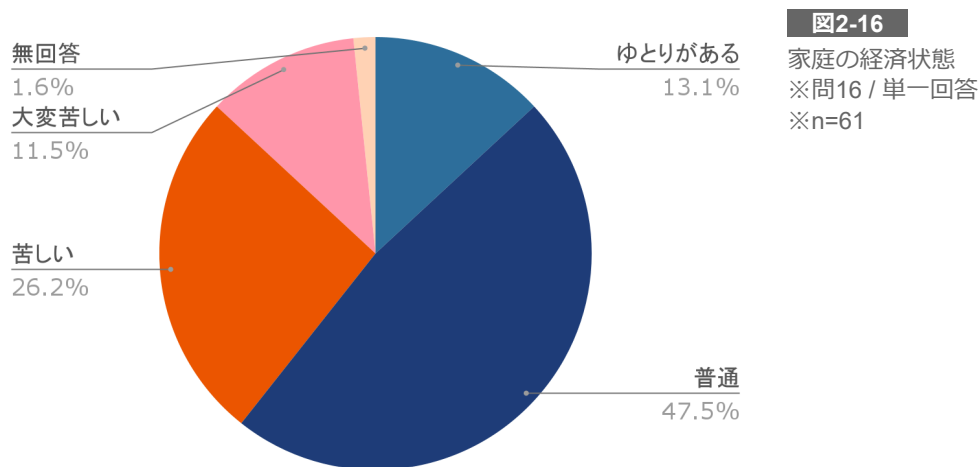


図2-15

回答者自身の悩み
 ※問15 / 単一回答
 ※n=61

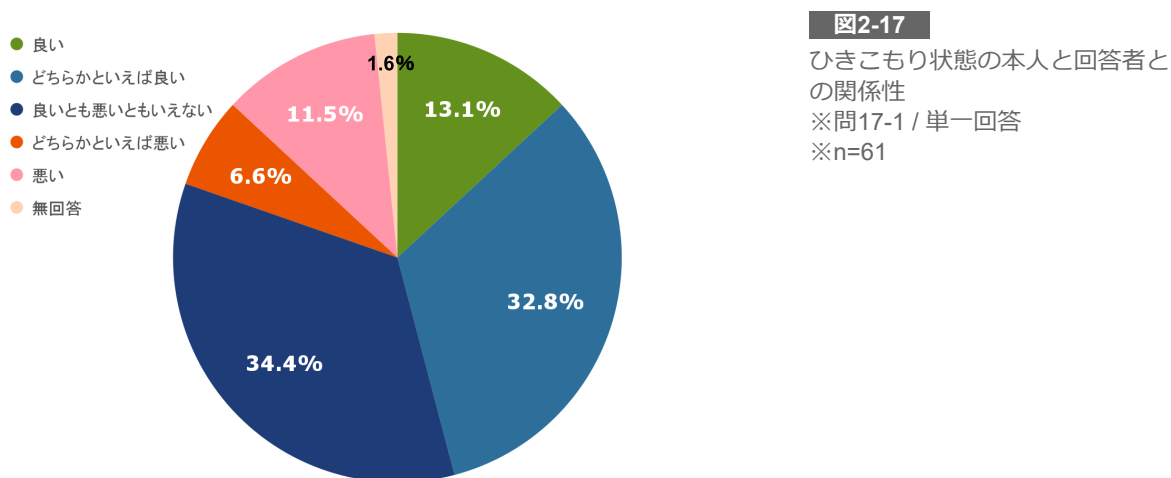
2-16 家庭の経済状態

「家庭の経済状態」では、「普通」が47.5%と最も多く、「苦しい」が26.2%、「ゆとりがある」が13.1%、「大変苦しい」が11.5%だった。「苦しい」と「大変苦しい」が合わせて4割近くにのぼっており、経済的な困難を抱える家庭が少なくない状況がうかがえる。なお「大変ゆとりがある」を選択した人はいなかった。



2-17 ひきこもり状態の本人と回答者との関係性

「ひきこもり状態の本人と回答者との関係性」では、「良いとも悪いともいえない」が34.4%と最も多かった。「どちらかといえば良い」が32.8%、「良い」が13.1%で、合わせると45.9%が本人との関係性は「良い」と回答している。一方、「悪い」は11.5%、「どちらかといえば悪い」は6.6%で、合わせると18.1%となった。家族調査の回答者に限れば、ひきこもり状態の本人と概ね良好か落ち着いた関係性にある結果だと言える。ただし、家族調査2-4では回答者の続柄として母親が6割超、父親が2割弱と比率に開きがあること、また当事者調査1-4によれば母親のほうが相対的に良好な関係性であったことは念頭に置く必要がある。



2-18 父親／母親の、配偶者／パートナーとの関係性

ひきこもり状態にある本人との続柄が「父親」または「母親」である回答者に聞いた「配偶者／パートナーとの関係性」では、「どちらかといえば良い」が32.7%と最も多く、「良い」が19.2%、「良いとも悪いともいえない」が17.3%となっている。「どちらかといえば良い」と「良い」を合わせると51.9%と半数を超えており、比較的良好な関係である様子がうかがえる。

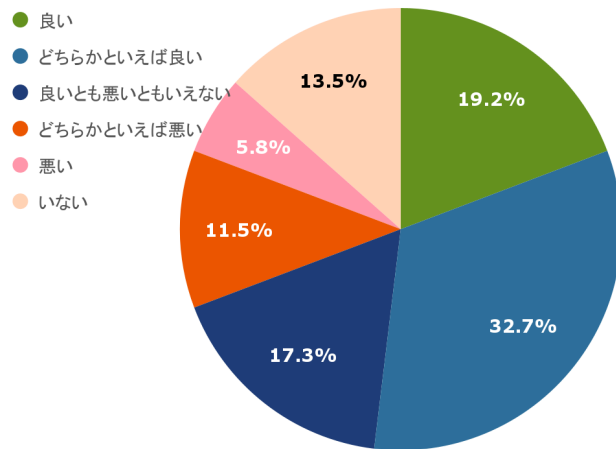


図2-18

父親／母親の、配偶者／パートナーとの関係性
※問17-2 / 単一回答
※n=52

2-19 回答者自身の悩みを相談できる人はいるか

「回答者自身の悩みを相談できる人」では、「配偶者／パートナー」が59.0%と最も多く、「同じ悩みを抱える人」「カウンセラー、精神科医」「相談員、支援員」がそれぞれ27.9%だった。以下「親（義父母含む）」が26.2%、「近隣に住んでいない友人・知人」が19.7%と続く。「相談できる人はいない」は14.8%で約7人に1人は相談できる人がおらず、家族も孤立してしまっているケースが一定数あるといえる。また、配偶者／パートナー以外の割合が総じて低く、もっぱら家庭内で抱え込んでしまっていることがうかがえる。

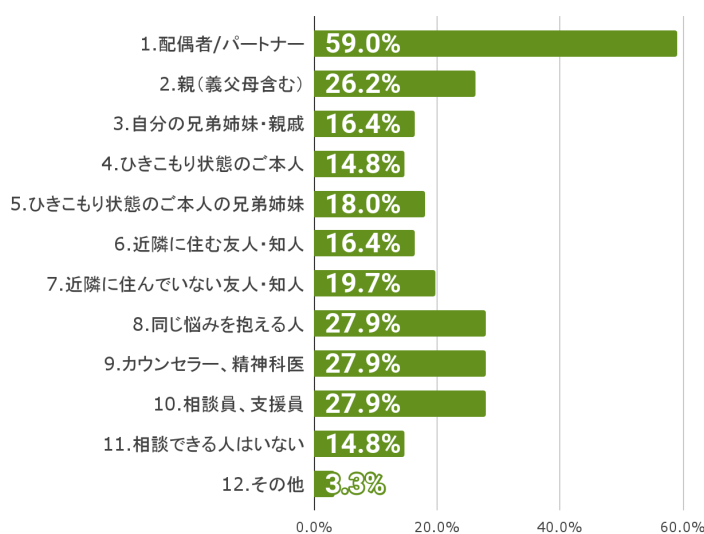


図2-19

回答者自身の悩みを相談できる人はいるか
※問18 / 複数回答
※n=61

2-20 ひきこもり支援機関・サービスの認知

「ひきこもり支援機関・サービスの認知」（各機関がひきこもり支援を行っていることを知っているか）では、「三重県ひきこもり地域支援センター」が67.2%と最も多く、次いで「家族会・当事者会」が60.7%、「社会福祉協議会」が52.5%だった。「市町ひきこもり相談窓口」「医療機関（精神科・クリニック）」がともに42.6%と続いている。「上記の機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった」は1.6%にとどまっており、ひきこもり支援の存在を知っているという人が多かった。しかし、最も認知度が高かった「三重県ひきこもり地域支援センター」についても3割強は知らないという結果であり、それぞれの機関でひきこもり支援を行っていることをさらに周知していく必要があると思われる。

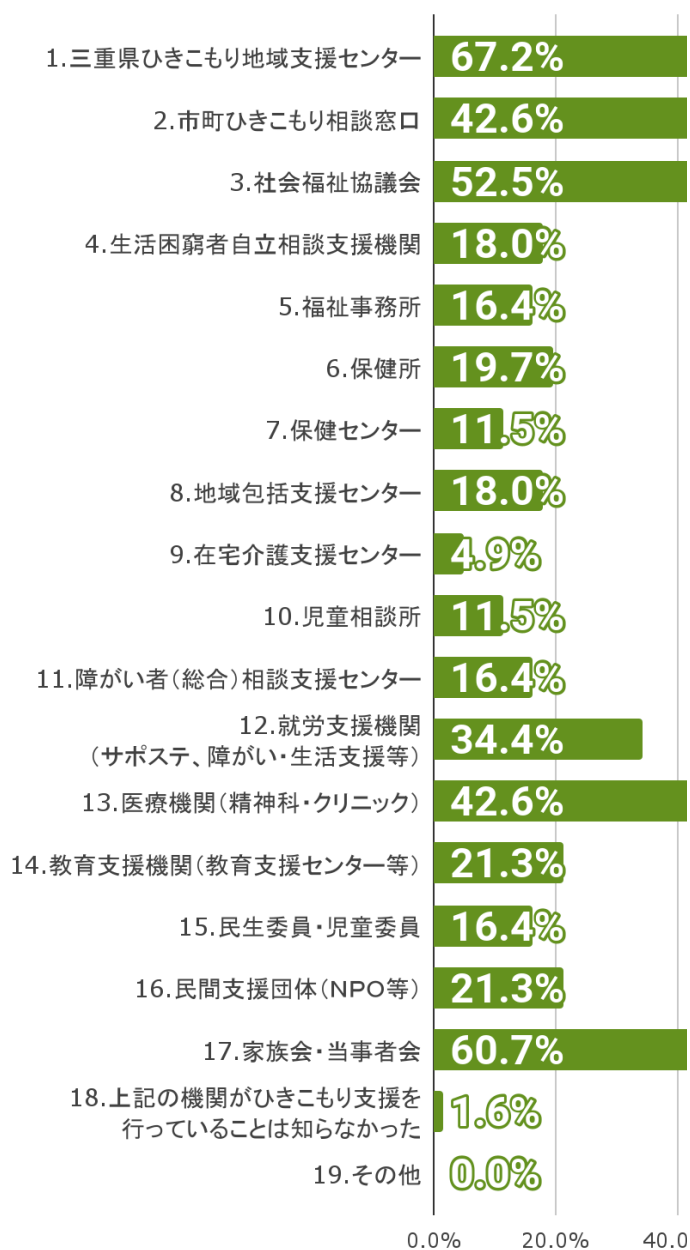


図2-20

ひきこもり支援機関・サービスの認知

※問19 / 複数回答

※n=61

2-21 ひきこもり支援機関・サービスを知ったきっかけ

「ひきこもり支援機関・サービスを知ったきっかけ」では、「自治体の広報紙や回覧板」が41.0%と最も多く、次いで「ひきこもりに関する講演会やイベント」が39.3%、「インターネット検索」が32.8%、「当事者会や家族会」が29.5%だった。地域の広報媒体、講演会や家族会等の集まりが情報源として大きなウエイトを占めている。

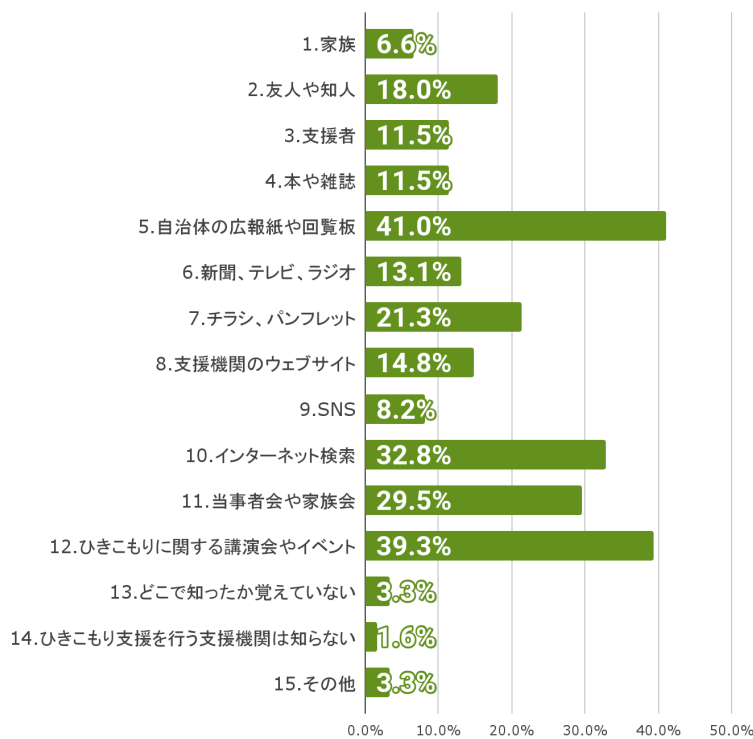


図2-21

ひきこもり支援機関・サービスを知ったきっかけ
※問20 / 複数回答
※n=61

2-22 回答者のひきこもりに関わる支援・サービスの利用経験

「回答者のひきこもりに関わる支援・サービスの利用経験」では、「現在利用している」が47.5%と最も多かった。一方、「今まで一度も利用したことはない」が37.7%、「過去に利用したことがあるが、現在は利用していない」が14.8%、合計52.5%と半数以上が現在ひきこもり支援・サービスを利用していない状況にある。

- 現在利用している
- 過去に利用したことがあるが、現在は利用していない
- 今まで一度も利用したことはない

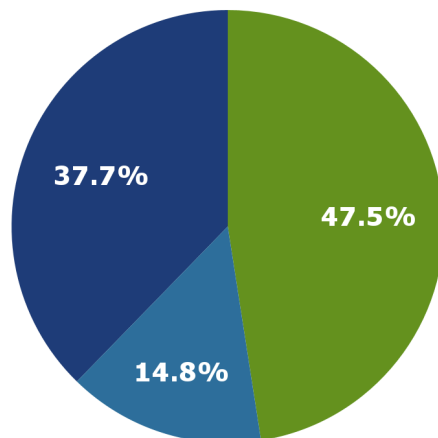


図2-22

回答者のひきこもりに関わる支援・サービスの利用経験
※問21 / 単一回答
※n=61

2-23 支援・サービスを利用しない理由

問21で「今まで一度も利用したことはない」と回答した人に、「支援・サービスを利用しない理由」を尋ねた結果をみると、「どこに相談してよいかわからないから」が47.8%と最も多く、「本人が支援を拒否しているから」が39.1%、「支援・サービスを利用する時間的余裕がないから」が26.1%だった。

2-20および次項2-24では主要なものだけで17の機関・サービスが挙げられており、また支援の存在自体は広く認識されていた。いっぽう2-14では4割近くが「本人にとっての適切な相談先や支援サービスが見つからない」と回答していることから、本問の「どこに相談していいのかわからない」には、情報のマッチングに課題があることが示唆されている。本人の支援への拒否や消極性もまた、好適な情報が届いていないことも一因になっていると推測される。



図2-23

支援・サービスを利用しない理由

※問22 / 複数回答

※n=23

2-24 回答者自身が利用したことがあるひきこもり支援・サービス

問21で「現在利用している」「過去に利用したことがあるが、現在は利用していない」と回答した人に、「利用したことがあるひきこもりに関わる支援・サービス」を尋ねたところ、「家族会・当事者会」が50.0%と最も多く、次いで「医療機関（精神科・クリニック）」が44.7%、「三重県ひきこもり地域支援センター」が36.8%、「社会福祉協議会」が34.2%だった。

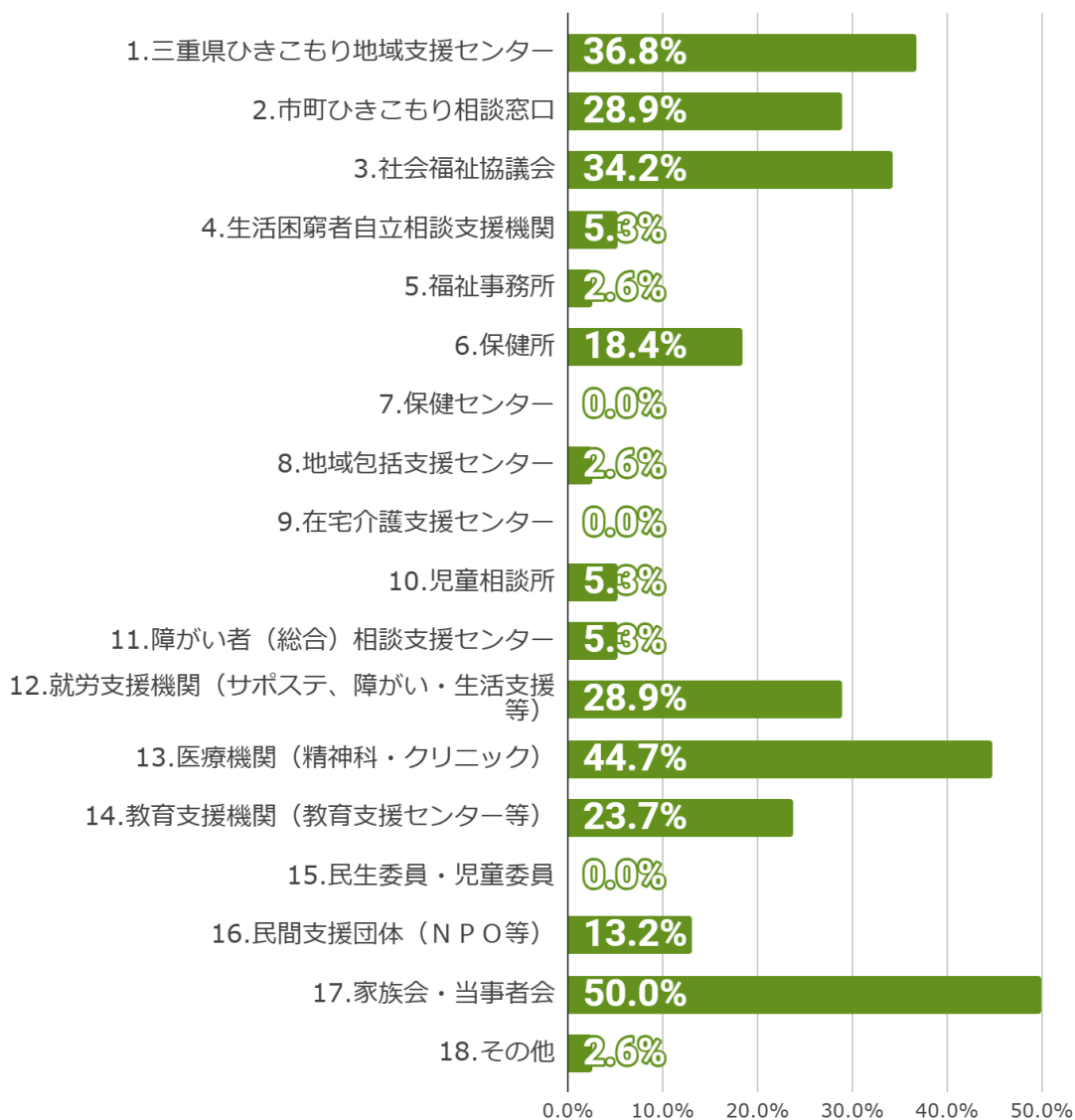


図2-24

回答者自身が利用したことがある
ひきこもり支援・サービス

※問23 / 複数回答

※n=38

2-25 回答者が支援を中断した理由

支援を中断した経験がある人に、「支援を中断した理由」を尋ねた結果をみると、「本人が直接支援を受けず、家族だけが利用しても状況が変わらないから」が41.2%と最も多く、「支援・サービスが期待していた内容ではなかったから」「本人の状況が改善したから」「担当者が変更になったから」がそれぞれ17.6%だった。本人が直接支援を受けなくても、家族へのアプローチにより状況を改善していく支援や、変化する未来がイメージしやすくモチベーションが維持できるロードマップが必要だと思われる。

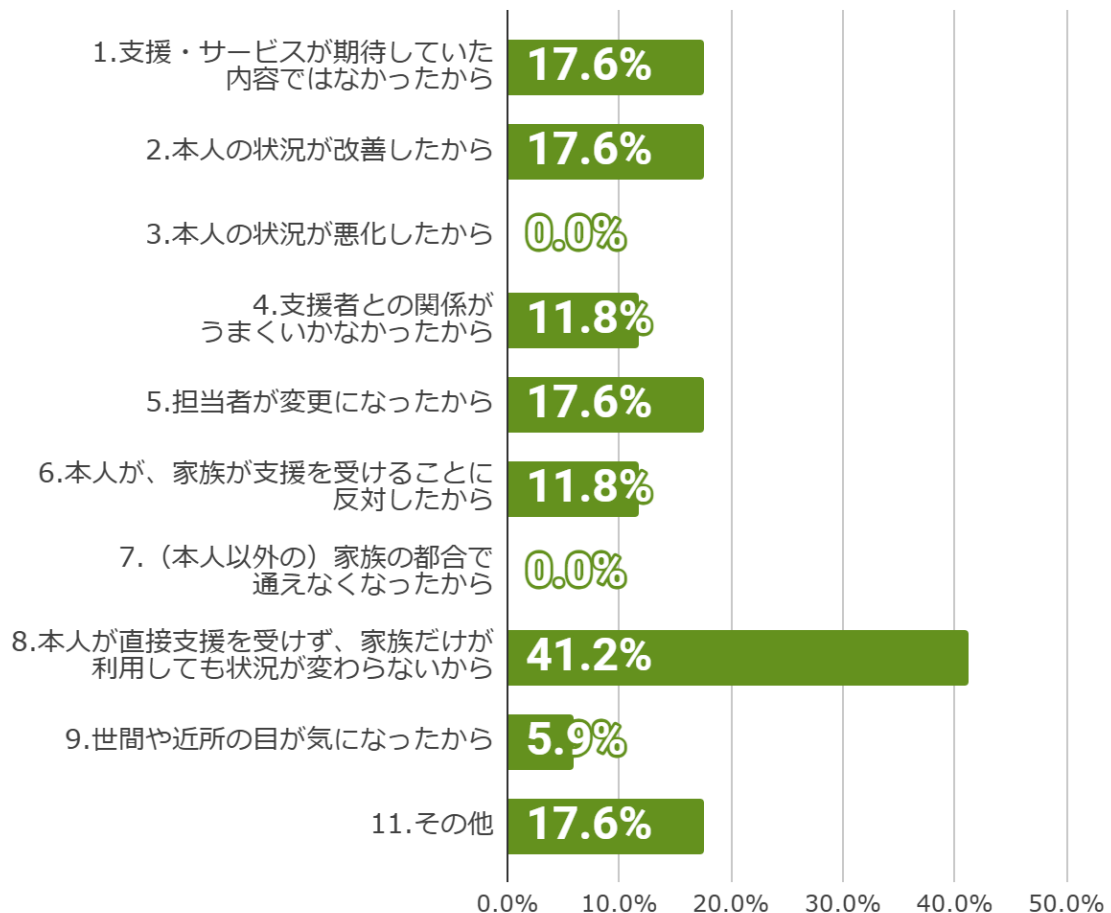


図2-25

回答者が支援を中断した理由

※問24 / 複数回答

※n=17

2-26 回答者自身が必要とする支援

「回答者自身が必要とする支援」については、「親亡き後に向けた相談」が55.7%と最も多く、「じっくり話を聴いてくれる相談」が50.8%、「ひきこもり状態にある本人のメンタルヘルスに関する相談」が49.2%だった。2-14同様、将来への不安に対する支援ニーズが最も高かった。また、過半数の家族に「じっくり話を聴いてほしい」というニーズがあった。

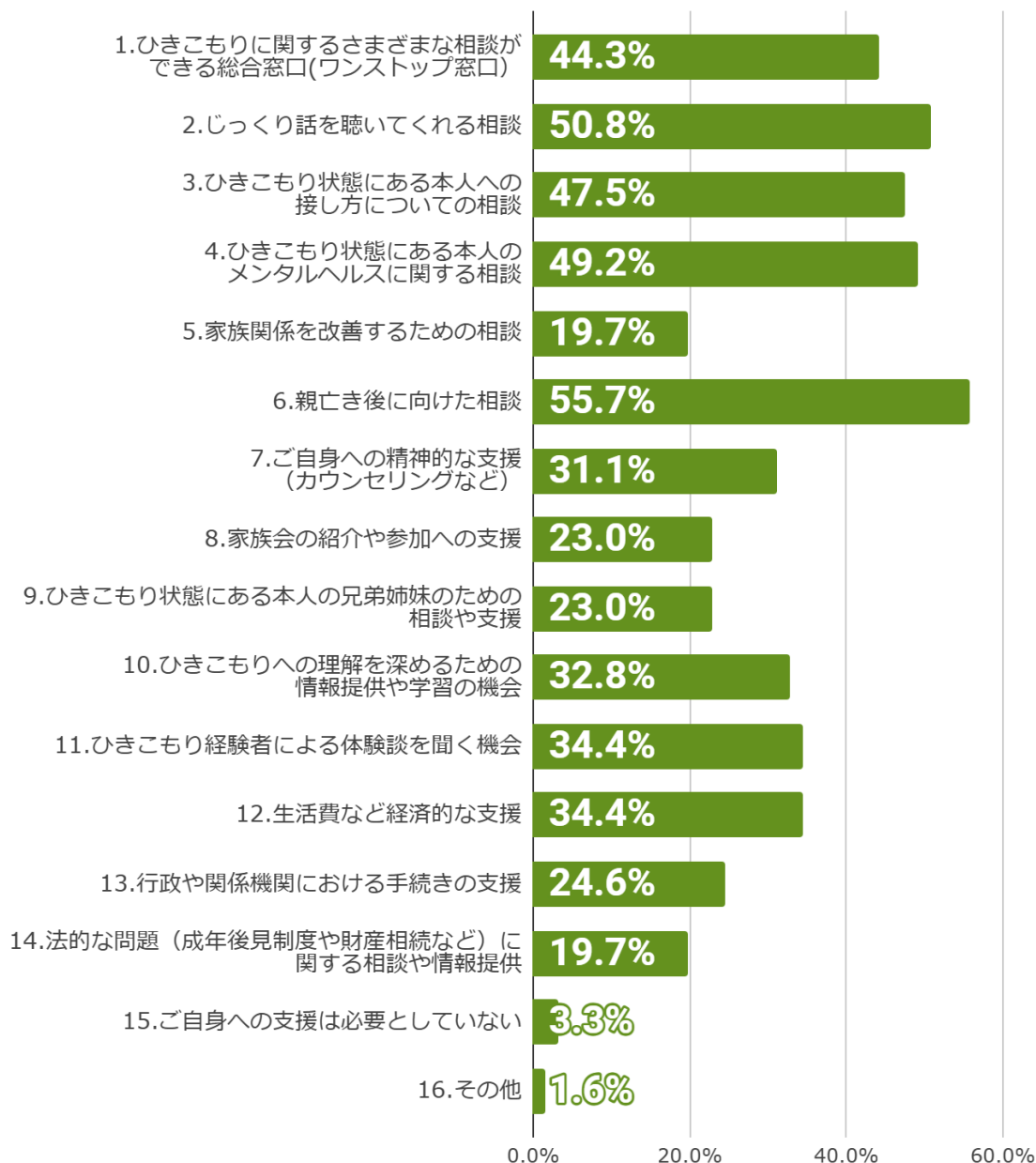


図2-26

回答者自身が必要とする支援

※問25 / 複数回答

※n=61

2-27 本人に受けてほしい支援

「本人に受けてほしい支援」では、「就労支援」が52.5%と最も多く、「精神科病院やメンタルクリニックなどの医療的支援」が50.8%、「興味・関心に合わせた社会参加の機会」が45.9%だった。「居場所・当事者会の紹介」が44.3%、「ピアサポーターによる相談や支援」が42.6%と続いている。「働けるようになってほしい」と願うとともに、本人のメンタルヘルスについて憂慮する様子がうかがえる。また、社会参加については本人の興味・関心に合わせた支援への期待が表明されている。

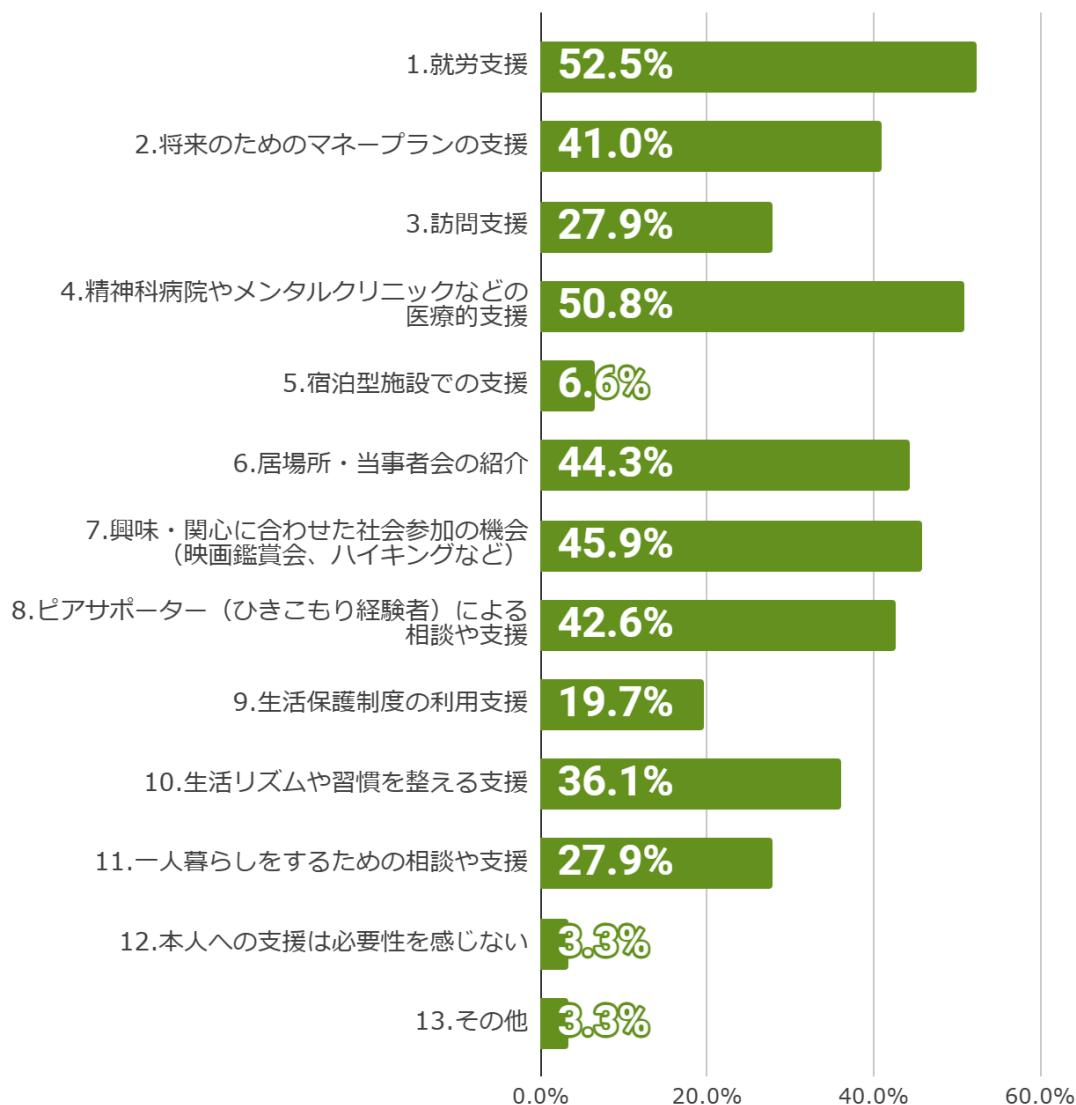


図2-27

本人に受けてほしい支援
※問26 / 複数回答
※n=61

自由記述

(困っていることや、ひきこもりに関わる支援・サービスに望むことなど)

※問27 / 長文自由記述

以下では、「困っていることや、ひきこもりに関わる支援・サービスに望むことなど」についての自由記述を紹介する。回答はすべてではなく一部を抜粋している。また誤字など明らかな誤りに限り一部修正し、原則原文ママで記載した。

行政機関（市町障がい福祉課、適応指導教室）が手厚い支援に消極的だったり、踏み込んだ支援をしてくれない（当初と同じ支援を延々と続ける）。おそらく市町が教育・福祉にかけられる資金的・時間的リソースが少なく、対象者を狭めたり、細かく配慮ができず流れ作業のように対応しなければならなくなっているように思う。（父親/40代）

本人が現在小3（小1から不登校・ひきこもり開始）になるが、市の適応指導教室の人数枠が小さいからか、希望しても利用することができない。小学生（特に低学年）では利用できないサービスが多く、結果としてひきこもり状態から抜け出す支援が受けられず、ひきこもり状態が継続・精神状態が悪化することにつながっているように思う。市町の教育・福祉にかけられるリソースが小さいからか、市障がい福祉課・適応指導教室が非積極的、踏み込む対応をしてくれない状況になっているように感じている。（父親/40代）

高齢化、持病で、生活費も不安、自分のことで精一杯、介護が必要になったらと思いたくない。本人がどう思っているかわからないことが一番困る。（父親/70代）

最近、引きこもりの当事者に対する支援は増えてありがたく思っています！ 20年近く子ども2人の不登校、引きこもりの体験をして思う事は、引きこもりは決して子どもだけの問題では無いと云う事です。私自身、子どもが不登校になってすぐは、これはいけなくなった息子の問題としか捉えられませんでした。子どもとの関係が良くなるきっかけは、親である自分自身の問題に気が付く事で、子どもの声にしっかり耳を傾けられる様になってからです。自分自身が変わる為に助けになったのは、親子共々信頼出来るカウンセラーさんに出会えた事と、親の会で知り合えた同じ悩みを持つ親御さんと互いに話を聞き、支えになってもらった事が大きかったと
↑

思います。今後、親の受け皿が出来る事を望みます。（母親/60代）

息子の引きこもりが長期化しており、これまでもいろいろな相談や支援にお世話になりました。本人に医療機関へ行く意思がないため困ってます（本人はもっと困っているはず）。今まで通り、家族会や社協さんにお世話になりながら気持ちのやり繰りをしていきたいと考えてます。（母親/60代）

引きこもりに関わる理解がもっと進めば、本人も家族も楽になると思います。また、障害者手帳がない、制度の狭間にいる当事者には、支援が届かない事が厳しいと思います。（母親/60代）

何処に相談すればよいかのかわかりにくいため、「ひきこもり相談窓口」のようなものがあると、まず初めに相談に行きやすいと思います。（母親/60代）

金銭面。地域でひきこもりを見守る。風邪や骨折のように 誰にでも「今 ひきこもっている」と言える世の中になって欲しいです。（母親/50代）

対面しなくても学習できる（オンラインなど）支援。（母親/30代）

地元どうわさになるので遠くへ相談に行くならいい。（母親/50代）

子どもが不登校になり、学校までの送迎をしているが、スクールバス区間で学校まで遠く、休みが増えて仕事を続けることにとっても大変さを感じる。きょうだいが大学生でお金がかかるので働かねばならず、精神的肉体的疲労が蓄積している。近隣の適応指導教室もなぜか午後から利用できず、午前中調子がわるい子が多い不登校支援の現場にそぐわないのではと思う。（母親/40代）

昔のような生きる為、食べる為、生活の為の理由では、死んでもいいと思ってる人には働く意欲にはなりません。なので、支援の根本がひきこもり本人の望みに一致していないことが、自室から出られない息子が支援を利用できていない理由になります。

支援でなくても、自分の話を聞いてほしいと思える相手がいらないのも支援を利用できない理由のひとつです。

まずは沢山の人に正しい理解と対応をしてもらえるよう、広報パンフレット、ポスター、ネットなどで正しい対応や理解がたくさんの人々の目に入るようになってほしい。

指導・支援ではなく、話をしたい人の話を聞くだけのおばあちゃんのような聞き方で、居場所に通う事で心身を整えて、自ら社会に出ようと思うまで待つ居場所があつて欲しい。就職支援のもっと手前、人と関わる事のまず第一歩からの支援がないと、就職意欲はまず出ないと思います。

9日間ご飯を食べなかった事がある子ですので、食事が無くても部屋から出ないと思っていて、時々訪問してくれる方がいたり、市町村にひきこもりの登録があるとありがたいと思います。(母親/40代)

家族会や公的支援、医療支援などに繋がりが持っていない、当事者間(本人や家族)だけで悩んでいる人が数多くいると思う。「ひきこもり」というマイナスイメージが社会的通念として根深いことで、オープンにしづらい空気を醸し出しているのでは? 大多数の悩んでいる当事者は、差別的で悲観的な苦しさを感ず、切り開いていくパワーは出しづらい。まず、個人が特定されないような小規模で傾聴的な場所や機会の提供があると良いと思う。その際には、経験者(本人や家族)に出会える場面があると共感や希望に繋がると思う。(母親/50代)

サービスがいろいろあっても本人にその気がないと繋がらない。ひきこもりが誰にでも起こりうることで、ひきこもりになったことで自信を失わないような、どこからでもやり直しがきく社会だとみんなが認識すること。(母親/50代)

ひきこもりの本人(兄)は母親と同居しており、慎ましやかながら、生活も心の面も安定した状態であることから、様子見状態ではあるものの、高齢の母亡きあとに、どこまで兄に寄り添っていけるか、本人が悲観せずに精神を保てるのか不安におもっている。(40代/兄弟姉妹)

親も高齢であり、この先、兄の面倒を見ることを考えると絶望しかありません。どうしたらいいのかわかりません。(兄弟姉妹/40代)

市によって支援の充実が違う。本人は病院にまったく行かないので、障害のサービスを利用する条件がクリアできない。(兄弟姉妹/30代)

第2節 ヒアリング調査の結果

「三重県ひきこもりに関する実態調査」では、アンケート調査とヒアリング調査を行った。本節では、家族へのヒアリング調査結果の要約を掲載する。

ヒアリング協力者の概要

アンケート調査回答協力者の中で、ヒアリング調査に協力するとの回答をいただいた方のうち、5名のご家族の方に対面でヒアリングを実施した（下表参照）。発言中の支援に関する言及を中心に要約し、本稿では協力者の了承を得たものを掲載している。

No.	表示名	年代	性別	実施日
1	Gさん	50代	女性	2024年9月16日
2	Hさん	70代	男性	2024年9月4日
3	Iさん	70代	男性	2024年9月4日
4	Jさん	60代	女性	2024年9月16日
5	Kさん	60代	女性	2024年9月3日

※年代は2024年9月時点のもの

主なヒアリング項目

主に以下の内容を中心にヒアリングを実施した。

1. 現在、ご自身はどのような生活を送っているか
2. これまで利用したことがある支援やサービスについて
3. 支援にどのようにつながったか
4. 利用したことがある支援やサービスの、良かった点や改善してほしい点
5. ご自身が抱えている悩みや葛藤について
6. ひきこもっているご本人に望むこと

Gさん 50代女性

息子が小学4年生の時に、いじめがきっかけで不登校になった。小学校では先生が放課後に個別指導をしてくれ、中学校では空き教室や保健室登校をした。高校は全日制に入学したが通えず通信制に転校した。いずれも学年が変わると教室に登校できるが、しばらくすると教室に入れなくなる。

東京の専門学校に進学したが途中で行けなくなり、発達障害者支援センターを見つけ、通うようになった。そこでの臨床心理士によるカウンセリングには通えた。自分の気持ちを表現できるようになり、少しずつ変化が見られた。地元に戻り若者サポートステーションを利用した際、臨床心理士の勧めで受診、検査し、自閉スペクトラム症と診断を受けた。社会福祉協議会の紹介で内職を始めたが手が荒れるようで2ヶ月で終わった。現在は社会福祉協議会の支援を受けており、ケースワーカーが直接息子と話をしている。B型作業所の利用も検討しているようだ。

家族会に参加しているが、息子には言えないでいる。「ひきこもり家族会」という名称を息子が聞いたら、自分のせいで母親がそのような会に参加しなければならないと負い目を感じるのではないかと心配している。

教員への研修では、不登校やいじめについての理解を深めてほしい。特に、いじめた側の子どもへの教育やフォローを重視してほしい。いじめられた子だけが苦しむ現状に疑問を感じている。また、少人数学級（1クラス20人程度）の実現、教員やスクールカウンセラー、補助員の増員を望んでいる。子ども数が減少しているのに対し、教育環境が改善されていないことに不満を感じている。少子化対策というなら、現在いる子どもたちへのケアも重要だと考えている。

息子のような特性を持つ人には、理解してくれる人が2、3人いればやっていけると思う。見えない障害への理解が不足していると感じる。息子には色覚障害や喘息などさまざまな症状があり、それを理解するのに親である自分も時間がかかった。親への教育やカウンセリングの必要性を感じている。発達障害を認め、自分のせいではないと理解するまでに時間がかかり、周囲からの無理解にも苦しんだ。そのため、発達障害についての理解を広めたいと思い、親戚にも話すようにした。家族会にも発達障害の子を持つ親が多くいる。

最近夫婦で楽しむ時間を持つようになり、息子の状況も周囲に隠さず伝えることで理解を得られるようになった。子どもの将来を見極めつつ、息子自身も年金受給で落ち着きを取り戻し、親が自分の人生を楽しむことを認めてくれるようになった。これにより、子どもへのストレスも軽減され、より良い関係が築けるようになってきている。

Hさん 70代男性

妻と子3人の5人家族（子の1人は自立し4人暮らし）。きょうだいの真ん中の31歳の息子（Aとする）が高校1年生からひきこもり状態。

父親である自分は平成28年に末梢神経の疾患（指定難病）と診断された。症状が出てから診断名がつくまで10年くらいかかった。現在は整形外科でリハビリをしている。

Aのことを市役所や県に何回か相談し、クリニックにも行ったことがあるが、どこでも「本人を連れてこないと相談できない」と言われた。支援をしている人たちは「本人が来ないとどうしようもない」と言わないでほしい。

Aは高校卒業後にひきこもりや不登校の方を対象にした塾に通っていた時期がある。そこでは楽しそうに過ごしていたが、途中で行かなくなり辞めてしまった。その後本人が行きたがったコンピュータの専門学校にも通わせたが挫折し、全部で10年くらい授業料に給料をつぎ込んだ。最後は退職金も授業料に使ったので生活が危なくなり、見通しが立たなくなってしまった。

今の生活費はほぼ自分の年金。病気も進行しており、先を考えるとAのことどころではなくなってきた。

今の状況を話せる人はいない。傍から見ると、自分の病気についてどうしても理解ができないのだろうと思う。大学時代からの50年来の友人でも「ふーん」と言って分かってもらえない。病気自体はゆっくりと進行している。

Aが不登校になって数年経った頃から妻とは会話もなく家庭内離婚に近い。家族間の関係性に関してもう諦めており何も期待していない。こういう状態はAにも悪いと思ったが疲れたという次元を通り越している。夜中に目が開いた時に子どものことを思うと、本当に一日中寝れない。考えないようにしないと自分がひっくり返ってしまう。

自分自身、突然死ぬことが希望。突然、寝ているうちに目が覚めないのが一番。生きていることの楽しさみたいなものがまったく無い。もともとお酒を飲むのが好きで友人と飲みに行っていたが、最近は足に痛みがあったり、お店で座っていても動けないので苦痛。飲食費もかさむので行けない。

Aに対しては、自分が死んだらどうなるのだろうという心配しかない。経済的な見通しが立つのであれば、このままひきこもった状態でも構わない。だから年に何回か宝くじを買う。たとえば1億円が当たれば、別に何をしてももらっても良いと思っている。

自宅の相続も悩みの種で、今の状況をわかっている長男は「いらない」と言っており、ひきこもっているAに贈与を考えているが、自分で手続きができないのではないかと心配している。名義を変えても相続税や光熱費を子どもが払えないのではないかとということもある。公証役場で相談して、遺言書を書く寸前まで行って、思案して数年経つ。

1さん 70代男性

市報や新聞くらいしかひきこもりに関する情報に接する機会がない。「就職氷河期」や「ひきこもり」というキーワードで探している。もっと機会があれば講演会などにも参加したいし、知りたい。

現在ひきこもりの息子は、普通に勤めていたがある日の昼間に唐突に帰宅してきた。翌日か、3日も過ぎればまた行くと思ったが、そのまま5年になる。何があったのか今でも聞いていないし、聞けない。息子とはまったく会話がない。妻経由でしかコミュニケーションをとらない。一緒に食事をとることもない。そういうのができれば、もうちょっと糸口があるんだろうとは思ふ。

息子に対しては、普通に戻ってほしいという気持ちがある。会社に復帰するとか、結婚するとか。自分自身の生活を考えると、今は収入もあるのになんとかかなっているが、あと5、6年後は自信がない。ある日突然病気になるかもしれない。今現在、収入があるといっても目減りはしている。やっぱり早く安定したい。今の時代で安定するという表現自体おかしいが、世間一般でいう安定に持っていききたい。

相談窓口や医療機関には全くつながったことがなく、こうやって（内情を）話すのは今回のヒアリングが初めてのこと。市報に載っている、就職氷河期に関する案内を切り抜いて取っておいたりしている。以前県の福祉部の電話番号を教えてもらったことがあるが、連絡したことはない。息子は良くも悪くもならず現状維持なので、そこまでの切羽詰まった感覚がない。相談しても、たぶん明確な改善策がないだろう。しかし、長期的に考えた場合に、単に歳を取って、これがあと何年続くだろう。一番良いのは、息子から「明日から仕事に行くわ」と言われること。それを期待している。

三重県や支援に望むことは、講習会の開催。あとはそういう情報の案内。広報誌に載せて、ひきこもりに関する機会を設けてほしい。どう対応したら良いかとか、こういう場合がありますよとか、直接事例を聞きたいと思う。綺麗事のようなスライドを流すのではなく、具体的な健康保険や年金に関することも知りたい。メリット、デメリットなど。そういうことを知る機会があるといいと思う。

自分が仕事を辞めないのは、生活を継続したいから。息子のことも含めて悩むと、夜中寝られない。本当にこちらがもたない。だからあえて現状を維持している。自分が悩んでしまったら自分も息子もお互いにポツンとなる。現状の生活が保てなくなる。そうすると自分が老け込んで、「8050」になったら何もできなくなる。

せまい地元の民生委員とか自治会の人にはあまり話したくない。民生委員は立派な人たちだとは思ふが、「あそこの家の息子は病気で...どうのこうの」みたいなことを近所で言われたくない。本音で言えばほっといてくれと思う。

Jさん 60代女性

娘が小学6年生の後半から不登校。中学は3週間だけ通った後にふたたび不登校に。全日制の高校に入学したが1週間ほど行った後、不登校。1年後に通信制に再入学し4年かけて卒業した。その後好きな分野の専門学校に9ヶ月通うが行けなくなり、以来家に留まっている。

自分は適応指導教室で話を聴いてもらったり、市役所のひきこもり相談窓口や家族会などにも行き、家族会には10年ほど参加を続けているが、本人はこれまでどこにも繋がっていない。

適応指導教室の先生は月に一度程度訪問をしてくれていた時期があり、本人は中学の担任には絶対に会わなかったがその先生とは会うことができ、高校への進学にも繋がった。その後、障害者相談支援センターでも訪問をしてくれていた時期があったが、ある時を境に一切訪問を受け付けなくなった。

本人は自分の部屋にすることが多いが、夕飯の買い物に行ったり家族の分の夕飯の用意をしてくれている。絵の教室に通い、そこの先生からの勧めで展覧会に出品するなど、絵を描いていた時期もあるが、現在はテレビを見たりパソコンのゲームをして過ごしているようだ。今は全緘黙で両親や兄弟姉妹との会話はなく、もともと友達が少ない子で現在も交友関係は全くない。

自分自身は現在特に悩みや心配はなく、習い事や趣味などすごく自由にさせてもらっている。「私は私の人生、娘は娘の人生」だと思っている。本人については、今後の金銭的な面が心配。病院にも行っていないので障害年金も受けられない。

15分とか30分だけ仕事のお手伝いができるような支援があるといい。地元でも社協が開拓をしていて少し実現しつつあり、ケーキ屋さんや、ゲームをする空間があるカフェなどがある。娘は喋れないだけで、できることはいっぱいあると思う。それが発揮できるような場があれば良いと思っている。

自分はピアサポーターの講習を受けたが、現在全く活用できていないので、ピアサポーターなどをもっと活用したり、県や市町でもピアサポーターを養成するようなこともしてほしい。

自分自身は娘のひきこもりに対して抵抗がなく、職場や地域でもオープンにしているが、親御さんの中には「絶対に言えない、民生委員にも言わない」という人がいる。地域の人たちにひきこもりへの理解をしていただけるような啓発を、もっと広くしてほしい。ひきこもりの子たちが胸を張って生きていけるような社会になればいい。「ひきこもり」のイメージを変えるような何かを、自分もできたらいいと思っている。

Kさん 60代女性

(子どもが) ひきこもった時に、どうにかしないとと思った。長くなればなるほど難しくなるのは何となく想像できたので、支援につながった。

自分の住んでいる地域からも参加してよいと書いてあったので、最初は和歌山県庁の中で行う家族の会のようなところに行った。その後、和歌山の別の施設を検討しようと思ひ話を聞いたが、県外だから利用できないと言われた。

子どもは私が支援機関に通っていることを知らない。利用している支援機関の担当者には「(お子さんと) 面会できますよ」と言われたが、そのためには自分が支援機関に行っていることを子どもに話してと言われた。その勇気が出ない。

支援機関に通って「『良かったことはある』と思おう」としている。何も繋がりが無くなること、途切れることが不安。

今は、支援機関で自分が喋って終わることが続いているので、夫は「何の意味があるの?」と言い出している。かつては一緒に行っていたが、夫は近頃は足が遠のいている。自分は(子どもが) 絶対、元に戻ると信じている。でも夫はもう、あまり思っていないかも知れない。

(住んでいる地域の) 役場の中にも窓口はある。でも、担当者が息子の同級生のお母さんだったりする。だからあまり喋りたくない。相談にのってもらうことに抵抗感がある。

窓口が住んでいる地域から離れている方が気持ちが楽は楽。やっぱり田舎には独特なものがある。「家族同士の集まりで話を聞いてもらったら気が楽になるよ」と参加されてる方に勧められたが、共感し合ったり、つらいよねと言ひ合うんだったら、何か息子のためにできることを探す方が良いのかなと思ってしまう。初めの頃は誰かに話を聞いてほしかったりもしたけれど、今はそういうふうになっている。

たとえば「(息子に対して) これをして良いかな、どうだろう」と迷ったときに、二の足を踏んでしまう。「子どもに暴れられたら怖い」と頭によぎるので、なかなか行動に移せない。けれど、何もしなければ前に進めないという部分もあるので、相談員の方には「一回やってみたらどうですか」とか、「それはきっと大丈夫ですよ」と背中を押してもらったり、間違っていたとしてもアドバイスが欲しい。しかし断定的、主観的なアドバイスを望んでも、(相談員の職業倫理上) ダメなのだろうと思って、結局聞いてもらうだけで終わってしまう。

昔はとてもよく笑う子だった。2人でいつも笑っている親子だった。それで良い。私は子どもと話ができるようになるのがゴール。夫は「早く仕事に就かないと」みたいなことばかり思っているが、話ができるようになったら、そんなことはいくらでもできると思う。

第3章

支援機関調査の結果

第1節 アンケート調査の結果

第2節 ヒアリング調査の結果

第3章 支援機関調査の結果

本章では、ひきこりに関わる支援機関を対象とした調査の結果を紹介する。

第1節 アンケート調査結果

3-1 支援機関の種別

今回の調査に回答が寄せられた支援機関の種別では、地域包括支援センターが32件（20.6%）、次いで社会福祉協議会が17件（11.0%）、教育支援機関が16件（10.3%）、市町ひきこもり相談窓口と在宅介護支援センターがそれぞれ14件（9.0%）となっている。今回は1機関につき1名が代表して回答*しており、市町に施設や窓口のある高齢者支援や地域福祉、教育関連の機関が多くなった。

*回答者の所属機関の公式見解や総意を表すものではない

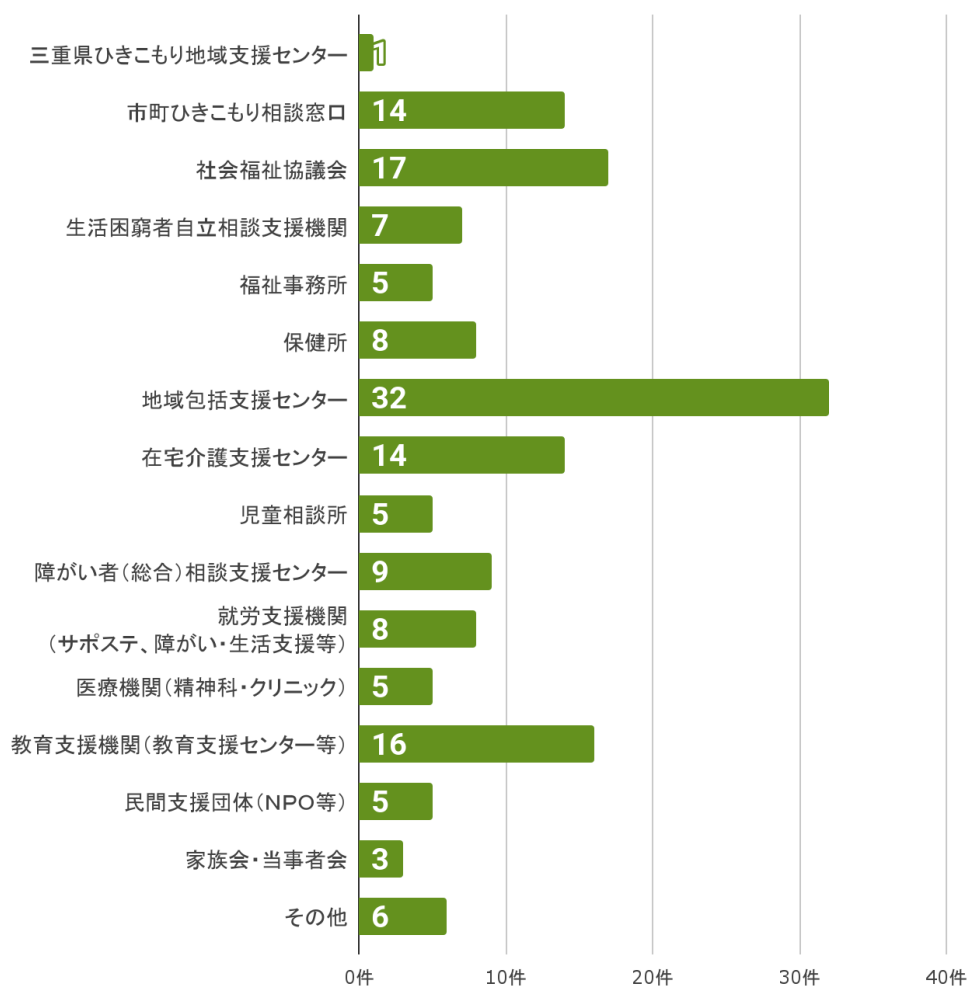


図3-1

支援機関の種別
※問1 / 単一回答
※n=155

3-2 所在地

回答機関の所在地では、津市が26件（16.8%）と最も多く、次いで四日市市が19件（12.3%）、鈴鹿市が13件（8.4%）、伊勢市と伊賀市がそれぞれ9件（5.8%）だった。比較的人口規模が大きい地域からの回答率が高かったが、県内29市町のうち27市町から広く回答があった。

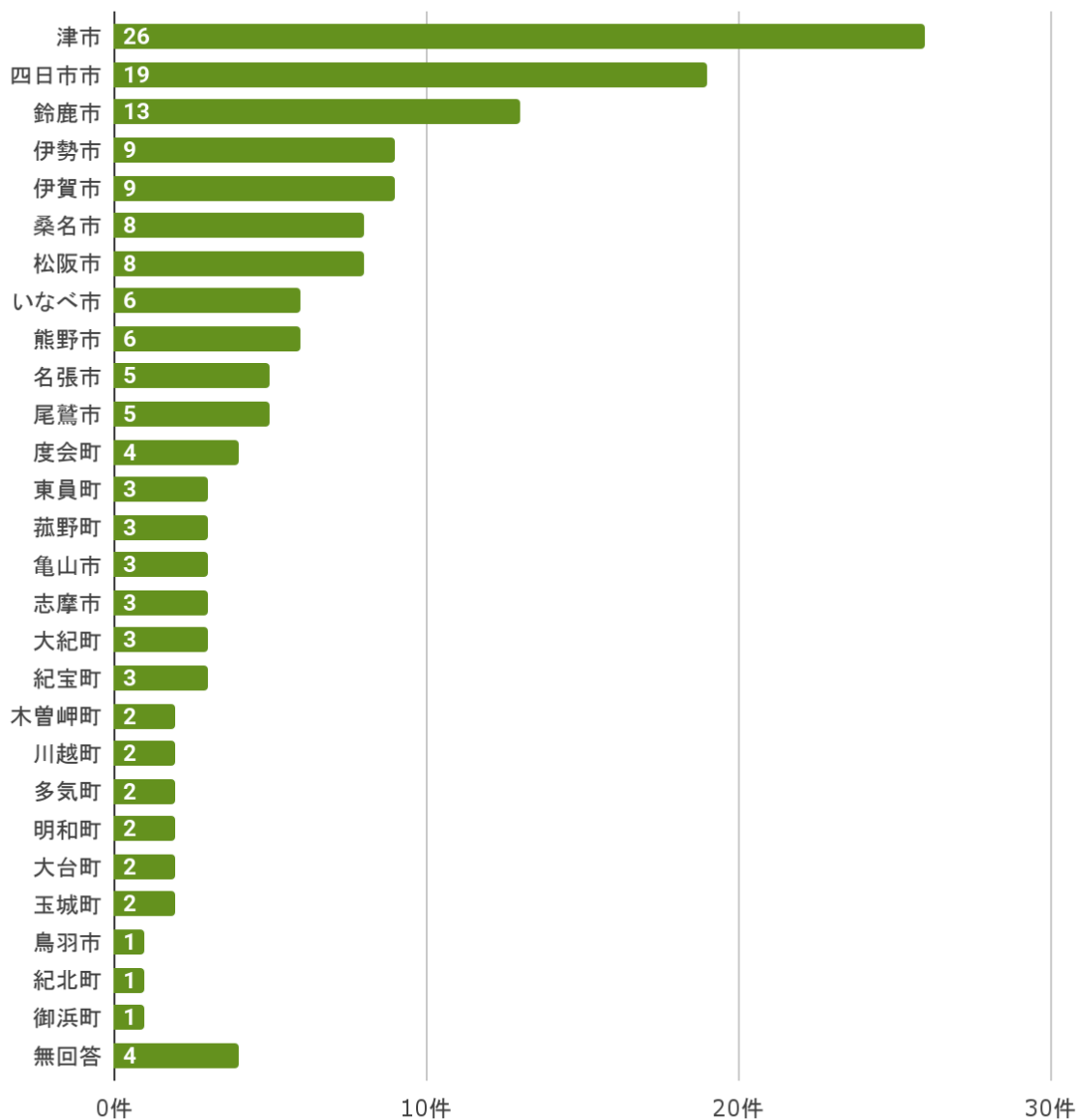


図3-2

所在地
※問2 / 単一回答
※n=155

3-3 ひきこもり支援を始めてどれくらいか

「ひきこもりに関わる支援・サービスや取り組み（以下「支援・サービス」）を始めてどれくらいの期間が経過しているか」では、「10年以上」が31.6%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が16.8%、「1年以上3年未満」が13.5%となっており、参画期間には長短ばらつきが見られる。一方で「現在支援は行っておらず、今後も予定していない」が16.1%、「現在支援は行っていないが、今後予定している」が7.7%と、現状ではひきこもり支援を実施していない機関が合わせて4分の1近くとなっている。

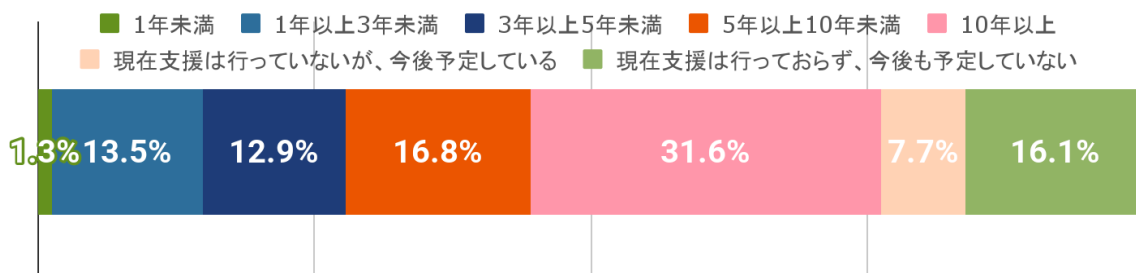


図3-3

ひきこもり支援を始めてどれくらいか

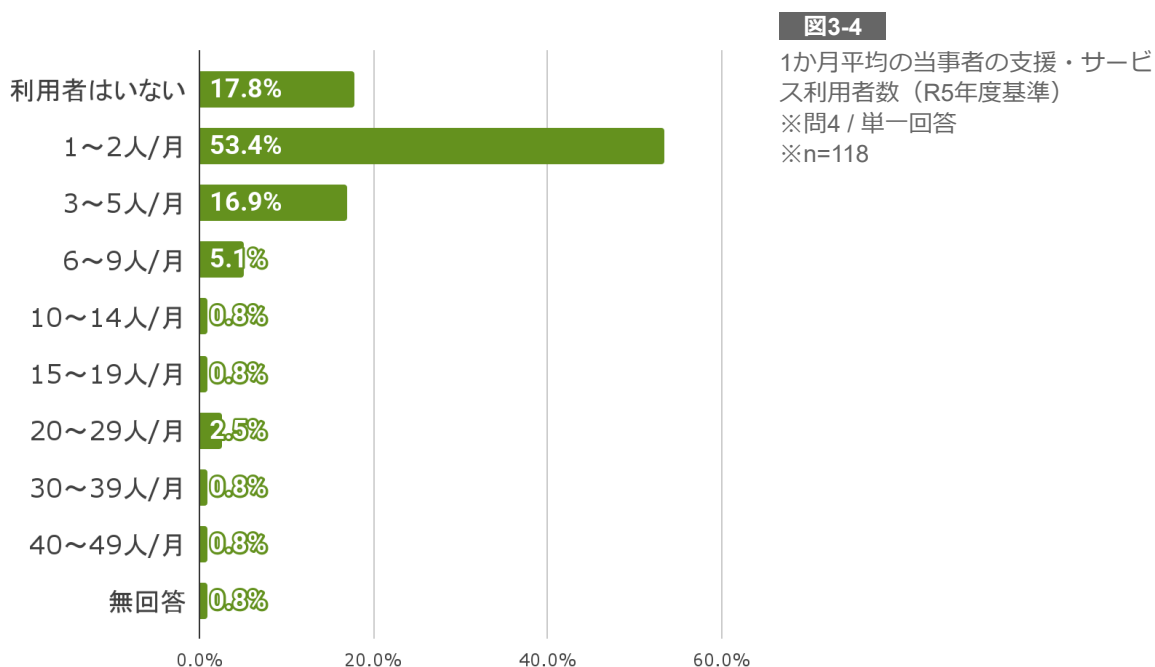
※問3 / 単一回答

※n=155

3-4 1か月平均の当事者の支援・サービス利用者数（R5年度基準）

「1か月平均の当事者の支援・サービス利用者数（実人数・R5年度基準、相談・訪問・居場所等すべて含める）」では、「1～2人/月」が53.4%と最も多く、次いで「利用者はいない」が17.8%、「3～5人/月」が16.9%となっている。利用者が月に0～2人の機関が合わせて全体の7割超、0～5人/月では9割近くを占め、全体的に少人数に留まっている。10人/月～49人/月の機関を合わせると5.9%で、利用者数は機関によって隔たりがある。なお「50人以上/月」と回答した機関はなかった。

※上記問3において、現在ひきこもりに関わる支援・サービスに参画している機関への設問。以下問17（3-17）まで同様。



3-5 1か月平均の家族の支援・サービス利用者数（R5年度基準）

「1か月平均の家族の支援・サービス利用件数（1家族を1件とカウント・R5年度基準、相談・訪問・居場所等すべて含める）」では、「1～2件/月」が56.8%と最も多く、次いで「3～5件/月」が19.5%、「利用者はいない」が11.9%となっている。月の利用件数が0～2件の機関を合わせると7割弱、0～5件/月では9割近くを占め、当事者と同様に家族の支援・サービス利用についても、少数の対応にとどまっている。なお15件/月～69件/月と回答した機関を合わせると5.1%で、当事者の利用者数と同様に、機関によって開きが大きくなっている。70件以上/月の機関はなかった。

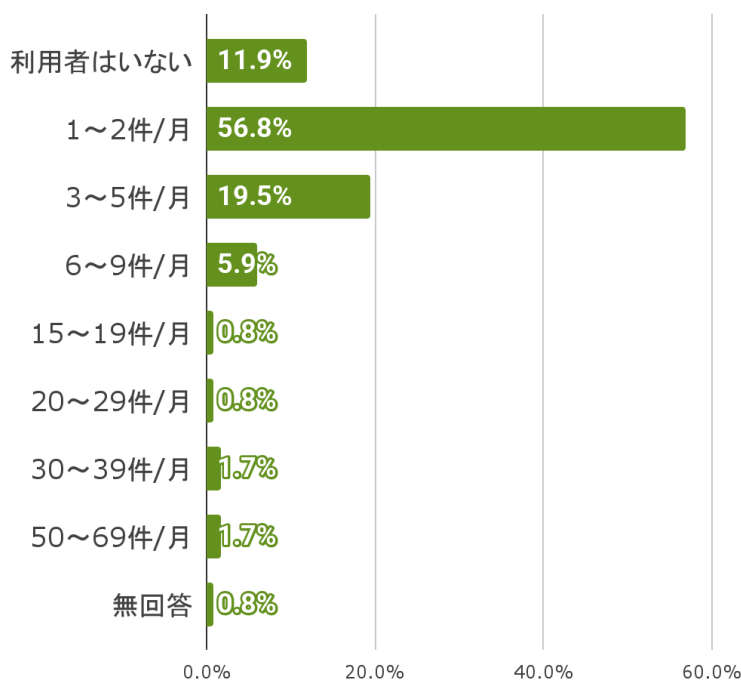


図3-5

1か月平均の家族の支援・サービス
利用件数（R5年度基準）
※問5 / 単一回答
※n=118

3-6 現在も継続的に関わっている当事者の割合（R5年度新規利用者）

「令和5年度の新規利用者のうち、現在も継続的に関わっている当事者の割合」では、「約1割が継続している」が26.8%と最も多く、次いで「約7割以上が継続している」が25.8%、「継続している利用者はいない」が17.5%となっている。回答機関によって継続率に大きな開きが見られる。

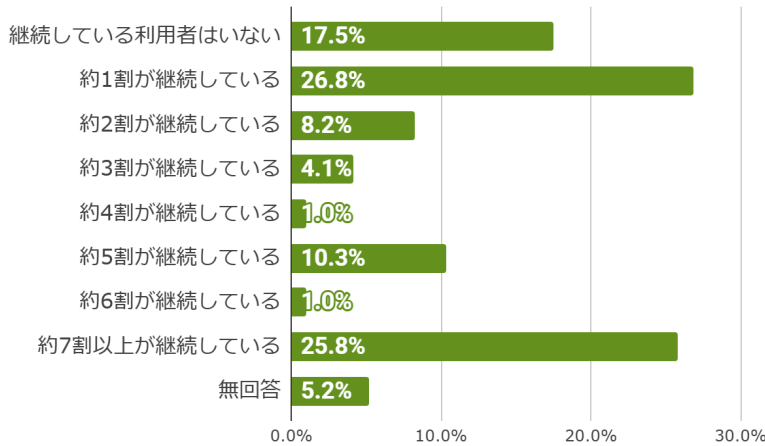


図3-6

現在も継続的に関わっている当事者の割合（R5年度新規利用者）
 ※問6 / 単一回答
 ※n=97（問4で「利用者はいない」と回答した機関を除く）

3-7 現在も継続的に関わっている家族の割合（R5年度新規利用者）

「令和5年度の新規利用者のうち、現在も継続的に関わっている家族の割合」では、「約7割以上が継続している」が26.9%と最も多く、次いで「約1割が継続している」が25.0%、「継続している利用者はいない」が19.2%となっている。当事者の利用者と同様、機関による継続率の差が顕著である。

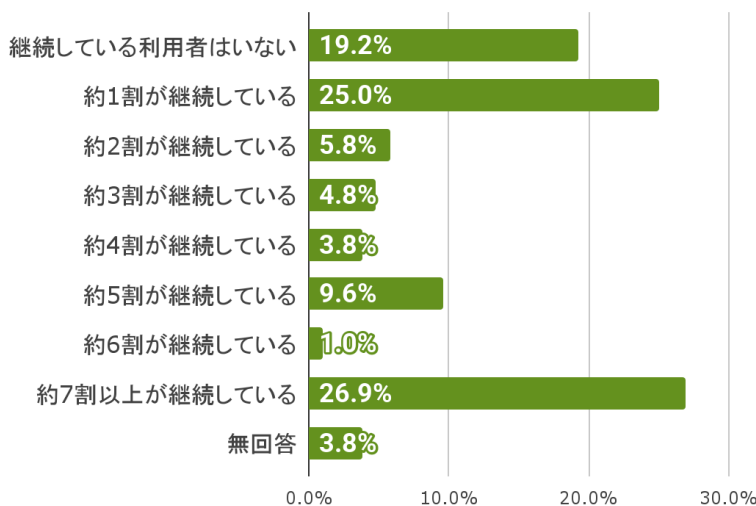


図3-7

現在も継続的に関わっている家族の割合（R5年度新規利用者）
 ※問7 / 単一回答
 ※n=104（問5で「利用者はいない」と回答した機関を除く）

3-8 利用者数の増減（R4年度とR5年度比較）

「利用者数の増減（R4年度とR5年度比較）」では、「変わらない（横ばい）」が65.3%と最も多く、次いで「増えた」が29.7%、「減った」が3.4%となっている。回答機関の多くで利用者数は横ばいまたは増加傾向にある。

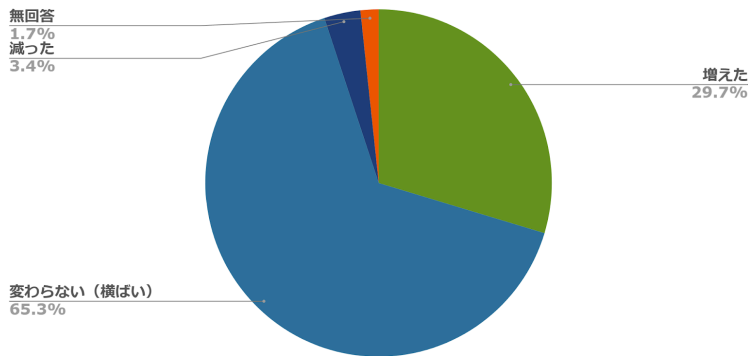


図3-8

利用者数の増減（R4年度とR5年度比較）
※問8 / 単一回答
※n=118

3-9 提供している支援・サービス形態

「提供している支援・サービス形態」では、「対面による相談（来所）」が85.6%と最も多く、次いで「電話による相談」が83.1%、「自宅などへの訪問（アウトリーチ）」が81.4%、「他の機関との連携、連絡調整」が66.9%となっている。回答機関の多くが複数の相談形態を提供しており、また横断的に連携を取りながら取り組んでいる。

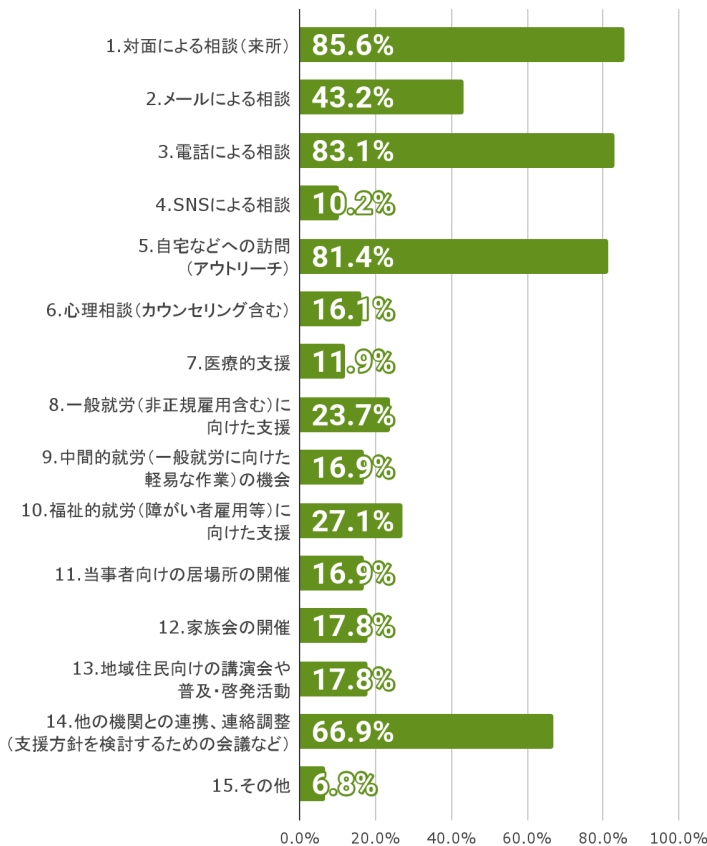


図3-9

提供している支援・サービス形態
※問9 / 複数回答
※n=118

3-10 特に必要性が高いと感じる支援・サービス

「特に必要性が高いと感じる支援・サービス」では、「自宅などへの訪問（アウトリーチ）」が71.2%と最も多く、次いで「対面による相談（来所）」が60.2%、「他の機関との連携、連絡調整」が55.9%となっている。「必要性の高さ」という観点では、3-9の実施率とは異なり訪問支援（アウトリーチ型支援）が来所相談を上回った。

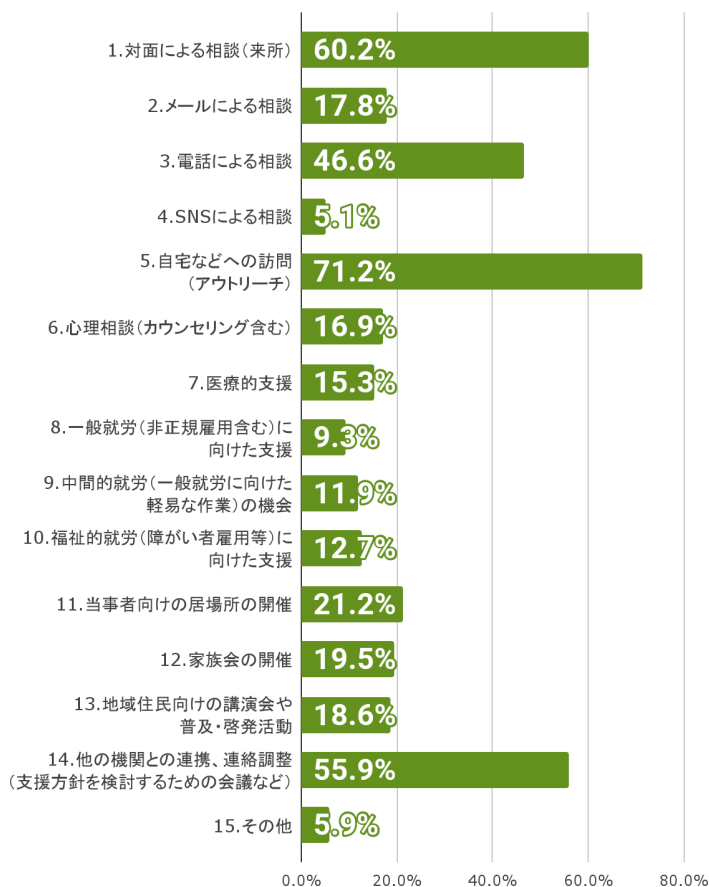


図3-10

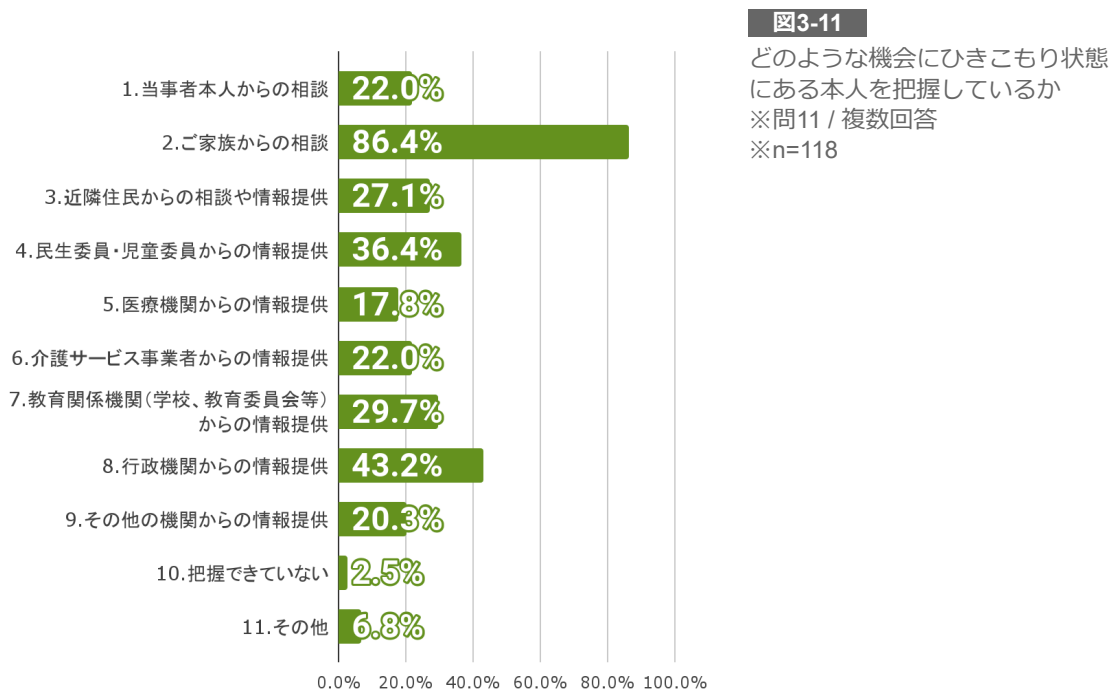
特に必要性が高いと感じる支援・サービス

※問10 / 複数回答

※n=118

3-11 どのような機会にひきこもり状態にある本人を把握しているか

「どのような機会にひきこもり状態にある本人を把握しているか」では、「ご家族からの相談」が86.4%と最も多く、次いで「行政機関からの情報提供」が43.2%、「民生委員・児童委員からの情報提供」が36.4%だった。「当事者本人からの相談」は22.0%にとどまっている。



3-12 どのような働きかけが、本人の回復（リハビリ）の助けになるか

「どのような働きかけが、本人の回復（リハビリ）の助けになるか」という設問では「時間をかけて関わり続けることによる信頼関係の構築」が84.7%と最も多く、次いで「本人の話をじっくり聞き、その感情や経験を理解しようと努めること」が72.0%、「家族の理解と協力を得ること」が67.8%だった。回答機関の多くが本人との信頼関係の構築とともに、家族との協力関係も重要視している状況がうかがえる。

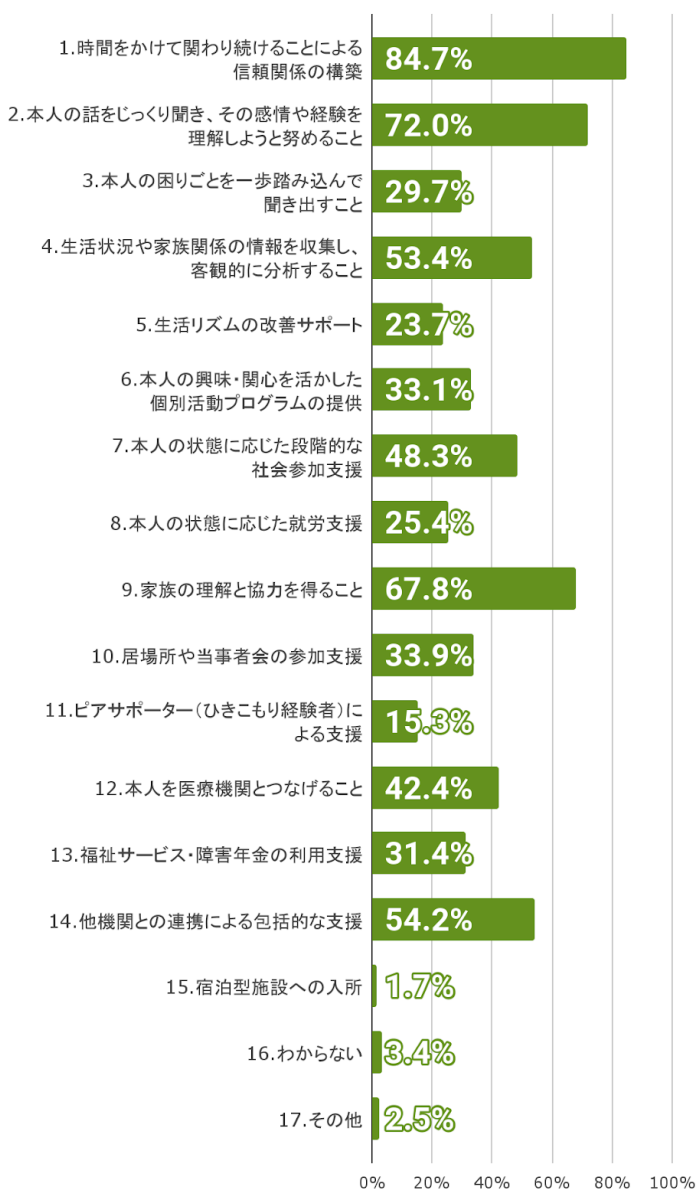


図3-12

どのような働きかけが、本人の回復（リハビリ）の助けになるか
 ※問12 / 複数回答
 ※n=118

3-13 支援・サービスを行う上での課題

「支援・サービスを行う上で特に課題として感じているもの」では、「ひきこもり支援のための職員不足」「地域にひきこもりに関わる社会資源がない」がともに46.6%と最も多く、次いで「ひきこもりに対する地域や社会の無理解」が36.4%、「支援者向けの研修機会の不足」が33.9%となっている。人材と社会資源の不足、地域の理解が課題として認識されている。

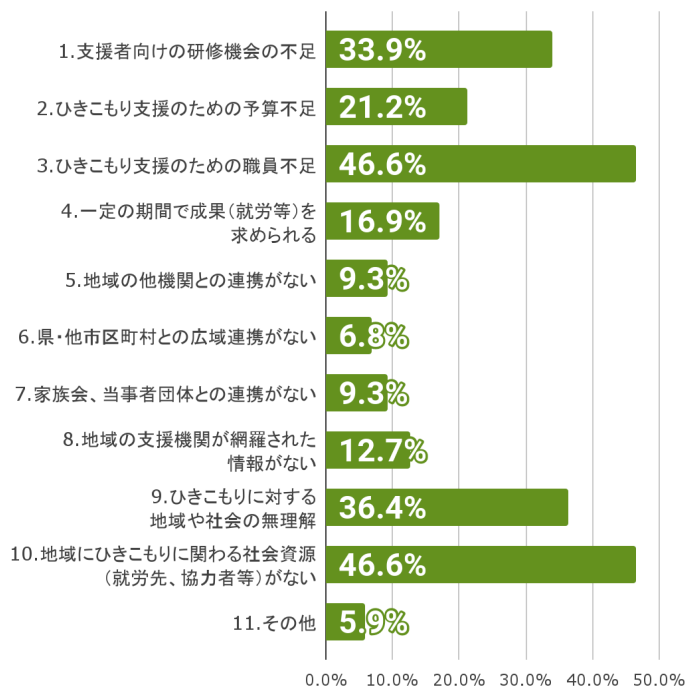


図3-13

支援・サービスを行う上での課題

※問13 / 複数回答

※n=118

3-14 若年層（概ね39歳以下）への支援・サービスを行う上で感じている課題

「若年層（概ね39歳以下）への支援・サービスを行う上で感じている課題」では、「家族は支援につながっているが、本人につなげることができない」が58.5%と最も多く、次いで「ひきこもりについての知識やノウハウが足りない」が48.3%、「学齢期（高校生相当まで）を過ぎると支援が途絶えてしまう」が42.4%となっている。本人との接点確保の難しさに加え、学齢期の教育支援機関から成人後の福祉機関への支援の移行に課題がある状況がうかがえる。

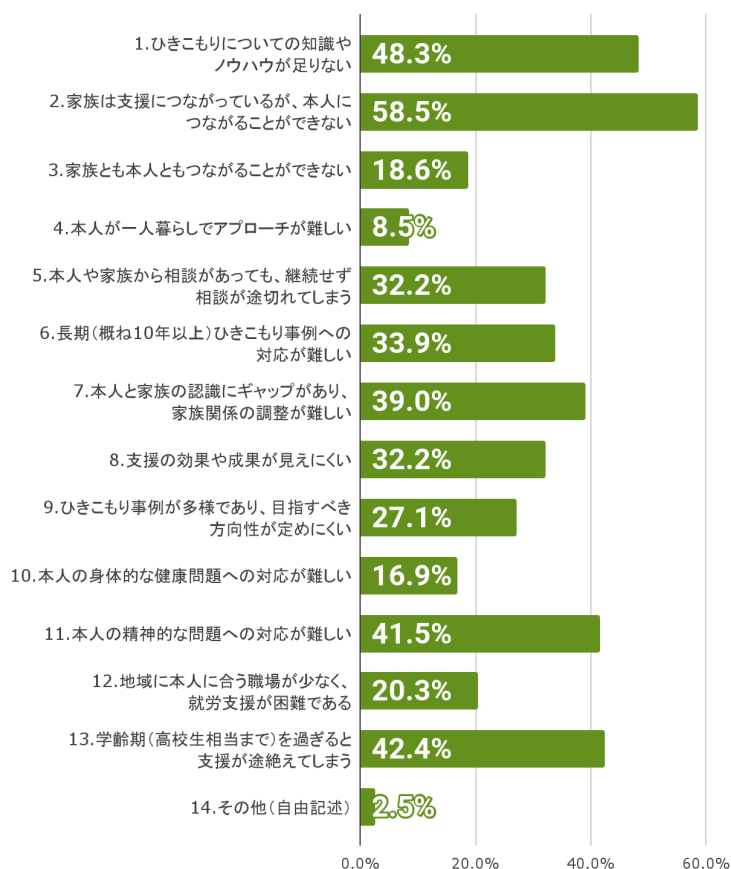


図3-14

若年層（概ね39歳以下）への支援・サービスを行う上で感じている課題

※問14 / 複数回答

※n=118

3-15 中高年層（概ね40歳以上）への支援・サービスを行う上で感じている課題

「中高年層（概ね40歳以上）への支援・サービスを行う上で感じている課題」では、「家族は支援につながっているが、本人につながるできない」が54.2%と最も多く、次いで「長期ひきこもり事例への対応が難しい」が47.5%、「ひきこもりについての知識やノウハウが足りない」が41.5%となっている。本人との接点づくりや支援ノウハウの不足に加え、若年層に比べて長期化したケースへの対応に課題を感じている回答機関が多い。

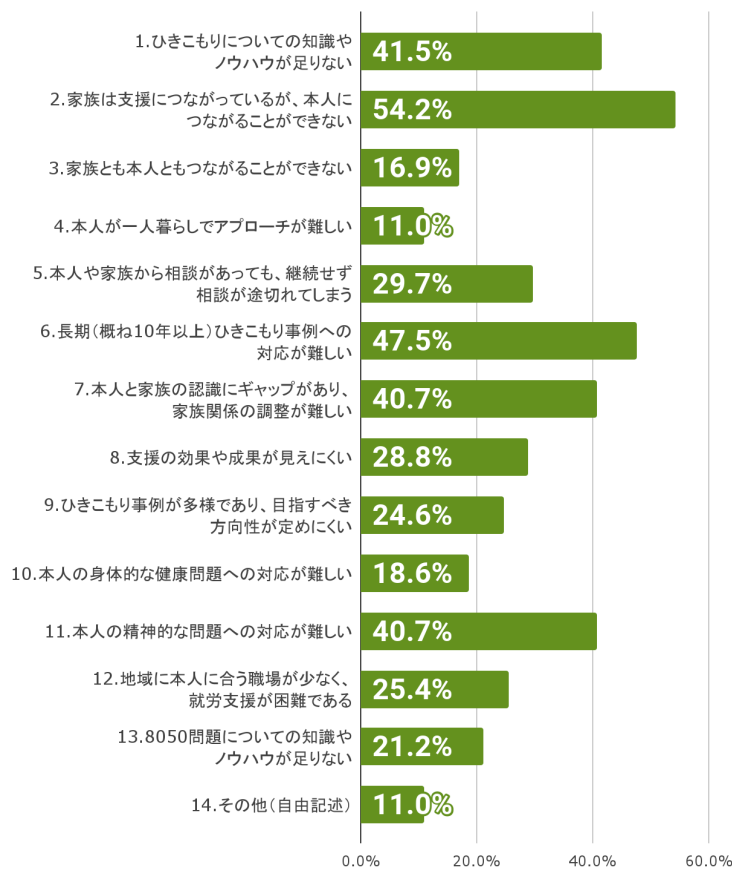


図3-15

中高年層（概ね40歳以上）への支援・サービスを行う上で感じている課題

※問15 / 複数回答

※n=118

3-16 支援・サービスにおいて注力していること

「支援・サービスにおいて注力していること」では、「他機関と連携し、複合的な課題に取り組んでいる」が66.1%と最も多く、次いで「個人のニーズに合わせた支援・サービスを提供している」が45.8%、「訪問支援（アウトリーチ）を積極的に行っている」が40.7%となっている。「できるだけ担当者が変わらないようにしている」が25.4%あり、継続的な支援を重視している支援機関が4分の1あることにも注目したい。

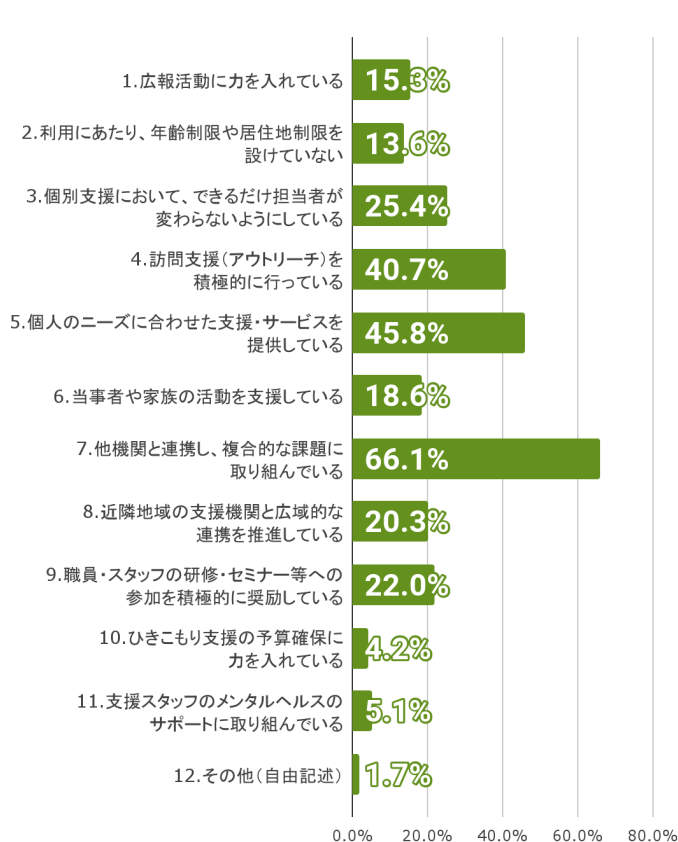


図3-16

支援・サービスにおいて注力していること

※問16 / 複数回答

※n=118

3-17 連携している関係機関

「支援・サービスにおいて連携している関係機関」では、「社会福祉協議会」が60.2%と最も多く、次いで「生活困窮者自立相談支援機関」「地域包括支援センター」がともに50.8%、「障がい者（総合）相談支援センター」が48.3%となっている。「連携している機関はない」は0.8%で、ほとんどの機関が他機関と連携して支援・サービスに取り組んでいることがわかる。

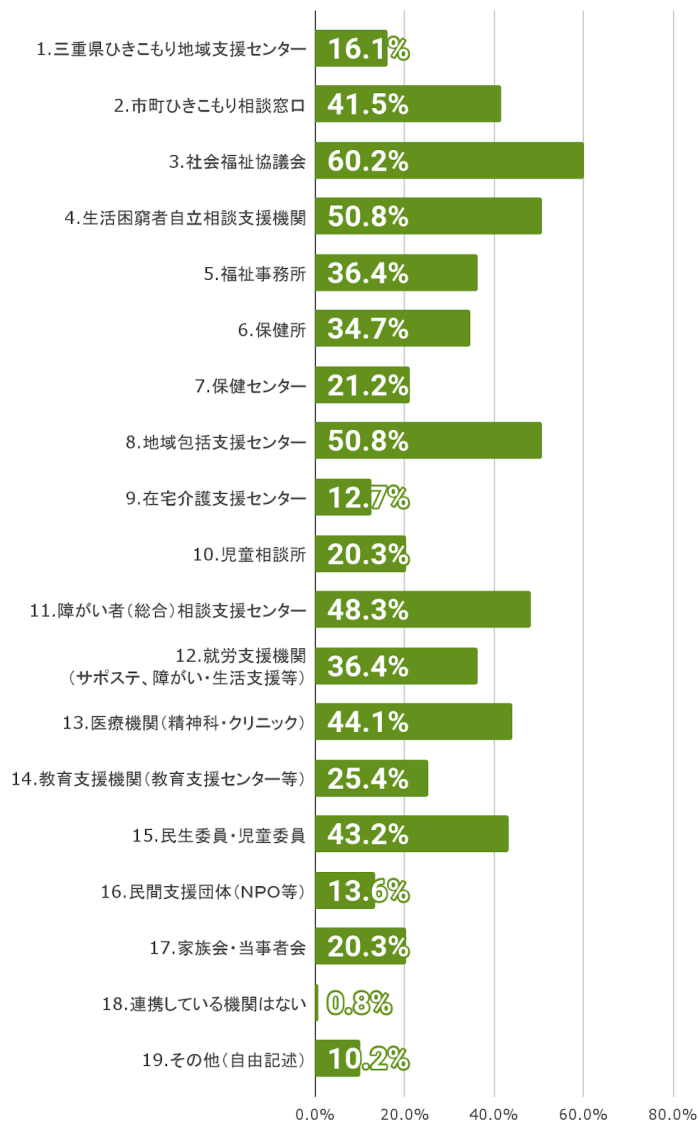


図3-17

連携している関係機関

※問17 / 複数回答

※n=118

3-18 職員・スタッフが理解を深めた方が良いと思うこと

「職員・スタッフが特に理解を深めた方が良いと思うこと」では、「支援の具体的なノウハウ」が70.0%と最も多く、次いで「当事者の心理の理解」が63.8%、「長期・高齢ひきこもりケースへの対応方法」が58.5%となっている。回答機関の多くが、よりニーズに合わせた支援を行うための、実践的な知識の習得、当事者心理の理解向上の必要性を感じている。また他機関との連携についても52.3%と関心が高いことがうかがえる。



図3-18

職員・スタッフが特に理解を深めた方が良いと思うこと

※問18 / 複数回答

※n=130 (現在支援を行っている、または現在支援は行っていないが、今後予定していると回答した機関のみ回答)

3-19 支援・サービスを行う上での職員・スタッフの知識や理解度

「支援・サービスを行う上で貴機関の職員・スタッフの知識、理解度に関する全体的な傾向」では、「ひきこもりの現状や背景」については「ある程度理解している」が67.7%、「十分理解している」は10.0%だった。「当事者の心理」では「ある程度理解している」が66.2%、「十分理解している」が5.4%だった。「支援の具体的なノウハウ」では「ある程度理解している」が50.0%、「十分理解している」が4.6%だった。「関係機関との連携の進め方」では「ある程度理解している」が65.4%、「十分理解している」が5.4%だった。回答機関の職員・スタッフの多くがひきこもりやその支援に対して一定の理解があるという現状認識ではあるものの、支援ノウハウについては半数近くの機関が理解不足に課題を感じている。また「十分理解している」が4項目いずれも1割以下に留まっており、ひきこもり支援に関するプロフェッショナルな人材の確保や育成の途上にある状況がうかがえる。

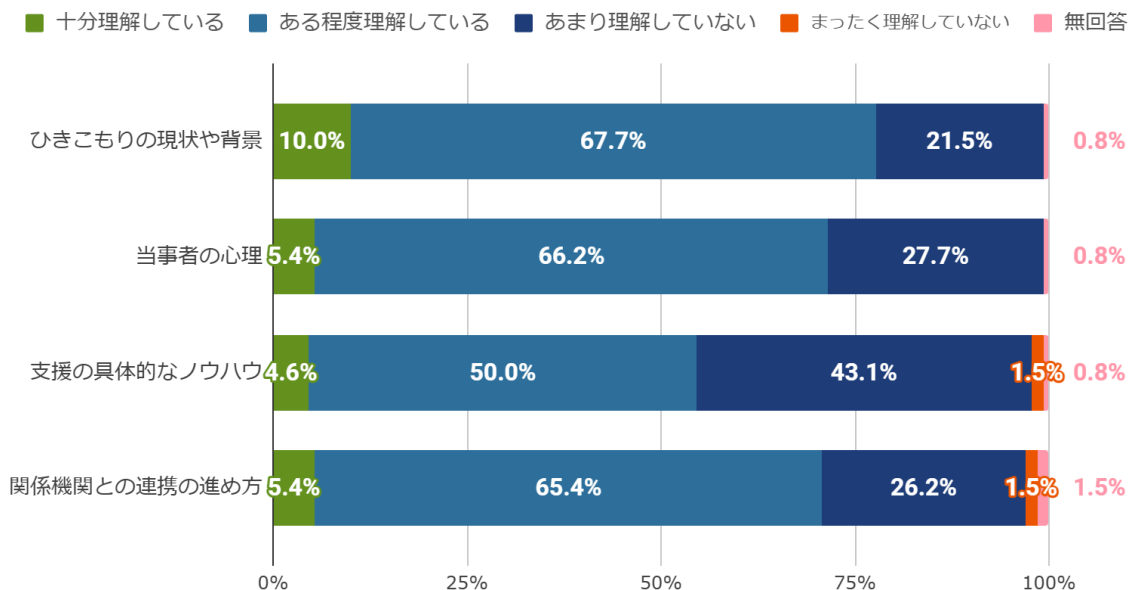


図3-19

支援・サービスを行う上での職員・スタッフの知識、理解度
 ※問19 / 単一回答
 ※n=130 (現在支援を行っている、または現在支援は行っていないが、今後予定していると回答した機関のみ回答)

自由記述

(ひきこもりに関わる支援・サービスについて、課題や日頃感じていること、県への要望)
※問20 / 長文自由記述

以下では、「ひきこもりに関わる支援・サービスについての課題や日頃感じていること、三重県への要望」についての自由記述を紹介する。回答はすべてではなく一部を抜粋している。また誤字を中心に表現など明らかな誤りに限り一部修正し、原則原文ママで記載した。また必要に応じて「*」印を付し編集による注釈や補足を追記している。

すぐに結果が出ないことが多い中でも、行政機関としては年間の実績報告など数字での評価が多い。数字で見えない部分の評価は難しいかもしれないが、取り組み含めて適正な評価をして頂きたい。(障がい者(総合)相談支援センター)

当事者との信頼関係を築くには時間が必要だが、組織上、職員の異動が必須であり、そのことでこれまでのつながりが途絶えてしまう場合がある。(社会福祉協議会)

家族からのひきこもり相談がほとんどで、その相談者から当事者とつながることが出来るのはほんの一握りの現状です。この現状を変えていくためには、家族支援に力を入れていく必要があるのだと感じています。家族が当事者にできるコミュニケーション方法や日頃の関わり方等の勉強会を三重県と協力して開催していきたいです。(市町ひきこもり相談窓口)

ひきこもり支援の仕組みづくりのノウハウを学びたい(市町ひきこもり相談窓口)

ひきこもりには充電期、安定期、活動期の段階があるが、就労支援機関としては安定期から活動期の関わりが多い。就労がゴールのように思われがちだが、その人がその人らしく生活できることがゴールであると思う。就労をゴールと捉え、第一段階として福祉サービスにつなげるという支援が多いが、もっと本人のテリトリーを尊重した居場所と、そこでの収入がプラスされると第1歩につながると感じる。充電期の支援においては家族が負い目を感じてしまったりたらい回しにされ、諦めてしまったケースが多い。支援やアドバイスよりも、まず家族の想いをひたすら聴くことが必要。聴くというスキルは簡単そうで難しい。ご本人、ご家族が話したいタイミングで話したい内容を話したい場所で話せることが大切ではないか。(就労支援機関)

過疎地域で社会資源も乏しいため、中学卒業後の支援が途切れてしまう。支援においても、専門的な内容になるので、ひきこもり支援センターは広域で実施ができないかと思えます。人口が少ない地域では、さらにニーズが少ないため、市町でなかなか取り組みが進まないように思います。市町では財源の問題もあるので、県がリードして進めてもらえば、市町もついてくるのではないのでしょうか？(生活困窮者自立相談支援機関)

家族がひきこもりの問題を解決したいと思っ
ていても、本人が支援を望まない場合のア
プローチ方法について知りたい。(市町ひき
こもり相談窓口)

小さな自治体だと、支援する側も支援される側も顔見知りであることが多く、知られたくないと感じていると、支援要請の声をあげにくい、と聞きました。支援する側が地道に何度も何度も顔を出し足を運ぶことが必要なかもしれません。信頼関係を築く上で、かつてよりもおそらくハードルが高くなっているのだと思います。けれどもこのままでは、次々にひきこもる人が増えていってしまいます。リアルな世界のコミュニティを各地で築くことが何かの役に立つと信じて地域行事などに協力、参加していこうと考えています。(教育支援機関)

精神科医療が必要と思われるケースであるが精神科受診を拒否しているケースが多い。受診までのハードルが高く、往診対応が行える精神科医院や診療所があれば支援へと繋がっていく可能性が拡がると思います。(市町ひきこもり相談窓口)

本人、家族共に支援を希望していない場合、どう対応するのが一番良いのか疑問に思うことがある。(地域包括支援センター)

引きこもりにおけるサポート体制の構築と引きこもり支援における研修会の開催を希望する。(地域包括支援センター)

関係機関のアウトリーチ機能の強化。(地域包括支援センター)

介護を契機に家族システムが崩壊します。そのタイミングでケアラーとして福祉機関と協同する流れから人を信頼し、後の引きこもり当人の支援に繋がる気がします。ケース対象者とその家庭そのものを包摂する視点が必要だと思えます。(地域包括支援センター)

高齢者が引きこもりの子どもを抱えているケースの関係作りのとっかかりとして包括が関わることがありますが、なかなか支援が進まないケースが多い印象です。(地域包括支援センター)

高齢者支援に関わる際に、ひきこもり疑いケースの情報を得る機会があるので具体的な支援等を知りたい。(地域包括支援センター)

引きこもりに加え、障害や高齢親族との同居等の複合的な課題を抱えていることが多く感じる。一つの機関ではアプローチが難しく、多面的な支援のため他機関連携の成功事例やノウハウを知りたい。(地域包括支援センター)

65歳未満の方への支援に、虐待事例以外では関わる事がない。高齢者に関する案件ならこちらでもアウトリーチしていくが、(*障害者)手帳等がない方の支援にアウトリーチしてもらえぬ機関や人的資源がないので対応に困っています。(地域包括支援センター)

弊機関の主な支援方法はアウトリーチであることを踏まえ、ひきこもり支援のゴールを就学や就労としないことから、支援継続が重要です。また直接/間接支援(介入)ができない対象者はモニタリングを継続しています。よって、長期間(10年以上)の県や市町の担当者の設置や財政支援を要望します。(医療機関(精神科・クリニック))

私たちが仕事の対象とする高齢者の引きこもりについては時間をかけて対応し、今までの実績や事例を聞きながら対応しています。高齢者宅に訪問をすると引きこもり(いわゆる8050問題)の子世代と出会うことが増えています。結局のところはその家庭には「高齢者」が居るので(残されているので)、最終的に関係者として残るのは地域包括支援センターだけということが多いです。そのような高齢者が子のことで相談をする際、窓口まで行くことが困難。出張や初回から訪問をお願いしたい。(地域包括支援センター)

8050問題を筆頭に、複合多問題の世帯の多くは、発達障害や軽度知的障害等を成育過程の中で医療診断無く、見過ごされてきている印象を受ける。「ひきこもり」や「精神障害の発症」は自身の心身機能の維持を目的とした2次障がいとしての印象が強い。当該センターとしては、「ひきこもり」の事象のみに焦点を当てるのみでは無く、個人の特性をきちんと「医療的診断」として繋げていく事に力を入れる事を希望したい。資本経済活動を主とした現代社会と、当該個人や世帯の生活との大きな乖離にアプローチする必要があると感じている。憲法で保障されている権利は尊重されるべきだが、精神保健・福祉的観点のみで、「ひきこもり」や「複合多問題」を支援対応するのみでは、根本的なとらえ方が異なるのではないかと、これまでの事例を通じて感じている。(地域包括支援センター)

単身者や、家族の協力が得られない場合の支援の困難さ、支援者自身の支援力。(保健所)

当所は18歳未満の児童が相談援助の対象となるため、ひきこもりというより不登校の状態像に対する相談が中心となるため、高校生年齢の所属なし・在宅ケースへの援助ノウハウがどうしても不足しがち。(児童相談所)

多様なニーズがあるので、行政だけが支援を組み立てることはできないが、まず、支援機関がしっかり連携できることが必要。特に重層事業*を用いたり、介護保険や在宅医療のネットワークなど、行政側が各々の枠の中で手立てを用いながらもつながるために、責任をもち、誰かがコーディネートしなければならない。また、地域のインフォーマルサービス**とのつながりや人との出会いによりひきこもりを脱した事例が多いので、地域の人や取り組み、社会とのつながりを知り、それを持たなければならないのは、行政等支援機関側であると自覚する。（障がい者（総合）相談支援センター）

* 重層的支援体制整備事業。一つの支援機関だけでは解決に導くことが難しいような、複雑・複合的な課題を持つ方（家族）をサポートするための体制をつくる事業

** 自治体や専門機関などの公式な制度に基づく支援以外の、家族、親族や友人、地域住民、NPOやボランティアなどによる相互扶助的な支援のこと

地域包括支援センターの支援の対象者は65歳以上の高齢者であるが、高齢者の介護サービス等の支援で介入することでその家庭のひきこもりの家族が明らかになるケースがある。そのようなケースは大体が長期（10年以上）のひきこもり状態であるため、どのような支援があるのか、どのようにつなげていけるかわからない。まずは、県内にどのような支援、相談、連絡先があるかを理解したい。（地域包括支援センター）

本人に困り感がない場合に介入が難しく、関わりが長期化すること。（市町ひきこもり相談窓口）

高校生～20歳までの不登校やひきこもりの子どもたちの相談や活動の場が、1時間以内で行ける場所にあるといい。中学卒業後の相談場所として案内をするのが県（津）教育支援センターというのは、遠すぎて現実味が無い。市単独で作っていくのは難しいと思うので、南勢地区に一つでいいから、高校生が行ける教育支援センターがほしいと思う。（教育支援機関）

専門的な知識を持った支援員を育成してほしい。ピアサポーターを養成して、活動を支援してほしい。アウトリーチを積極的にすすめてほしい。（家族会・当事者会）

ご本人が相談の場に赴く事が困難であるケースが大半である。ひきこもり支援には、アウトリーチ支援が有効であると感じるが、支援者には訪問時の基本的作法はもとより、アセスメント*力、家族支援なども求められる。対象者への直接的支援が困難な場合、間接的支援を行うと思うが、そういった支援のスキルアップに繋がるような研修会を企画して頂きたい。ひきこもり支援には、年単位を要する。継続した支援を行うためにも、マンパワー不足の解消も必要だと感じる。（医療機関（精神科・クリニック））

* 支援対象者の情報を収集・分析し、状況や経緯、課題やニーズなどを把握すること。事前評価。

障がい者相談支援センターが、福祉サービスにつながらない事例に関わってくれない。結局、包括（*地域包括支援センター）が長年関わってやっとなぐ事例が多い。ひきこもりは高齢者支援側から気づくことが多い。障がい（*障がい者相談支援センター）や保健（*保健センター）につなげたくても、つながらず、結局包括が抱えているのが現状。（地域包括支援センター）

重層支援・ひきこもり支援・障害者支援
・・・これらの支援を小さな自治体はどのようなカタチで取り組めばいいのか？悩んでいます。別々のものであるとの認識はありません。一体的に取り組めるといいのですが、予算的なこと（補助金等）についてのイメージをすることがとても難しく感じられ、なかなか具体的に取り組みません。（市町ひきこもり相談窓口）

○当事者、家族からの相談への対応が中心となってしまう現状がある。

○保健所管内における、ひきこもりの実態を把握できていないこと。

○ひきこもり支援に関わるうえで、当事者や家族の方のニーズに沿った支援に繋げていくため、担当者自身が常に知識、質の向上に努める必要がある。（保健所）

(*行政の担当) 職員が頻繁に変わるので、毎回理解(*増進)活動が必要となる。ただ、その度に優秀で、協力的な方が担当してくれる点ありがたい。最近の若者は総じて自己肯定感が低い。LGBTや犯罪に対するマスコミの「排除に繋がる言動」が子供・若者同士でも散見される。日本人は元々「性善説」でものを考えてきたが、欧米の「性悪説」が浸透し、非難する事に違和感を感じない人が増えた。因果関係を議論する事より、気持ちで通じ合うかつての日本に戻れないのでしょうか？(家族会・当事者会)

ひきこもり支援をしているものの医療法人(精神科)であるため敬遠されがちに感じる。単発的な相談はあるものの継続性は少ない。近隣にひきこもり(*地域支援)センターがあるため、専門性の高い相談があった場合、紹介してもらっているため、センターに主に窓口対応をお願いしている。(障がい者(総合)相談支援センター)

高齢者支援に関わるものとして、引きこもりに対する知識が乏しい。また、実態も把握できていない。(在宅介護支援センター)

40歳台以上のひきこもりのアプローチについて、長期間(20年以上)ひきこもっていると、アドバイスをして何かしらの理由をつけて前向きな行動ができない。声かけのタイミングや具体的な支援機関など教えていただきたい。(在宅介護支援センター)

サポステでは、就労困難な方が増えている。また、障害者手帳を持っているが、福祉支援を拒否する方も出てきている。本来のサポステの支援であるキャリア支援ではなく、自立支援や福祉支援に近い方が多くいるのが現状である。サポステには来るものの就労困難なケースを他機関にリファーすることも必要なのだが、働きたいという気持ちを持っている方に、「あなたは就労が難しいから福祉支援に行きなさい。」と簡単には言えないことも多い。サポステの自治体(三重県)として補助メニューとして検討してもらえると、利用者の心を傷つけずに、支援ができる仕組みを構築できるのではないかと。例えば、サポステに臨床心理士を配置するとか、今以上に常設訓練の場を充実させるとかである。(就労支援機関)

包括として情報をキャッチ(*した際)関係機関へのつなぎをするが役割分担が明確でなく支援体制もなかなかうまくつなげない状況と感じる。行政、公的機関は積極的支援はなかなか関わりがないような印象有り。(地域包括支援センター)

ひきこもりについての基本的なことの支援について研修があれば、参加したいと思います。(地域包括支援センター)

家族からの相談は多く、共有したうえで具体的な対応について、一緒に考えていく時間がたくさん必要である。一方で本人につなげていくことはなかなか難しいのが現状だが、本人を取り巻く環境の調整やソーシャルワークを図っていることで、本人の生きづらさが長いスパンで緩和されていることを感じている。行っている家族やその先の当事者への伴走型支援への予算や補助金があれば有用だと考えています。いい方法があれば教えていただきたいです。(民間支援団体(NPO等))

約40年間ひきこもりのケースを支援した。ひきこもりの息子を母親は、地域に必死に隠して生活してきた。家族背景をしっかりと聴取し理解することの大切さを感じた。聴取できたことが、解決への力となり、道しるべとなった。大変なケースであったが、社会福祉士としての大きな経験になり、その後の支援にもつながっている。三重県内でも様々な引きこもりケースがあると思う。事例検討などができると、良いのではないかと。引きこもりケースの対応は、「勇気」がいると思う。自分から暗闇へ入っていく必要がある。事例を知ることで、支援者の支援へつながると思う。(在宅介護支援センター)

小学校、中学校と不登校で中学卒業時に高校に進学しなかった人が一定数いると思われるが、そのような人への支援の在り方・方法について検討し周知する必要がある。(民間支援団体(NPO等))

以前は市内にひきこもり支援の窓口がなかったことから、生活困窮者支援の窓口へ相談が寄せられていました。しかし、ひきこもり支援についてのノウハウがなく、連携できる機関もなかったことから対応には苦勞してきました。最近では市内にひきこもり支援を行う窓口ができたので、他機関と連携しながらの支援ができるようになってきたと感じています。（生活困窮者自立相談支援機関）

ひきこもりの未然防止、また義務教育終了後の不登校やひきこもりに対する支援が必要だと感じます。（教育支援機関）

中学校卒業後の支援、居場所等がなく社会とのつながりがなくなってしまう。（教育支援機関）

ひきこもりにかかわる支援は大変難しい。アウトリーチを試みてもなかなか会うことができない。（教育支援機関）

精神疾患のあるひきこもりの方も多い傾向にあり、対応が難しいと日々感じています。すぐに解決につながることも少なく、長い関わりになる。すぐに成果がでるものではなく、根気よく関わっていく必要があるという意識はどの支援者にも必要だと思います。（地域包括支援センター）

私たちは、親の会であり、他の支援機関とは異なり業務ではない。親ということで支援される立場でもある。立場が違っているとみられている感覚がある。一緒に考えたいのだが連携という形はとりにくい。不登校やひきこもりの親としていろいろな場で話をする機会は増えているが、通常の業務の中でつながる関係性をつくれていない。例えば、生徒の不登校で困っている現場の先生と、親との懇談会をしたいと思っているが、どうすれば実現するか、全くわからない。もっと、日常の活動の中で、こんな時はこの機関に相談しようとか、他の親の人と話したいという時に親の会につないでくれたり、もっとフラットで垣根のない関係性をつくりたい。当事者と家族と支援者も、対等な関係性をつくれたらいいのと感じている。三重県へ ひきこもりに関する情報などの発信は、県民全戸に届くような方法を考えてほしい。どことも繋がっていない人に届きたい。（家族会・当事者会）

電話、訪問、メールなど手段は様々あるが、当事者と直接やりとりできるまでに至るには、長期間要することが大半である。しかし実際には他の業務やひきこもり以外のケースでの支援、担当者の異動等もあり、一方通行の支援のままで状況に変化がないと次第に支援が途絶えてしまうことが多々あることが課題であると感じる。途絶えることがないよう支援計画を立て管理していく、他の支援機関（特に市町村のひきこもり相談対応窓口）との連携を図るなどして継続的な支援をしていく体制作り、支援者のスキルアップをしていきたいと考えている。（地域包括支援センター）

地域包括支援センターは高齢者の相談窓口であり、高齢者支援が終了すると、自宅に残ったひきこもりの子へ関わりの関係機関がないままとなってしまうケースもありえるため、そのような家庭は地域の機関と連携して関わられるように考えているが、高齢の親から拒否されることもあり、難しいと感じている。（地域包括支援センター）

ひきこもり支援に関する取組が充実していくよう期待したいと思います。今回のような調査のたびに、人数や支援内容等を現状の記録等からデータとして集計することの難しさを感じます。（記録をする側の課題でもあると思います）（障がい者（総合）相談支援センター）

身近な地域で当事者が過ごせる居場所がない。家族会が少ない。医療機関の受診や手帳がなくとも障害福祉サービスでの居場所や作業所の利用につながる仕組みがあるといい。（障がい者（総合）相談支援センター）

未受診のひきこもりの方で、どうしても医療機関へつなげられない場合に、障害福祉サービスの利用や福祉手帳や障害年金の申請等ができないことで、支援の幅が狭くなる。（市町ひきこもり相談窓口）

第2節 ヒアリング調査の結果

「三重県ひきこもりに関する実態調査」では、アンケート調査とヒアリング調査を行った。本節では、支援機関へのヒアリング調査結果の要約を掲載する。

ヒアリング協力機関の概要

アンケート調査回答者の中で、ヒアリング調査に協力いただける旨を回答いただいた方のうち、10機関の方にオンラインでヒアリングを実施した（下表参照）。本稿では要約を掲載している。

No.	表示名	実施日
1	A ひきこもり相談窓口	2024年9月30日
2	B 市町ひきこもり相談窓口	2024年10月7日
3	C 市町ひきこもり相談窓口	2024年10月4日
4	D 市町ひきこもり相談窓口	2024年10月3日
5	E 社会福祉協議会	2024年10月3日
6	F 生活困窮者自立相談支援機関	2024年10月3日
7	G 保健所	2024年10月8日
8	H 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）	2024年10月7日
9	I 民間支援団体（NPO等）	2024年10月3日
10	J 家族会	2024年9月27日

主なヒアリング項目

主に以下の内容を中心にヒアリングを実施した。

1. どんなひきこもり支援をしている部署か（相談、居場所、訪問など）
2. 現在、どのようなひきこもり支援業務をおこなっているか
3. 当事者への支援を行う上で、どのような課題や困難を感じているか
4. ご家族への支援を行う上で、どのような課題や困難を感じているか
5. ひきこもり支援を行う上で、課題や取り組んでみたいこと
6. 三重県のひきこもり支援施策に対する現場からの課題や要望

A ひきこもり相談窓口

主な活動は相談業務（電話、来所、訪問、メール）、支援者向けネットワーク会議、家族教室、家族会、講演会の実施。「三重県ひきこもり多職種連携チーム」を結成して支援の充実に図っている。

支援の主な課題は当事者との接触の難しさ。ひきこもり支援の分野では、当事者に接触すること自体が困難であり、支援者にはより一層の工夫と熱意が求められる。個人のスキルを高めるだけでなく、組織としての事業の組み方も重要だと認識している。たとえば、どうすれば当事者にメッセージが届くかを常に考え、工夫する必要がある。また、当機関はひきこもり支援以外にもさまざまな事業を行っており、限られたリソースの中で、これらとのバランスを取ること課題となっている。

当事者からの直接の相談は少なく、大半は家族からの相談。当事者との接触は家族からの相談をきっかけに徐々に実現することが多い。

家族が相談に来てから、にわかに事態が変わることもあるが、多くの場合は年単位の長い経過をたどる。その間、家族が元気でいられるよう上手に支えていく必要がある。孤立を防ぐため、どこかにつながり続けてほしいと伝えている。家族の状況は一律ではないが、多くの家族は従来の「普通の」生き方を頭に描いており、その考えを変えるのが難しいようだ。価値観は家族自身の選択だと思うが、家族が変われずに苦しんでいると、当事者も苦しいだろうと思う。

年単位の長期支援が多いため、新規相談が増えるほどスタッフの受け持つケースが積み重なっていくことも課題。対策として面談の間隔を広げたり他機関への紹介を行っているが、継続支援の重要性とのバランスに苦心している。支援の質を落とさずにリソースの制約と折り合いをつけることが難しいと感じている。

人手不足は多くの組織で共通の課題だと認識しているが、常勤職員の増員は県全体の人員配置の中で決定されるため、機関独自の増員は困難だ。対応策として1年契約の非常勤職員の雇用は可能だが、事業継続が前提となる。県としてひきこもり支援に注力する方針が示されれば、人員が補強される可能性はある。

家族教室や講演会で当事者に講師として来てもらうなどの取り組みを行っている。当事者の視点を取り入れた支援は本当に大事だと考えている。

B 市町ひきこもり相談窓口

現在取り組んでいるひきこもり支援は、保護者や民生委員等の地域役員から役場福祉課に情報提供があり、そこから本人やご家族につながり、支援につなげていく形が主流となっている。「ひきこもり支援」を明確に、広く周知して事業に取り組んでいるわけではないので、能動的につながれていない潜在的なケースが多くいることに課題を感じている。

介護・高齢者に関する事業を社会福祉協議会に委託している。社協は日々の活動の中からひきこもりでは？と思われるケースの情報を掴んだり、生活困窮の相談を受ける中で支援につながることもある。明確にひきこもりの窓口として打ち出しているわけではないが、何かあると福祉課や社協に話が来て、お互い細やかに情報共有しながら対応している。

課題は、ひきこもり状態にあり、何らかの支援を必要としている方につながらないこと。次に、ひきこもりに関する事業に割けるマンパワーが足りないこと。役場の担当は1名しかいないので、さまざまな業務を兼任しており、専門職でありながら、その部分だけに集中できないことにジレンマを感じている。他業務で席を外すことも多く不在がち。勇気を出して出掛けたら、きちんと誰かが迎えてくれる場所が欲しいと思っている。「ひきこもり支援」と周知をしても、窓口には誰もいないということではいけないと思っている。社協も同じような状態。

隣町と、人口規模や住民の年齢層がよく似ていることもあり、ひきこもり支援事業の展開については、広域的な視点を持ってもいいのかもしれないと考えている。障害福祉については、広域で自立支援協議会を設置し情報共有や協議する機会が多い。ただし、広域連携となるとルール作りや、予算の配分などが難しいと感じる。

ひきこもり支援事業の必要性は、福祉現場を知らない上層部には理解しがたいようである。重層的支援の重要性が言われる中、相談支援の必要性を理解してもらえないことを強く感じている。現在の担当者は平成20年に福祉課に配置され、児童虐待、DV、障害、貧困など多岐にわたる業務に長年関わってきた。だからこそ見えている、感じている課題等を訴えているが、相談支援の重要性を理解されない限り、人的配置も体制づくりもないがしろにされがちである。

小規模自治体の中で居場所を作っていけるだろうかと不安に思う部分がある。悩みを抱える人たちが、ふらっと寄って気軽に本音を語る場所がない。小さい自治体だと、相談に来たい人が、役場で知り合いが働いているために来られないケースもある。相談窓口・看板だけではなく、居場所スペースが必要なのではないかと感じる。ひきこもり状態の人で、かつ障害があるという人もいるだろう。そういう背景も受け入れて集まれるような居場所を実現していくための具体的な方法を教わる機会が欲しい。実現に至るまで付き合ってくれる担当者が必要。

県への要望として、自治体の実情と合わせて、一緒に相談に乗ってくれる体制・担当者が欲しい。自治体の現状に応じた課題を解決しようと思うと、県における相談先が多岐にわたることもあり相談しても中途半端になってしまう。

C 市町ひきこもり相談窓口

主な支援内容は、相談支援（電話、メール、来所、訪問、同行支援）、ひきこもり理解のための研修会開催、当事者の居場所づくり、ネットワークづくりなどである。当事者の社会参加希望がある場合、社会福祉協議会と連携し、チームで支援している。

現状では相談件数がそれほど多くないため、スタッフ不足の問題は感じておらず、むしろ相談に来てもらえるような窓口の周知が課題だと認識している。

相談の多くは家族からで、当事者に直接会えるケースはごくひと握りである。当事者との関係づくりには時間がかかるため、焦らず継続的に関わることを心がけている。

当事者との関係づくりでは、本人の好きなことや趣味、楽しみにしていることなどを事前に家族から聞き、会話の糸口にしている。さまざまな当事者の価値観やチャンネルに合わせて、話を盛り上げられるよう工夫している。

当事者に会えるようになるきっかけは、ご本人と家族の関係が良くなってくると生まれやすい。家族の関わり方が変わることで、当事者につながりやすくなる傾向がある。具体的には、家族がプレッシャーをかけるような声かけをしている場合、別の声のかけ方を提案している。家族支援は遠回りのように見えるが、家族も支援者と一緒に変化していくことで当事者につながることもある。

家族支援の課題として、継続的な関わりの難しさがある。当事者と直接繋がっている場合は、本人の希望や必要性から継続的な支援が始まりやすい。一方、ご家族にも定期的な面談を提案するものの一回の相談で終わってしまったり気持ちが続かない場合も多く、イベントや勉強会などを開催できればと思っている。

三重県は南北に長く、県主催の研修や勉強会の開催地まで行くのが難しい場合がある。そのため、地元での開催や、近隣市町と協力しての企画を望んでいる。特に同じ地域の市町と県が一緒になって、家族も楽しめるような企画をしたいと考えている。

当事者や家族が講師を務める研修が特に勉強になると感じている。以前、UX会議の研修会に参加した際も、そういった研修が一番勉強になった。県がこのような研修をどんどん開催してくれることを期待している。

D 市町ひきこもり相談窓口

町の社協と委託契約をしている中で、生活困窮関係の相談をきっかけにひきこもり当事者が家にいるという話が出ると、関係部署とか機関に相談したり繋ぐ立場。直接的なひきこもりの相談はほとんど無い状況。

関係機関との連携の重要性を実感しており、地域包括支援センターなど、さまざまな窓口からの情報を活かした支援を心がけている。

家族の認識と支援者の認識のずれが課題となることがある。たとえば仕事をすぐに辞めてしまうという親からの相談のケースで、支援者はひきこもりの可能性を感じてその話をしたが、親は全く違うと否定的だった。夜中にコンビニに行く程度の外出しかしない状況も見られたが、親の理解を得ることは簡単ではないと感じている。

相談窓口の周知はしているものの、相談しやすい環境づくりが課題だと感じている。地域の狭い関係の中で、「あそこの家は子どもさんがずっと家にいるようだ」といった情報は入っており、潜在的にもっとある実感がある。窓口をより整備し、（ひきこもりの支援や相談に応じる窓口であると）看板として出し、相談しやすさがあつた方が良く考えている。

地域性として、家族の中だけで問題を抱え込みやすい傾向があると感じている。年数が経つにつれて解決が難しくなるが、親の体調不良や介護の問題をきっかけに当事者の存在がわかり支援につながるケースがある。そういった機会を逃さないような関係者同士のつながりが大切だと考えている。

役場にひきこもり支援の専任は置いておらず、主務、副務を抱える中で腰を据えて取り組めていないと感じている。県や町の社会福祉協議会による生活困窮やアウトリーチ支援の連携は助かっており、感謝している。

具体的な支援方法の研修会は行われているが、仕組みや体制のつくり方や整備の仕方、最新の取り組み事例、補助金の活用方法などについての説明会もあると助かる。

E 社会福祉協議会

ひきこもりの方を対象に、月に1回の訪問支援を行っている。現在数名の対象者がおり、必要に応じて行政機関への同行など追加の支援も実施している。来所相談や電話相談も受け付けている。

高齢の親の支援を行う中で、その子どもがひきこもっているという8050問題のケースが浮かび上がってくることが多い。この世代の親たちは、子どもに対して「怠けている」「頑張り」といった叱咤激励をしてきたが、そのことで当事者の自己肯定感がどんどん下がっていくという状況等が見られる。

アウトリーチの主な課題は、家族には会えても当事者に会えないこと。また、たとえ会えても適切でない対応で当事者の心が折れ、再びひきこもり状態に戻ってしまうことを懸念している。そのため、当事者に会えたときの適切な対応方法を学ぶ機会が必要だと感じている。

家族支援の難しさとして、家族の焦りの気持ちへの対応がある。この焦りの気持ちをどのように解きほぐし、適切な言葉かけをすればよいかに苦慮している。自身のスキル不足も感じており、家族の焦りに対して効果的な支援を提供することの難しさを実感している。

支援者のスキルアップについて、大規模なフォーラムでの学びが大きかった。他に少人数での事例検討や実践的な研修の機会を望んでいる。特に、多様なケースに対する具体的な声かけや支援方法、当事者に初めて会えたときの対応など、実践的なスキルを学びたいと考えている。

支援の充実のために、ひきこもりの方や家族が気軽に集えるカフェのような多様な居場所が必要だと考えている。外出にハードルを感じる当事者もいるため、居心地の良い居場所づくりが課題だと認識している。

精神科医によるアウトリーチ支援の必要性も感じている。就労支援事業の利用の為に自立支援医療や、場合によっては生活保護の申請に診断書が必要だが、受診までのハードルが高い当事者も多い。そのため、精神科医のアウトリーチが支援につながるきっかけになるのではないかと考えている。

注目している取り組みとしては、地域づくりの分野の職員が企業と連携し、ひきこもっていた人の社会参加を支援する活動がある。たとえば、ひきこもりの人がボランティアとして参加できるよう、店舗での品出し作業などの機会を提供してくれる企業を増やす取り組みを行っている。このように、ひきこもっている人が少し外に出てみようと思ったときに気軽に行ける場所を増やしていくことが必要だと考えている。

F 生活困窮者自立相談支援機関

生活困窮者自立支援事業を受託する中で、ひきこもり支援に携わるようになった。始まりは就労準備支援に3名の利用者が来られたが、この方たちは買い物や病院には行くものの、他者と話す機会がない状況だった。外出はできるが、社会との接点が限られている人々の存在に気づいたのが、ひきこもり支援に取り組むきっかけとなった。

生活困窮者支援事業の家計相談を通じて、同じような悩みを持つ家庭が複数あることに気づき、家族懇談会を立ち上げた。勉強会も兼ねて家族教室も継続している。当事者に会いに行くこともあり、毎月継続して訪問している家庭もある。

ひきこもり支援の専門的な勉強をしたことがなかったため、KHJ（全国ひきこもり家族会連合会）の研修や三重県こころの健康センターの研修会に自主的に参加して学んでいる。

家族支援の中で感じる難しさに、親子関係の問題がある。特に母親と子どもの関係が悪くなってしまったケースや、父親の関わりが全くないケースがある。ペアレントトレーニング※を取り入れた支援で改善したケースもあった。親の「こうあるべき」「こうしないといけない」という考え方を変えることで、子どもとの関係が大きく良くなる可能性がある。ひきこもりに限らず、全ての親にペアレントトレーニングを受けてほしいと思う。

※保護者が子どもの行動に対し適切に対応するためのスキルや知識を習得することで、子どもの行動変容を促すプログラム

地域の課題として、社会資源の乏しさがある。特に中学卒業後の支援が途切れやすい。障害者向けのB型作業所はあるものの、A型作業所や就労移行支援事業所がない。都市部にあるようなNPO法人による居場所支援も存在しない。これらの社会資源の不足により、ひきこもり状態の方たちとつながっても、地域で適切な支援が受けられない状況がある。

現在、三重県こころの健康センターや、大きな市にはひきこもり支援センターがあるが、小規模な市町村では専門的な支援を単独で行うのが難しい。担当地域の自治体は人口2万人程度で、隣接市町村も同程度の規模。たとえばこれらの地域が連携し、5つほどの地域で1つの専門的な支援センターを設置することで、より効果的な支援が可能になると考えている。そのような広域でのひきこもり支援センターがあるとより専門的な活動ができると思う。

G 保健所

ひきこもりの家族会を平成24年から月1回開催を続けている。毎回だいたい7~8人集まり、2時間半ぐらい参加者同士で話をしている。そのほかに、訪問・面接相談、関係機関からの相談に応じるなどの支援を行っているのが現状。

保健所が相談を受け、各市町でもひきこもりの相談や困窮相談などの窓口を持って、間口は広げているが、保健所での相談件数が少ない現状から、保健所で相談できることを、相談を必要とする人に届いていないのではないかと感じている。

相談支援に関しては、継続的に関わっているケースがない。単発で相談を受けたり、年度内で関わりが一旦終了になっているケースで、今年度も前任者から引き継いだケースはない。新規の相談があれば、その都度関係機関とも情報共有しながら関わっている。

相談業務に関わる中での課題は、ご家族や私たち支援者を含めた周囲が思っているご本人の課題と、ご本人が認識している困っていること、今後のことへのギャップや乖離。親子で意思が違うケースではどうしたらよいかと感じている。諦めているのか、将来を考えられる状況にないのかは分からないが、本人がそれほど困っていない現状の中で将来の展望を一緒に考えていくことは難しい。関係性づくりに時間がかかるので、本人と一緒にスモールステップでゴールを描くというのがなかなかできない。

ひきこもっている方の気持ちが掴み切れないことが、支援者にとっては非常にもどかしい。どこから手を差し伸べたらよいのかなと考えてしまう。

支援者側の保健師も若くなっており、それぞれの経験の差などもある。それを常にバージョンアップしていけるかどうかというのも課題。たとえば病院のワーカーやドクターの話や聞きながら勉強して関わっていく体制づくりを継続的にやっていかなければという思いがある。

ひきこもり支援と言っても、年齢によって部署や管轄が違う所もあって、縦割りになっている部分もある。そこに横串を刺すような仕組みづくりも必要だと感じている。

保健師としては事例の蓄積、経験の蓄積が必要であり、保健師が相談できる人がずっと近くにいる体制があれば良いと感じている。過去の事例や経験に沿ってやるのが全部上手くいくとは思わないし、一人ひとり状況も違うが、ヒントになるものとして、誰か相談できる人や場所があるとありがたい。

H 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）

サポステは制度上、就労支援が主な目的であり、ひきこもり支援は厳密には対象外である。しかし実際には、就職活動に不安を感じる方から、外出や人との交流に困難を抱える方まで、様々な状況の人が利用している。就労支援という看板は、多くの人にとって相談しやすい入口になっているという実感があり、福祉や医療の看板では来られない人たちの受け皿にもなっているため、表立ってひきこもり支援を謳うことは避けている。

最初のつながりは親御さんが連れてくるケースが多い。背景に心理的な課題や発達障害、精神疾患の疑いがあるケースも少なくないが、病院には行っていない方が多い。まずは福祉支援の説明をするが、拒否する方も多いので慎重に話を進める。

ひきこもりの方への支援については、まずは状況把握から始める。すぐに他のひきこもり支援機関につなぐことはあまりしない。せっかく信頼関係を築いて来所してくれた方に対し、また別の窓口などで一から話をしなければならぬ負担をかけたくないと考えている。

親の世代は発達障害の傾向があっても社会で働いていたケースが多いが、子どもの世代では仕事の要求が高度化して働くのが難しくなっている。親は「子どもだって自分と同じ感覚でできるだろう」と思っているが、実際にはそうではない。このギャップにより、親子関係がうまくいかず、難しいケースになることがある。

就労支援とひきこもり支援の両方のスキルが必要で、研修や事例検討を重ねているが、まだまだ足りないと感じている。

制度上、サポステは就労支援が目的だが、実際のひきこもり支援では仕事の話をするにはできない。カウンセリングから始め、就労に直接的にはつながらない支援も行っている。これらの活動に、就労支援事業に対して投じられた公金を使うことへの葛藤がある。支援の結果、就労や居場所づくりにつながれば本来の用途に則っていると考えられるが、制度の趣旨とのズレに悩んでいる。

ひきこもりの方には、「ゆるりとした雰囲気、でも少しやることのある居場所」が必要だと考えている。カフェや農園での訓練など、楽しみながら少しずつ社会参加できる場所を作っているが、行政はコスト削減のためにそういった場所を削る傾向にあるのが残念。

数値的な目標や評価を、生活保護受給者が納税者になることによる「節税効果」から、就労件数だけでなく、成長を可視化する指標や、障害者手帳の取得による福祉支援への移行なども含めた効果まで、多面的な評価軸を再検討することが必要だと考える。

I 民間支援団体（NPO等）

市から委託を受け、相談窓口と居場所機能を兼ねたセンターを運営し、アウトリーチ、就労支援、社会交流など多様な支援を展開している。常設の居場所は平日朝から夕方まで開所し、予約不要で自由に利用可能。送迎サービスも開始し、交通手段のない人のアクセスを改善している。週1回実施しているカフェは一般開放し、利用者がスタッフとして参加する。

スタッフと日常的な食事の時間を共有することで、最初は入りにくく感じる利用者も、何回か通ううちにスタッフとの関係性が良くなり、居心地の良い場所になっていく。寄付された食材を使って即興で料理を作ることもあり、自然な形で会話や協力が生まれ、コミュニケーションが促進される。なお個人の意思を尊重し、みんなと一緒に食事をするを強制はしない。スタッフは最低限、食事のときとお茶のときに声をかけるようにしているが、それ以外は利用者の様子を見ながら対応している。

アウトリーチでは、当事者に直接会えないことが課題となっている。会えない場合でも、毎月の予定表や季節の挨拶を添えた手紙をポストに投函し、センターの存在を覚えてもらえるよう工夫している。本人と会えない場合はご家族の方とお話することを重点的に行っている。これらの継続的な取り組みにより、3年4年かけてようやく会えるようになるケースもあり、粘り強さの重要性を実感している。

家族支援においては、親の生きてきた時代背景や価値観を尊重しつつ、子どもの状況への理解を深めてもらうことが重要だと考えている。親の気持ちが楽になれば、当事者の気持ちも楽になるという考えのもと、親との対話を重視し、時間をかけて少しずつ理解を促している。

地理的な制約から遠方からの利用者は少ない。また地元の支援機関には行きづらいと感じる当事者も多い。そこで、県内に複数の同じような居場所の支援拠点を設置し、利用者が地元以外の支援機関も選択できるようにすることで、より多くの人々が支援を受けやすくなるのではないかと。それらの連携をトータル的にコーディネートする機能を県が担うことを望んでいる。

この事業を始めてみて、本当にひきこもり支援の場を必要としている人たちがいることが分かった。こういった支援は短期間で終わるものではなく、長期的に継続していくことが大切だと強調している。時代が変わっても、いつでも受け入れる場所であり続けることが重要だと感じている。

J 家族会

参加者同士で話をする会。世話人もファシリテーター役はするが、基本的には皆同じ参加者という考え方で進めている。

参加者のほとんどは不登校の子どもを持つ親だが、最近は高校を中退してひきこもっている子の親も増えてきた。小学生から20代以上まで、幅広い年齢の子どもを持つ親が来るから、悩みの内容もバラバラで対応が難しいと感じている。

個人が集まった団体なので、認知されにくい。ようやく県教委や市とつながり始めたところで、信頼してもらえるようになってきたと感じるが、学校などで勤めてもらうことはなかなか難しい。NPOなどの組織化された団体と比べると、後援を取ることも難しく、広報の面で信用度がなかなか得られない。

広報については、市の広報誌に掲載をお願いしたり、ブログで開催予定を告知したりしている。でも、今どきのSNSは使いこなせず、こまめな情報発信が難しい。世代的なギャップを感じている。

不登校になった子の受け皿づくりは進んでいるけど、そもそも学校の中を変える必要があると思う。少人数学級にして、加配[※]の先生を増やせば、今埋もれて苦しんでいる子にもっと目が行き届かず。先生たちも今はハードワークで余裕がない。事務処理などは別の人に任せて、先生たちには授業に集中してもらいたい。子どもへの対応に余裕ができれば、不登校やいじめの問題も減るのではないか。

※教育困難校対策や習熟度別指導の実施などを目的として、公立学校の教員定数に上乗せして配置される非常勤の教員

学校では担任だけでなく、保健師や教育相談担当など3~4人のチームで生徒に対応してほしい。さまざまな視点から生徒の特徴や対応方法を話し合い、適切な支援ができるチーム体制が必要だと考えている。

支援者や相談員がすぐに替わってしまうのは問題だ。せっかく信頼関係を築いても、1年か2年で担当が替わってしまう。県の相談窓口担当者も短いスパンで替わる。やっと繋がった人間関係がまた一からになってしまうのがつらい。最低でも3年くらいは同じ人が担当してほしい。

ひきこもり支援の情報が、本当に必要な人に届いていないと思う。全戸配布のような形で広く情報を出して、どこかでつながるきっかけをつくるのが大切だと思う。誰もが必要な情報を目にする機会をつくるのが重要だと感じている。

親が抱える悩みは子どもの問題とは次元が違う。子どもを変えようとするのではなく、親自身が自分の心を見つめ直す機会が必要だと感じている。子どもが変わらなくても、親が少し視点を変えるだけで楽になれることがある。

第4章

分析・考察

～実態調査から見えてきたこと～

第1節 当事者/経験者調査

第2節 家族調査

第3節 支援機関調査

第4章 分析・考察 ～実態調査から見てきたこと～

本章では、アンケート調査およびヒアリング調査について詳細に分析していく。

ヒアリング調査やアンケート調査の自由記述を引用する際には下記の通り表記している。

- ▶当事者/経験者：（立場・年代・性別・調査種別 [ヒアリング・アンケート]）
- ▶家族：（続柄・年代・調査種別 [ヒアリング・アンケート]）
- ▶支援機関：（機関種別・調査種別 [ヒアリング・アンケート]）

第1節 当事者/経験者調査

4-1-1 ひきこもりの原因・きっかけは一つではない

当事者調査の「ひきこもりの原因・きっかけ」では、それが複合的であることが示されている。一人当たりの原因・きっかけの選択数を見ると、20ある選択肢（1-10）のうち1個だけを選択した人は7.7%にとどまり、2個以上を選択した人が92.3%を占める。7個を選択した人が最も多く、17.9%だった。11個以上の原因を選択した人も17.9%存在する。これらの数字は、ひきこもりの背景に複数の要因が絡み合っている実態を示している。

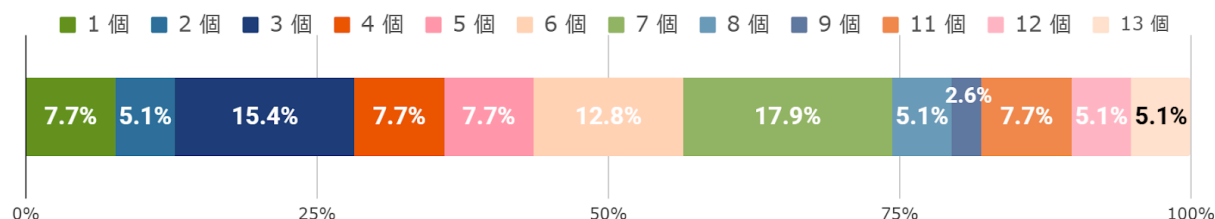


図4-1-1

一人当たりの原因・きっかけの選択数

※問11 / 複数回答

※n=39

ヒアリング調査やアンケートの自由記述からは、「不登校」、「学校でのいじめ」など一つの原因が他の原因への連鎖を生んでいることがうかがえる。

「小学校の頃からいじめを受けた経験があり、人が怖いというイメージがある。同年代や年下、制服を着ている学生が怖かったり、子どもの泣き声が聞こえたりすると、少ししんどくなったりする。何かの拍子にフラッシュバックしてしまい、落ち込むことがある。浮いたり沈んだりという状態。」（当事者/経験者・30代・女性・ヒアリングBさん）

「小中高でひどいいじめを受け、大学3年頃から精神科に通い始めた。フラッシュバックや強迫行為に悩まされ、統合失調症と診断された。」（当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングDさん）

「今回のひきこもりのきっかけは仕事とコロナ。派遣で、高速道路の現場監督の仕事をしてきたが、上司とうまくやれず、そんな中で自分が担当している現場で重大な事故が起きた。そのことで上司に叱られたり、うまくいかないことが重なった。ちょうどコロナ禍とも重なり、仕事でどこへ行っても上手くいかず辞めたことがきっかけ。」（当事者/経験者・30代・男性・ヒアリングEさん）

「失業や離婚で『そんなことで人は離れていくのか』という思いを抱き、人が怖くなった。この頃から精神科とも繋がり、家と病院の行き来だけのひきこもり生活が何年間か続いた。」（当事者/経験者・50代・男性・ヒアリングFさん）

「高校卒業後就職し、仕事による適応障害と不安障害で退職し引きこもり無職になった。」（当事者/経験者・20代・女性・アンケート）

これらのデータや声からは、ひきこもりを単一の原因や個人の問題として捉えるのではなく、心理面での困難さと社会環境におけるさまざまな要因が重なり合って生じる現象として理解する必要性を示唆している。また、原因が複合的であるからこそ、支援においても多面的なアプローチが必要となることが分かる。

4-1-2 深い絶望が理解されない

当事者/経験者調査の結果において最も注目すべき点は、ひきこもっているときの心情として、82.1%が「生きるのが苦しいとすることがある」「死んでしまいたいと思うことがある」「絶望的な気分になることがよくある」と回答していることである（1-11）。

ヒアリング調査でも以下のような声があった。

「怠け者じゃないかと自分を責め、死のうと思ってもなかなか死ねなかった。」（当事者/経験者・50代・男性・ヒアリングFさん）

「20代の頃は、強い焦りと孤独感を感じていた。みんなが楽しく生活している中で、自分だけが取り残されているような気持ちに苛まれた。しかし、怒りや暴力的な感情はあまりなく、むしろ自分を責める気持ちが強かった。」（当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングDさん）

この深刻な心理状態の背景にもまた、複合的な要因が存在していると考えられる。当事者の71.8%が「うつ状態や不安などの、こころの不調」をひきこもりのきっかけとして挙げており（1-10）、61.5%が「人に会うのが怖い」と感じ、56.4%が「自分のことが嫌い」「他人がどう思っているのか不安」と回答している。さらに、71.8%が「家族に申し訳ないと思う」（1-11）と感じているなど、社会や家族との関係における強い心理的負担を抱えている実態が明らかになっている。

一方で、支援の現状を見ると、この深刻な心理状態に十分に対応できていない実態も浮かび上がる。受けていた支援を中断したことがある当事者のうち53.3%が「支援者と話がかみ合わなかった」ことをその理由に挙げており、40.0%が「支援者から説教や説得をされた」ことで支援に背を向けた経験を持つ（1-21）。

「親にも分かってもらえず、親戚の人に『死にたい』と悩みを話しても『病気で、生きたいのに生きれない人もいるんだから、そんな事言ったらダメ』と怒られました」（当事者/経験者・10代・女性・アンケート）

上記からは当事者の深い苦悩や絶望感が周囲に理解されていない現状がみえる。これらの心理的危機の深刻さは、ひきこもり支援のあり方を改めて見つめ直す必要性を示唆している。

4-1-3 出口の見えない状況

当事者の回答からは、「どうすればいいのかわからない」という深い苦悩が感じられた。「ひきこもっているときの心情」では、「このままではいけないと強い焦りを感じる」が71.8%、「家族に申し訳ないと思う」も71.8%と高い割合を示している（1-11）。同時に、「『ふつう』になりたいが、方法がわからない」69.2%、「現状を打開するための方法や解決策がわからない」66.7%という回答も多く、出口の見えない状況に置かれている実態が見えてくる（1-12）。

この状況をより深刻にしているのが、「過去のトラウマやネガティブな経験の記憶」64.1%と「生きる意欲や気力の低下」64.1%という心理的な障壁である（1-12）。

「ほっておいてほしいと思うが、年齢から焦燥感がものすごいです。人と関わるのが非常に怖く、どのサービスも自分にはできるとは思えません。」（当事者/経験者・40代・男性・アンケート）

「好き好んで引きこもって居るわけでは決してありませんが、ひきこもりから抜けだそうと思っても自分ではどうする事も出来ないの行政からのサポート体制が必要だとおもっています。」（当事者/経験者・50代・男性・アンケート）

どうにかしたいという思いと、それができない無力感との間で揺れ動いている状況が見える。支援を受ける・受けないの前にある当事者の葛藤と苦しみに目を向ける必要がある。

4-1-4 苦しい気持ちと一時的な安心感は共存している

当事者の心情は、深い苦しみと一時的な安心感が複雑に絡み合っていることが調査結果から読み取れる。ひきこもり状態の時の心情を尋ねた設問（1-11）では、「家族に申し訳ない」「絶望的な気分になる」等のネガティブな心情の選択肢だけでなく、「一時的に安心感を得られる」「気持ちが楽だと感じる」というポジティブな心情の選択肢を設けた。しかし、結果的にそのポジティブな心情のみを選択したケースはなく、ポジティブな心情を選択した回答者は例外なく他のネガティブな心情の選択肢と対で回答していた。つまり、ひきこもり状態の中で生じるポジティブな感情はひとつの側面であり、多くはネガティブな感情のみに苛まれ、一時的なくつろぎや安心感を覚えることがあったとしても、苦痛と隣り合わせであることが分かる。

以下の声は、一見ひきこもっていることをポジティブに捉えているように見える。

「現在は、ゲームやネット動画で時間を過ごすことが多く、ひきこもりに慣れてしまって、今はあまり苦にならないと感じている」（当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングDさん）

「ひきこもりは、心の扉を全てとじる。その心の扉や引き出しを、誰がどうやって引き出すかにアプローチすれば、引き籠もり者は減るかもだけど、私は、すぐに籠る傾向です。家や部屋が快適なのかも」（当事者/経験者・50代・男性・アンケート）

しかしながら、上記回答者の「ひきこもっているときの心情」の回答を見ると、ネガティブな感情も複数選択している。

ひきこもり状態は一種の安全地帯として機能しながらも、同時にその状態に対する葛藤も抱えている様子がうかがえる。社会との距離を置くことで一時的な心理的安定を得ているものの、それは完全な安心というより、より強い苦痛から遠ざかるための対処方法として機能しているのではないだろうか。

4-1-5 支援に対する不満

当事者/経験者からは現状のひきこもり支援への不満の声が多くあがった。当事者調査では、「支援が中断した理由」として「支援者と話がかみ合わなかったから」に53.3%、「支援者から説教や説得をされたから」に40.0%の人が当てはまると回答した（1-21）。ヒアリング調査や自由記述でも、支援への不満に言及する声があった。

「あまり支援の場や居場所に行きたいと思わない。基本的に話が合わない。」（当事者/経験者・女性・20代・ヒアリングAさん）

「地元の役場と社協につながってはいるが、高齢者などの支援に力を入れざるを得ないようで、後回しにされてしまっている。半ば何も声をかけられず放置状態になったり、こちらから何か言わないと、また言ったところで「現状の福祉の支援はここまでしか出来ない」という話で終わってしまう。」（当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングCさん）

「支援者は当事者の気持ちを十分に理解していないと感じる。働くことを過度に勧められたり、気持ちを無視された場面があったりして困惑した。」（当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングDさん）

「支援者に理解がない、及び当事者として支援者へアドバイスをしてても全く受け入れられない事が多く、傷付けられるような事を平然と言われる事も多かった。」（当事者/経験者・20代・性別無回答・アンケート）

「自治体の職員が「本人に会えないからやりがいがいい」と言ったり、教師に言われて嫌だった経験を語ったら「よくそんなこと覚えているね」と根に持っているような言い方をしたり、相談相手に対して「底辺の人」と言うのを聞いたりしている。また市議が「冷凍食品食わせてるからそうなる、母親が三食作って食べさせればそんな子どもは発生しない」と言うなど、意識が低すぎる。」（当事者/経験者・20代・女性・ヒアリングAさん）

これらの結果から、当事者はその心情や個別の事情を理解されておらず、せつかく窓口に辿り着いても傷つけられたり、適切な対応をしてもらえなかったと感じていることがわかる。しかし、片や支援機関調査では、「当事者の心理」について「十分理解している」「ある程度理解している」が合わせて71.6%であった（3-19）。この認識のギャップに、問題が隠れていると推測される。

4-1-6 支援者の寄り添い不足

当事者調査からは、「支援者の寄り添い不足」という課題が読み取れる。支援を受けていた人が「支援を中断した理由」として、「支援者と話がかみ合わなかったから」が当てはまると答えた人は53.3%だった（1-21）。また、支援を利用しない人に聞いた、利用しない理由としても「十分に話を聞いてもらえないと思うから」が40.0%となっている（1-22）。

また、「支援者に望む姿勢や態度」については、「相談者の話をじっくり聴いてくれる」が74.4%と最も高く、「相談者に共感し、同じ目線に立って、寄り添う姿勢がある」が69.2%となっており（1-27）、当事者は、傾聴の姿勢や、融和的なコミュニケーション、対等な関係性を求めていることが明確に表れていた。さらに、「自分を理解してくれる人がひとりもない」ことがひきこもり状態から抜け出す妨げとなっていると43.6%が回答しており（1-12）、周囲の理解を得ることが当事者にとって大切なことだとわかる。

この点について、自由記述やヒアリング調査でも言及されている。

「精神由来の引きこもりになったときに医療機関を受けても『まだ若いんだから大丈夫』『ストレスに慣れないと』という対応しかされない」（当事者/経験者・20代・女性・アンケート）

「もし自分に助けが必要になり、市や県に助けてほしいと声を出したときには、『しんどかったですね』と受け入れてもらえたら嬉しい。」（当事者/経験者・30代女性・ヒアリングBさん）

「支援者には、当事者が持っている宝物を探って引き出してほしい。僕には僕の引き出しがあるように、他の人にも心の中に引き出しがあって、必ずどこかに宝物がある。それをどうやって引き出してあげるかを探してほしい。」（当事者/経験者・50代・男性・ヒアリングFさん）

こうした声からも、ひきこもり当事者の個別の事情が理解されず、気持ちに寄り添った傾聴が不足していることが支援における課題になっていることがわかる。支援者からの一方的な助言や説得ではなく、まずは当事者の気持ちに十分に耳を傾け、理解することが求められている。

4-1-7 多様な社会参加の場

当事者調査からは、多様な社会参加の場の必要性がうかがえる。「ひきこもり状態から抜け出すことを妨げている要因」として、当事者の69.2%が「社会の中に、無理なく参加できる場が見つからない」と感じ、66.7%が「現状を開拓するための方法や解決策がわからない」と回答している（1-12）。そのような中、当事者が望む支援の内容からは、個人の希望や親和性に応じた多様なアプローチへのニーズが見えてくる。

利用してみたい支援として、「いつでも自由に行けて、自由に過ごせる場」「役割があり、手伝えることがある場」がともに48.7%と比較的高い割合を示している（1-24）。また、オンラインで参加できる場づくりのニーズも見られ、「Zoomなどのビデオ通話による交流の場」が33.3%、「LINEチャットなどによるテキストでの交流の場」が30.8%となっている（1-29）。

「支援は必要としていないが、強いて言うなら他のひきこもりや、なにか自分でやろうと思っている人とコミュニケーションが取りたい。現在の移動手段は徒歩だけなので、近場かオンラインだとありがたい。ひきこもりは、性質上、人との繋がりを持たない、持てない。それを繋げるのが大事なと思う。みんなひきこもり初心者なので、先輩がいない。こうするといいよ、ひきこもりの方を教えてあげるよ、という人と繋がる機会が必要。」（当事者/経験者・30代・男性・ヒアリングEさん）

「メタバースにも興味があり、デジタル空間でアバターやキャラクターを作って動かすのが好き。そういう空間だと、もうちょっと自由に動けたりするかなと思う。そういう空間で人と会ったり、収入になるようなことができるようになったら、もうちょっと生きやすいのかなと思う。」（当事者/経験者・30代・女性・ヒアリングBさん）

「自分だけで考えてもどうしようもない時、もし誰かがもっと広い視点から見て、『こういうやり方もあるよ』『こういう小さなステップにすれば、できるかもしれないよ』と提案してくれたら、どんなに心強いだろうかと思います。」（当事者/経験者・40代・女性・アンケート）

就労以外の、無理せず参加でき、その人に合った社会参加の機会を求める意見が見られる。当事者を変えようとする支援より、まずは現状のままでいられ、同じような経験をした人と出会い過ごせる場や機会が必要とされているのではないだろうか。

4-1-8 求められる就労支援

4-1-7で述べた社会参加と同様に、個人に合わせた就労支援へのニーズが見えてきた。利用してみたい就労支援の形式として、「短時間（1日4時間程度）から働ける職場の紹介」「ひきこもりに理解がある職場の紹介」がともに56.4%と最も高く、「在宅でできる仕事の紹介」が43.6%、「就労準備段階や就労後にも継続的に相談ができる」が38.5%となっている（1-25）。

職場の環境や労働条件（1-16）については、体力や体調面への配慮を求める声に注目したい。「体力的な負担が少ない」を57.1%が望み、「短時間（1日4時間程度）から働ける」を50.0%が求めている。また、「上司や同僚がひきこもりに理解がある」が64.3%と最も高く、「メンタルヘルスへのサポート体制がある」53.6%、「失敗が許容される」環境も50.0%が望んでおり、身体面・心理面双方での安全性を重視していることがわかる。

「重度の睡眠障害があり、通常の勤務は難しい。でも、融通の利く在宅勤務や、いつでも自分のタイミングで行ける職場があれば働けるかもしれないと考えている。障害者が多く働いている職場で、配慮のある環境で働けたらいいなと思う。」（当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングDさん）

「テレワークに少し興味がある。自宅で自分の生活リズムを崩さず、無理のない時間帯に働けるような働き方があると良い。あまり人と関わらずにできるような仕事で、無理なく自分一人で負担にならずにできる仕事があると良い。」（当事者/経験者・30代・女性・ヒアリングBさん）

就労環境への不安の一方で、「ひきこもり状態から抜け出すことを妨げている要因」として「社会生活に必要な知識や常識、経験の不足」が56.4%、「失敗に対する恐れや不安」も56.4%となっており（1-12）、当事者の経験や自信のなさからくる不安も大きい。また、支援・サービスを利用しない理由として「就労を強く促されるだけだと思うから」が50.0%となっており（1-22）、支援が就労のみに偏重してしまうと、当事者の最初の一步への強いプレッシャーになったり、支援そのものを敬遠する要因になる場合がある。

「生きづらい世の中で生きていかななくてはならないと苦しんでいる人が多いんだと思います。自分自身も『皆は頑張っているのに、自分は何で出来ない?』って思いながらも、何も出来ずにイライラしています。そして働きたくても面接がとても怖いのです…。」（当事者/経験者・30代・女性・アンケート）

就労支援において、一律に一般就労を急ぐのではなく、本人の希望に応じた多様な支援を構築していくこと、体力面・心理面双方に配慮した働きやすい環境づくりの重要性を示唆している。

第2節 家族調査

4-2-1 焦り、見通しの立たなさ

家族調査からは、ひきこもり状態の本人への憂慮が際立っていることが見て取れる。「回答者自身の悩み」では、回答者自身のことはもとより、「ひきこもり状態の本人のこと」について、「とても悩んでいる」「悩んでいる」が合わせて85.2%と極めて高い割合となっている(2-15)。その悩みの主な内容は、「本人の将来の自立や、社会参加への見通しが立たないこと」が82.0%と最も高く、「親亡き後の本人の生活への不安」が67.2%、「本人のひきこもり状態が長期化していること」が60.7%となっている(2-14)。「自身の心身の疲労」59.0%、「自身の老後」50.8%、「人生の充実感や幸福感がない」45.9%(2-15)など、家族自身が直面する苦悩も抱えながら、なおひきこもり状態の本人の行く末を案じるようすが強く表れている。

「息子に対しては、普通に戻ってほしいという気持ちがある。会社に復帰するとか、結婚するとか。」(父親・70代・ヒアリングIさん)

「夜中に目が開いた時に子どものことを思うと、本当に一日中寝れない。考えないようにしないと自分がひっくり返ってしまう。本当にこちらがもたない。」(父親・70代・ヒアリングHさん)

という声からも、解決を焦る家族の切迫した心情がうかがえる。

4-2-2 親亡き後への悩み

家族調査では、ひきこもり状態にある本人に関連する悩みとして、「親亡き後の本人の生活への不安」が67.2%(2-14)と、自分がいなくなった後の本人の行く末を案じる声が多く寄せられた。また、回答者自身の悩みとして「自身の老後」について合わせて50.8%、「自身の病気や障がい」について同じく31.1%が「とても悩んでいる」「悩んでいる」と回答しており(2-15)、自身の加齢や健康への不安と、本人の将来への心配が重なり合っている様子が見えてくる。さらに、回答者自身が必要とする支援として「親亡き後に向けた相談」が55.7%と最も高くなっている(2-26)。

「高齢化、持病で、生活費も不安、自分のことで精一杯、介護が必要になったらと思いたくない。本人がどう思っているかわからないことが一番困る」(父親・70代・アンケート)

といった、切実な声が見られる。自らがなくなったあと残される子の生活の見通しが立たないことへの強い不安や心配、困惑を抱えていることが分かる。

また、今回の家族調査では、兄弟姉妹からの回答が13.1%あった(2-4)。

「高齢の母亡きあとに、どこまで兄に寄り添っていけるか、本人が悲観せずに精神を保てるのか不安におもっている。」(兄弟姉妹・40代・アンケート)

「親も高齢であり、この先、兄の面倒を見ることを考えると絶望しかありません。どうしたらいいのかわかりません」(兄弟姉妹・40代・アンケート)

兄弟姉妹においても同様に、将来への不安や心配が強いことがうかがえる。

4-2-3 周囲の無理解、相談相手がいない

家族調査からは、社会的な孤立と周囲の無理解の実態が浮かび上がった。悩みを相談できる相手として「配偶者/パートナー」と答えた人が59.0%いるものの、家族以外では「近隣に住んでいない友人・知人」が19.7%、「近隣に住む友人・知人」が16.4%、「自分の兄弟姉妹・親戚」が16.4%と、日常的な人間関係の中での相談相手が少ない状況が見られる(2-19)。また、「頼れる人がいない」ことに「とても悩んでいる」「悩んでいる」と回答した人が合わせて49.1%にのぼり(2-15)、家族が社会的孤立の状況に陥りがちであることがうかがえる。

この背景には、ひきこもりに対する社会の無理解や偏見があると思われる。

「親御さんの中には「絶対に言えない、民生委員にも言わない」という人がいる。地域の人たちにひきこもりへの理解をしていただけるような啓発を、もっと広くしてほしい。」(母親・60代・ヒアリングJさん)

「風邪や骨折のように誰にでも『今 ひきこもっている』と言える世の中になって欲しいです」(母親・50代・アンケート)

「発達障害を認め、自分のせいではないと理解するまでに時間がかかり、周囲からの無理解にも苦しんだ。そのため、発達障害についての理解を広めたいと思い、親戚にも話すようにした」(当事者/経験者・50代・女性・ヒアリングGさん)

これらの声からは、ひきこもりを特別視せず、社会がひきこもりについての理解を深め、受け止めていくことへの願いが表れている。

4-2-4 心身の疲労があり、精神的なケアを求めている

家族調査からは、家族自身の心身の疲労と支援ニーズがわかってきた。回答者自身の悩みとして、「自身の心身の疲労」について「とても悩んでいる」「悩んでいる」と回答した人を合わせると59.0%で、「ひきこもり状態の本人のこと」の85.2%に次いで高い割合となっている(2-15)。

家族自身が必要とする支援としても、「じっくり話を聴いてくれる相談」(50.8%)、「精神的な支援(カウンセリングなど)」(31.1%)といった心理的なケアや支援を求める声が見られた(2-26)。

「自分自身、突然死ぬことが希望。突然、寝ているうちに目が覚めないのが一番。生きていくことの楽しさみたいなものがまったく無い。」(父親・70代・ヒアリングHさん)

このような声からは、先の見通しの立たない中、家族にも大きな心理的負担や不安がのしかかっていることがうかがえる。今後より一層、家族への心理的なケアも必要ではないだろうか。

4-2-5 家族と本人との関係性と本人の状態

家族と本人との関係性と、本人の状態の変化には相関が見られた。

本人との関係が「良い」「どちらかといえば良い」と回答した家族では、この1年間の本人の状態について、合わせて50.0%が「改善傾向にある」「どちらかといえば改善傾向にある」と回答、状態が「悪化している」としたケースはなく「一進一退を繰り返している」も15%以下に留まった。

対照的に、関係が「どちらかといえば悪い」「悪い」と回答した家族では、いずれも「改善傾向」は見られず、また「一進一退」するでもなく（いずれも0%）、「悪化している」と「変化はない」がどちらもほぼ半数ずつであった。

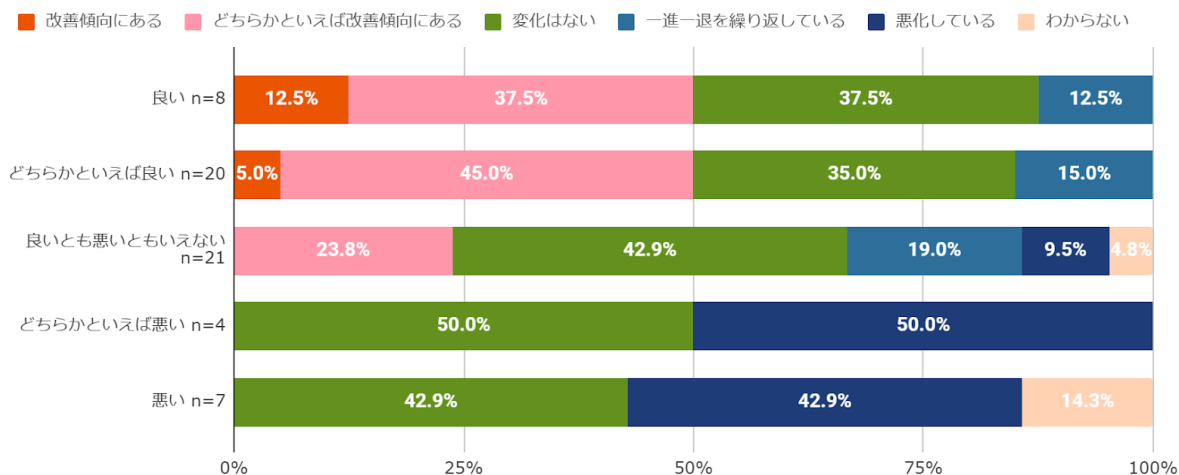


図4-2-1

本人との関係性（縦軸）×本人の状態（横軸）
※問13×問17-1 / クロス集計

家族との関係性が、本人の状態の改善や悪化と密接につながっている可能性が示唆されている。

「息子とはまったく会話がな。妻経由でしかコミュニケーションをとらない。一緒に食事をとることもない。そういうのができれば、もうちょっと糸口があるんだろうと思う。」
（父親・70代・ヒアリングIさん）

家族に関係改善への切実な声や思いがありながら先に進めない苦悩がうかがえる。

4-2-6 家族と当事者間の認識のギャップ

当事者と家族それぞれの調査結果からは、双方の認識のギャップも見えてきた。

当事者調査では、支援・サービスを利用しない理由として、50.0%が「就労を強く促されるだけだと思っから」と回答している（1-22）。

一方、家族調査では「本人に受けてほしい支援」として「就労支援」が52.5%と最も高い割合を示している（2-27）。

具体的には次のような父親の声がある。

「息子に対しては、普通に戻ってほしいという気持ちがある。会社に復帰するとか、結婚するとか。」（父親・70代・ヒアリングIさん）

片や当事者調査において「利用してみたい就労支援」としては、「正規雇用への就労支援」は20.5%（1-25）にとどまっている。

当事者調査の「ひきこもり状態から抜け出すことを妨げている要因」では「家族からの理解や協力が得られない」が約3割（1-12）となっており、上記のデータや記述からも本人の思いや望みと家族の理想には隔たりがあることが浮かび上がった。

とはいえ、「どのような条件であっても働くことは考えられない」が1割程度に過ぎず（1-16）、「就労支援は利用したくない」も15.4%に留まっている（1-25）ことから、当事者の多くは就労や就労支援そのものを否定しているわけではなく、理解のある環境や適性に合った働き方への就労意欲は示されている。しかし家族世代が本人の複雑な心理や時代の変化を捉えかねており、歩み寄りを困難にさせているのではないだろうか。

家族が性急な就労や自立を望むことで、本人の「いま抱えている苦しさ」に目が向けられず、互いの出発地点がずれたまま、当事者への理解が進まない状況が推測される。加えて、それでもなお7割超の当事者は「家族に申し訳ないと思う」（1-11）のである。

支援機関からも家族の価値観の変化の必要性について言及しているものが複数あった。

「多くの家族は従来の「普通の」生き方を頭に描いており、その考えを変えるのが難しいようだ。価値観は家族自身の選択だと思うが、家族が変われずに苦しんでいると、当事者も苦しいだろうと思う。」（Aひきこもり相談窓口・ヒアリング）

「子どもの世代では仕事の要求が高度化して働くのが難しくなっている。親は「子どもだって自分と同じ感覚でできるだろう」と思っているが、実際にはそうではない。このギャップにより、親子関係がうまくいかず、難しいケースになることがある。」（H就労支援機関・ヒアリング）

第3節 支援機関調査

4-3-1 支援機関が利用されていない

当事者と支援機関の調査結果には、当事者が支援につながっていない実態が表れている。当事者調査の「支援・サービスの利用経験」を見ると、「今まで一度も利用したことはない」が51.3%と半数を超え、「現在利用している」は25.6%、「過去に利用したことがあるが、現在は利用していない」が23.1%となっている（1-19）。

支援機関側の状況を見ても、1か月平均の当事者の利用者数は「1～2人/月」が53.4%と最も多く、「利用者はいない」17.8%と続いている（3-4）。家族の利用状況も同様に「1～2件/月」が56.8%と最も多く、「利用者はいない」が11.9%となっている（3-5）。

「現状では相談件数がそれほど多くないため、スタッフ不足の問題は感じておらず、むしろ相談に来てもらえるような窓口の周知が課題だと認識している。」（C市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング）

「保健所が相談を受け、各市町でもひきこもりの相談や困窮相談などの窓口を持って、間口は広げているが、保健所での相談件数が少ない現状から、保健所で相談できることが、相談を必要とする人に届いていないのではないかと感じている。」（G保健所・ヒアリング）

これらの数字と声は、支援機関の存在が認知されておらず、また十分に活用されていない現状を示している。また、当事者/経験者調査においては、半数以上が支援につながっていないという実態からも、支援のあり方や周知方法の見直しが必要なことを示唆している。

4-3-2 支援機関の周知が足りない

支援機関の認知状況を見ると、当事者への周知が十分でない実態がうかがえる。当事者調査では、最も認知度が高い「就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）」でも43.6%に留まり、次点の「三重県ひきこもり地域支援センター」「市町ひきこもり相談窓口」はどちらも35.9%となっている。また「上記の機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった」という回答も20.5%存在する（1-17）。

この周知不足は支援利用の障壁にもなっている。支援・サービスを利用しない理由（1-22）として、「支援があることを知らなかったから」が60.0%と最も高かった。「自分が支援対象にあてはまるか分からないから」も35.0%と、支援機関やその役割が十分に理解されていない実態が見える。なお、支援機関調査では「広報活動に力を入れている」と回答した機関は15.3%に留まっており（3-16）、支援機関側の情報発信の取り組みにも課題が見られる。

「ネット上で身近な公的支援の情報が得られるポータルサイトや、相談できる窓口、写真や動画をまじえた活動の紹介、交流場所などがあれば、もう少し利用のハードルが下がるのではと思いました。」（当事者/経験者・40代・女性・アンケート）

「とにかく家族以外の人付き合い／出会いの機会ともにほぼ無い為、自力で探したり調べたりしているが見つからない。」（当事者/経験者・40代・男性・アンケート）

これらの声からは、支援機関の存在自体の周知だけでなく、具体的な支援内容や対象者像についても、より分かりやすい情報発信が必要であることを示している。

4-3-3 支援機関の効果的な周知方法

当事者と家族では、支援機関の情報を得る経路の傾向が異なっている。

当事者の支援やサービスの情報入手手段は「インターネット検索」が48.7%と最も多く、「自治体の広報紙や回覧板」「支援機関のウェブサイト」がともに23.1%となっている(1-18)。一方、家族は「自治体の広報紙や回覧板」が41.0%と最も多く、「ひきこもりに関する講演会やイベント」39.3%、「インターネット検索」32.8%となっている(2-21)。以下のように、SNSを通じて情報を得たという当事者もいる。

「たまたま新聞のLINEアカウントが発信するニュースで今回の調査を知った。情報を発信してくれたことに感謝したい。三重県が、話を聞こうと考えてくれたことが嬉しかった。」
(当事者/経験者・30代・女性・ヒアリングBさん)

当事者が支援・サービスを利用しない理由として「支援があることを知らなかった」が60.0%と最も高く、「自分が支援対象にあてはまるか分からないから」が35.0%となっている(1-22)。家族調査の同様の設問では「どこに相談してよいかわからない」が47.8%で最も高かった(2-23)。具体的な声としては以下のようなものがある。

「ひきこもりに関する情報などの発信は、県民全戸に届くような方法を考えてほしい。どことも繋がっていない人に届けたい。」(家族会・当事者会・アンケート)

これらの数字や声は、当事者と家族それぞれの情報収集の特性に応じた、効果的な周知方法の必要性を示している。特に当事者にはオンラインでの情報発信の強化、家族には自治体の広報紙、回覧板への積極的な情報掲載や、講演会やイベントの開催が効果的であると考えられる。また、当事者が支援・サービスを利用しない理由として「就労を強く促されるだけだと思うから」が50.0%(1-22)と2番目に多かったことも考慮すると、支援機関が提供する具体的なサービスや支援内容とその対象者を明確に、また広く伝えることが重要であると考えられる。

4-3-4 当事者と出会えない

支援機関調査からは、当事者との接点を持つことの難しさが見える。支援機関の58.5%が「家族は支援につながっているが、本人につながることができない」ことを若年層向けの課題として挙げ、中高年層に対しても54.2%が同様の課題を指摘している(3-14、3-15)。

当事者の把握方法を見ると、支援機関の86.4%が「ご家族からの相談」により把握しており、「行政機関からの情報提供」43.2%、「民生委員・児童委員からの情報提供」36.4%と続く一方で、「本人からの相談」は22.0%にとどまっている(3-11)。この数字は、支援機関が当事者本人との直接的な接点を持ちにくい現状を示している。

「相談の多くは家族からで、当事者に直接会えるケースはごくひと握りである。」(C市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング)

アウトリーチ支援をしている支援機関であっても、当事者に会うことは簡単ではない。

「アウトリーチの主な課題は、家族には会えても当事者に会えないこと。」(E社会福祉協議会・ヒアリング)

支援機関が当事者との接点を持つことの難しさが、支援における大きな課題となっている実態が見える。

4-3-5 当事者理解が重要

支援機関調査では63.8%が「当事者の心理の理解」を深めたいと回答しており(3-18)、当事者理解の不足と、その重要性を認識していることがわかる。

「ひきこもり支援の前に、当事者/経験者の話をよく聞いて、ひきこもりについて知ることが大事だと思います。ひきこもり支援には、アウトリーチ支援が有効であると感じるが、支援者には訪問時の基本的作法はもとより、アセスメント力、家族支援なども求められる。」
(医療機関(精神科・クリニック)・アンケート)

「ひきこもりにはそれぞれ充電期、安定期、活動期の段階があるが、就労がゴールのように思われがちだが、その人がその人らしく生活できることがゴールであると思う。ご本人、ご家族が話したいタイミングで話したい内容を話したい場所で話せることが大切ではないか」
(就労支援機関・アンケート)

実際に支援機関の72.0%が「本人の話をじっくり聞き、その感情や経験を理解しようと努めること」を回復の助けになる取り組みとして実感している(3-12)。

また、理解不足は支援の中断にもつながっている。当事者調査では、支援が中断した理由として「支援者と話がかみ合わなかった」が53.3%、「支援者から説教や説得をされた」も40.0%となっている(1-21)。支援を利用しない理由としても「十分に話を聴いてもらえないと思うから」が40.0%を占めている(1-22)。

当事者の立場からも、自分の心情や経験を尊重した支援を求める声が上がっている。

「ひきこもり＝部屋から出てこない人ではありません。『見た目は他の人と変わらないように見えるけど社会との接点を持てない』も広い意味でひきこもりに入ると思います。孤独でかわいそうな人ではなく、普通の一人の人間として接してもらいたい」
(当事者/経験者・30代・女性・アンケート)

「支援者は当事者の気持ちを十分に理解していないと感じる。働くことを過度に勧められたり、気持ちを無視された場面があったりして困惑した。」
(当事者/経験者・40代・男性・ヒアリングDさん)

以上のような声は、当事者理解に基づく支援の重要性を示している。

4-3-6 家族の理解と協力を得ること

支援機関調査によると、「家族の理解と協力を得ること」が本人の回復の助けになると考える機関が67.8%に上っており(3-12)、家族関係の重要性が認識されている。一方で、実態として「本人と家族の認識にギャップがあり家族関係の調整が難しい」ことを課題として挙げる機関が40.7%存在する(3-15)。

この背景には、本章4-2-6のように、当事者と家族の間の認識の違いが存在する。

家族と本人との関係性の重要さは、状態の変化との関連からも推測できる。本人との関係が「良い」と回答した家族では、本人の状態が改善傾向にあり、一方、関係が「悪い」と回答した家族では改善傾向が全く見られないという結果が出ている(本章4-2-5)。

「家族支援においては、親の生きてきた時代背景や価値観を尊重しつつ、子どもの状況への理解を深めてもらうことが重要だと考えている。親の気持ちが楽になれば、当事者の気持ちも楽になるという考えのもと、親との対話を重視し、時間をかけて少しずつ理解を促している」（I民間支援団体（NPO等）・ヒアリング）

「家族支援の中で感じる難しさに、親子関係の問題がある。特に母親と子どもの関係が悪くなってしまったケースや、父親の関わりが全くないケースがある。ペアレントトレーニングを取り入れた支援で改善したケースもあった。親の「こうあるべき」「こうしないといけない」という考え方を变えることで、子どもとの関係が大きく良くなる可能性がある。」（F生活困窮者自立相談支援機関・ヒアリング）

これらの数字と声は、支援者が当事者と家族の双方に寄り添いながら、相互理解を促進し、家族関係の修復を支援していくことが、本人の状態改善にもつながる重要な取り組みであることを示唆している。

4-3-7 他機関との連携の重要性

支援機関調査からは、連携の重要性と現状が見えてくる。支援機関の66.1%が「他機関と連携し、複合的な課題に取り組んでいる」と回答しており（3-16）、実際の連携先としては「社会福祉協議会」60.2%、「生活困窮者自立相談支援機関」「地域包括支援センター」がともに50.8%、「障がい者（総合）相談支援センター」48.3%となっている（3-17）。

連携を重視していることはさらに複数の設問でも確認できる。「本人の回復に助けになる働きかけ」として54.2%が「他機関との連携による包括的な支援」を挙げ（3-12）、実際に66.9%が「他の機関との連携、連絡調整」を実施しており（3-9）、さらに55.9%が特に必要性の高い施策として位置づけている（3-10）。

「多様なニーズがあるので、行政だけが支援を組み立てることはできないが、まず、支援機関がしっかり連携できることが必要。特に重層事業を用いたり、介護保険や在宅医療のネットワークなど、行政側が各々の枠の中で手立てを用いながらもつながるために、責任をもち、誰かがコーディネートしなければならない。」（障がい者（総合）相談支援センター・アンケート）

「関係機関との連携の重要性を実感しており、地域包括支援センターなど、さまざまな窓口からの情報を活かした支援を心がけている。」（D市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング）

また職員・スタッフが理解を深めるべきこととして「他機関と連携した複合的な課題への取り組み方」が52.3%と高い割合を示しているものの（3-18）、一方で「関係機関との連携」について「十分理解している」との回答は5.4%にとどまっている状況がある（3-19）。

連携の重要性が認識され実際に取り組まれてもいる中でなお、利用者数の低迷や当事者との接点の創出などの課題解決に向け、さらなる有機的な連携強化が望まれる。

4-3-8 多様な社会参加を可能にする地域の受け皿づくり

当事者、家族、支援機関の三者の回答からは、多様な社会参加の場の不足という共通の課題が浮かび上がった。当事者の69.2%が「社会の中に、無理なく参加できる場が見つからない」と回答しており(1-12)、家族の82.0%が「本人の将来の自立や社会参加への見通しが立たない」ことを悩みとして挙げている(2-14)。これらは多様な社会参加に向けた受け皿の不足を示唆している。

地域の現状を見ると、支援機関の46.6%が「地域にひきこもりに関わる社会資源がない」ことを課題として認識している(3-13)。

「社会資源の不足により、ひきこもり状態の方たちとつながっても、地域で適切な支援が受けられない状況がある」(F生活困窮者自立相談支援機関・ヒアリング)

4-3-9 ひきこもり支援におけるリソース不足

「支援・サービスの課題」では、「ひきこもり支援のための職員不足」「地域にひきこもりに関わる社会資源がない」がともに46.6%と最も多く、次いで「ひきこもりに対する地域や社会の無理解」が36.4%、「支援者向けの研修機会の不足」が33.9%だった(3-13)。

他にもさまざまな課題を感じていることをヒアリングの声から見ていきたい。

「年単位の長期支援が多いため、新規相談が増えるほどスタッフの受け持つケースが積み重なっていくことも課題。対策として面談の間隔を広げたり他機関への紹介を行っているが、継続支援の重要性とのバランスに苦心している。支援の質を落とさずにリソースの制約と折り合いをつけることが難しいと感じている。」(Aひきこもり相談窓口・ヒアリング)

「ひきこもり支援事業の必要性は、福祉現場を知らない上層部には理解しがたいようである。重層支援の重要性が言われる中、相談支援の必要性を理解してもらえないことを強く感じている。(中略)相談支援の重要性を理解されない限り、人的配置も体制づくりもないがしろにされがちである。」(B市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング)

「カフェや農園での訓練など、楽しみながら少しずつ社会参加できる場所を作っているが、行政はコスト削減のためにそういった場所を削る傾向にあるのが残念。」(H就労支援機関(サポステ、障がい・生活支援等)・ヒアリング)

支援に長い時間がかかることや、多くの業務を抱えながらの支援について悩みながら取り組んでいるものの、ひきこもり支援のリソース不足から目指す支援を行うことが難しい様子が見えてくる。

4-3-10 学齢期を過ぎると途切れる支援

支援機関調査からは、支援の継続性に関する課題も浮かび上がってきた。若年層への支援課題として「学齢期（高校生相当まで）を過ぎると支援が途絶えてしまう」が42.4%と高い割合を示している（3-14）。

「中学校卒業後の支援、居場所等がなく社会とのつながりがなくなってしまう」（教育支援機関・アンケート）

「小学校、中学校と不登校で中学卒業時に高校に進学しなかった人が一定数いると思われるが、そのような人への支援の在り方・方法について検討し周知する必要がある。」（民間支援団体（NPO等）・アンケート）

「年齢によって部署や管轄が違う所もあって、縦割りになっている部分もある。そこに横串を刺すような仕組みづくりも必要だと感じている」（G保健所・ヒアリング）

これらの数値と声からは、年齢や制度の狭間で支援が途切れる構造的な問題が見える。次項の広域連携も含めて、柔軟な制度設計や運用、連携、地域資源の不足等とも不可分な課題といえよう。

4-3-11 横（広域）と縦（県と市町）の連携が求められている

家族調査の自由記述やヒアリングには、地元では相談しづらいという声があった。

「（住んでいる地域の）役場の中にも窓口はある。でも、担当者が息子の同級生のお母さんだったりする。だからあまり喋りたくない。相談にのってもらうことに抵抗感がある。」（母親・60代・ヒアリングKさん）

「せまい地元の民生委員とか自治会の人にはあまり話したくない。民生委員は立派な人たちだとは思いますが、「あそこの家の息子は病気で…どうのこうの」みたいなことを近所で言われたくない。」（父親・70代・ヒアリングIさん）

「地元だとわさになるので遠くへ相談に行くならいい。」（母親・50代・アンケート）

一方、前出の通り支援機関調査では「支援・サービスを行う上での課題」（3-13）として「地域にひきこもりに関わる社会資源（就労先、協力者等）がない」と回答した機関が46.6%に上った。特に小規模自治体からは多くの声が挙げられた。

「過疎地域で社会資源も乏しいため、中学卒業後の支援が途切れてしまう。支援においても、専門的な内容になるので、ひきこもり支援センターは広域で実施ができないかと思えます。」（生活困窮者自立相談支援機関・アンケート）

「中学卒業後の相談場所として案内をするのが県（津）教育支援センターというのは、遠すぎて現実味がない。市単独で作っていくのは難しいと思うので、南勢地区に一つでいいから、高校生が行ける教育支援センターがほしい。」（教育支援機関・アンケート）

住んでいる地域以外でも相談ができたり、社会資源にアクセスできるような仕組みづくりが必要なのではないだろうか。居住地の自治体単独で支援するのではなく、近隣地域や地区ごとなど、広範囲での支援機関同士のつながりが必要なのではないかと考える。

一方で、顔見知りの人に知られることへの不安や、噂になるのではないかとという声にも表れているように、広域で支援機関が連携する際も、情報共有のなかで徹底したプライバシーの保護が求められることにも留意したい。プライバシー保護が重視されていることは、当事者調査の「利用しやすい支援の手段や条件」（1-26）で「匿名で相談できる」が46.2%だったことからもうかがえる。

さらに、県と市町の縦の連携に関しても以下のような声があった。

「地理的な制約から遠方からの利用者は少ない。また地元の支援機関には行きづらいと感じる当事者も多い。そこで、県内に複数の同じような居場所の支援拠点を設置し、利用者が地元以外の支援機関も選択できるようにすることで、より多くの人々が支援を受けやすくなるのではないかと。それらの連携をトータル的にコーディネートする機能を県が担うことを望んでいる。」（I民間支援団体（NPO等）・ヒアリング）

「三重県のこころの健康センターや、大きな市にはひきこもり支援センターがあるが、小規模な市町村では専門的な支援を単独で行うのが難しい。担当地域の自治体は人口2万人程度で、隣接市町村も同程度の規模。たとえばこれらの地域が連携し、5つほどの地域で1つの専門的な支援センターを設置することで、より効果的な支援が可能になると考えている。そのような広域でのひきこもり支援センターがあるとより専門的な活動ができると思う。」（F生活困窮者自立相談支援機関・ヒアリング）

「三重県への要望：広域的なひきこもり支援、支援者間のつながり、広報活動、県と市町の連携等」（社会福祉協議会・アンケート）

「県への要望として、自治体の実情と合わせて、一緒に相談に乗ってくれる体制・担当者が欲しい。」（B市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング）

これらの要望では、横（広域）と縦（県と市町）の連携が重なり合うことでより効果的な支援の仕組みを作れるのではないかと、という可能性が示唆されている。「連携」を考えるうえで、異なる機関同士の連携だけでなく、地域の越境や市町と県の連携も検討の必要があるのではないだろうか。

4-3-12 研修や支援者を支える仕組みの必要性について

支援機関調査からは、支援を行う上での課題として支援者が研修不足を感じていることも見えてきた。

「支援・サービスを行う上での課題」では、33.9%が「支援者向けの研修機会の不足」と回答していた（3-13）。また、「若年層（概ね39歳以下）への支援・サービスを行う上で感じている課題」では、「ひきこもりについての知識やノウハウが足りない」が48.3%であり（3-14）、「中高年層（概ね40歳以上）への支援・サービスを行う上で感じている課題」でも同様に41.5%となっている（3-15）。

職員・スタッフの知識、理解度に関する傾向への設問では、「現状や背景」と「当事者の心理」について「ある程度理解している」「十分理解している」を合わせてそれぞれ77.7%、71.6%と比較的高い数値だった一方で、「支援の具体的なノウハウ」については、同54.6%と20ポイント前後低い数値となっていた（3-19）。

また、「職員・スタッフが理解を深めた方が良いと思うこと」では、「支援の具体的なノウハウ」が70.0%と最も多く、次いで「当事者の心理の理解」が63.8%、「長期・高齢ひきこもりケースへの対応方法」が58.5%だった（3-18）。

「少人数での事例検討や実践的な研修の機会を望んでいる。特に、多様なケースに対する具体的な声かけや支援方法、当事者に初めて会えたときの対応など、実践的なスキルを学びたいと考えている。」（E社会福祉協議会・ヒアリング）

「居場所を実現していくための具体的な方法を教わる機会が欲しい。」（B市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング）

「ひきこもり支援の仕組みづくりのノウハウを学びたい」（市町ひきこもり相談窓口・アンケート）

「仕組みや体制のつくり方や整備の仕方、最新の取り組み事例、補助金の活用方法などについての説明会があると助かる。」（D市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング）

「保健師としては事例の蓄積、経験の蓄積が必要であり、保健師が相談できる人がずっと近くにいる体制があれば良いと感じているが、なかなかない。過去の事例や経験に沿ってやる

ことが全部上手くいくとは思わないし、一人ひとり状況も違うが、ヒントになるものとして、誰か相談できる人や場所があるとありがたい。」（G保健所・ヒアリング）

その他、当事者視点を取り入れた支援について、以下のような声があった。

「当事者や家族が講師を務める研修が特に勉強になると感じている。以前、UX会議の研修会に参加した際も、そういった研修が一番勉強になった。県がこのような研修をどんどん開催してくれることを期待している。」（C市町ひきこもり相談窓口・ヒアリング）

これらの声からは、具体的・実践的な支援の方法を学びスキルを高めるための研修に加えて、支援の体制や仕組みをどのようにして構築・整備するかのノウハウについて知りたいという、二つの方向性のニーズがうかがえる。

一方、別視点からの課題も見える。「職員・スタッフが理解を深めた方が良いと思うこと」では「支援者自身のメンタルヘルスとセルフケア」を32.3%が選択している（3-18）一方、「支援・サービスにおいて注力していること」において「支援スタッフのメンタルヘルスのサポートに取り組んでいる」は5.1%と低かった（3-16）。

現場の支援員は、深刻なケースや長期的に結果が出づらいケース、利用にさまざまな配慮を要するなど、心的負担のかかりやすい状況にも対応しながら自身のメンタルを保つ必要がある。スキルアップや能力開発のサポートと、メンタルヘルスケアは両輪で整備していく必要があると思われる。

4-3-13 アウトリーチ支援への認識の差

アウトリーチ支援について、三者の調査結果からは期待と慎重さが見える。

支援機関側は、この支援手法の重要性を強く認識している。81.4%が「自宅などへの訪問（アウトリーチ）」を実施しており（3-9）、71.2%が「特に必要性が高い」支援として挙げている（3-10）。「訪問支援（アウトリーチ）を積極的に行っている」機関も40.7%存在する（3-16）。

一方で、本節4-3-4でも述べたように本人に会うことの難しさについての言及もあった。

「ひきこもりにかかわる支援は大変難しい。アウトリーチを試みてもなかなか会うことができない。」（教育支援機関（教育支援センター等）・アンケート）

当事者調査では、アウトリーチ型支援について「本人の希望があれば、行った方がよい」が69.2%と最も高かった。（1-28）。「利用しやすい支援の手段や条件」としては「支援者が自宅等を訪問して相談に乗ってくれる（アウトリーチ）」を30.8%が望んでいる（1-26）。また家族調査では、「本人に受けてほしい支援」として「訪問支援（アウトリーチ）」は27.9%にとどまっており（2-27）、必ずしも積極的なニーズは見られない。

これらの数字からは、支援機関が重視するアウトリーチ支援について、当事者は「本人の希望」を前提とした慎重な実施を望んでおり、家族は訪問支援の有効性を測りかねているように見える。この認識の違いを踏まえた上で、さらに本人のプライベートな領域に「踏み込んでいく」手法である以上、より深い当事者理解や寄り添う意識、家族と本人とでは意識や希望のギャップがあることへの配慮や関係調整なども含めた実施方法を検討していく必要がある。

第5章

実態調査に基づく「ひきこもり支援」への提言

第5章 実態調査に基づくひきこもり支援への提言

○当事者理解を深めていく

当事者調査からは、当事者が抱える深い絶望感と苦悩の実態が明らかになった。当事者の82.1%が「生きるのが苦しい」「死んでしまいたい」「絶望的な気分になる」と回答している。そうした中で、支援を受けた人々からは「支援者と話がかみ合わなかった」「支援者から説教や説得をされた」ことを理由に支援を中断した人が少なくなかった(4-1-2)。これらの結果が示すように、これまでのひきこもり支援において、この深刻な心理状態への理解は必ずしも十分とはいえない。さらに、根強い社会の偏見が、当事者をますます追い詰める要因となっている。現場の支援者はもちろん、地域社会を含む周囲への当事者理解を促進し、適切な支援につなげるために、下記の取り組みを提案する。

・当事者に寄り添う相談支援体制の整備

支援のペースを当事者に合わせ、まずは傾聴と理解を通じた良好かつ対等な関係構築に重点を置いた支援を行う。

これにより、当事者が安心して自分の思いを語れる関係性を築き、深い苦悩や複雑な背景について丁寧に理解していくことが可能となる。そのための工夫として、職員の傾聴スキル向上のため研修の実施や、可能な限り担当者を替えない体制、やむを得ず交代する場合は丁寧な引き継ぎや申し送りの徹底が求められる。

・家族、地域、社会への啓発活動

家族向け学習会や地域住民向けの講演会等を定期的を開催し、当事者の心情への理解を促進する。「甘えている」「怠けている」等の偏見の解消に向けた啓発活動を通じて、ひきこもりは誰にでも起こりうること、決して他人事ではないことへの理解を広める。

○当事者理解を軸にした研修等の必要性

当事者が支援を受けない理由として、「就労を強く促されるだけだと思う」「十分に話を聞いてもらえないと思う」という声があがっている。また、ヒアリング調査においても、「支援者から心無い言葉を吐かれた」「支援を拒否された」など、支援者に対して強い不信感を持っている人が複数いた。当事者の心情への理解を深めるための支援者研修の充実が求められている。

一方、支援者からは「具体的・実践的な支援能方法を学びスキルを高めたい」という声が多く聞かれた。当事者は個別の事情や背景もさまざまであり、支援する上でマニュアル的なハウツーは存在しない。あるとすれば知識や経験、技術を積み重ねる際に、当事者の声を重視しながら個別の状況に柔軟に応じられるノウハウを蓄積することである。

これらの課題に対応するために、下記のような取り組みを提案したい。

・当事者の心情を理解するための研修会の実施

研修会のプログラムの中に当事者や家族の体験談を聞く枠を設定したり、経験者に講師を依頼するなど、当事者の声を直接聞きその実態や心情を理解するための工夫をする。

・対話交流会の開催

当事者や家族、支援者が共に対話・交流できるような場を設け、当事者や家族の心情や要望について直接聞ける機会をつくる。

・当事者や家族の声を施策に反映

協議会などの会議体をつくる際には、その構成員として当事者や家族も参加し、意見を施策に反映できるようにする。また、相談窓口や居場所等を設置する際には、当事者や家族の意見を積極的に取り入れ、よりつながりやすく、安心して利用できるようなものにする。

・他機関への視察、研修

ひきこもり当事者や経験者と連携して支援を進めている他自治体や他機関への視察、研修を実施する。

○無理なく参加できる多様な社会参加の場・支援

本調査からは、就労以前に、当事者のペースで無理なく社会との接点を持てる場や、現状のままの自分でいられる場が求められていることがわかった(4-1-7)。当事者の多様なニーズに応え、当事者の状態にあった無理のない社会参加を実現するために、下記の取り組みを提案する。

・当事者が安心して過ごせる居場所の整備

「いつでも自由に行けて、自由に過ごせる場」「役割があり、手伝えることがある場」「当事者・経験者同士が交流できる場」など、当事者が希望に応じて選択できるよう、多様な居場所を設置する。同じ経験を持つ人との出会いや交流を通じて、互いの経験を分かち合い、支え合える関係性を築ける場とする。

・生きづらさを軽くするための当事者向け講座の実施

当事者が抱える生きづらさに焦点を当てた講座を開催する。各分野の専門家（ひきこもり経験者を含む）による講座と参加者同士の対話を通じ、安心できる環境の中で、自分のペースで学び、学びと対話による気づきを得られるプログラムを実施する。

・オンラインによる参加機会の拡充

対面での活動に不安を感じたり、外出が困難な当事者のために、「Zoomなどのビデオ通話による交流」「チャットによる交流・相談」「メタバースなどオンラインでのアバターを使った交流」などの場を広げていく。地域に居場所や交流の場がない当事者も参加できるようにする。

・地域の社会資源の発掘と活用

地域活動団体やNPO、企業などから当事者が参加可能な機会を積極的に見出し、活用を図る。三重県の進める農福連携やボランティアの現場など、当事者の興味や関心に応じた多分野かつ多様な参加の機会を用意する。その際、「ひきこもりの課題」と「地域の課題」を掛け合わせて、当事者の経験や価値観を活かせ、かつ地域の課題解決ともなる現場やプログラムを創出することも有効な視点の一つであると考えられる。

・相談窓口での案内体制の整備

相談窓口では、各居場所や活動に関する必要な情報を整理し、的確に提供できる体制を整える。当事者の状態や意向を確認しながら、適切な社会参加の機会を案内し、継続的な支援につなげる体制を構築する。

・専門家による無料の心理カウンセリングの整備

当事者の多くが「うつ状態や不安などの、こころの不調」をひきこもりのきっかけとして挙げており、心理的支援の必要性が高い。しかし、心理カウンセリングは基本的に保険適用外^{*1}のため高額（三重県の平均：4,867円^{*2}）となり、受診の障壁となっている。そのため、専門家による心理カウンセリングを無料か低額で受けられる体制を整備し、当事者が必要な心理的支援を継続的に受けられる環境を整える。また、対面でのカウンセリングに加え、オンラインや電話によるカウンセリングなど、当事者の状況や希望に応じて選択できる多様な相談形態を用意することも重要である。

^{*1}うつ病などの気分障害等で医師および看護師による認知行動療法を受けた場合や、医師による精神疾患の通院・在宅精神療法を受けた場合など、条件によって保険診療が適用される

^{*2}認知行動療法カウンセリングセンター調べ（2023年）、カウンセリング1回50分料金換算

○当事者の状況に応じた柔軟な就労支援体制・就労の場

当事者調査から、当事者の多くは就労そのものを否定しているわけではなく、画一的な就労支援や、働くことを急かされることに不安や抵抗感を持っていることがわかった（4-1-8）。当事者のペースや心情に寄り添った就労支援を実現するために、下記の取り組みを提案する。

・段階的な就労支援の実施

働くことに意欲や関心がある当事者に対しては、いきなり一般就労を目指すのではなく、まずは短時間の就労体験など、負担の少ない活動から始める。当事者の状態や希望に応じて、徐々にステップアップしていけるプログラムを用意することで、自分のペースで無理をせず着実に自信を積み重ねられる環境を整える。

・継続的な伴走型支援体制の整備

当事者は「社会生活に必要な知識や常識、経験の不足」「失敗に対する恐れや不安」といった多くの不安を抱えている。就労に向けた一つひとつのステップで生じる不安に対して、継続的なサポートが必要となる。また、就労を実現できたとしても、職場になじめない、気力・体力が続かないなど、さまざまな困難に直面することも多い。そのため、就労準備段階から就労後まで一貫して相談できる伴走型の支援体制を構築する。

・当事者に配慮した職場環境の開拓

企業向けのセミナーの開催や個別訪問を通じて、「短時間勤務」「在宅勤務」「体力的な負担の少ない業務」など、当事者に適した働き方への協力を依頼し、受け入れ可能な企業をリスト化する。また、職場実習の受け入れ企業を募り、段階的な就労に向けた体制を構築する。

・多様な働き方の選択肢の創出

在宅でできる仕事や、従来の一般就労にとらわれない働き方の場を設ける。テレワークを活用した働き方の導入を企業に働きかけ、選択肢の幅を広げる。また、現在全国の複数の自治体で導入されている「超短時間雇用」に組み込み、当事者が無理のない範囲で安心して働ける職場を作っていく。

○当事者や家族のプライバシー保護の徹底

当事者や家族は匿名相談を希望するなど、プライバシーの保護や自分のことを他者に知られないこと、噂されないことを望んでいる（4-3-11）。プライバシーや守秘義務に関する取り組みも重要だと考え、以下の取り組みを提案する。

・プライバシー保護の徹底

守秘義務や情報管理を強化し支援利用者のプライバシー保護に努めるとともに、社会福祉法（106条の6など）に基づいた適切な運用を行なう。

・匿名で相談できる

秘密が守られることを明示し、匿名で相談できる電話相談やメール相談、LINE相談などを設置する。

・職員教育の実施

守秘義務や配慮ある対応について定期的に研修を行う。

○家族へのサポートを拡充する

家族調査では、家族が焦りや不安、疲労を抱えていることが明らかになった（4-2-1）。見通しの立たない状況の中、家庭外では相談しづらく社会的に孤立している。家族自身が悩みを話せる場を増やし、自身をケアしていくために下記の取り組みを提案をする。

・家族の心理的サポートの必要性

相談窓口において、本人の支援だけでなく、家族の心身の疲労や将来への不安にも丁寧に寄り添う支援を行う。必要に応じて医療機関や福祉サービスなど、適切な支援機関につなぐコーディネーターも実施する。

・家族のためのコミュニティづくり

同じような悩みを持つ家族同士が交流できる場（家族会等）をつくり、共感を得たり、情報共有ができる環境を整備する。その際、居住地域の条件がなく参加できることが望ましい。

・親亡き後に向けて

「親亡き後の本人の生活」に不安を感じている家族に対して、福祉や支援制度、相続に関する情報提供を行う。状況に応じて行政書士やファイナンシャルプランナーなどの専門家と相談できるようにする。

・兄弟姉妹へのサポート

「8050問題」と言われる、当事者と親の高年齢化が進む中、親亡き後に不安を抱える兄弟姉妹へのサポートも必要となっている。親が参加する家族会とは別に「兄弟姉妹の会」を立ち上げ、情報共有や分かち合いの時間を持てるようにする。また、兄弟姉妹が遠方で暮らしている場合もあることから、自治体間でどのように連携を取るか検討していく必要がある。

○家族と当事者の相互理解を促進する支援体制の整備

家族調査からは、家族関係の良不良と当事者の状態の改善や悪化に相関があることが推測された（4-2-5）。しかし、家族はその焦りや将来への不安、固定化された旧来の価値観等から、当事者の心情への理解が十分でない状況も見られる。家族と当事者の相互理解を促進するために、下記の取り組みを提案する。

・家族向け研修・講演会の実施

当事者や経験者、専門家や支援者を講師とした研修会や講演会を定期的に開催する。ひきこもりの多様な背景や当事者の心理状態についての理解を深め、家族としての適切な関わり方を学ぶ機会とする。

・支援者による家族関係の調整

支援者が家族と当事者の間に入り、当事者の思いを「通訳」する役割を担う。家族が当事者の苦しさや焦り、自己否定感を理解することで、当事者が安心して家の中で過ごせるようにする。家族関係の修復や調整を支援者の立場からサポートし、相互理解の促進を図る。

○支援機関の周知活動の強化

いずれの調査でも、ひきこもり支援情報や発信が不足していることが明らかになった。当事者調査では支援・サービスを利用しない理由として、「支援があることを知らなかったから」が60.0%と最も高かった。また、周知不足によって、支援機関が活用されていないという実態もある。支援機関の認知度を向上させ、当事者や家族が情報にアクセスしやすくするために、下記の取り組みを提案する。

・地域メディアでの周知強化

支援機関やサービスの情報、ポータルサイト、SNSアカウントについて自治体の広報誌や回覧板に掲載する。具体的な相談窓口、支援内容、利用事例を記載し、当事者や家族が実際の利用イメージを持てるようにする。講演会など幅広い対象者向けに催しを行う場合は、メディアへの広報、民生児童委員、教育関係機関等にも知らせ、チラシは県内の公共施設や支援施設、病院、スーパー、コンビニなどに配架するなど情報チャネルの拡充を図る。

・支援利用のハードルを下げる広報活動

「支援」を受けるとどのような利点があるのか、誰を対象にしているのかがわかりにくいと感じている当事者・家族は多い(4-3-2、4-3-3)。チラシなどの制作物やSNSでの発信の際に、支援の対象者が誰なのかをわかりやすく明示し、相談内容の具体例を紹介するようなメッセージを発信する。また、チラシやリーフレット等は手に取りたいと思うような、対象者の関心を引くデザインや言葉づかいを意識する。必要に応じて当事者向け広報を学ぶ研修を実施する。

○支援機関間の連携体制（多機関連携）の強化

他機関との連携の重要性(4-3-7)で述べられているように、各機関が支援領域を越えて連携する重要性が認識されている。ひきこもり支援は複合的な課題が絡み合っているケースに対応する機会が多く、包括的かつ効率的に対応できる体制を構築することが求められる。それを踏まえて下記のような取り組みを提案する。

・連携を強化する協議会・連絡会の設置

行政機関、地域包括支援センター、社会福祉協議会、医療機関、教育委員会、民間支援団体、当事者会、家族会などが定期的に集まり、各団体の活動内容や強み、情勢等を共有し、ひきこもり支援のネットワークを形成・強化する。

・連携に関する研修会の実施

ひきこもり支援機関か否かにかかわらず、福祉、教育、医療などに関わる職員を対象に、他機関との連携方法や連携による成功事例を共有する研修会を実施し、切れ目のない連携体制を整備する。

・連携強化のための財政支援

三重県や市町が、上記研修会の費用などを助成する。

○広域連携の強化

広域での連携を強化することで、地元では相談しづらいと感じる人々も支援が利用しやすくなり、人的資源や社会資源が十分ではない地域でも包括的かつ専門的な支援が利用できるようになる。個人のプライバシーを尊重しつつ、選択肢を広げる支援体制を整えることは、ひきこもり支援の質を向上させることになると思う。このため、下記の取り組みを提案する。

・行政区画を越えた連携の促進

地元では相談しづらいと感じている当事者や家族がいること、また、社会資源が限られていたり、小規模自治体では難しい支援ケースに対応するために、前出の協議会や連絡会の広域プラットフォームを構築するなど、近接する複数の自治体が連携して支援体制を整え、広域的な協力を推進する。

・支援ネットワークの可視化

ひきこもりに関する社会資源マップを制作し、多様な選択肢があることがひと目でわかる広報ツールとして全域の各種施設等に配架する。

○支援者支援

複合的な支援が求められる中、限られた人員や予算で動かなくてはならない支援者の苦悩もうかがえた（4-3-9）。

そのような中で専門的かつデリケートな業務に携わる支援者を支えていくことも必要だと思われることから、下記のような取り組みを提案したい。

・支援者の孤立を防ぐ職場環境づくり

心的負担の大きいケース対応などで支援者がひとりで抱え込み孤立やメンタルダウンしないよう、上司や同僚に気軽に相談できる職場の環境づくりが必要である。また、スーパービジョン*を取り入れるなど、専門家の意見を聞く機会も有効だと思われる。

* 対人援助の専門職において初学者（スーパーバイザー）が指導者（スーパーバイザー）から対人援助法に基づいた指導や助言を受ける訓練方法

・支援者交流会の実施

他自治体、他機関の支援者同士で集い、日頃の悩みやアイデア等を交換できるような交流会を実施する。

・成果基準の見直し

ひきこもり支援は長期にわたることが常であり、数値化したり目に見える成果は出づらいつつ傾向があり、そのことで支援者の自己効力感が下がったり疲弊してしまう場合がある。就労件数等のみで成果を測るのではなく、当事者の前向きな変化や、居場所やボランティアへの参加等のスモールステップも含めた成果基準を設けることで、支援のモチベーションや有用感が継続できるような環境づくりを進める。

○アウトリーチ型支援に求められること

今回の調査では、支援者がアウトリーチ型支援の必要性を強く感じている一方で、当事者の多くは「本人の希望がある場合のみ」実施すべきと考えていることが明らかになった（4-3-13）。

自傷や他害の可能性がある場合など例外的なケースもあるが、本人の同意が無く行われるアウトリーチは、言わば「侵入」と同義であり、本人の最後の「砦」「聖域」に踏み込むことになる。

支援者調査では、アウトリーチ型支援で本人に会えない、との声が多くあったがまずは「会わない」「会えない」という本人の心情を想像し寄り添うことが必要ではないだろうか。アウトリーチは主に家族からの要請で実施されることが多いが、家族と当事者の心情、希望・意向は得てして合致しないことにも留意する必要がある。

その上で、アウトリーチ型支援について下記を提案したい。

・ 本人の要望や同意なしに行わない

本人に直接対面するためのアウトリーチ型支援については、原則として本人の要望もしくは同意がある場合にのみ行う。同意を得る方法としては、家族を通じた伝言、手紙やリーフレットの活用など、本人の状況に応じた、心理的な安全性に最大限配慮した丁寧なアプローチを行う必要がある。

・ 本人に会うことを一義的に目指さない

アウトリーチ型支援に限らないが、支援者に会うかどうかやそのタイミングは、本人が決めることである。今、支援者の目の前に居るのが家族である場合、困難を抱えるその家族自身を支えることに注力することが重要である。家族が本人を理解し、不安や焦りが軽減されれば家庭内の雰囲気も変わっていく。家庭の居心地がよくなれば心身の可動域が広がる。それこそが本人にとって何よりの「支援」となる。

・ 家族支援のためのアウトリーチ

家族の話を聴く、相談に乗るなど、家族のために行うアウトリーチ型支援については、支援者が家を訪れることや、本人に会うためではなく家族のために来ることを何らかの手段で伝えたくて、実施することが望ましい。

おわりに

本報告書は、ひきこもり当事者/経験者、ご家族、支援機関からたくさん声を寄せていただいたおかげで完成したものです。この、三者の方々のリアルな声やデータがひとつにまとめられた書誌は、画期的な一冊と言って差し支えないだろうと思います。

ただ、支援者の方々にとってはもしかしたら耳が痛い、厳しい声も多かったのではないのでしょうか。現状の支援に対する指摘やたくさんの提言を数多く記載することとなりました。

当事者に相談に来てほしいのに会えない、という支援者の声も多く聞かれました。そこでもうひとつ提案があります。当事者に「あなたの力を貸してほしい」と呼びかける、というものです。

私たちは当事者の人たちの多くが、誰かの力になることや社会に貢献すること、人を喜ばせることが本当はしたいんだ、と語るのを聞いてきました。支援という仕事を選んだ、あなたと同じです。

支援について互いに知恵を出し合い、信頼関係を築いていく。三重県にはそんな相互協力的な支援のモデルになってほしいと思いながらこの報告書をつくりました。会いたかった当事者に会うために、そしていつか会えたときのために、この報告書がお役に立てることを心から願っています。

最後に、調査にご協力いただいた皆さまに、改めてこの場を借りてお礼を申し上げます。

一般社団法人ひきこもりUX会議

付録

単純集計・当事者/経験者調査

単純集計・家族調査

単純集計・支援機関調査

調査票・当事者/経験者調査

調査票・家族調査

調査票・支援機関調査

調査実施告知チラシ

単純集計・当事者/経験者調査

問2. あなたが現在お住まいの市町を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
名張市	2	5.1	5.1	97.4
伊賀市	1	2.6	2.6	92.3
松阪市	5	12.8	12.8	76.9
津市	3	7.7	7.7	64.1
明和町	1	2.6	2.6	79.5
熊野市	1	2.6	2.6	100.0
伊勢市	4	10.3	10.3	89.7
鈴鹿市	8	20.5	20.5	53.8
桑名市	4	10.3	10.3	10.3
四日市市	4	10.3	10.3	33.3
いなべ市	3	7.7	7.7	17.9
木曾岬町	1	2.6	2.6	20.5
東員町	1	2.6	2.6	23.1
亀山市	1	2.6	2.6	56.4
合計	39	100.0	100.0	

問3. あなたの年齢を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
17歳	1	2.6	2.6	2.6
21歳	1	2.6	2.6	5.1
24歳	1	2.6	2.6	7.7
25歳	1	2.6	2.6	10.3
26歳	1	2.6	2.6	12.8
28歳	1	2.6	2.6	15.4
29歳	2	5.1	5.1	20.5
31歳	4	10.3	10.3	30.8
33歳	1	2.6	2.6	33.3
34歳	3	7.7	7.7	41.0
37歳	1	2.6	2.6	43.6
38歳	3	7.7	7.7	51.3
39歳	1	2.6	2.6	53.8
41歳	2	5.1	5.1	59.0
42歳	1	2.6	2.6	61.5
43歳	2	5.1	5.1	66.7
44歳	1	2.6	2.6	69.2
45歳	1	2.6	2.6	71.8
46歳	3	7.7	7.7	79.5
47歳	2	5.1	5.1	84.6
48歳	2	5.1	5.1	89.7
51歳	1	2.6	2.6	92.3
52歳	2	5.1	5.1	97.4
60歳	1	2.6	2.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問4. あなたの性別（性自認）を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 男性	18	46.2	46.2	46.2
女性	17	43.6	43.6	89.7
その他	0	0.0	0.0	89.7
無回答	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問5. 現在、あなたと同居している人はいますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 いる	33	84.6	84.6	84.6
いない（単身世帯）	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問6. 現在、あなたは誰と同居していますか。【あてはまるものすべて】_1_父

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	11	28.2	33.3	33.3
あてはまる	22	56.4	66.7	100.0
合計	33	84.6	100.0	
欠損値 非該当	6	15.4		
合計	39	100.0		

問6_2_母

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	6	15.4	18.2	18.2
あてはまる	27	69.2	81.8	100.0
合計	33	84.6	100.0	
欠損値 非該当	6	15.4		
合計	39	100.0		

問6_3_兄弟姉妹

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	29	74.4	87.9	87.9
あてはまる	4	10.3	12.1	100.0
合計	33	84.6	100.0	
欠損値 非該当	6	15.4		
合計	39	100.0		

問6_4_祖父母

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	74.4	87.9	87.9
	あてはまる	4	10.3	12.1	100.0
	合計	33	84.6	100.0	
欠損値	非該当	6	15.4		
合計		39	100.0		

問6_5_配偶者／パートナー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	28	71.8	84.8	84.8
	あてはまる	5	12.8	15.2	100.0
	合計	33	84.6	100.0	
欠損値	非該当	6	15.4		
合計		39	100.0		

問6_6_子

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	76.9	90.9	90.9
	あてはまる	3	7.7	9.1	100.0
	合計	33	84.6	100.0	
欠損値	非該当	6	15.4		
合計		39	100.0		

問6_7_上記以外の親族

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	84.6	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	6	15.4		
合計		39	100.0		

問6_8_親族以外の人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	84.6	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	6	15.4		
合計		39	100.0		

問7. あなたは、これまでに「ひきこもり」の経験がありますか。現在の状況も含めてお答えください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
現在、「ひきこもり」である	27	69.2	69.2	69.2
過去に「ひきこもり」だったが、現在はそうではない	12	30.8	30.8	100.0
「ひきこもり」の経験はない	0	0.0	0.0	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問8. あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。もっとも近いものを選択してください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
仕事や学校で平日は毎日外出する	0	0.0	0.0	0.0
仕事や学校で週3～4日外出する	0	0.0	0.0	0.0
遊び等で頻繁に外出する	1	2.6	3.7	3.7
人付き合いのためにとどき外出する	2	5.1	7.4	11.1
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事ときは外出する	11	28.2	40.7	51.9
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	10	25.6	37.0	88.9
自室からは出るが、家からは出ない	2	5.1	7.4	96.3
自室からほとんど出ない	1	2.6	3.7	100.0
合計	27	69.2	100.0	
欠損値				
非該当	12	30.8		
合計	39	100.0		

問9. あなたの「ひきこもり」期間（のべ）について教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
6ヶ月未満	4	10.3	10.3	10.3
6ヶ月～1年未満	0	0.0	0.0	10.3
1年～2年未満	5	12.8	12.8	23.1
2年～3年未満	2	5.1	5.1	28.2
3年～5年未満	5	12.8	12.8	41.0
5年～7年未満	6	15.4	15.4	56.4
7年～10年未満	2	5.1	5.1	61.5
10年～15年未満	5	12.8	12.8	74.4
15年～20年未満	4	10.3	10.3	84.6
20年～25年未満	3	7.7	7.7	92.3
25年～30年未満	2	5.1	5.1	97.4
30年以上	1	2.6	2.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問10. これまでに、継続的にひきこもったことは何回ありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1回	14	35.9	35.9	35.9
2回	11	28.2	28.2	64.1
3回	8	20.5	20.5	84.6
4回	2	5.1	5.1	89.7
5回以上	3	7.7	7.7	97.4
無回答	1	2.6	2.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問11. あなたの「ひきこもり」の原因やきっかけは何ですか。【あてはまるものすべて】_1_親との関係

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	27	69.2	69.2	69.2
あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問11_2_ (親以外との) 人間関係がうまくいかなかった

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問11_3_ からだの不調・病気・障がい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	21	53.8	53.8	53.8
あてはまる	18	46.2	46.2	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問11_4_ うつ状態や不安などの、こころの不調

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	11	28.2	28.2	28.2
あてはまる	28	71.8	71.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問11_5_ 統合失調症

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問11_6_気分障害、不安障害

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
	あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_7_発達障害

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
	あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_8_人からどう見られているかという不安や恐怖

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	48.7	48.7
	あてはまる	20	51.3	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_9_人との会話、コミュニケーションへの苦手意識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
	あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_10_学校でのいじめ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
	あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_11_不登校

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	23	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	16	41.0	41.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_12_就職活動がうまくいかなかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
	あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_13_職場になじめなかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	24	61.5	61.5	61.5
	あてはまる	15	38.5	38.5	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_14_職場でのいじめやハラスメント

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	74.4	74.4	74.4
	あてはまる	10	25.6	25.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_15_失業、離職

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	69.2	69.2	69.2
	あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_16_定年退職

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	39	100.0	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_17_新型コロナウイルス感染症が流行したこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	87.2	87.2	87.2
	あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_18_性自認や性的指向についての悩み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	97.4	97.4	97.4
	あてはまる	1	2.6	2.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_19_わからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
	あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問11_20_その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	34	87.2	87.2	87.2
あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12. ひきこもり状態のときのあなたの心情を教えてください。【あてはまるものすべて】_1_家族に申し訳ないと思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	11	28.2	28.2	28.2
あてはまる	28	71.8	71.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12_2_自分のことが嫌いだとよく思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12_3_他人がどう思っているのか不安

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12_4_生きるのが苦しいと感じることがある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	7	17.9	17.9	17.9
あてはまる	32	82.1	82.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12_5_知り合いに会いたくない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12_6_死んでしまいたいと思うことがある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	7	17.9	17.9	17.9
あてはまる	32	82.1	82.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問12_7_人に会うのが怖いと感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	38.5	38.5	38.5
	あてはまる	24	61.5	61.5	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_8_絶望的な気分になることがよくある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	7	17.9	17.9	17.9
	あてはまる	32	82.1	82.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_9_このままではいけないと強い焦りを感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	11	28.2	28.2	28.2
	あてはまる	28	71.8	71.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_10_強い怒りや憤りを感じている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	48.7	48.7
	あてはまる	20	51.3	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_11_一時的に安心感を得られる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
	あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_12_気持ちが楽だと感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
	あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_13_当てはまるものはない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	39	100.0	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問12_14_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	92.3	92.3	92.3
	あてはまる	3	7.7	7.7	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13. あなたがひきこもり状態から抜け出すことを妨げている、または妨げていた要因は何だと思
いますか。【あてはまるものすべて】_1_自分を理解してくれる人がひとりもない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	22	56.4	56.4	56.4
	あてはまる	17	43.6	43.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_2_自分を否定的に捉えてしまうこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	48.7	48.7
	あてはまる	20	51.3	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_3_コミュニケーションへの苦手意識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	41.0	41.0	41.0
	あてはまる	23	59.0	59.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_4_失敗に対する恐れや不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
	あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_5_過去のトラウマやネガティブな経験の記憶

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	35.9	35.9	35.9
	あてはまる	25	64.1	64.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_6_社会生活に必要な知識や常識、経験の不足

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
	あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_7_からだの不調、病気、障がい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	48.7	48.7
	あてはまる	20	51.3	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_8_精神的な不調、病気、障がい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	11	28.2	28.2	28.2
	あてはまる	28	71.8	71.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_9_生きる意欲や気力の低下

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	35.9	35.9	35.9
	あてはまる	25	64.1	64.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_10_自分に合った相談先や支援機関が見つからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	38.5	38.5	38.5
	あてはまる	24	61.5	61.5	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_11_家族からの理解や協力が得られない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	69.2	69.2	69.2
	あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_12_ひきこもりに対する社会の偏見や差別への恐れ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	64.1	64.1	64.1
	あてはまる	14	35.9	35.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_13_現状を打開するための方法や解決策がわからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	33.3	33.3
	あてはまる	26	66.7	66.7	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_14_「ふつう」になりたいが、方法がわからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	30.8	30.8
	あてはまる	27	69.2	69.2	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_15_社会の中に、無理なく参加できる場が見つからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	30.8	30.8
	あてはまる	27	69.2	69.2	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_16_学校や仕事、社会のあり方に違和感がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	23	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	16	41.0	41.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_17_支援に良いイメージが持てず、利用に対する抵抗感がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	64.1	64.1	64.1
	あてはまる	14	35.9	35.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_18_現在の生活に満足しているから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	97.4	97.4	97.4
	あてはまる	1	2.6	2.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問13_19_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
	あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問14. あなたは現在、生活費に困っていますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
とても困っている	12	30.8	30.8	30.8
やや困っている	11	28.2	28.2	59.0
どちらともいえない	8	20.5	20.5	79.5
あまり困っていない	7	17.9	17.9	97.4
まったく困っていない	1	2.6	2.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問15. あなたの以下の家族との関係性について教えてください。_1_父親

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
良い	5	12.8	12.8	12.8
どちらかといえば良い	7	17.9	17.9	30.8
どちらともいえない	13	33.3	33.3	64.1
どちらかといえば悪い	5	12.8	12.8	76.9
悪い	5	12.8	12.8	89.7
いない	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問15_2_母親

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
良い	10	25.6	25.6	25.6
どちらかといえば良い	13	33.3	33.3	59.0
どちらともいえない	8	20.5	20.5	79.5
どちらかといえば悪い	1	2.6	2.6	82.1
悪い	4	10.3	10.3	92.3
いない	3	7.7	7.7	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問15_3_兄弟姉妹

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
良い	3	7.7	7.7	7.7
どちらかといえば良い	7	17.9	17.9	25.6
どちらともいえない	7	17.9	17.9	43.6
どちらかといえば悪い	4	10.3	10.3	53.8
悪い	7	17.9	17.9	71.8
いない	7	17.9	17.9	89.7
無回答	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問15_4_配偶者/パートナー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	良い	2	5.1	5.1	5.1
	どちらかといえば良い	3	7.7	7.7	12.8
	どちらともいえない	2	5.1	5.1	17.9
	いない	25	64.1	64.1	82.1
	無回答	7	17.9	17.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問16. 現在のあなたの就学・就労状況について教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	勤めている（正社員）	3	7.7	7.7	7.7
	勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）	3	7.7	7.7	15.4
	学生／予備校生	1	2.6	2.6	17.9
	自営業／フリーランス	4	10.3	10.3	28.2
	派遣会社などに登録しているが現在は働いていない	0	0.0	0.0	28.2
	専業主婦／主夫	2	5.1	5.1	33.3
	家事手伝い	4	10.3	10.3	43.6
	無職	20	51.3	51.3	94.9
	その他	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問17. あなたが働くことを考える際に、どのような職場環境・労働条件であれば働きたいと思えますか。【あてはまるものすべて】_1_短時間（1日4時間程度）から働ける

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	35.9	50.0	50.0
	あてはまる	14	35.9	50.0	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_2_ごく短時間（1日15分程度）から働ける

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	22	56.4	78.6	78.6
	あてはまる	6	15.4	21.4	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_3_期間限定（3か月等）で働ける

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	23	59.0	82.1	82.1
	あてはまる	5	12.8	17.9	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_4_上司や同僚がひきこもりに理解がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10	25.6	35.7	35.7
	あてはまる	18	46.2	64.3	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_5_業務内容が自分の興味・関心に合っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	41.0	57.1	57.1
	あてはまる	12	30.8	42.9	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_6_メンタルヘルスへのサポート体制がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	46.4	46.4
	あてはまる	15	38.5	53.6	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_7_失敗が許容される

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	35.9	50.0	50.0
	あてはまる	14	35.9	50.0	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_8_生活が安定する収入を得られる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	64.3	64.3
	あてはまる	10	25.6	35.7	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_9_正社員として働ける

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	24	61.5	85.7	85.7
	あてはまる	4	10.3	14.3	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_10_業務内容や手順を事前に明確に提示してくれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	67.9	67.9
	あてはまる	9	23.1	32.1	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_11_通勤の必要がない（在宅勤務やテレワーク）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	22	56.4	78.6	78.6
	あてはまる	6	15.4	21.4	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_12_体力的な負担が少ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	42.9	42.9
	あてはまる	16	41.0	57.1	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_13_どのような条件であっても働くことは考えられない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	64.1	89.3	89.3
	あてはまる	3	7.7	10.7	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問17_14_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	26	66.7	92.9	92.9
	あてはまる	2	5.1	7.1	100.0
	合計	28	71.8	100.0	
欠損値	非該当	11	28.2		
合計		39	100.0		

問18. あなたは、以下の機関がひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っていますか。支援・サービスを行っていることを知っている機関を選んでください。_1_三重県ひきこもり地域支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	64.1	64.1	64.1
	あてはまる	14	35.9	35.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問18_2_市町ひきこもり相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	64.1	64.1	64.1
	あてはまる	14	35.9	35.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問18_3_社会福祉協議会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
	あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問18_4_生活困窮者自立相談支援機関

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	87.2	87.2	87.2
	あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問18_5_福祉事務所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	33	84.6	84.6	84.6
あてはまる	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_6_保健所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_7_保健センター

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	34	87.2	87.2	87.2
あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_8_地域包括支援センター

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_9_在宅介護支援センター

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_10_児童相談所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	36	92.3	92.3	92.3
あてはまる	3	7.7	7.7	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_11_障がい者（総合）相談支援センター

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_12_就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	22	56.4	56.4	56.4
あてはまらない				
あてはまる	17	43.6	43.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_13_医療機関（精神科・クリニック）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	27	69.2	69.2	69.2
あてはまらない				
あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_14_教育支援機関（教育支援センター等）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	35	89.7	89.7	89.7
あてはまらない				
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_15_民生委員・児童委員

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	34	87.2	87.2	87.2
あてはまらない				
あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_16_民間支援団体（NPO等）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	31	79.5	79.5	79.5
あてはまらない				
あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_17_家族会・当事者会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	28	71.8	71.8	71.8
あてはまらない				
あてはまる	11	28.2	28.2	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問18_18_上記の機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	31	79.5	79.5	79.5
あてはまらない				
あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

Q18_機関19_その他V

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
	あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19. あなたはひきこもり支援を行う機関を何で知りましたか。【あてはまるものすべて】_1_家族

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
	あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19_2_友人や知人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
	あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19_3_支援者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
	あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19_4_本や雑誌

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	92.3	92.3	92.3
	あてはまる	3	7.7	7.7	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19_5_自治体の広報紙や回覧板

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
	あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19_6_新聞、テレビ、ラジオ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	87.2	87.2	87.2
	あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問19_7_チラシ、パンフレット

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	33	84.6	84.6	84.6
あてはまる	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_8_支援機関のウェブサイト

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_9_SNS

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_10_インターネット検索

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	20	51.3	51.3	51.3
あてはまる	19	48.7	48.7	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_11_当事者会や家族会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	36	92.3	92.3	92.3
あてはまる	3	7.7	7.7	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_12_ひきこもりに関する講演会やイベント

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_13_どこで知ったか覚えていない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問19_14_ひきこもり支援を行う支援機関は知らない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	87.2	87.2
	あてはまる	5	12.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0

問19_15_その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	39	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0

問20. あなたはひきこもりに関わる支援・サービスを利用しているか、または過去に利用したことがありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	現在利用している	10	25.6	25.6
	過去に利用したことがあるが、現在は利用していない	9	23.1	48.7
	今まで一度も利用したことはない	20	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0

問21. あなたが利用したことがある支援・サービスを以下から選んでください。【あてはまるものすべて】_1_三重県ひきこもり地域支援センター

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	100.0
	あてはまる	0	0.0	100.0
欠損値	非該当	20	51.3	
合計		39	100.0	

問21_2_市町ひきこもり相談窓口

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	63.2
	あてはまる	7	17.9	100.0
	合計	19	48.7	100.0
欠損値	非該当	20	51.3	
合計		39	100.0	

問21_3_社会福祉協議会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	38.5	78.9	78.9
	あてはまる	4	10.3	21.1	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_4_生活困窮者自立相談支援機関

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_5_福祉事務所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	89.5	89.5
	あてはまる	2	5.1	10.5	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_6_保健所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	100.0	100.0
	あてはある	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_7_保健センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_8_地域包括支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_9_在宅介護支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_10_児童相談所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	94.7	94.7
	あてはまる	1	2.6	5.3	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_11_障がい者（総合）相談支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	89.5	89.5
	あてはまる	2	5.1	10.5	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_12_就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	11	28.2	57.9	57.9
	あてはまる	8	20.5	42.1	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_13_医療機関（精神科・クリニック）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10	25.6	52.6	52.6
	あてはまる	9	23.1	47.4	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_14_教育支援機関（教育支援センター等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	94.7	94.7
	あてはまる	1	2.6	5.3	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_15_民生委員・児童委員

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	94.7	94.7
	あてはまる	1	2.6	5.3	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_16_民間支援団体（NPO等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	94.7	94.7
	あてはまる	1	2.6	5.3	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_17_家族会・当事者会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	35.9	73.7	73.7
	あてはまる	5	12.8	26.3	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問21_18_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	94.7	94.7
	あてはまる	1	2.6	5.3	100.0
	合計	19	48.7	100.0	
欠損値	非該当	20	51.3		
合計		39	100.0		

問22. 過去に支援が中断したことがある方にお聞きします。支援が中断した理由を教えてください。【あてはまるものすべて】_1. 交通費や交通の手段がなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	80.0	80.0
	あてはまる	3	7.7	20.0	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_2. 支援を受けることに漠然とした不安や恐怖を感じたから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	86.7	86.7
	あてはまる	2	5.1	13.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_3. 十分に話を聞いてもらえなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	11	28.2	73.3	73.3
	あてはまる	4	10.3	26.7	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_4. 支援内容や雰囲気合わなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	9	23.1	60.0	60.0
	あてはまる	6	15.4	40.0	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_5. 恥ずかしさや後ろめたさを感じたから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	80.0	80.0
	あてはまる	3	7.7	20.0	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_6. 支援者から人として対等に扱われなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10	25.6	66.7	66.7
	あてはまる	5	12.8	33.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_7. 周りの人に知られてしまうと思ったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	38.5	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5	100.0	
合計		39	100.0		

問22_8. 効果を感じられなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	7	17.9	46.7	46.7
	あてはまる	8	20.5	53.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_9. 担当者が替わったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	38.5	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_10. 支援者と話がかみ合わなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	7	17.9	46.7	46.7
	あてはまる	8	20.5	53.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_11. 支援者から説教や説得をされたから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	9	23.1	60.0	60.0
	あてはまる	6	15.4	40.0	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_12. 自身の調子が悪くなり続けられなくなったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10	25.6	66.7	66.7
	あてはまる	5	12.8	33.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_13. 自分には支援は必要ないと思ったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	86.7	86.7
	あてはまる	2	5.1	13.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_14. 支援が十分されたことで、終了したから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	86.7	86.7
	あてはまる	2	5.1	13.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問22_15. その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	86.7	86.7
	あてはまる	2	5.1	13.3	100.0
	合計	15	38.5	100.0	
欠損値	非該当	24	61.5		
合計		39	100.0		

問23. 支援・サービスを利用しない理由を教えてください。【あてはまるものすべて】_1. 支援があることを知らなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	8	20.5	40.0	40.0
	あてはまる	12	30.8	60.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_2. 自分が支援対象にあてはまるか分からないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	13	33.3	65.0	65.0
	あてはまる	7	17.9	35.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_3. 支援機関に通う交通費がないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	85.0	85.0
	あてはまる	3	7.7	15.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_4. 支援機関が通える距離にないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	95.0	95.0
	あてはまる	1	2.6	5.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_5. 支援を受けることに漠然とした不安や恐怖を感じるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	41.0	80.0	80.0
	あてはまる	4	10.3	20.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_6. 十分に話を聞いてもらえないと思うから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	30.8	60.0	60.0
	あてはまる	8	20.5	40.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_7. 就労を強く促されるだけだと思うから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10	25.6	50.0	50.0
	あてはまる	10	25.6	50.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_8. 支援機関のイメージがよくないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	85.0	85.0
	あてはまる	3	7.7	15.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_9. 支援の利用に後ろめたさを感じるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	85.0	85.0
	あてはまる	3	7.7	15.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_10. 周囲の人に利用を知られてしまう恐れがあるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	85.0	85.0
	あてはまる	3	7.7	15.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_11. 役に立つと思えないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	85.0	85.0
	あてはまる	3	7.7	15.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_12. 現状を変えるような気力がないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	41.0	80.0	80.0
	あてはまる	4	10.3	20.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_13. 現状に満足しているから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	51.3	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
欠損値	非該当	19	48.7	100.0	
合計		39	100.0		

問23_14. 支援は必要ないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	95.0	95.0
	あてはまる	1	2.6	5.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問23_15. その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	95.0	95.0
	あてはまる	1	2.6	5.0	100.0
	合計	20	51.3	100.0	
欠損値	非該当	19	48.7		
合計		39	100.0		

問24. あなたが利用してみたい、あるいは利用しなかった相談支援やカウンセリング、生活支援を選んでください。【あてはまるものすべて】_1. ひきこもりに関するあらゆることに対応する総合窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	21	53.8	53.8	53.8
	あてはまる	18	46.2	46.2	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_2. 同じ担当者が切れ目なく寄り添ってくれる支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	51.3	51.3	51.3
	あてはまる	19	48.7	48.7	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_3. 支援者が困りごとに具体的なアドバイスをしてくれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
	あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_4. 支援者が困りごとをじっくり聴いてくれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	46.2	46.2	46.2
	あてはまる	21	53.8	53.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_5. ピアサポーター（ひきこもり経験者）による支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
	あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_6. コミュニケーション講座

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	31	79.5	79.5	79.5
	あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_7. 生活リズムや習慣を整える支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
	あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問24_8. 心理士等による心理カウンセリング

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	23	59.0	59.0	59.0
あてはまる	16	41.0	41.0	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_9. 精神科や心療内科のクリニック・病院

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	25	64.1	64.1	64.1
あてはまる	14	35.9	35.9	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_10. 支援機関や居場所に行くための交通費の補助

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	31	79.5	79.5	79.5
あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_11. 障害年金や障害福祉サービスの利用支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_12. 生活保護制度の利用支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_13. 家計や生活費に関する相談

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	27	69.2	69.2	69.2
あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_14. 親元を離れて一人暮らしをするための相談・支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	24	61.5	61.5	61.5
あてはまる	15	38.5	38.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_15. 宿泊型施設での支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問24_16. 必要としている支援やサービスはない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	35	89.7	89.7	89.7
あてはまらない	4	10.3	10.3	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問24_17. その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	35	89.7	89.7	89.7
あてはまらない	4	10.3	10.3	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問25. あなたが利用してみたい、あるいは利用したかった居場所や交流の場を選んでください。
【あてはまるものすべて】_1_支援機関主催のひきこもりの居場所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	28	71.8	71.8	71.8
あてはまらない	11	28.2	28.2	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問25_2_当事者主催の当事者会や居場所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	24	61.5	61.5	61.5
あてはまらない	15	38.5	38.5	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問25_3_自分と同じ年齢層の人が集まる当事者の交流の場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	19	48.7	48.7	48.7
あてはまらない	20	51.3	51.3	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問25_4_自分と同じ性別（性自認）の人が集まる当事者の交流の場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	35	89.7	89.7	89.7
あてはまらない	4	10.3	10.3	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問25_5_いつでも自由に行けて、自由に過ごせる場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20	51.3	51.3	51.3
あてはまらない	19	48.7	48.7	100.0
あてはまる				
合計	39	100.0	100.0	

問25_6_ひきこもりや生きづらさをテーマにした学びの場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問25_7_さまざまな立場の人とひきこもりをテーマに交流する場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	31	79.5	79.5	79.5
あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問25_8_役割があり、手伝えることがある場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	20	51.3	51.3	51.3
あてはまる	19	48.7	48.7	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問25_9_興味・関心に合った社会参加の機会（映画鑑賞会、ハイキングなど）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問25_10_必要としている居場所や交流の場はない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	33	84.6	84.6	84.6
あてはまる	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問25_11_その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	36	92.3	92.3	92.3
あてはまる	3	7.7	7.7	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26. あなたが利用してみたい、あるいは利用しなかった就労支援を選んでください。【あてはまるものすべて】_1_短時間（1日4時間程度）から働ける職場の紹介

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_2_ごく短時間（1日15分程度）から働ける職場の紹介

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_3_在宅でできる仕事の紹介

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	22	56.4	56.4	56.4
あてはまる	17	43.6	43.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_4_ひきこもりに理解がある職場の紹介

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_5_正規雇用への就労支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	31	79.5	79.5	79.5
あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_6_非正規雇用への就労支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	34	87.2	87.2	87.2
あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_7_障がい者雇用への就労支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	27	69.2	69.2	69.2
あてはまらない				
あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_8_自営業やフリーランスとして働くための相談や支援

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	28	71.8	71.8	71.8
あてはまらない				
あてはまる	11	28.2	28.2	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_9_支援機関が農業等と連携して行う就労支援（農福連携）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	34	87.2	87.2	87.2
あてはまらない				
あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_10_就労準備段階や就労後にも継続的に相談ができる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	24	61.5	61.5	61.5
あてはまらない				
あてはまる	15	38.5	38.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_11_就労支援は利用したくない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	33	84.6	84.6	84.6
あてはまらない				
あてはまる	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問26_12_その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	35	89.7	89.7	89.7
あてはまらない				
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問27. あなたがひきこもり状態にあるときや、ひきこもり状態だったとき、利用しやすいと思う相談の手段や条件を教えてください。【あてはまるものすべて】_1_自分で相談窓口に出向いて相談する

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	33	84.6	84.6	84.6
あてはまらない				
あてはまる	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問27_2_支援者が自宅等を訪問して相談に乗ってくれる（アウトリーチ）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	69.2	69.2	69.2
	あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_3_電話で相談する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	28	71.8	71.8	71.8
	あてはまる	11	28.2	28.2	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_4_手紙を使って相談する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
	あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_5_メールやチャットなどオンラインで相談する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	41.0	41.0	41.0
	あてはまる	23	59.0	59.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_6_相談窓口が住んでいる地域にある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	23	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	16	41.0	41.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_7_相談窓口が住んでいる地域から離れている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	97.4	97.4	97.4
	あてはまる	1	2.6	2.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_8_相談が無料である

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	51.3	51.3	51.3
	あてはまる	19	48.7	48.7	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問27_9_匿名で相談できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	21	53.8	53.8	53.8
あてはまらない				
あてはまる	18	46.2	46.2	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問27_10_家族を仲介して相談する

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	34	87.2	87.2	87.2
あてはまらない				
あてはまる	5	12.8	12.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問27_11_利用しやすいと思う相談の手段はない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	35	89.7	89.7	89.7
あてはまらない				
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問27_12_その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	37	94.9	94.9	94.9
あてはまらない				
あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問28. ひきこもりに関わる支援者に望む、姿勢や態度、経験値等について選んでください。【あてはまるものすべて】_1_相談者に共感し、同じ目線に立って、寄り添う姿勢がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	12	30.8	30.8	30.8
あてはまらない				
あてはまる	27	69.2	69.2	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問28_2_相談者の話をじっくり聴いてくれる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	10	25.6	25.6	25.6
あてはまらない				
あてはまる	29	74.4	74.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問28_3_積極的にアドバイスしてくれる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	32	82.1	82.1	82.1
あてはまらない				
あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問28_4_冷静に対応してくれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	23	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	16	41.0	41.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_5_ひきこもりに関する総合的な専門的知識がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	48.7	48.7
	あてはまる	20	51.3	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_6_相談者の状況に合わせた解決策を提案できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	43.6	43.6	43.6
	あてはまる	22	56.4	56.4	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_7_就労に限らず、多様な社会参加を支援できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	38.5	38.5	38.5
	あてはまる	24	61.5	61.5	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_8_長期的・継続的な支援を行ってくれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	35.9	35.9	35.9
	あてはまる	25	64.1	64.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_9_他部署や他団体と連携し、総合的な支援を行える

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	23	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	16	41.0	41.0	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_10_雑談が気軽にできる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	48.7	48.7	48.7
	あてはまる	20	51.3	51.3	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問28_11_似た経験を持つピアサポーターである

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	31	79.5	79.5	79.5
あてはまる	8	20.5	20.5	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問28_12_支援者に望む姿勢・態度・経験値等は特にない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	38	97.4	97.4	97.4
あてはまる	1	2.6	2.6	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問28_13_その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	35	89.7	89.7	89.7
あてはまる	4	10.3	10.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問29. ひきこもり支援における、自宅を支援者が訪問する支援（アウトリーチ型支援）について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
本人の希望の有無にかかわらず、行かない方がよい	2	5.1	5.1	5.1
本人の希望があれば、行った方がよい	27	69.2	69.2	74.4
家族の希望があれば、本人の希望がなくても、行った方がよい	1	2.6	2.6	76.9
本人や家族の希望がなくても、行った方がよい	3	7.7	7.7	84.6
わからない	6	15.4	15.4	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問30. オンラインを活用したひきこもりの支援・サービスについて、あなたが利用したいと思うものを選んでください。【あてはまるものすべて】_1_Zoomなどのビデオ通話による交流の場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	26	66.7	66.7	66.7
あてはまる	13	33.3	33.3	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問30_2_LINEチャットなどによるテキストでの交流の場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまらない	27	69.2	69.2	69.2
あてはまる	12	30.8	30.8	100.0
合計	39	100.0	100.0	

問30_3_メタバースやアバターなどによるバーチャル空間での交流の場

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	76.9	76.9	76.9
	あてはまる	9	23.1	23.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_4_Zoomなどのビデオ通話による相談やカウンセリング

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	64.1	64.1	64.1
	あてはまる	14	35.9	35.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_5_LINEチャットなどによる相談やカウンセリング

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	74.4	74.4	74.4
	あてはまる	10	25.6	25.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_6_Zoomなどのビデオ通話による自立・就労支援プログラム

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	84.6	84.6	84.6
	あてはまる	6	15.4	15.4	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_7_YouTubeなどの動画配信プラットフォームによる視聴型の講座やイベント

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	32	82.1	82.1	82.1
	あてはまる	7	17.9	17.9	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_8_オンラインでの支援・サービスを利用したいが利用できる環境がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
	あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_9_オンラインでの支援・サービスを利用したいとは思わない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	74.4	74.4	74.4
	あてはまる	10	25.6	25.6	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

問30_10_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	94.9	94.9	94.9
	あてはまる	2	5.1	5.1	100.0
	合計	39	100.0	100.0	

単純集計・家族調査

問2. あなたが現在お住まいの市町を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
有効	桑名市	3	4.9	4.9	4.9
	いなべ市	3	4.9	4.9	9.8
	四日市市	11	18.0	18.0	27.9
	鈴鹿市	8	13.1	13.1	41.0
	亀山市	4	6.6	6.6	47.5
	津市	8	13.1	13.1	60.7
	松阪市	3	4.9	4.9	65.6
	明和町	3	4.9	4.9	70.5
	大台町	1	1.6	1.6	72.1
	伊勢市	2	3.3	3.3	75.4
	志摩市	5	8.2	8.2	83.6
	伊賀市	3	4.9	4.9	88.5
	名張市	5	8.2	8.2	96.7
	尾鷲市	1	1.6	1.6	98.4
	紀宝町	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問3. あなたの年齢を教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	22歳	1	1.6	1.6	1.6
	29歳	1	1.6	1.6	3.3
	33歳	1	1.6	1.6	4.9
	39歳	1	1.6	1.6	6.6
	41歳	2	3.3	3.3	9.8
	43歳	1	1.6	1.6	11.5
	44歳	2	3.3	3.3	14.8
	46歳	2	3.3	3.3	18
	47歳	2	3.3	3.3	21.3
	48歳	2	3.3	3.3	24.6
	49歳	1	1.6	1.6	26.2
	50歳	2	3.3	3.3	29.5
	51歳	1	1.6	1.6	31.1
	52歳	3	4.9	4.9	36.1
	54歳	2	3.3	3.3	39.3
	55歳	3	4.9	4.9	44.3
	56歳	3	4.9	4.9	49.2
	57歳	1	1.6	1.6	50.8
	58歳	2	3.3	3.3	54.1
	59歳	3	4.9	4.9	59
	61歳	5	8.2	8.2	67.2
	62歳	1	1.6	1.6	68.9
	63歳	3	4.9	4.9	73.8
	64歳	2	3.3	3.3	77
	65歳	1	1.6	1.6	78.7
	66歳	3	4.9	4.9	83.6
	67歳	1	1.6	1.6	85.2
	68歳	2	3.3	3.3	88.5
	69歳	1	1.6	1.6	90.2
	70歳	2	3.3	3.3	93.4
72歳	1	1.6	1.6	95.1	
73歳	1	1.6	1.6	96.7	
75歳	1	1.6	1.6	98.4	
76歳	1	1.6	1.6	100	
	合計	61	100	100	

問4. あなたの性別（性自認）を教えてください。（回答は任意）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男	15	24.6	24.6	24.6
	女	44	72.1	72.1	96.7
	その他	0	0.0	0.0	96.7
	無回答	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問5-1. ひきこもり状態のご本人から見た、あなたの立場（続柄）を教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	父親	12	19.7	19.7	19.7
	母親	40	65.6	65.6	85.2
	配偶者／パートナー	0	0.0	0.0	85.2
	兄弟姉妹	8	13.1	13.1	98.4
	祖父母	1	1.6	1.6	100.0
	子	0	0.0	0.0	100.0
	その他の親戚	0	0.0	0.0	100.0
	その他	0	0.0	0.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問5-2. 現在、ひきこもり状態のご本人と同居していますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	同居している	48	78.7	78.7	78.7
	本人は三重県内に在住で、 別居している	13	21.3	21.3	100
	本人は三重県外に在住で、 別居している	0	0.0	0.0	100
	合計	61	100	100	

問6. ひきこもり状態のご本人の年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	14歳以下	7	11.5	11.5	11.5
	16歳	1	1.6	1.6	13.1
	18歳	3	4.9	4.9	18
	19歳	3	4.9	4.9	23
	20歳	3	4.9	4.9	27.9
	22歳	1	1.6	1.6	29.5
	23歳	1	1.6	1.6	31.1
	24歳	2	3.3	3.3	34.4
	25歳	4	6.6	6.6	41
	26歳	1	1.6	1.6	42.6
	27歳	3	4.9	4.9	47.5
	29歳	3	4.9	4.9	52.5
	30歳	3	4.9	4.9	57.4
	31歳	1	1.6	1.6	59
	32歳	2	3.3	3.3	62.3
	33歳	3	4.9	4.9	67.2
	34歳	2	3.3	3.3	70.5
	35歳	1	1.6	1.6	72.1
	36歳	2	3.3	3.3	75.4
	38歳	1	1.6	1.6	77
	39歳	3	4.9	4.9	82
	40歳	1	1.6	1.6	83.6
	44歳	2	3.3	3.3	86.9
	45歳	1	1.6	1.6	88.5
47歳	1	1.6	1.6	90.2	
49歳	2	3.3	3.3	93.4	
51歳	2	3.3	3.3	96.7	
52歳	1	1.6	1.6	98.4	
54歳	1	1.6	1.6	100	
	合計	61	100	100	

問7. ひきこもり状態のご本人の性別（回答は任意）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	42	68.9	68.9	68.9
	女性	17	27.9	27.9	96.7
	その他	0	0.0	0.0	96.7
	無回答	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問8. ひきこもり状態のご本人がひきこもり始めた年齢を教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	9歳以下	2	3.3	3.3	3.3
	10歳～14歳	13	21.3	21.3	24.6
	15歳～19歳	21	34.4	34.4	59.0
	20歳～24歳	15	24.6	24.6	83.6
	25歳～29歳	5	8.2	8.2	91.8
	30歳～34歳	3	4.9	4.9	96.7
	40歳～44歳	1	1.6	1.6	98.4
	45歳～49歳	1	1.6	1.6	100.0
	50歳～54歳	0	0.0	0.0	100.0
	55歳～59歳	0	0.0	0.0	100.0
	60歳～64歳	0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問9. ひきこもり状態のご本人のひきこもり期間(のべ)を教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	6ヶ月未満	0	0.0	0.0	0.0
	6ヶ月～1年未満	4	6.6	6.6	6.6
	1年～2年未満	1	1.6	1.6	8.2
	2年～3年未満	8	13.1	13.1	21.3
	3年～5年未満	10	16.4	16.4	37.7
	5年～7年未満	7	11.5	11.5	49.2
	7年～10年未満	8	13.1	13.1	62.3
	10年～15年未満	5	8.2	8.2	70.5
	15年～20年未満	8	13.1	13.1	83.6
	20年～25年未満	4	6.6	6.6	90.2
	25年～30年未満	4	6.6	6.6	96.7
	30年以上	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10. ひきこもり状態のご本人の「ひきこもり」の原因やきっかけとして考えられることは何ですか。【あてはまるものすべて】_1_家族との関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	41	67.2	67.2	67.2
	あてはまる	20	32.8	32.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_2_人間関係がうまくいかなかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	47.5	47.5	47.5
	あてはまる	32	52.5	52.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_3_からだの不調・病気・障がい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	77.0	77.0	77.0
	あてはまる	14	23.0	23.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_4_こころの不調・病気・障がい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	55.7	55.7	55.7
	あてはまる	27	44.3	44.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_5_いじめ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_6_不登校

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	44.3	44.3	44.3
	あてはまる	34	55.7	55.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_7_職場になじめなかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	56	91.8	91.8	91.8
	あてはまる	5	8.2	8.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_8_失業、離職

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	58	95.1	95.1	95.1
	あてはまる	3	4.9	4.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_9_定年退職

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	61	100.0	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_10_特に理由はない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	58	95.1	95.1	95.1
	あてはまる	3	4.9	4.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_11_わからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	55	90.2	90.2	90.2
	あてはまる	6	9.8	9.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問10_12_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	51	83.6	83.6	83.6
	あてはまる	10	16.4	16.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問11. ひきこもり状態のご本人はふだんどのくらい外出しますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	仕事や学校で平日は毎日外出する	2	3.3	3.3	3.3
	仕事や学校で週3～4日外出する	1	1.6	1.6	4.9
	遊び等で頻繁に外出する	2	3.3	3.3	8.2
	人付き合いのためにときどき外出する	0	0.0	0.0	8.2
	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事るときは外出する	18	29.5	29.5	37.7
	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	16	26.2	26.2	63.9
	自室からは出るが、家からは出ない	16	26.2	26.2	90.2
	自室からほとんど出ない	3	4.9	4.9	95.1
	わからない	3	4.9	4.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問12. 現在、ひきこもり状態のご本人はひきこもりに関わる支援・サービスを受けていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	本人が現在支援・サービスを受けている	9	14.8	14.8	14.8
	本人が以前支援・サービスを受けていたが、現在は受けていない	10	16.4	16.4	31.1
	本人は今まで一度も支援・サービスを受けていない	39	63.9	63.9	95.1
	わからない	2	3.3	3.3	98.4
	無回答	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問13. あなたから見た、ひきこもり状態のご本人のこの1年間の状態の変化について教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	改善傾向にある	2	3.3	3.3	3.3
	どちらかといえば改善傾向にある	17	27.9	27.9	31.1
	変化はない	25	41.0	41.0	72.1
	一進一退を繰り返している	8	13.1	13.1	85.2
	悪化している	7	11.5	11.5	96.7
	わからない	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14. ひきこもり状態のご本人に関連してあなたが悩んでいることはありますか。【あてはまるものすべて】_1_本人が支援につながることに消極的であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	54.1	54.1	54.1
	あてはまる	28	45.9	45.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_2_ひきこもり状態の本人の心身の健康状態が悪化していること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	50	82.0	82.0	82.0
	あてはまる	11	18.0	18.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_3_ひきこもり状態の本人の将来の自立や、社会参加への見通しが立たないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	11	18.0	18.0	18.0
	あてはまる	50	82.0	82.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_4_親亡き後のひきこもり状態の本人の生活への不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	32.8	32.8	32.8
	あてはまる	41	67.2	67.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_5_ひきこもり状態の本人とのコミュニケーションが難しく、会話がなないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	43	70.5	70.5	70.5
	あてはまる	18	29.5	29.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_6_ひきこもり状態の本人との不和や関係性が悪化していること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	55	90.2	90.2	90.2
	あてはまる	6	9.8	9.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_7_ひきこもり状態の本人の日常生活のリズムが乱れていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	42	68.9	68.9	68.9
	あてはまる	19	31.1	31.1	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_8_ひきこもり状態の本人の興味や関心、やる気が低下していること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	48	78.7	78.7	78.7
	あてはまる	13	21.3	21.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_9_ひきこもり状態の本人の暴力や攻撃的な言動

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	56	91.8	91.8	91.8
	あてはまる	5	8.2	8.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_10_本人のひきこもり状態が長期化していること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	24	39.3	39.3	39.3
	あてはまる	37	60.7	60.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_11_ひきこもり状態の本人がゲームやインターネットばかりしていること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	42	68.9	68.9	68.9
	あてはまる	19	31.1	31.1	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_12_ひきこもり状態の本人の身だしなみや衛生面での問題が見られること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	77.0	77.0	77.0
	あてはまる	14	23.0	23.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_13_ひきこもり状態の本人とその兄弟姉妹との関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	41	67.2	67.2	67.2
	あてはまる	20	32.8	32.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_14_ひきこもり状態の本人にとっての適切な相談先や支援サービスが見つからないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	62.3	62.3	62.3
	あてはまる	23	37.7	37.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_15_近所の目や評判が気になること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問14_16_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	55	90.2	90.2	90.2
	あてはまる	6	9.8	9.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15. 現在、あなた自身が抱えている悩みについて教えてください。_1_生活費などの経済的なこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	15	24.6	24.6	24.6
	悩んでいる	18	29.5	29.5	54.1
	あまり悩んでいない	21	34.4	34.4	88.5
	まったく悩んでいない	4	6.6	6.6	95.1
	該当しない	2	3.3	3.3	98.4
	無回答	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_2_自身の病気や障がい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	8	13.1	13.1	13.1
	悩んでいる	11	18.0	18.0	31.1
	あまり悩んでいない	18	29.5	29.5	60.7
	まったく悩んでいない	13	21.3	21.3	82.0
	該当しない	9	14.8	14.8	96.7
	無回答	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_3_自身の老後

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	16	26.2	26.2	26.2
	悩んでいる	15	24.6	24.6	50.8
	あまり悩んでいない	26	42.6	42.6	93.4
	まったく悩んでいない	1	1.6	1.6	95.1
	該当しない	1	1.6	1.6	96.7
	無回答	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_4_自身の心身の疲労

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	17	27.9	27.9	27.9
	悩んでいる	19	31.1	31.1	59.0
	あまり悩んでいない	17	27.9	27.9	86.9
	まったく悩んでいない	6	9.8	9.8	96.7
	該当しない	1	1.6	1.6	98.4
	無回答	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_5_家族の介護

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	8	13.1	13.1	13.1
	悩んでいる	9	14.8	14.8	27.9
	あまり悩んでいない	16	26.2	26.2	54.1
	まったく悩んでいない	8	13.1	13.1	67.2
	該当しない	16	26.2	26.2	93.4
	無回答	4	6.6	6.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_6_困ったときに頼れる人がいない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	11	18.0	18.0	18.0
	悩んでいる	19	31.1	31.1	49.2
	あまり悩んでいない	19	31.1	31.1	80.3
	まったく悩んでいない	8	13.1	13.1	93.4
	該当しない	1	1.6	1.6	95.1
	無回答	3	4.9	4.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_7_人生の充実感や幸福感がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	9	14.8	14.8	14.8
	悩んでいる	19	31.1	31.1	45.9
	あまり悩んでいない	19	31.1	31.1	77.0
	まったく悩んでいない	8	13.1	13.1	90.2
	該当しない	4	6.6	6.6	96.7
	無回答	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問15_8_ひきこもり状態のご本人のこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても悩んでいる	36	59.0	59.0	59.0
	悩んでいる	16	26.2	26.2	85.2
	あまり悩んでいない	4	6.6	6.6	91.8
	まったく悩んでいない	3	4.9	4.9	96.7
	該当しない	1	1.6	1.6	98.4
	無回答	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問16. 現在のご家庭の経済状態について教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	大変ゆとりがある	0	0.0	0.0	0.0
	ゆとりがある	8	13.1	13.1	13.1
	普通	29	47.5	47.5	60.7
	苦しい	16	26.2	26.2	86.9
	大変苦しい	7	11.5	11.5	98.4
	無回答	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問17-1. あなたとひきこもり状態のご本人との関係性

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	良い	8	13.1	13.1	13.1
	どちらかといえば良い	20	32.8	32.8	45.9
	良いとも悪いともいえない	21	34.4	34.4	80.3
	どちらかといえば悪い	4	6.6	6.6	86.9
	悪い	7	11.5	11.5	98.4
	無回答	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問17-2. あなたと配偶者/パートナーとの関係性

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	良い	10	16.4	19.2	19.2
	どちらかといえば良い	17	27.9	32.7	51.9
	良いとも悪いともいえない	9	14.8	17.3	69.2
	どちらかといえば悪い	6	9.8	11.5	80.8
	悪い	3	4.9	5.8	86.5
	いない	7	11.5	13.5	100.0
	合計	52	85.2	100.0	
	欠損値	非該当	9	14.8	
合計		61	100.0		

問18. あなたにはご自身の悩みごとを相談できる人はいますか。【あてはまるものすべて】_1_配偶者/パートナー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	41.0	41.0	41.0
	あてはまる	36	59.0	59.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_2_親（義父母含む）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	45	73.8	73.8	73.8
	あてはまる	16	26.2	26.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_3_自分の兄弟姉妹・親戚

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	51	83.6	83.6	83.6
	あてはまる	10	16.4	16.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_4_ひきこもり状態のご本人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	52	85.2	85.2	85.2
	あてはまる	9	14.8	14.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_5_ひきこもり状態のご本人の兄弟姉妹

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	50	82.0	82.0	82.0
	あてはまる	11	18.0	18.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_6_近隣に住む友人・知人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	51	83.6	83.6	83.6
	あてはまる	10	16.4	16.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_7_近隣に住んでいない友人・知人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	49	80.3	80.3	80.3
	あてはまる	12	19.7	19.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_8_同じ悩みを抱える人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_9_カウンセラー、精神科医

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_10_相談員、支援員

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_11_相談できる人はいない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	52	85.2	85.2	85.2
	あてはまる	9	14.8	14.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問18_12_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	59	96.7	96.7	96.7
	あてはまる	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19. あなたは、以下の機関がひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っていますか。【あてはまるものすべて】_1_三重県ひきこもり地域支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	32.8	32.8	32.8
	あてはまる	41	67.2	67.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_2_市町ひきこもり相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	35	57.4	57.4	57.4
	あてはまる	26	42.6	42.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_3_社会福祉協議会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	47.5	47.5	47.5
	あてはまる	32	52.5	52.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_4_生活困窮者自立相談支援機関

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	50	82.0	82.0	82.0
	あてはまる	11	18.0	18.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_5_福祉事務所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	51	83.6	83.6	83.6
	あてはまる	10	16.4	16.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_6_保健所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	49	80.3	80.3	80.3
	あてはまる	12	19.7	19.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_7_保健センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	88.5	88.5	88.5
	あてはまる	7	11.5	11.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_8_地域包括支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	50	82.0	82.0	82.0
	あてはまる	11	18.0	18.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_9_在宅介護支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	58	95.1	95.1	95.1
	あてはまる	3	4.9	4.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_10_児童相談所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	88.5	88.5	88.5
	あてはまる	7	11.5	11.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_11_障がい者（総合）相談支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	51	83.6	83.6	83.6
	あてはまる	10	16.4	16.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_12_就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	40	65.6	65.6	65.6
	あてはまる	21	34.4	34.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_13_医療機関（精神科・クリニック）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	35	57.4	57.4	57.4
	あてはまる	26	42.6	42.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_14_教育支援機関（教育支援センター等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	48	78.7	78.7	78.7
	あてはまる	13	21.3	21.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_15_民生委員・児童委員

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	51	83.6	83.6	83.6
	あてはまる	10	16.4	16.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_16_民間支援団体（NPO等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	48	78.7	78.7	78.7
	あてはまる	13	21.3	21.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_17_家族会・当事者会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	24	39.3	39.3	39.3
	あてはまる	37	60.7	60.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_18_上記の機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	60	98.4	98.4	98.4
	あてはまる	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問19_19_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	61	100.0	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20. あなたはひきこもりに関わる支援・サービスを行う機関を何で知りましたか。_1_家族

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	57	93.4	93.4	93.4
	あてはまる	4	6.6	6.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_2_友人や知人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	50	82.0	82.0	82.0
	あてはまる	11	18.0	18.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_3_支援者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	88.5	88.5	88.5
	あてはまる	7	11.5	11.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_4_本や雑誌

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	88.5	88.5	88.5
	あてはまる	7	11.5	11.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_5_自治体の広報紙や回覧板

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	25	41.0	41.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_6_新聞、テレビ、ラジオ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	53	86.9	86.9	86.9
	あてはまる	8	13.1	13.1	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_7_チラシ、パンフレット

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	48	78.7	78.7	78.7
	あてはまる	13	21.3	21.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_8_支援機関のウェブサイト

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	52	85.2	85.2	85.2
	あてはまる	9	14.8	14.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_9_SNS

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	56	91.8	91.8	91.8
	あてはまる	5	8.2	8.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_10_インターネット検索

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	41	67.2	67.2	67.2
	あてはまる	20	32.8	32.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_11_当事者会や家族会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	43	70.5	70.5	70.5
	あてはまる	18	29.5	29.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_12_ひきこもりに関する講演会やイベント

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	60.7	60.7	60.7
	あてはまる	24	39.3	39.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_13_どこで知ったか覚えていない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	59	96.7	96.7	96.7
	あてはまる	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_14_ひきこもり支援を行う支援機関は知らない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	60	98.4	98.4	98.4
	あてはまる	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問20_15_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	59	96.7	96.7	96.7
	あてはまる	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問21. あなたはひきこもりに関わる支援・サービスを利用しているか、または過去に利用したことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	現在利用している	29	47.5	47.5	47.5
	過去に利用したことがあるが、現在は利用していない	9	14.8	14.8	62.3
	今まで一度も利用したことはない	23	37.7	37.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問22. これまで、ひきこもりに関わる支援・サービスを利用したことがない方にお聞きします。あなたが支援・サービスを利用しない理由を教えてください【あてはまるものすべて】_1_どこに相談してよいかわからないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	12	19.7	52.2	52.2
	あてはまる	11	18.0	47.8	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_2_支援機関に期待できないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	31.1	82.6	82.6
	あてはまる	4	6.6	17.4	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_3_世間や近所の目が気になるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	32.8	87.0	87.0
	あてはまる	3	4.9	13.0	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_4_家族だけで解決したいから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	22	36.1	95.7	95.7
	あてはまる	1	1.6	4.3	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_5_本人が支援を拒否しているから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	23.0	60.9	60.9
	あてはまる	9	14.8	39.1	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_6_ひきこもりは一時的なものだと思うから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	22	36.1	95.7	95.7
	あてはまる	1	1.6	4.3	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_7_支援・サービスを利用する時間的余裕がないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	27.9	73.9	73.9
	あてはまる	6	9.8	26.1	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_8_支援・サービスを利用する経済的余裕がないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	32.8	87.0	87.0
	あてはまる	3	4.9	13.0	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問22_9_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	32.8	87.0	87.0
	あてはまる	3	4.9	13.0	100.0
	合計	23	37.7	100.0	
欠損値	非該当	38	62.3		
合計		61	100.0		

問23. 以下のひきこもりに関わる支援・サービスを行う機関のうち、あなたが利用したことがあるものを教えてください。【あてはまるものすべて】_1_三重県ひきこもり地域支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	24	39.3	63.2	63.2
	あてはまる	14	23.0	36.8	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_2_市町ひきこもり相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	44.3	71.1	71.1
	あてはまる	11	18.0	28.9	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_3_社会福祉協議会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	25	41.0	65.8	65.8
	あてはまる	13	21.3	34.2	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_4_生活困窮者自立相談支援機関

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	59.0	94.7	94.7
	あてはまる	2	3.3	5.3	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_5_福祉事務所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	60.7	97.4	97.4
	あてはまる	1	1.6	2.6	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_6_保健所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	31	50.8	81.6	81.6
	あてはまる	7	11.5	18.4	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_7_保健センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	62.3	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_8_地域包括支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	60.7	97.4	97.4
	あてはまる	1	1.6	2.6	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_9_在宅介護支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	62.3	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_10_児童相談所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	59.0	94.7	94.7
	あてはまる	2	3.3	5.3	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_11_障がい者（総合）相談支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	59.0	94.7	94.7
	あてはまる	2	3.3	5.3	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_12_就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	44.3	71.1	71.1
	あてはまる	11	18.0	28.9	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_13_医療機関（精神科・クリニック）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	21	34.4	55.3	55.3
	あてはまる	17	27.9	44.7	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_14_教育支援機関（教育支援センター等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	47.5	76.3	76.3
	あてはまる	9	14.8	23.7	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_15_民生委員・児童委員

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	62.3	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_16_民間支援団体（NPO等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	54.1	86.8	86.8
	あてはまる	5	8.2	13.2	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_17_家族会・当事者会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	19	31.1	50.0	50.0
	あてはまる	19	31.1	50.0	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問23_18_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	37	60.7	97.4	97.4
	あてはまる	1	1.6	2.6	100.0
	合計	38	62.3	100.0	
欠損値	非該当	23	37.7		
合計		61	100.0		

問24. 過去にひきこもりに関わる支援を中断したことがある方にお聞きます。あなたが支援・サービスを中断した理由を教えてください。【あてはまるものすべて】_1_支援・サービスが期待していた内容ではなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	23.0	82.4	82.4
	あてはまる	3	4.9	17.6	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_2_本人の状況が改善したから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	23.0	82.4	82.4
	あてはまる	3	4.9	17.6	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_3_本人の状況が悪化したから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	27.9	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_4_支援者との関係がうまくいかなかったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	24.6	88.2	88.2
	あてはまる	2	3.3	11.8	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_5_担当者が変更になったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	23.0	82.4	82.4
	あてはまる	3	4.9	17.6	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_6_本人が、家族が支援を受けることに反対したから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	15	24.6	88.2	88.2
	あてはまる	2	3.3	11.8	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_7_(本人以外の)家族の都合で通えなくなったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	27.9	100.0	100.0
	あてはまる	0	0.0	0.0	100.0
	合計	38	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_8_本人が直接支援を受けず、家族だけが利用しても状況が変わらないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	10	16.4	58.8	58.8
	あてはまる	7	11.5	41.2	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_9_世間や近所の目が気になったから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	26.2	94.1	94.1
	あてはまる	1	1.6	5.9	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問24_10_中断したことはない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	27.9	68.0	68.0
	あてはまる	8	13.1	32.0	100.0
	合計	25	41.0	100.0	
欠損値	非該当	36	59.0		
合計		61	100.0		

問24_11_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	14	23.0	82.4	82.4
	あてはまる	3	4.9	17.6	100.0
	合計	17	27.9	100.0	
欠損値	非該当	44	72.1		
合計		61	100.0		

問25. あなたは現在、ご自身に対してどのような支援を必要としていますか。【あてはまるものすべて】_1_ひきこもりに関するさまざまな相談ができる総合窓口（ワンストップ窓口）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	55.7	55.7	55.7
	あてはまる	27	44.3	44.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_2_じっくり話を聴いてくれる相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	49.2	49.2	49.2
	あてはまる	31	50.8	50.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_3_ひきこもり状態にある本人への接し方についての相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	32	52.5	52.5	52.5
	あてはまる	29	47.5	47.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_4_ひきこもり状態にある本人のメンタルヘルスに関する相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	31	50.8	50.8	50.8
	あてはまる	30	49.2	49.2	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_5_家族関係を改善するための相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	49	80.3	80.3	80.3
	あてはまる	12	19.7	19.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_6_親亡き後に向けた相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	27	44.3	44.3	44.3
	あてはまる	34	55.7	55.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_7_ご自身への精神的な支援（カウンセリングなど）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	42	68.9	68.9	68.9
	あてはまる	19	31.1	31.1	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_8_家族会の紹介や参加への支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	77.0	77.0	77.0
	あてはまる	14	23.0	23.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_9_ひきこもり状態にある本人の兄弟姉妹のための相談や支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	77.0	77.0	77.0
	あてはまる	14	23.0	23.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_10_ひきこもりへの理解を深めるための情報提供や学習の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	41	67.2	67.2	67.2
	あてはまる	20	32.8	32.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_11_ひきこもり経験者による体験談を聞く機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	40	65.6	65.6	65.6
	あてはまる	21	34.4	34.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_12_生活費など経済的な支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	40	65.6	65.6	65.6
	あてはまる	21	34.4	34.4	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_13_行政や関係機関における手続きの支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	46	75.4	75.4	75.4
	あてはまる	15	24.6	24.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_14_法的な問題（成年後見制度や財産相続など）に関する相談や情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	49	80.3	80.3	80.3
	あてはまる	12	19.7	19.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_15_ご自身への支援は必要としていない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	59	96.7	96.7	96.7
	あてはまる	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問25_16_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	60	98.4	98.4	98.4
	あてはまる	1	1.6	1.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26. あなたはひきこもり状態のご本人に対して、どのような支援を受けてほしいとお考えですか。【あてはまるものすべて】_1_就労支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	29	47.5	47.5	47.5
	あてはまる	32	52.5	52.5	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_2_将来のためのマネープランの支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	36	59.0	59.0	59.0
	あてはまる	25	41.0	41.0	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_3_訪問支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_4_精神科病院やメンタルクリニックなどの医療的支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	30	49.2	49.2	49.2
	あてはまる	31	50.8	50.8	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_5_宿泊型施設での支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	57	93.4	93.4	93.4
	あてはまる	4	6.6	6.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_6_居場所・当事者会の紹介

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	55.7	55.7	55.7
	あてはまる	27	44.3	44.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_7_興味・関心に合わせた社会参加の機会（映画鑑賞会、ハイキングなど）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	54.1	54.1	54.1
	あてはまる	28	45.9	45.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_8_ピアサポーター（ひきこもり経験者）による相談や支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	35	57.4	57.4	57.4
	あてはまる	26	42.6	42.6	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_9_生活保護制度の利用支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	49	80.3	80.3	80.3
	あてはまる	12	19.7	19.7	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_10_生活リズムや習慣を整える支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	39	63.9	63.9	63.9
	あてはまる	22	36.1	36.1	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_11_一人暮らしをするための相談や支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	44	72.1	72.1	72.1
	あてはまる	17	27.9	27.9	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_12_本人への支援は必要性を感じない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	59	96.7	96.7	96.7
	あてはまる	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

問26_13_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	59	96.7	96.7	96.7
	あてはまる	2	3.3	3.3	100.0
	合計	61	100.0	100.0	

単純集計・支援機関調査

問1. 貴機関について、該当するものを選択してください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	三重県ひきこもり地域支援センター	1	0.6	0.6	0.6
	市町ひきこもり相談窓口	14	9.0	9.0	9.7
	社会福祉協議会	17	11.0	11.0	20.6
	生活困窮者自立相談支援機関	7	4.5	4.5	25.2
	福祉事務所	5	3.2	3.2	28.4
	保健所	8	5.2	5.2	33.5
	地域包括支援センター	32	20.6	20.6	54.2
	在宅介護支援センター	14	9.0	9.0	63.2
	児童相談所	5	3.2	3.2	66.5
	障がい者（総合）相談支援センター	9	5.8	5.8	72.3
	就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）	8	5.2	5.2	77.4
	医療機関（精神科・クリニック）	5	3.2	3.2	80.6
	教育支援機関（教育支援センター等）	16	10.3	10.3	91.0
	民間支援団体（NPO等）	5	3.2	3.2	94.2
	家族会・当事者会	3	1.9	1.9	96.1
	その他	6	3.9	3.9	100.0
	合計	155	100.0	100.0	

Q2. 貴機関の所在する市町を教えてください。

		度数	パーセン ト	有効パーセン ト	累積パーセン ト
有効	桑名市	8	5.2	5.2	5.2
	いなべ市	6	3.9	3.9	9.0
	木曽岬町	2	1.3	1.3	10.3
	東員町	3	1.9	1.9	12.3
	四日市市	19	12.3	12.3	24.5
	菰野町	3	1.9	1.9	26.5
	川越町	2	1.3	1.3	27.7
	鈴鹿市	13	8.4	8.4	36.1
	亀山市	3	1.9	1.9	38.1
	津市	26	16.8	16.8	54.8
	松阪市	8	5.2	5.2	60.0
	多気町	2	1.3	1.3	61.3
	明和町	2	1.3	1.3	62.6
	大台町	2	1.3	1.3	63.9
	伊勢市	9	5.8	5.8	69.7
	鳥羽市	1	0.6	0.6	70.3
	志摩市	3	1.9	1.9	72.3
	玉城町	2	1.3	1.3	73.5
	度会町	4	2.6	2.6	76.1
	大紀町	3	1.9	1.9	78.1
	伊賀市	9	5.8	5.8	83.9
	名張市	5	3.2	3.2	87.1
	尾鷲市	5	3.2	3.2	90.3
	紀北町	1	0.6	0.6	91.0
	熊野市	6	3.9	3.9	94.8
	御浜町	1	0.6	0.6	95.5
	紀宝町	3	1.9	1.9	97.4
無回答	4	2.6	2.6	100.0	
合計		155	100.0	100.0	

問3. 貴機関がひきこもりに関わる支援・サービスや取り組み（以下「支援・サービス」とする）を始めてからどれくらいの期間が経過していますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1年未満	2	1.3	1.3	1.3
	1年以上3年未満	21	13.5	13.5	14.8
	3年以上5年未満	20	12.9	12.9	27.7
	5年以上10年未満	26	16.8	16.8	44.5
	10年以上	49	31.6	31.6	76.1
	現在支援は行っていないが、今後予定している	12	7.7	7.7	83.9
	現在支援は行っておらず、今後も予定していない	25	16.1	16.1	100.0
	合計		155	100.0	100.0

問4. 貴機関が支援・サービスで対応した当事者のおおよその実人数（1か月平均）をお答えください。（令和5年度を基準とし、相談、訪問、居場所等すべて含める）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	利用者はいない	21	13.5	17.8	17.8
	1～2人/月	63	40.6	53.4	71.2
	3～5人/月	20	12.9	16.9	88.1
	6～9人/月	6	3.9	5.1	93.2
	10～14人/月	1	0.6	0.8	94.1
	15～19人/月	1	0.6	0.8	94.9
	20～29人/月	3	1.9	2.5	97.5
	30～39人/月	1	0.6	0.8	98.3
	40～49人/月	1	0.6	0.8	99.2
	50人以上/月	0	0.0	0.0	99.2
	無回答	1	0.6	0.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問5. 貴機関が支援・サービスで対応したご家族のおおよその実件数（1か月平均）をお答えください。（令和5年度を基準とし、相談、訪問、居場所等すべて含める）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	利用者はいない	14	9.0	11.9	11.9
	1～2件/月	67	43.2	56.8	68.6
	3～5件/月	23	14.8	19.5	88.1
	6～9件/月	7	4.5	5.9	94.1
	15～19件/月	1	0.6	0.8	94.9
	20～29件/月	1	0.6	0.8	95.8
	30～39件/月	2	1.3	1.7	97.5
	50～69件/月	2	1.3	1.7	99.2
	70～99件/月	0	0.0	0.0	99.2
	100件以上/月	0	0.0	0.0	99.2
	無回答	1	0.6	0.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問6. 令和5年度の新規利用者のうち、現在も継続的に関わっている当事者はどれくらいいますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	継続している利用者はいない	17	11.0	17.5	17.5
	約1割が継続している	26	16.8	26.8	44.3
	約2割が継続している	8	5.2	8.2	52.6
	約3割が継続している	4	2.6	4.1	56.7
	約4割が継続している	1	0.6	1.0	57.7
	約5割が継続している	10	6.5	10.3	68.0
	約6割が継続している	1	0.6	1.0	69.1
	約7割以上が継続している	25	16.1	25.8	94.8
	無回答	5	3.2	5.2	100.0
	合計	97	62.6	100.0	
欠損値	非該当	58	37.4		
合計		155	100.0		

問7. 令和5年度の新規利用者のうち、現在も継続的に関わっているご家族はどれくらいいますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	継続している利用者はいない	20	12.9	19.2	19.2
	約1割が継続している	26	16.8	25.0	44.2
	約2割が継続している	6	3.9	5.8	50.0
	約3割が継続している	5	3.2	4.8	54.8
	約4割が継続している	4	2.6	3.8	58.7
	約5割が継続している	10	6.5	9.6	68.3
	約6割が継続している	1	0.6	1.0	69.2
	約7割以上が継続している	28	18.1	26.9	96.2
	無回答	4	2.6	3.8	100.0
	合計	104	67.1	100.0	
欠損値	非該当	51	32.9		
合計		155	100.0		

問8. 貴機関の令和4年度と令和5年度を比較して、利用者数の増減についてお答えください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	増えた	35	22.6	29.7	29.7
	変わらない（横ばい）	77	49.7	65.3	94.9
	減った	4	2.6	3.4	98.3
	無回答	2	1.3	1.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9. 貴機関が提供している支援・サービスの形態について教えてください。【あてはまるものすべて】_1_対面による相談（来所）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	17	11.0	14.4	14.4
	あてはまる	101	65.2	85.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_2_メールによる相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	67	43.2	56.8	56.8
	あてはまる	51	32.9	43.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_3_電話による相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	20	12.9	16.9	16.9
	あてはまる	98	63.2	83.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_4_SNSによる相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	106	68.4	89.8	89.8
	あてはまる	12	7.7	10.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_5_自宅などへの訪問（アウトリーチ）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	22	14.2	18.6	18.6
	あてはまる	96	61.9	81.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_6_心理相談（カウンセリング含む）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	99	63.9	83.9	83.9
	あてはまる	19	12.3	16.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_7_医療的支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	104	67.1	88.1	88.1
	あてはまる	14	9.0	11.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_8_一般就労（非正規雇用含む）に向けた支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	90	58.1	76.3	76.3
	あてはまる	28	18.1	23.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_9_中間的就労（一般就労に向けた軽易な作業）の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	98	63.2	83.1	83.1
	あてはまる	20	12.9	16.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_10_福祉的就労（障がい者雇用等）に向けた支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	86	55.5	72.9	72.9
	あてはまる	32	20.6	27.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_11_当事者向けの居場所の開催

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	98	63.2	83.1	83.1
	あてはまる	20	12.9	16.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_12_家族会の開催

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	97	62.6	82.2	82.2
	あてはまる	21	13.5	17.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_13_地域住民向けの講演会や普及・啓発活動

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	97	62.6	82.2	82.2
	あてはまる	21	13.5	17.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_14_他の機関との連携、連絡調整（支援方針を検討するための会議など）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	39	25.2	33.1	33.1
	あてはまる	79	51.0	66.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問9_15_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	110	71.0	93.2	93.2
	あてはまる	8	5.2	6.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10. 貴機関が提供している支援・サービスの形態のうち、特に必要性が高いと感じているものは何ですか。【あてはまるものすべて】_1_対面による相談（来所）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	30.3	39.8	39.8
	あてはまる	71	45.8	60.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_2_メールによる相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	97	62.6	82.2	82.2
	あてはまる	21	13.5	17.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_3_電話による相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	63	40.6	53.4	53.4
	あてはまる	55	35.5	46.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_4_SNSによる相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	112	72.3	94.9	94.9
	あてはまる	6	3.9	5.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_5_自宅などへの訪問（アウトリーチ）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	34	21.9	28.8	28.8
	あてはまる	84	54.2	71.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_6_心理相談（カウンセリング含む）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	98	63.2	83.1	83.1
	あてはまる	20	12.9	16.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_7_医療的支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	100	64.5	84.7	84.7
	あてはまる	18	11.6	15.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_8_一般就労（非正規雇用含む）に向けた支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	107	69.0	90.7	90.7
	あてはまる	11	7.1	9.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_9_中間的就労（一般就労に向けた軽易な作業）の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	104	67.1	88.1	88.1
	あてはまる	14	9.0	11.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_10_福祉的就労（障がい者雇用等）に向けた支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	103	66.5	87.3	87.3
	あてはまる	15	9.7	12.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_11_当事者向けの居場所の開催

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	93	60.0	78.8	78.8
	あてはまる	25	16.1	21.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_12_家族会の開催

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	95	61.3	80.5	80.5
	あてはまる	23	14.8	19.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_13_地域住民向けの講演会や普及・啓発活動

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	96	61.9	81.4	81.4
	あてはまる	22	14.2	18.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_14_他の機関との連携、連絡調整（支援方針を検討するための会議など）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	52	33.5	44.1	44.1
	あてはまる	66	42.6	55.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問10_15_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	111	71.6	94.1	94.1
	あてはまる	7	4.5	5.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11. 貴機関では、ひきこもり状態にある方をどのような機会に把握することが多いですか。
【あてはまるものすべて】_1_当事者本人からの相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	92	59.4	78.0	78.0
	あてはまる	26	16.8	22.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_2_ご家族からの相談

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	16	10.3	13.6	13.6
	あてはまる	102	65.8	86.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_3_近隣住民からの相談や情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	86	55.5	72.9	72.9
	あてはまる	32	20.6	27.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_4_民生委員・児童委員からの情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	75	48.4	63.6	63.6
	あてはまる	43	27.7	36.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_5_医療機関からの情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	97	62.6	82.2	82.2
	あてはまる	21	13.5	17.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_6_介護サービス事業者からの情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	92	59.4	78.0	78.0
	あてはまる	26	16.8	22.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_7_教育関係機関（学校、教育委員会等）からの情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	83	53.5	70.3	70.3
	あてはまる	35	22.6	29.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_8_行政機関からの情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	67	43.2	56.8	56.8
	あてはまる	51	32.9	43.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_9_その他の機関からの情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	94	60.6	79.7	79.7
	あてはまる	24	15.5	20.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_10_把握できていない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	115	74.2	97.5	97.5
	あてはまる	3	1.9	2.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問11_11_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	110	71.0	93.2	93.2
	あてはまる	8	5.2	6.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12. あなたのこれまでの支援経験の中で、特にどのような働きかけが、ひきこもり状態のご本人に対する回復（リカバリー）の助けになると感じていますか。【あてはまるものすべて】_1_時間をかけて関わり続けることによる信頼関係の構築

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	18	11.6	15.3	15.3
	あてはまる	100	64.5	84.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_2_本人の話をじっくり聞き、その感情や経験を理解しようと努めること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	33	21.3	28.0	28.0
	あてはまる	85	54.8	72.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_3_本人の困りごとを一步踏み込んで聞き出すこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	83	53.5	70.3	70.3
	あてはまる	35	22.6	29.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_4_生活状況や家族関係の情報を収集し、客観的に分析すること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	55	35.5	46.6	46.6
	あてはまる	63	40.6	53.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_5_生活リズムの改善サポート

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	90	58.1	76.3	76.3
	あてはまる	28	18.1	23.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_6_本人の興味・関心を活かした個別活動プログラムの提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	79	51.0	66.9	66.9
	あてはまる	39	25.2	33.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_7_本人の状態に応じた段階的な社会参加支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	61	39.4	51.7	51.7
	あてはまる	57	36.8	48.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_8_本人の状態に応じた就労支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	88	56.8	74.6	74.6
	あてはまる	30	19.4	25.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_9_家族の理解と協力を得ること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	38	24.5	32.2	32.2
	あてはまる	80	51.6	67.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_10_居場所や当事者会の参加支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	78	50.3	66.1	66.1
	あてはまる	40	25.8	33.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_11_ピアサポーター（ひきこもり経験者）による支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	100	64.5	84.7	84.7
	あてはまる	18	11.6	15.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_12_本人を医療機関とつなげること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	68	43.9	57.6	57.6
	あてはまる	50	32.3	42.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_13_福祉サービス・障害年金の利用支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	81	52.3	68.6	68.6
	あてはまる	37	23.9	31.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_14_他機関との連携による包括的な支援

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	34.8	45.8	45.8
	あてはまる	64	41.3	54.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_15_宿泊型施設への入所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	116	74.8	98.3	98.3
	あてはまる	2	1.3	1.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_16_わからない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	114	73.5	96.6	96.6
	あてはまる	4	2.6	3.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問12_17_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	115	74.2	97.5	97.5
	あてはまる	3	1.9	2.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13. 貴機関が組織として支援・サービスを行う上で、特に課題として感じているものについて、教えてください。【あてはまるものすべて】_1_支援者向けの研修機会の不足

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	78	50.3	66.1	66.1
	あてはまる	40	25.8	33.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_2_ひきこもり支援のための予算不足

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	93	60.0	78.8	78.8
	あてはまる	25	16.1	21.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_3_ひきこもり支援のための職員不足

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	63	40.6	53.4	53.4
	あてはまる	55	35.5	46.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_4_一定の期間で成果（就労等）を求められる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	98	63.2	83.1	83.1
	あてはまる	20	12.9	16.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_5_地域の他機関との連携がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	107	69.0	90.7	90.7
	あてはまる	11	7.1	9.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_6_県・他市区町村との広域連携がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	110	71.0	93.2	93.2
	あてはまる	8	5.2	6.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_7_家族会、当事者団体との連携がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	107	69.0	90.7	90.7
	あてはまる	11	7.1	9.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_8_地域の支援機関が網羅された情報がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	103	66.5	87.3	87.3
	あてはまる	15	9.7	12.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_9_ひきこもりに対する地域や社会の無理解

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	75	48.4	63.6	63.6
	あてはまる	43	27.7	36.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_10_地域にひきこもりに関わる社会資源（就労先、協力者等）がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	63	40.6	53.4	53.4
	あてはまる	55	35.5	46.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問13_11_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	111	71.6	94.1	94.1
	あてはまる	7	4.5	5.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14. 若年層（概ね39歳以下）への支援・サービスを行う上で貴機関が感じている課題について教えてください。【あてはまるものすべて】_1_ひきこもりに関する知識やノウハウが足りない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	61	39.4	51.7	51.7
	あてはまる	57	36.8	48.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_2_家族は支援につながっているが、本人につながるできない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	49	31.6	41.5	41.5
	あてはまる	69	44.5	58.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_3_家族とも本人ともつながることができない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	96	61.9	81.4	81.4
	あてはまる	22	14.2	18.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_4_本人が一人暮らしでアプローチが難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	108	69.7	91.5	91.5
	あてはまる	10	6.5	8.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_5_本人や家族から相談があっても、継続せず相談が途切れてしまう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	80	51.6	67.8	67.8
	あてはまる	38	24.5	32.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_6_長期（概ね10年以上）ひきこもり事例への対応が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	78	50.3	66.1	66.1
	あてはまる	40	25.8	33.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_7_本人と家族の認識にギャップがあり、家族関係の調整が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	72	46.5	61.0	61.0
	あてはまる	46	29.7	39.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_8_支援の効果や成果が見えにくい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	80	51.6	67.8	67.8
	あてはまる	38	24.5	32.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_9_ひきこもり事例が多様であり、目指すべき方向性が定めにくい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	86	55.5	72.9	72.9
	あてはまる	32	20.6	27.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_10_本人の身体的な健康問題への対応が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	98	63.2	83.1	83.1
	あてはまる	20	12.9	16.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_11_本人の精神的な問題への対応が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	69	44.5	58.5	58.5
	あてはまる	49	31.6	41.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_12_地域に本人に合う職場が少なく、就労支援が困難である

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	94	60.6	79.7	79.7
	あてはまる	24	15.5	20.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_13_学齢期（高校生相当まで）を過ぎると支援が途絶えてしまう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	68	43.9	57.6	57.6
	あてはまる	50	32.3	42.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問14_14_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	115	74.2	97.5	97.5
	あてはまる	3	1.9	2.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15. 中高年層（概ね40歳以上）への支援・サービスを行う上で貴機関が感じている課題について教えてください。【あてはまるものすべて】_1_ひきこもりについての知識やノウハウが足りない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	69	44.5	58.5	58.5
	あてはまる	49	31.6	41.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_2_家族は支援につながっているが、本人につなげることができない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	34.8	45.8	45.8
	あてはまる	64	41.3	54.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_3_家族とも本人ともつながることができない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	98	63.2	83.1	83.1
	あてはまる	20	12.9	16.9	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_4_本人が一人暮らしでアプローチが難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	105	67.7	89.0	89.0
	あてはまる	13	8.4	11.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_5_本人や家族から相談があっても、継続せず相談が途切れてしまう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	83	53.5	70.3	70.3
	あてはまる	35	22.6	29.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_6_長期（概ね10年以上）ひきこもり事例への対応が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	62	40.0	52.5	52.5
	あてはまる	56	36.1	47.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_7_本人と家族の認識にギャップがあり、家族関係の調整が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	70	45.2	59.3	59.3
	あてはまる	48	31.0	40.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_8_支援の効果や成果が見えにくい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	84	54.2	71.2	71.2
	あてはまる	34	21.9	28.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_9_ひきこもり事例が多様であり、目指すべき方向性が定めにくい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	89	57.4	75.4	75.4
	あてはまる	29	18.7	24.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_10_本人の身体的な健康問題への対応が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	96	61.9	81.4	81.4
	あてはまる	22	14.2	18.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_11_本人の精神的な問題への対応が難しい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	70	45.2	59.3	59.3
	あてはまる	48	31.0	40.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_12_地域に本人に合う職場が少なく、就労支援が困難である

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	88	56.8	74.6	74.6
	あてはまる	30	19.4	25.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_13_8050問題についての知識やノウハウが足りない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	93	60.0	78.8	78.8
	あてはまる	25	16.1	21.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問15_14_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	105	67.7	89.0	89.0
	あてはまる	13	8.4	11.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16. 貴機関が支援・サービスにおいて注力していることについて教えてください。【あてはまるものすべて】_1_広報活動に力を入れている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	100	64.5	84.7	84.7
	あてはまる	18	11.6	15.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_2_利用にあたり、年齢制限や居住地制限を設けていない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	102	65.8	86.4	86.4
	あてはまる	16	10.3	13.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_3_個別支援において、できるだけ担当者が変わらないようにしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	88	56.8	74.6	74.6
	あてはまる	30	19.4	25.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_4_訪問支援（アウトリーチ）を積極的に行っている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	70	45.2	59.3	59.3
	あてはまる	48	31.0	40.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_5_個人のニーズに合わせた支援・サービスを提供している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	64	41.3	54.2	54.2
	あてはまる	54	34.8	45.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_6_当事者や家族の活動を支援している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	96	61.9	81.4	81.4
	あてはまる	22	14.2	18.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_7_他機関と連携し、複合的な課題に取り組んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	40	25.8	33.9	33.9
	あてはまる	78	50.3	66.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_8_近隣地域の支援機関と広域的な連携を推進している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	94	60.6	79.7	79.7
	あてはまる	24	15.5	20.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_9_職員・スタッフの研修・セミナー等への参加を積極的に奨励している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	92	59.4	78.0	78.0
	あてはまる	26	16.8	22.0	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_10_ひきこもり支援の予算確保に力を入れている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	113	72.9	95.8	95.8
	あてはまる	5	3.2	4.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_11_支援スタッフのメンタルヘルスのサポートに取り組んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	112	72.3	94.9	94.9
	あてはまる	6	3.9	5.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問16_12_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	116	74.8	98.3	98.3
	あてはまる	2	1.3	1.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17. 支援・サービスにおいて、連携している関係機関がありましたら教えてください。【あてはまるものすべて】_1_三重県ひきこもり地域支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	99	63.9	83.9	83.9
	あてはまる	19	12.3	16.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_2_市町ひきこもり相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	69	44.5	58.5	58.5
	あてはまる	49	31.6	41.5	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_3_社会福祉協議会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	30.3	39.8	39.8
	あてはまる	71	45.8	60.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_4_生活困窮者自立相談支援機関

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	58	37.4	49.2	49.2
	あてはまる	60	38.7	50.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_5_福祉事務所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	75	48.4	63.6	63.6
	あてはまる	43	27.7	36.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_6_保健所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	77	49.7	65.3	65.3
	あてはまる	41	26.5	34.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_7_保健センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	93	60.0	78.8	78.8
	あてはまる	25	16.1	21.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_8_地域包括支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	58	37.4	49.2	49.2
	あてはまる	60	38.7	50.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_9_在宅介護支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	103	66.5	87.3	87.3
	あてはまる	15	9.7	12.7	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_10_児童相談所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	94	60.6	79.7	79.7
	あてはまる	24	15.5	20.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_11_障がい者（総合）相談支援センター

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	61	39.4	51.7	51.7
	あてはまる	57	36.8	48.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_12_就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	75	48.4	63.6	63.6
	あてはまる	43	27.7	36.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_13_医療機関（精神科・クリニック）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	66	42.6	55.9	55.9
	あてはまる	52	33.5	44.1	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_14_教育支援機関（教育支援センター等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	88	56.8	74.6	74.6
	あてはまる	30	19.4	25.4	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_15_民生委員・児童委員

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	67	43.2	56.8	56.8
	あてはまる	51	32.9	43.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_16_民間支援団体（NPO等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	102	65.8	86.4	86.4
	あてはまる	16	10.3	13.6	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_17_家族会・当事者会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	94	60.6	79.7	79.7
	あてはまる	24	15.5	20.3	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_18_連携している機関はない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	117	75.5	99.2	99.2
	あてはまる	1	0.6	0.8	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問17_19_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	106	68.4	89.8	89.8
	あてはまる	12	7.7	10.2	100.0
	合計	118	76.1	100.0	
欠損値	非該当	37	23.9		
合計		155	100.0		

問18. 支援・サービスを行う上で、貴機関の職員・スタッフが特に理解を深めた方が良いと思うことを教えてください。【あてはまるものすべて】_1_支援の具体的なノウハウ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	39	25.2	30.0	30.0
	あてはまる	91	58.7	70.0	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_2_長期・高齢ひきこもりケースへの対応方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	54	34.8	41.5	41.5
	あてはまる	76	49.0	58.5	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_3_当事者の心理の理解

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	47	30.3	36.2	36.2
	あてはまる	83	53.5	63.8	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_4_多様な支援のゴール

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	57	36.8	43.8	43.8
	あてはまる	73	47.1	56.2	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_5_利用可能な社会資源（福祉サービス等）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	67	43.2	51.5	51.5
	あてはまる	63	40.6	48.5	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_6_支援者に求められる姿勢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	76	49.0	58.5	58.5
	あてはまる	54	34.8	41.5	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_7_支援者自身のメンタルヘルスとセルフケア

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	88	56.8	67.7	67.7
	あてはまる	42	27.1	32.3	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_8_他のひきこもり支援機関の取組や事例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	79	51.0	60.8	60.8
	あてはまる	51	32.9	39.2	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_9_効果的な広報や発信のためのノウハウ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	103	66.5	79.2	79.2
	あてはまる	27	17.4	20.8	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_10_他機関と連携した複合的な課題への取り組み方

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	62	40.0	47.7	47.7
	あてはまる	68	43.9	52.3	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_11_近隣地域の支援機関との広域連携の進め方

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	97	62.6	74.6	74.6
	あてはまる	33	21.3	25.4	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問18_12_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	129	83.2	99.2	99.2
	あてはまる	1	0.6	0.8	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問19. 支援・サービスを行う上で、貴機関の職員・スタッフの知識や理解度について、全体的な傾向をお答えください。_1_ひきこもりについての現状や背景について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	十分理解している	13	8.4	10.0	10.0
	ある程度理解している	88	56.8	67.7	77.7
	あまり理解していない	28	18.1	21.5	99.2
	まったく理解していない	0	0.0	0.0	99.2
	無回答	1	0.6	0.8	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問19_2_当事者の心理について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	十分理解している	7	4.5	5.4	5.4
	ある程度理解している	86	55.5	66.2	71.5
	あまり理解していない	36	23.2	27.7	99.2
	まったく理解していない	0	0.0	0.0	99.2
	無回答	1	0.6	0.8	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問19_3_支援の具体的なノウハウについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	十分理解している	6	3.9	4.6	4.6
	ある程度理解している	65	41.9	50.0	54.6
	あまり理解していない	56	36.1	43.1	97.7
	まったく理解していない	2	1.3	1.5	99.2
	無回答	1	0.6	0.8	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

問19_4_支援における関係機関との連携の進め方について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	十分理解している	7	4.5	5.4	5.4
	ある程度理解している	85	54.8	65.4	70.8
	あまり理解していない	34	21.9	26.2	96.9
	まったく理解していない	2	1.3	1.5	98.5
	無回答	2	1.3	1.5	100.0
	合計	130	83.9	100.0	
欠損値	非該当	25	16.1		
合計		155	100.0		

調査票・当事者/経験者調査

ひきこもり当事者/経験者向け

三重県ひきこもりに 関する実態調査

ご協力をお願い

- この調査は、三重県からの委託を受け、一般社団法人ひきこもりUX会議が実施するものです。

三重県では、令和3年度に策定した「三重県ひきこもり支援推進計画」が令和6年度に計画期間の最終年度を迎えることから、次期計画策定に向け県内で約2万人と推計されるひきこもり状態にある方やそのご家族の現状を深く理解し、ニーズに合った効果的な支援策を構築することを目指しています。
- 調査対象
三重県在住、かつ現在ひきこもり状態にある方や、過去にひきこもり経験がある方
(性別、年齢問わず)
※「ひきこもり」の定義について
三重県は「ひきこもり」に独自の定義を定めていますが、本調査における回答資格や「ひきこもり」の捉え方は「自認」とします。
- 公表に際しては、統計的な情報に加え、みなさまから得られた情報についても言及する場合がありますが、その際は個人が特定できない形で行います。
- 調査の分析結果については、三重県のWebサイトや受託者のブログ等において公表する予定です。

回答時間の目安：10～15分程度

回答締切：2024年8月31日（土）までに投函

ご記入に際してのお願い

1. ご記入は、**ひきこもり当事者・経験者ご本人**が行ってください。
2. この調査は、インターネット上の入力フォームと、紙に印刷されたものの2種類があります（内容は同一）。回答はお一人につきいずれか1回のみでお願いします。
3. 質問は、番号順にお答えください。最も近いと思う選択肢をお選びください。答えられない質問がある場合は、飛ばして次の質問にお進みください。
4. 回答で「その他」を選択して具体例を記入するときは、可能な限り詳しく記入してください。
5. ご記入が終わりましたら、回答漏れがないかご確認願います。

調査主体／受託者・お問い合わせ

【調査主体】三重県 子ども・福祉部 地域福祉課 ひきこもり支援班

【受託者】一般社団法人ひきこもりUX会議

- ▶調査・回収についてのお問い合わせは、一般社団法人ひきこもりUX会議までお寄せください。
メール：event@uxkaigi.jp

問1 ニックネーム（本名不可）【※重複チェックのため、その他の用途では使用しません】

問2 あなたが現在お住まいの市町を教えてください。【あてはまるもの1つに○】

1 桑名市	2 いなべ市	3 木曾岬町	4 東員町
5 四日市市	6 菰野町	7 朝日町	8 川越町
9 鈴鹿市	10 亀山市	11 津市	12 松阪市
13 多気町	14 明和町	15 大台町	16 伊勢市
17 鳥羽市	18 志摩市	19 玉城町	20 度会町
21 大紀町	22 南伊勢町	23 伊賀市	24 名張市
25 尾鷲市	26 紀北町	27 熊野市	28 御浜町
29 紀宝町	30 現在、三重県には住んでいない→アンケート終了		

問3 あなたの年齢を教えてください。

歳

問4 あなたの性別（性自認）を教えてください。（回答は任意）【あてはまるもの1つに○】

1 男性	2 女性	3 その他（ ）
------	------	-------------------------------

問5 現在、あなたと同居している人はいますか。【あてはまるもの1つに○】

1 いる →問6へ	2 いない（単身世帯） → 問7へ
-----------	-------------------

問6 問5で1と回答した方にお聞きします。現在、あなたは誰と同居していますか。【あてはまるものすべてに○】

1 父	2 母	3 兄弟姉妹	4 祖父母
5 配偶者／パートナー	6 子	7 上記以外の親族	8 親族以外の人

問7 あなたは、これまでに「ひきこもり」の経験がありますか。現在の状況も含めてお答えください。【あてはまるもの1つに○】

1 現在、「ひきこもり」である → 問8へ
2 過去に「ひきこもり」だったが、現在はそうではない → 問9へ
3 「ひきこもり」の経験はない → アンケート終了

外出頻度について

問8 問7で1と回答した方にお聞きします。あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。もっとも近いものを選択してください。【あてはまるもの1つに○】

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 仕事や学校で平日は毎日外出する | 2 仕事や学校で週3～4日外出する |
| 3 遊び等で頻繁に外出する | 4 人付き合いのためにときどき外出する |
| 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の際は外出する | 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける |
| 7 自室からは出るが、家からは出ない | 8 自室からほとんど出ない |

問9 あなたの「ひきこもり」期間（のべ）について教えてください。【あてはまるもの1つに○】

- | | | | |
|-------------|--------------|--------------|-------------|
| 1 6ヶ月未満 | 2 6ヶ月～1年未満 | 3 1年～2年未満 | 4 2年～3年未満 |
| 5 3年～5年未満 | 6 5年～7年未満 | 7 7年～10年未満 | 8 10年～15年未満 |
| 9 15年～20年未満 | 10 20年～25年未満 | 11 25年～30年未満 | 12 30年以上 |

問10 これまでに、継続的にひきこもったことは何回ありますか。【あてはまるもの1つに○】

- | | | | | |
|------|------|------|------|--------|
| 1 1回 | 2 2回 | 3 3回 | 4 4回 | 5 5回以上 |
|------|------|------|------|--------|

問11 あなたの「ひきこもり」の原因やきっかけは何ですか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 親との関係 | 2 (親以外との) 人間関係がうまくいかなかった |
| 3 からだの不調・病気・障がい | 4 うつ状態や不安などの、こころの不調 |
| 5 統合失調症 | 6 気分障害、不安障害 |
| 7 発達障害 | 8 人からどう見られているかという不安や恐怖 |
| 9 人との会話、コミュニケーションへの苦手意識 | 10 学校でのいじめ |
| 11 不登校 | 12 就職活動がうまくいかなかった |
| 13 職場になじめなかった | 14 職場でのいじめやハラスメント |
| 15 失業、離職 | 16 定年退職 |
| 17 新型コロナウイルス感染症が流行したこと | 18 性自認や性的指向についての悩み |
| 19 わからない | 20 その他 |

()

問12 ひきこもり状態のときのあなたの心情を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 家族に申し訳ないと思う | 2 自分のことが嫌いだとよく思う |
| 3 他人がどう思っているのか不安 | 4 生きるのが苦しいと感じることがある |
| 5 知り合いに会いたくない | 6 死んでしまいたいと思うことがある |
| 7 人に会うのが怖いと感じる | 8 絶望的な気分になることがよくある |
| 9 このままではいけないと強い焦りを感じる | 10 強い怒りや憤りを感じている |
| 11 一時的に安心感を得られる | 12 気持ちが楽だと感じる |
| 13 当てはまるものはない | 14 その他
() |

問13 あなたがひきこもり状態から抜け出すことを妨げている、または妨げていた要因は何だと思えますか。
【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 自分を理解してくれる人がひとりもない | 2 自分を否定的に捉えてしまうこと |
| 3 コミュニケーションへの苦手意識 | 4 失敗に対する恐れや不安 |
| 5 過去のトラウマやネガティブな経験の記憶 | 6 社会生活に必要な知識や常識、経験の不足 |
| 7 からだの不調、病気、障がい | 8 精神的な不調、病気、障がい |
| 9 生きる意欲や気力の低下 | 10 自分に合った相談先や支援機関が見つからない |
| 11 家族からの理解や協力が得られない | 12 ひきこもりに対する社会の偏見や差別への恐れ |
| 13 現状を打開するための方法や解決策がわからない | 14 「ふつう」になりたいが、方法がわからない |
| 15 社会の中に、無理なく参加できる場が見つからない | 16 学校や仕事、社会のあり方に違和感がある |
| 17 支援に良いイメージが持てず、利用に対する抵抗感がある | 18 現在の生活に満足しているから |
| 19 その他 () | |

問14 あなたは現在、生活費に困っていますか。【あてはまるもの1つに○】

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1 とても困っている | 2 やや困っている | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり困っていない | 5 まったく困っていない | |

問15 あなたの以下の家族との関係性について教えてください。

	良い	どちらかといえは良い	どちらともいえない	どちらかといえは悪い	悪い	いない
a 父親	1	2	3	4	5	6
b 母親	1	2	3	4	5	6
c 兄弟姉妹	1	2	3	4	5	6
d 配偶者/パートナー	1	2	3	4	5	6

問16 現在のあなたの就学・就労状況について教えてください。【あてはまるもの1つに○】

- 1 勤めている（正社員） → 問18へ
- 2 勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）※学生アルバイトは除く → 問18へ
- 3 学生/予備校生 → 問18へ
- 4 自営業/フリーランス → 問18へ
- 5 派遣会社などに登録しているが現在は働いていない → 問17へ
- 6 専業主婦/主夫 → 問17へ
- 7 家事手伝い → 問17へ
- 8 無職 → 問17へ
- 9 その他（ ） → 問17へ

問17 問16で5、6、7、8、9のいずれかと回答した方にお聞きします。あなたが働くことを考える際に、どのような職場環境・労働条件であれば働きたいと思えますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 短時間（1日4時間程度）から働ける
- 2 ごく短時間（1日15分程度）から働ける
- 3 期間限定（3か月等）で働ける
- 4 上司や同僚がひきこもりに理解がある
- 5 業務内容が自分の興味・関心に合っている
- 6 メンタルヘルスへのサポート体制がある
- 7 失敗が許容される
- 8 生活が安定する収入を得られる
- 9 正社員として働ける
- 10 業務内容や手順を事前に明確に提示してくれる
- 11 通勤の必要がない（在宅勤務やテレワーク）
- 12 体力的な負担が少ない
- 13 どのような条件であっても働くことは考えられない
- 14 その他（ ）

問18 あなたは、以下の機関がひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っていますか。支援・サービスを行っていることを知っている機関を選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1 三重県ひきこもり地域支援センター | 2 市町ひきこもり相談窓口 |
| 3 社会福祉協議会 | 4 生活困窮者自立相談支援機関 |
| 5 福祉事務所 | 6 保健所 |
| 7 保健センター | 8 地域包括支援センター |
| 9 在宅介護支援センター | 10 児童相談所 |
| 11 障がい者（総合）相談支援センター | 12 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等） |
| 13 医療機関（精神科・クリニック） | 14 教育支援機関（教育支援センター等） |
| 15 民生委員・児童委員 | 16 民間支援団体（NPO等） |
| 17 家族会・当事者会 | 18 上記の機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった |
| 19 その他（ | ） |

問19 あなたはひきこもり支援を行う機関を何で知りましたか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 家族 | 2 友人や知人 |
| 3 支援者 | 4 本や雑誌 |
| 5 自治体の広報紙や回覧板 | 6 新聞、テレビ、ラジオ |
| 7 チラシ、パンフレット | 8 支援機関のウェブサイト |
| 9 SNS | 10 インターネット検索 |
| 11 当事者会や家族会 | 12 ひきこもりに関する講演会やイベント |
| 13 どこで知ったか覚えていない | 14 ひきこもり支援を行う支援機関は知らない |
| 15 その他（ | ） |

問20 あなたはひきこもりに関わる支援・サービスを利用しているか、または過去に利用したことがありますか。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|-----------------------------------|
| 1 現在利用している → 問21へ |
| 2 過去に利用したことがあるが、現在は利用していない → 問21へ |
| 3 今まで一度も利用したことはない → 問23へ |

問21 問20で1、2と回答した方にお聞きします。あなたが利用したことがある支援・サービスを以下から選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 三重県ひきこもり地域支援センター | 2 市町ひきこもり相談窓口 |
| 3 社会福祉協議会 | 4 生活困窮者自立相談支援機関 |
| 5 福祉事務所 | 6 保健所 |
| 7 保健センター | 8 地域包括支援センター |
| 9 在宅介護支援センター | 10 児童相談所 |
| 11 障がい者（総合）相談支援センター | 12 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等） |
| 13 医療機関（精神科・クリニック） | 14 教育支援機関（教育支援センター等） |
| 15 民生委員・児童委員 | 16 民間支援団体（NPO等） |
| 17 家族会・当事者会 | 18 その他
() |

問22 過去に支援が中断したことがある方にお聞きします。支援が中断した理由を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 交通費や交通の手段がなかったから | 2 支援を受けることに漠然とした不安や恐怖を感じたから |
| 3 十分に話を聴いてもらえなかったから | 4 支援内容や雰囲気合わなかったから |
| 5 恥ずかしさや後ろめたさを感じたから | 6 支援者から人として対等に扱われなかったから |
| 7 周りの人に知られてしまうと思ったから | 8 効果を感じられなかったから |
| 9 担当者が変わったから | 10 支援者と話がかみ合わなかったから |
| 11 支援者から説教や説得をされたから | 12 自身の調子が悪くなり続けられなくなったから |
| 13 自分には支援は必要ないと思ったから | 14 支援が十分されたことで、終了したから |
| 15 その他 () | |

問23 問20で3と回答した方にお聞きします。支援・サービスを利用しない理由を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 支援があることを知らなかったから | 2 自分が支援対象にあてはまるか分からないから |
| 3 支援機関に通う交通費がないから | 4 支援機関が通える距離にないから |
| 5 支援を受けることに漠然とした不安や恐怖を感じるから | 6 十分に話を聞いてもらえないと思うから |
| 7 就労を強く促されるだけだと思うから | 8 支援機関のイメージがよくないから |
| 9 支援の利用に後ろめたさを感じるから | 10 周囲の人に利用を知られてしまう恐れがあるから |
| 11 役に立つと思えないから | 12 現状を変えるような気力がないから |
| 13 現状に満足しているから | 14 支援は必要ないから |
| 15 その他 () | |

問24 あなたが利用してみたい、あるいは利用したかった相談支援やカウンセリング、生活支援を選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 ひきこもりに関するあらゆることに対応する総合窓口 | 2 同じ担当者が切れ目なく寄り添ってくれる支援 |
| 3 支援者が困りごとに具体的なアドバイスをしてくれる | 4 支援者が困りごとをじっくり聴いてくれる |
| 5 ピアサポーター（ひきこもり経験者）による支援 | 6 コミュニケーション講座 |
| 7 生活リズムや習慣を整える支援 | 8 心理士等による心理カウンセリング |
| 9 精神科や心療内科のクリニック・病院 | 10 支援機関や居場所に行くための交通費の補助 |
| 11 障害年金や障害福祉サービスの利用支援 | 12 生活保護制度の利用支援 |
| 13 家計や生活費に関する相談 | 14 親元を離れて一人暮らしをするための相談・支援 |
| 15 宿泊型施設での支援 | 16 必要としている支援やサービスはない |
| 17 その他 () | |

問25 あなたが利用してみたい、あるいは利用したかった居場所や交流の場を選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 支援機関主催のひきこもりの居場所 | 2 当事者主催の当事者会や居場所 |
| 3 自分と同じ年齢層の人が集まる当事者の交流の場 | 4 自分と同じ性別（性自認）の人が集まる当事者の交流の場 |
| 5 いつでも自由に行けて、自由に過ごせる場 | 6 ひきこもりや生きづらさをテーマにした学びの場 |
| 7 さまざまな立場の人とひきこもりをテーマに交流する場 | 8 役割があり、手伝えることがある場 |
| 9 興味・関心に合った社会参加の機会（映画鑑賞会、ハイキングなど） | 10 必要としている居場所や交流の場はない |
| 11 その他（ | ） |

問26 あなたが利用してみたい、あるいは利用したかった就労支援を選んでください。

【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 短時間（1日4時間程度）から働ける職場の紹介 | 2 ごく短時間（1日15分程度）から働ける職場の紹介 |
| 3 在宅でできる仕事の紹介 | 4 ひきこもりに理解がある職場の紹介 |
| 5 正規雇用への就労支援 | 6 非正規雇用への就労支援 |
| 7 障がい者雇用への就労支援 | 8 自営業やフリーランスとして働くための相談や支援 |
| 9 支援機関が農業等と連携して行う就労支援（農福連携） | 10 就労準備段階や就労後にも継続的に相談ができる |
| 11 就労支援は利用したくない | 12 その他（ |
| | ） |

問27 あなたがひきこもり状態にあるときや、ひきこもり状態だったとき、利用しやすいと思う相談の手段や条件を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 自分で相談窓口に出向いて相談する | 2 支援者が自宅等を訪問して相談に乗ってくれる（アウトリーチ） |
| 3 電話で相談する | 4 手紙を使って相談する |
| 5 メールやチャットなどオンラインで相談する | 6 相談窓口が住んでいる地域にある |
| 7 相談窓口が住んでいる地域から離れている | 8 相談が無料である |
| 9 匿名で相談できる | 10 家族を仲介して相談する |
| 11 利用しやすいと思う相談の手段はない | 12 その他（ |
| | ） |

問28 ひきこもりに関わる支援者に望む、姿勢や態度、経験値等について選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 相談者に共感し、同じ目線に立って、寄り添う姿勢がある | 2 相談者の話をじっくり聴いてくれる |
| 3 積極的にアドバイスしてくれる | 4 冷静に対応してくれる |
| 5 ひきこもりに関する総合的な専門的知識がある | 6 相談者の状況に合わせた解決策を提案できる |
| 7 就労に限らず、多様な社会参加を支援できる | 8 長期的・継続的な支援を行ってくれる |
| 9 他部署や他団体と連携し、総合的な支援を行える | 10 雑談が気軽にできる |
| 11 似た経験を持つピアサポーターである | 12 支援者に望む姿勢・態度・経験値等は特にならない |
| 13 その他 () | |

問29 ひきこもり支援における、自宅を支援者が訪問する支援（アウトリーチ型支援）について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|--------------------------------|
| 1 本人の希望の有無にかかわらず、行わない方がよい |
| 2 本人の希望があれば、行った方がよい |
| 3 家族の希望があれば、本人の希望がなくても、行った方がよい |
| 4 本人や家族の希望がなくても、行った方がよい |
| 5 わからない |

問30 オンラインを活用したひきこもりの支援・サービスについて、あなたが利用したいと思うものを選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 Zoomなどのビデオ通話による交流の場 | 2 LINEチャットなどによるテキストでの交流の場 |
| 3 メタバースやアバターなどによるバーチャル空間での交流の場 | 4 Zoomなどのビデオ通話による相談やカウンセリング |
| 5 LINEチャットなどによる相談やカウンセリング | 6 Zoomなどのビデオ通話による自立・就労支援プログラム |
| 7 YouTubeなどの動画配信プラットフォームによる視聴型の講座やイベント | 8 オンラインでの支援・サービスを利用したいが利用できる環境がない |
| 9 オンラインでの支援・サービスを利用したいとは思わない | 10 その他 () |

問31 問20でひきこもりに関わる支援・サービスを「利用している」、または「過去に利用したことがある」と回答した方にお聞きします。利用した支援・サービスについて、良かったことや改善してほしいことがあれば、自由にお書きください。

※利用した支援の形態（就労支援、相談支援、医療など）も可能な範囲でお書きください

良かったこと

改善してほしいこと

問32 ひきこもりの当事者/経験者の現状や思いを、三重県や県内自治体でひきこもり支援に携わる方たちに伝えたいと思っています。あなたの思いをご自由にお書きください。【自由記述】

ヒアリング調査のお願い

今回の調査では、アンケートだけではくみ取ることのできない心情やお考えを理解することを目的に、ひきこもり当事者/経験者の方やそのご家族を対象に個別ヒアリング（聴き取り）調査を実施します。ヒアリングの日程は2024年8月から10月頃、所要時間は1時間から1時間半程度を予定しています。

個別ヒアリングへのご協力は任意です。ご協力いただける方には、後日受託者（一般社団法人ひきこもりUX会議）より日程調整の連絡をさせていただきます。なお、多数のお申し出があった場合は、調査趣旨に沿って対象者を選定させていただく場合があります。

- 1 個別ヒアリングに協力してもよい
- 2 個別ヒアリングは遠慮します → アンケート終了

個別ヒアリングに協力していただける方は、お手数ですが以下に連絡先をご記入ください。

ご提供いただく個人情報は本調査の依頼にのみ使用し、それ以外では使用いたしません。

ニックネーム

メールアドレス

ヒアリングはどのような形式を望みますか。（ヒアリングにかかる時間は1時間から1時間半程度を予定しています）

- 1 三重県内での対面（具体的な場所は追って相談）
- 2 オンライン（ZOOM等）
- 3 電話

※個別ヒアリングにご協力のお申し出をいただいた方で、9月13日（金）までにひきこもりUX会議からのメールが届かない場合は、ご利用のメールソフトの迷惑メールフォルダに「event@uxkaigi.jp」からのメールが届いていないかご確認ください。また、パソコンから送信されたメールを受信しない設定になっている方は、メール受信設定で受信許可リストにuxkaigi.jpを含めるように、ご利用のメールソフトの設定をご確認ください。

**アンケートは以上です。
ご協力いただき、ありがとうございました。**

調査や回答内容について、何か補足事項があれば
受託者（一般社団法人ひきこもりUX会議）までご連絡ください。

event@uxkaigi.jp

調査票・家族調査

三重県ひきこもりに 関する実態調査

ご協力をお願い

- この調査は、三重県からの委託を受け、一般社団法人ひきこもりUX会議が実施するものです。
三重県では、令和3年度に策定した「三重県ひきこもり支援推進計画」が令和6年度に計画期間の最終年度を迎えることから、次期計画策定に向け県内で約2万人と推計されるひきこもり状態にある方やそのご家族の現状を深く理解し、ニーズに合った効果的な支援策を構築することを目指しています。
- 調査対象
三重県在住で、現在ひきこもり状態のご家族がいる方（性別、年齢問わず）

※ひきこもりの定義について

三重県では「ひきこもり」の定義（下記参照）を定め今回の調査の目安としておりますが、これに厳密に当てはまるかどうかによらず、「**家族がひきこもり状態にある、またはそれに類する状態にある**」とお考えの場合には、**そのご家族という立場でご回答ください。**

＜参考：「三重県ひきこもり支援推進計画」における“ひきこもり”の定義＞

- ①学校や仕事等の社会活動に参加せず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、原則6か月以上にわたって自宅にとどまり続けている状態の方。
 - ②学校や仕事等の社会活動に参加せず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物や趣味の用事など他者と交わらない形で外出することがある方。
- 公表に際しては、統計的な情報に加え、みなさまから得られた情報についても言及する場合がありますが、その際は個人が特定できない形で行います。
 - 調査の分析結果については、三重県のWebサイトや受託者のブログ等において公表する予定です。

回答時間の目安：10～15分程度

回答締切：2024年8月31日（土）までに投函

ご記入に際してのお願い

1. ご記入は、**現在ひきこもり状態のご家族がいる方**が行ってください。
2. この調査は、インターネット上の入力フォームと、紙に印刷されたものの2種類があります（内容は同一）。回答はお一人につきいずれか1回のみでお願いします。
3. 質問は、番号順にお答えください。最も近いと思う選択肢をお選びください。答えられない質問がある場合は、飛ばして次の質問にお進みください。
4. 回答で「その他」を選択して具体例を記入するときは、可能な限り詳しく記入してください。
5. ご記入が終わりましたら、回答漏れがないかご確認願います。
6. ご家族にひきこもり状態のご本人が複数人いる場合、人数分アンケートに答えていただくことが可能です。その場合は、「問1 ニックネーム」を一人目の方とは別のものにして、1つのアンケートにつきお一人の当事者の方についてお答えください。

調査主体／受託者・お問い合わせ

【調査主体】三重県 子ども・福祉部 地域福祉課 ひきこもり支援班

【受託者】一般社団法人ひきこもりUX会議

- ▶調査・回収についてのお問い合わせは、一般社団法人ひきこもりUX会議までお寄せください。
メール：event@uxkaigi.jp

設問

問1 ニックネーム（本名不可）【※重複チェックのためで、その他の用途では使用しません】

問2 あなたが現在お住まいの市町を教えてください。【あてはまるもの1つに○】

1 桑名市	2 いなべ市	3 木曽岬町	4 東員町
5 四日市市	6 菰野町	7 朝日町	8 川越町
9 鈴鹿市	10 亀山市	11 津市	12 松阪市
13 多気町	14 明和町	15 大台町	16 伊勢市
17 鳥羽市	18 志摩市	19 玉城町	20 度会町
21 大紀町	22 南伊勢町	23 伊賀市	24 名張市
25 尾鷲市	26 紀北町	27 熊野市	28 御浜町
29 紀宝町	30 現在、三重県には住んでいない		

問3 あなたの年齢を教えてください。

 歳

問4 あなたの性別（性自認）を教えてください。（回答は任意）【あてはまるもの1つに○】

1 男性	2 女性	3 その他（	）
------	------	--------	---

問5 立場や同居についてお聞きします。

1. ひきこもり状態のご本人から見た、あなたの立場（続柄）を教えてください。【あてはまるもの1つに○】

1 父親	2 母親	3 配偶者／パートナー	4 兄弟姉妹	
5 祖父母	6 子	7 その他の親戚	8 その他（	）

2. 現在、ひきこもり状態のご本人と同居していますか。【あてはまるもの1つに○】

1 同居している
2 本人は三重県内に在住で、別居している
3 本人は三重県外に在住で、別居している

ひきこもり状態のご本人について、以下の質問にお答えください。

問6 ご本人の年齢

歳

問7 ご本人の性別（回答は任意）【あてはまるもの1つに○】

1 男性 2 女性 3 その他 ()

問8 ご本人がひきこもり始めた年齢を教えてください。【あてはまるもの1つに○】

1 9歳以下 2 10歳～14歳 3 15歳～19歳 4 20歳～24歳
5 25歳～29歳 6 30歳～34歳 7 35歳～39歳 8 40歳～44歳
9 45歳～49歳 10 50歳～54歳 11 55歳～59歳 12 60歳～64歳
13 65歳以上

問9 ご本人の「ひきこもり」期間（のべ）について教えてください。【あてはまるもの1つに○】

1 6ヶ月未満 2 6ヶ月～1年未満 3 1年～2年未満 4 2年～3年未満
5 3年～5年未満 6 5年～7年未満 7 7年～10年未満 8 10年～15年未満
9 15年～20年未満 10 20年～25年未満 11 25年～30年未満 12 30年以上

問10 ご本人の「ひきこもり」の原因やきっかけとして考えられることは何ですか。【あてはまるものすべてに○】

1 家族との関係 2 人間関係がうまくいかなかった
3 からだの不調・病気・障がい 4 こころの不調・病気・障がい
5 いじめ 6 不登校
7 職場になじめなかった 8 失業、離職
9 定年退職 10 特に理由はない
11 わからない 12 その他
()

問11 ご本人はふだんどのくらい外出しますか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。【あてはまるもの1つに○】

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1 仕事や学校で平日は毎日外出する | 2 仕事や学校で週3～4日外出する |
| 3 遊び等で頻繁に外出する | 4 人付き合いのためにときどき外出する |
| 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事
のときは外出する | 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには
出かける |
| 7 自室からは出るが、家からは出ない | 8 自室からほとんど出ない |
| 9 わからない | |

問12 現在、ご本人はひきこもりに関わる支援・サービスを受けていますか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|---------------------------------|
| 1 本人が現在支援・サービスを受けている |
| 2 本人が以前支援・サービスを受けていたが、現在は受けていない |
| 3 本人は今まで一度も支援・サービスを受けていない |
| 4 わからない |

問13 あなたから見た、ご本人のこの1年間の状態の変化について教えてください。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|-------------------|
| 1 改善傾向にある |
| 2 どちらかといえば改善傾向にある |
| 3 変化はない |
| 4 一進一退を繰り返している |
| 5 悪化している |
| 6 わからない |

問14 ご本人に関連してあなたが悩んでいることはありますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 本人が支援につながることに消極的であること
- 2 本人の心身の健康状態が悪化していること
- 3 本人の将来の自立や、社会参加への見通しが立たないこと
- 4 親亡き後の本人の生活への不安
- 5 本人とのコミュニケーションが難しく、会話がでないこと
- 6 本人との不和や関係性が悪化していること
- 7 本人の日常生活のリズムが乱れていること
- 8 本人の興味や関心、やる気が低下していること
- 9 本人の暴力や攻撃的な言動
- 10 本人のひきこもり状態が長期化していること
- 11 本人がゲームやインターネットばかりしていること
- 12 本人の身だしなみや衛生面での問題が見られること
- 13 本人とその兄弟姉妹との関係
- 14 本人にとっての適切な相談先や支援サービスが見つからないこと
- 15 近所の目や評判が気になること
- 16 その他 ()

あなた自身について、以下の質問にお答えください。

問15 現在、あなた自身が抱えている悩みについて教えてください。

	とても悩んでいる	悩んでいる	あまり悩んでいない	まったく悩んでいない	該当しない
1 生活費などの経済的なこと	1	2	3	4	5
2 自身の病気や障がい	1	2	3	4	5
3 自身の老後	1	2	3	4	5
4 自身の心身の疲労	1	2	3	4	5
5 家族の介護	1	2	3	4	5
6 困ったときに頼れる人がいない	1	2	3	4	5
7 人生の充実感や幸福感がない	1	2	3	4	5
8 ひきこもり状態のご本人のこと	1	2	3	4	5

問16 現在のご家庭の経済状態について教えてください。【あてはまるもの1つに○】

- | | | |
|------------|----------|------|
| 1 大変ゆとりがある | 2 ゆとりがある | 3 普通 |
| 4 苦しい | 5 大変苦しい | |

問17 あなたとご家族との関係性について教えてください。

1.あなたとひきこもり状態のご本人との関係性【あてはまるもの1つに○】

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1 良い | 2 どちらかといえば良い | 3 良いとも悪いともいえない |
| 4 どちらかといえば悪い | 5 悪い | |

2.あなたと配偶者/パートナーとの関係性【あてはまるもの1つに○】

※「問5 ひきこもり状態のご本人から見た、あなたの立場（続柄）を教えてください」で、「父親」または「母親」と回答した方のみお答えください。

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1 良い | 2 どちらかといえば良い | 3 良いとも悪いともいえない |
| 4 どちらかといえば悪い | 5 悪い | 6 いない |

問18 あなたにはご自身の悩みごとを相談できる人はいますか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 配偶者/パートナー | 2 親（義父母含む） |
| 3 自分の兄弟姉妹・親戚 | 4 ひきこもり状態のご本人 |
| 5 ひきこもり状態のご本人の兄弟姉妹 | 6 近隣に住む友人・知人 |
| 7 近隣に住んでいない友人・知人 | 8 同じ悩みを抱える人 |
| 9 カウンセラー、精神科医 | 10 相談員、支援員 |
| 11 相談できる人はいない | 12 その他
() |

問19 あなたは、以下の機関がひきこもりに関わる支援・サービスを行っていることを知っていますか。支援・サービスを行っていることを知っている機関を選んでください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1 三重県ひきこもり地域支援センター | 2 市町ひきこもり相談窓口 |
| 3 社会福祉協議会 | 4 生活困窮者自立相談支援機関 |
| 5 福祉事務所 | 6 保健所 |
| 7 保健センター | 8 地域包括支援センター |
| 9 在宅介護支援センター | 10 児童相談所 |
| 11 障がい者（総合）相談支援センター | 12 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等） |
| 13 医療機関（精神科・クリニック） | 14 教育支援機関（教育支援センター等） |
| 15 民生委員・児童委員 | 16 民間支援団体（NPO等） |
| 17 家族会・当事者会 | 18 上記の機関がひきこもり支援を行っていることは知らなかった |
| 19 その他（ | ） |

問20 あなたはひきこもり支援を行う機関を何で知りましたか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 家族 | 2 友人や知人 |
| 3 支援者 | 4 本や雑誌 |
| 5 自治体の広報紙や回覧板 | 6 新聞、テレビ、ラジオ |
| 7 チラシ、パンフレット | 8 支援機関のウェブサイト |
| 9 SNS | 10 インターネット検索 |
| 11 当事者会や家族会 | 12 ひきこもりに関する講演会やイベント |
| 13 どこで知ったか覚えていない | 14 ひきこもり支援を行う支援機関は知らない |
| 15 その他（ | ） |

問21 あなたはひきこもりに関わる支援・サービスを利用しているか、または過去に利用したことがありますか。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|-----------------------------------|
| 1 現在利用している → 問23へ |
| 2 過去に利用したことがあるが、現在は利用していない → 問23へ |
| 3 今まで一度も利用したことはない → 問22へ |

問22 問21で3と回答した方にお聞きします。あなたが支援・サービスを利用しない理由を教えてください【あてはまるものすべてに〇】

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 どこに相談してよいかわからないから | 2 支援機関に期待できないから |
| 3 世間や近所の目が気になるから | 4 家族だけで解決したいから |
| 5 本人が支援を拒否しているから | 6 ひきこもりは一時的なものだと思うから |
| 7 支援・サービスを利用する時間的余裕がないから | 8 支援・サービスを利用する経済的余裕がないから |
| 9 その他 () | |

問23 問21で1、2のいずれかと回答した方にお聞きします。以下のひきこもりに関わる支援・サービスを行う機関のうち、あなたが利用したことがあるものを教えてください。【あてはまるものすべてに〇】

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 三重県ひきこもり地域支援センター | 2 市町ひきこもり相談窓口 |
| 3 社会福祉協議会 | 4 生活困窮者自立相談支援機関 |
| 5 福祉事務所 | 6 保健所 |
| 7 保健センター | 8 地域包括支援センター |
| 9 在宅介護支援センター | 10 児童相談所 |
| 11 障がい者（総合）相談支援センター | 12 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等） |
| 13 医療機関（精神科・クリニック） | 14 教育支援機関（教育支援センター等） |
| 15 民生委員・児童委員 | 16 民間支援団体（NPO等） |
| 17 家族会・当事者会 | 18 その他 () |

問24 過去にひきこりに関わる支援を中断したことがある方にお聞きます。あなたが支援・サービスを中断した理由を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- 1 支援・サービスが期待していた内容ではなかったから
- 2 本人の状況が改善したから
- 3 本人の状況が悪化したから
- 4 支援者との関係がうまくいかなかったから
- 5 担当者が変更になったから
- 6 本人が、家族が支援を受けることに反対したから
- 7 (本人以外の) 家族の都合で通えなくなったから
- 8 本人が直接支援を受けず、家族だけが利用しても状況が変わらないから
- 9 世間や近所の目が気になったから
- 10 中断したことはない
- 11 その他 ()

問25 あなたは現在、ご自身に対してどのような支援を必要としていますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 ひきこりに関するさまざまな相談ができる総合窓口(ワンストップ窓口)
- 2 じっくり話を聴いてくれる相談
- 3 ひきこもり状態にある本人への接し方についての相談
- 4 ひきこもり状態にある本人のメンタルヘルスに関する相談
- 5 家族関係を改善するための相談
- 6 親亡き後に向けた相談
- 7 ご自身への精神的な支援(カウンセリングなど)
- 8 家族会の紹介や参加への支援
- 9 ひきこもり状態にある本人の兄弟姉妹のための相談や支援
- 10 ひきこもりへの理解を深めるための情報提供や学習の機会
- 11 ひきこもり経験者による体験談を聞く機会
- 12 生活費など経済的な支援
- 13 行政や関係機関における手続きの支援
- 14 法的な問題(成年後見制度や財産相続など)に関する相談や情報提供
- 15 ご自身への支援は必要としていない
- 16 その他 ()

問26 あなたはひきこもり状態のご本人に対して、どのような支援を受けてほしいとお考えですか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 就労支援 | 2 将来のためのマネープランの支援 |
| 3 訪問支援 | 4 精神科病院やメンタルクリニックなどの医療的支援 |
| 5 宿泊型施設での支援 | 6 居場所・当事者会の紹介 |
| 7 興味・関心に合わせた社会参加の機会
(映画鑑賞会、ハイキングなど) | 8 ピアサポーター（ひきこもり経験者）による
相談や支援 |
| 9 生活保護制度の利用支援 | 10 生活リズムや習慣を整える支援 |
| 11 一人暮らしをするための相談や支援 | 12 本人への支援は必要性を感じない |
| 13 その他（ | ） |

問27 そのほか、あなたが困っていることや、ひきこもりに関わる支援・サービスに望むことなどがあれば、ご自由にお書きください。

ヒアリング調査のお願い

今回の調査では、アンケートだけではくみ取ることのできない心情やお考えを理解することを目的に、ひきこもり当事者・経験者の方や、ご家族を対象に個別ヒアリング（聴き取り）調査を実施します。ヒアリングの日程は2024年8月から10月頃、所要時間は1時間から1時間半程度を予定しています。

個別ヒアリングへのご協力は任意です。ご協力いただける方には、後日受託者（一般社団法人ひきこもりUX会議）より日程調整の連絡をさせていただきます。なお、多数のお申し出があった場合は、調査趣旨に沿って対象者を選定させていただく場合があります。

- 1 個別ヒアリングに協力してもよい
- 2 個別ヒアリングは遠慮します→アンケート終了

個別ヒアリングに協力していただける方は、お手数ですが以下に連絡先をご記入ください。

ご提供いただく個人情報は本調査の依頼にのみ使用し、それ以外では使用いたしません。

ニックネーム

メールアドレス

ヒアリングはどのような形式を望みますか。（ヒアリングにかかる時間は1時間から1時間半程度を予定しています）

- 1 三重県内での対面（具体的な場所は追って相談）
- 2 オンライン（ZOOM等）
- 3 電話

※個別ヒアリングにご協力のお申し出をいただいた方で、9月13日（金）までにひきこもりUX会議からのメールが届かない場合は、ご利用のメールソフトの迷惑メールフォルダに「event@uxkaigi.jp」からのメールが届いていないかご確認ください。また、パソコンから送信されたメールを受信しない設定になっている方は、メール受信設定で受信許可リストにuxkaigi.jpを含めるように、ご利用のメールソフトの設定をご確認ください。

**アンケートは以上です。
ご協力いただき、ありがとうございました。**

調査や回答内容について、何か補足事項があれば
受託者（一般社団法人ひきこもりUX会議）までご連絡ください。

event@uxkaigi.jp

調査票・支援機関調査

三重県ひきこもりに 関する実態調査

ご協力のお願い

- この調査は、三重県からの委託を受け、一般社団法人ひきこもりUX会議が実施するものです。
三重県では、令和3年度に策定した「三重県ひきこもり支援推進計画」が令和6年度に計画期間の最終年度を迎えることから、次期計画策定に向け県内で約2万人と推計されるひきこもり状態にある方やそのご家族の現状ならびに支援の現況や課題を深く理解し、ニーズに合った効果的な支援策を構築することを目指しています。
- 調査対象
三重県子ども・福祉部 地域福祉課 ひきこもり支援班が把握している、**三重県のひきこもりに関わる支援機関**

※ひきこもりの定義について

三重県では、「ひきこもり」について以下のように定義しています。

- ①学校や仕事等の社会活動に参加せず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、原則6か月以上にわたって自宅にとどまり続けている状態の方。
- ②学校や仕事等の社会活動に参加せず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物や趣味の用事など他者と交わらない形で外出することがある方。

今回の調査では、この定義を基準としますが、**ひきこもり期間や程度が確認できていない場合でも、上記の定義に該当する、またはこれに類すると推定されるケースについては、「推定ひきこもり」とみなして回答してください。**

- 公表に際しては、統計的な情報に加え、みなさまから得られた情報についても言及する場合があります。
- 調査の分析結果については、三重県のWebサイトや受託者のブログ等において公表する予定です。

回答時間の目安：10～15分程度

回答締切：2024年8月31日（土）までに投函

ご記入に際してのお願い

1. 回答は、**機関を代表し、どなたか1名**が回答してください。実際にひきこもり支援に携わっている方が望ましいです。なお、本調査への回答は、所属機関の公式見解や総意としては取り扱いませんが、可能な範囲で機関ないし、部署の考えが反映されるように回答していただけると幸いです。
2. 質問は、番号順にお答えください。最も近いと思う選択肢をお選びください。答えられない質問がある場合は、飛ばして次の質問にお進みください。
3. 回答で「その他」を選択して具体例を記入するときは、可能な限り詳しく記入してください。
4. 記入が終わりましたら、回答漏れがないかご確認願います。

調査主体／受託者・お問い合わせ

【調査主体】三重県 子ども・福祉部 地域福祉課 ひきこもり支援班

【受託者】一般社団法人ひきこもりUX会議

- ▶調査・回収についてのお問い合わせは、一般社団法人ひきこもりUX会議までお寄せください。
メール：event@uxkaigi.jp

設問

問1 貴機関について、該当するものを選択してください。【あてはまるもの1つに○】

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 三重県ひきこもり地域支援センター | 2 市町ひきこもり相談窓口 |
| 3 社会福祉協議会 | 4 生活困窮者自立相談支援機関 |
| 5 福祉事務所 | 6 保健所 |
| 7 地域包括支援センター | 8 在宅介護支援センター |
| 9 児童相談所 | 10 障がい者（総合）相談支援センター |
| 11 就労支援機関（サポステ、障がい・生活支援等） | 12 医療機関（精神科・クリニック） |
| 13 教育支援機関（教育支援センター等） | 14 民間支援団体（NPO等） |
| 15 家族会・当事者会 | 16 その他（ ） |

問2 貴機関の所在する市町を教えてください。【あてはまるもの1つに○】

- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1 桑名市 | 2 いなべ市 | 3 木曽岬町 | 4 東員町 |
| 5 四日市市 | 6 菰野町 | 7 朝日町 | 8 川越町 |
| 9 鈴鹿市 | 10 亀山市 | 11 津市 | 12 松阪市 |
| 13 多気町 | 14 明和町 | 15 大台町 | 16 伊勢市 |
| 17 鳥羽市 | 18 志摩市 | 19 玉城町 | 20 度会町 |
| 21 大紀町 | 22 南伊勢町 | 23 伊賀市 | 24 名張市 |
| 25 尾鷲市 | 26 紀北町 | 27 熊野市 | 28 御浜町 |
| 29 紀宝町 | | | |

問3 貴機関がひきこもりに関わる支援・サービスや取り組み（以下「支援・サービス」とする）を始めてからどれくらいの期間が経過していますか。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|---------------------------------|
| 1 1年未満 → 問4へ |
| 2 1年以上3年未満 → 問4へ |
| 3 3年以上5年未満 → 問4へ |
| 4 5年以上10年未満 → 問4へ |
| 5 10年以上 → 問4へ |
| 6 現在支援は行っていないが、今後予定している → 問18へ |
| 7 現在支援は行っておらず、今後も予定していない → 問18へ |

問4 貴機関が支援・サービスで対応した当事者のおおよその実人数（1か月平均）をお答えください。
（令和5年度を基準とし、相談、訪問、居場所等すべて含める）【あてはまるもの1つに○】

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1 利用者はいない | 2 1～2人/月 | 3 3～5人/月 | 4 6～9人/月 |
| 5 10～14人/月 | 6 15～19人/月 | 7 20～29人/月 | 8 30～39人/月 |
| 9 40～49人/月 | 10 50人以上/月 | | |

問5 貴機関が支援・サービスで対応したご家族のおおよその実件数（1か月平均）をお答えください。
（令和5年度を基準とし、相談、訪問、居場所等すべて含める）※1家族を1件と数えてください。
【あてはまるもの1つに○】

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 利用者はいない | 2 1～2件/月 | 3 3～5件/月 | 4 6～9件/月 |
| 5 10～14件/月 | 6 15～19件/月 | 7 20～29件/月 | 8 30～39件/月 |
| 9 40～49件/月 | 10 50～69件/月 | 11 70～99件/月 | 12 100件以上/月 |

問6 令和5年度の新規利用者のうち、現在も継続的に関わっている当事者はどれくらいいますか。
【あてはまるもの1つに○】

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 継続している利用者はいない | 2 約1割が継続している |
| 3 約2割が継続している | 4 約3割が継続している |
| 5 約4割が継続している | 6 約5割が継続している |
| 7 約6割が継続している | 8 約7割以上が継続している |

問7 令和5年度の新規利用者のうち、現在も継続的に関わっているご家族はどれくらいいますか。
【あてはまるもの1つに○】

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 継続している利用者はいない | 2 約1割が継続している |
| 3 約2割が継続している | 4 約3割が継続している |
| 5 約4割が継続している | 6 約5割が継続している |
| 7 約6割が継続している | 8 約7割以上が継続している |

問8 貴機関の令和4年度と令和5年度を比較して、利用者数の増減についてお答えください。【あてはまるもの1つに○】

- | |
|--------------|
| 1 増えた |
| 2 変わらない（横ばい） |
| 3 減った |

問9 貴機関が提供している支援・サービスの形態について教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- 1 対面による相談（来所）
- 2 メールによる相談
- 3 電話による相談
- 4 SNSによる相談
- 5 自宅などへの訪問（アウトリーチ）
- 6 心理相談（カウンセリング含む）
- 7 医療的支援
- 8 一般就労（非正規雇用含む）に向けた支援
- 9 中間的就労（一般就労に向けた軽易な作業）の機会
- 10 福祉的就労（障がい者雇用等）に向けた支援
- 11 当事者向けの居場所の開催
- 12 家族会の開催
- 13 地域住民向けの講演会や普及・啓発活動
- 14 他の機関との連携、連絡調整（支援方針を検討するための会議など）
- 15 その他（）

問10 貴機関が提供している支援・サービスの形態のうち、特に必要性が高いと感じているものは何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

- 1 対面による相談（来所）
- 2 メールによる相談
- 3 電話による相談
- 4 SNSによる相談
- 5 自宅などへの訪問（アウトリーチ）
- 6 心理相談（カウンセリング含む）
- 7 医療的支援
- 8 一般就労（非正規雇用含む）に向けた支援
- 9 中間的就労（一般就労に向けた軽易な作業）の機会
- 10 福祉的就労（障がい者雇用等）に向けた支援
- 11 当事者向けの居場所の開催
- 12 家族会の開催
- 13 地域住民向けの講演会や普及・啓発活動
- 14 他の機関との連携、連絡調整（支援方針を検討するための会議など）
- 15 その他（)

問11 貴機関では、ひきこもり状態にある方をどのような機会に把握することが多いですか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 当事者本人からの相談
- 2 ご家族からの相談
- 3 近隣住民からの相談や情報提供
- 4 民生委員・児童委員からの情報提供
- 5 医療機関からの情報提供
- 6 介護サービス事業者からの情報提供
- 7 教育関係機関（学校、教育委員会等）からの情報提供
- 8 行政機関・社会福祉協議会からの情報提供
- 9 把握できていない
- 10 その他（)

問12 あなたのこれまでの支援経験の中で、特にどのような働きかけが、ひきこもり状態のご本人に対する回復（リカバリー）の助けになると感じていますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 時間をかけて関わり続けることによる信頼関係の構築
- 2 本人の話をじっくり聞き、その感情や経験を理解しようと努めること
- 3 本人の困りごとを一步踏み込んで聞き出すこと
- 4 生活状況や家族関係の情報を収集し、客観的に分析すること
- 5 生活リズムの改善サポート
- 6 本人の興味・関心を活かした個別活動プログラムの提供
- 7 本人の状態に応じた段階的な社会参加支援
- 8 本人の状態に応じた就労支援
- 9 家族の理解と協力を得ること
- 10 居場所や当事者会の参加支援
- 11 ピアサポーター（ひきこもり経験者）による支援
- 12 本人を医療機関とつなげること
- 13 福祉サービス・障害年金の利用支援
- 14 他機関との連携による包括的な支援
- 15 宿泊型施設への入所
- 16 わからない
- 17 その他（）

問13 貴機関が組織として支援・サービスを行う上で、特に課題として感じているものについて、教えてください。

【あてはまるものすべてに○】

- 1 支援者向けの研修機会の不足
- 2 ひきこもり支援のための予算不足
- 3 ひきこもり支援のための職員不足
- 4 一定の期間で成果（就労等）を求められる
- 5 地域の他機関との連携がない
- 6 県・他市区町村との広域連携がない
- 7 家族会、当事者団体との連携がない
- 8 地域の支援機関が網羅された情報がない
- 9 ひきこもりに対する地域や社会の無理解
- 10 地域にひきこもりに関わる社会資源（就労先、協力者等）がない
- 11 その他（)

問14 若年層（概ね39歳以下）への支援・サービスを行う上で貴機関が感じている課題について教えてください。【あ

てはまるものすべてに○】

- 1 ひきこもりについての知識やノウハウが足りない
- 2 家族は支援につながっているが、本人につながるできない
- 3 家族とも本人ともつながることができない
- 4 本人が一人暮らしでアプローチが難しい
- 5 本人や家族から相談があっても、継続せず相談が途切れてしまう
- 6 長期（概ね10年以上）ひきこもり事例への対応が難しい
- 7 本人と家族の認識にギャップがあり、家族関係の調整が難しい
- 8 支援の効果や成果が見えにくい
- 9 ひきこもり事例が多様であり、目指すべき方向性が定めにくい
- 10 本人の身体的な健康問題への対応が難しい
- 11 本人の精神的な問題への対応が難しい
- 12 地域に本人に合う職場が少なく、就労支援が困難である
- 13 学齢期（高校生相当まで）を過ぎると支援が途絶えてしまう
- 14 その他（)

問15 中高年層（概ね40歳以上）への支援・サービスを行う上で貴機関が感じている課題について教えてください。

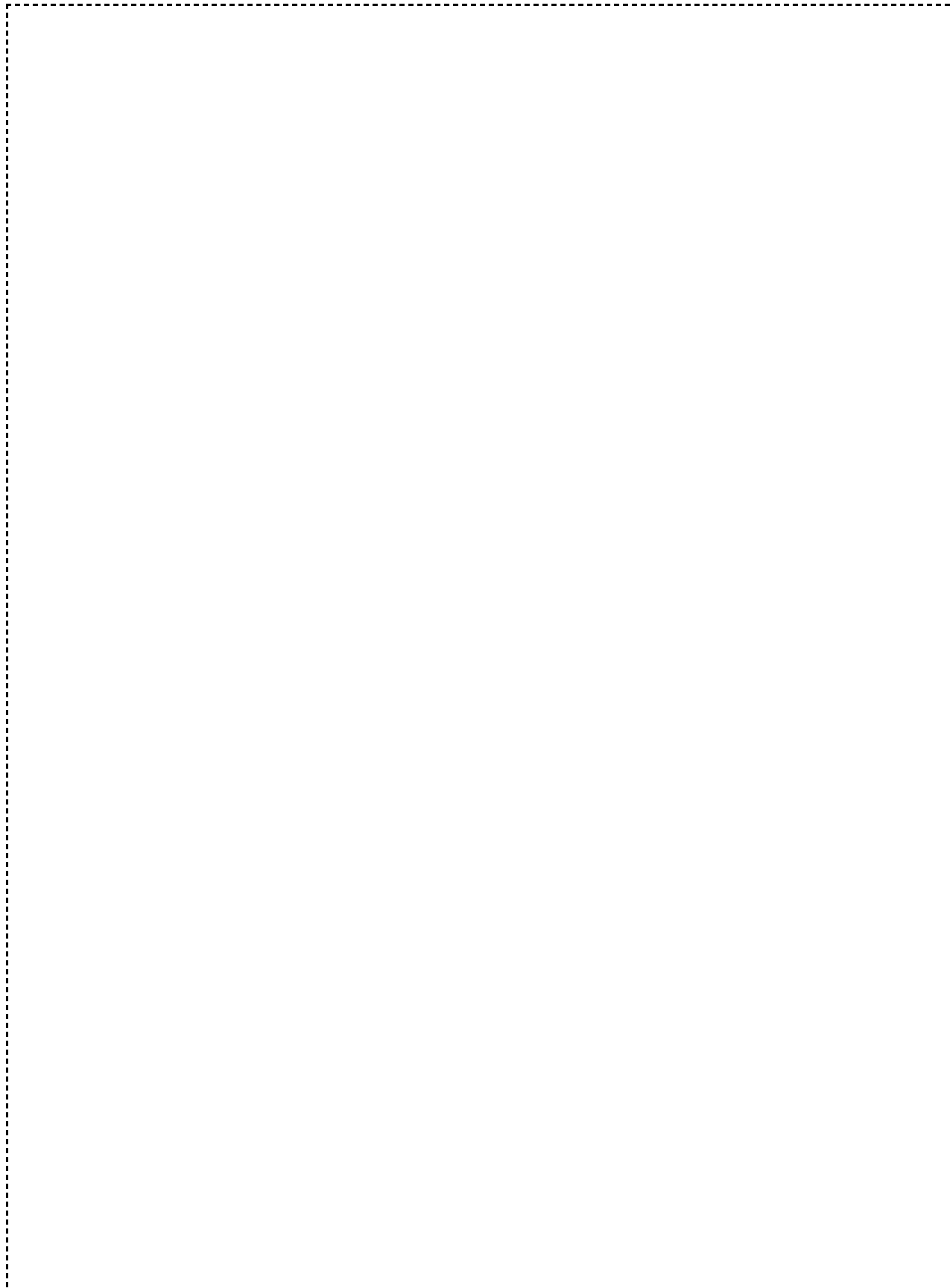
【あてはまるものすべてに○】

- 1 ひきこもりについての知識やノウハウが足りない
- 2 家族は支援につながっているが、本人につながることができない
- 3 家族とも本人ともつながることができない
- 4 本人が一人暮らしでアプローチが難しい
- 5 本人や家族から相談があっても、継続せず相談が途切れてしまう
- 6 長期（概ね10年以上）ひきこもり事例への対応が難しい
- 7 本人と家族の認識にギャップがあり、家族関係の調整が難しい
- 8 支援の効果や成果が見えにくい
- 9 ひきこもり事例が多様であり、目指すべき方向性が定めにくい
- 10 本人の身体的な健康問題への対応が難しい
- 11 本人の精神的な問題への対応が難しい
- 12 地域に本人に合う職場が少なく、就労支援が困難である
- 13 8050問題についての知識やノウハウが足りない
- 14 その他（)

問16 貴機関が支援・サービスにおいて注力していることについて教えてください。【あてはまるものすべてに○】

- 1 広報活動に力を入れている
- 2 利用にあたり、年齢制限や居住地制限を設けていない
- 3 個別支援において、できるだけ担当者が変わらないようにしている
- 4 訪問支援（アウトリーチ）を積極的に行っている
- 5 個人のニーズに合わせた支援・サービスを提供している
- 6 当事者や家族の活動を支援している
- 7 他機関と連携し、複合的な課題に取り組んでいる
- 8 近隣地域の支援機関と広域的な連携を推進している
- 9 職員・スタッフの研修・セミナー等への参加を積極的に奨励している
- 10 ひきこもり支援の予算確保に力を入れている
- 11 支援スタッフのメンタルヘルスのサポートに取り組んでいる
- 12 その他（)

問20 ひきこもりに関わる支援・サービスについて、課題や日頃感じていること、三重県への要望など、ご自由にご記入ください。



ヒアリング調査のお願い

今回の調査では、アンケートだけではくみ取ることのできない実情やお考えを理解することを目的に、ひきこもり支援に携わる方を対象に個別ヒアリング（聴き取り）調査を実施します。ヒアリング方法はZOOMなどを使用したオンラインで、日程は2024年8月から10月頃、所要時間は1時間から1時間半程度を予定しています。

個別ヒアリングへのご協力は任意です。ご協力いただける方には、後日受託者（一般社団法人ひきこもりUX会議）より日程調整の連絡をさせていただきます。なお、多数のお申し出があった場合は、調査趣旨に沿って対象者を選定させていただく場合があります。

- 1 個別ヒアリングに協力してもよい
- 2 個別ヒアリングは遠慮します→アンケート終了

個別ヒアリングに協力していただける方は、お手数ですが以下に連絡先をご記入ください。

ご提供いただく個人情報は本調査の依頼にのみ使用し、それ以外では使用いたしません。

お名前

所属機関等

メールアドレス

電話番号

※個別ヒアリングにご協力のお申し出をいただいた方で、9月13日（金）までにひきこもりUX会議からのメールが届かない場合は、ご利用のメールソフトの迷惑メールフォルダに「event@uxkaigi.jp」からのメールが届いていないかご確認ください。また、パソコンから送信されたメールを受信しない設定になっている方は、メール受信設定で受信許可リストにuxkaigi.jpを含めるように、ご利用のメールソフトの設定をご確認ください。

**アンケートは以上です。
ご協力いただき、ありがとうございました。**

調査や回答内容について、何か補足事項があれば
受託者（一般社団法人ひきこもりUX会議）までご連絡ください。

event@uxkaigi.jp

調査実施告知チラシ

三重県在住のひきこもり当事者/経験者ならびにご家族の皆さまへ /

「三重県ひきこもりに 関する実態調査」へ のご協力をお願いします!!



調査回答期間: 2024年8月1日～8月31日

期間中にはイベントも開催! ひきこもり経験者による体験談&小さな交流会

この度、三重県内のひきこもり状態にある方やそのご家族を対象に、生活状況や支援ニーズに関する調査を行うことになりました。この調査は、三重県がひきこもり状態にある方々の現状を深く理解し、ニーズに合った効果的な支援策を構築することを目的にしています。

この調査を行う私たち「一般社団法人ひきこもりUX会議」は、ひきこもり経験者等で構成された団体です。当事者視点を軸に、リアルな声を集めることにより、当事者が本当に必要とする支援の実現につながると考えています。

ひきこもり当事者やご家族が現在どのような状況にあり、何を思い、どのような支援を必要としているのか。ぜひ、あなたの声を聞かせてください。

回答用オンラインフォームはこの二次元コードを読み込んでください

ひきこもり当事者/経験者
の方はこちらから
[所要時間: 約15分]



<https://forms.gle/6PxxPUyjob581piz8>

ご家族の方はこちらから
[所要時間: 約15分]



<https://forms.gle/8JRpJ8oyJwwcMK5j9>

- | | |
|------|--|
| 調査期間 | 2024年8月1日(木)～8月31日(土) |
| 調査方法 | オンラインフォーム、アンケート用紙(回答はいずれか1回のみ) |
| 調査対象 | 1. 三重県にお住まいの、ひきこもり当事者/経験者ご本人(年齢・性別問わず)
2. 三重県にお住まいの、ひきこもり状態のご家族がいる方(年齢・性別問わず) |
| 回答方法 | 上記二次元コード、もしくはURLへアクセスし、案内に沿って回答してください。
パソコン・タブレット・スマートフォンでの回答が可能です。 |

イベント案内、
アンケート用紙の請求方法は
裏面をご覧ください

この調査は、三重県子ども・福祉部 地域福祉課 ひきこもり支援班からの委託を受け、一般社団法人ひきこもりUX会議が実施しています。

調査期間中!

三重県内で
「ひきこもり経験者による
体験談&小さな交流会」を
実施します!!



詳細は
ひきこもりUX会議
のブログにて
ご確認ください。

当日は、体験談の後に、その場に集まった参加者の皆さん同士で小さな交流会を実施します。

「こんな状態にあるのは自分だけではないか」「何かできることはないだろうか」など、参加者同士で思いを共有する中で、気持ちが少し軽くなったり、つながりが生まれる時間になればと思っています。

対象 三重県在住のひきこもり当事者/経験者、
ご家族、支援者、関心のある方

定員 各回30名
(申込不要、先着順)

<四日市市>

日時: **8月8日(木)**
14:00~16:00[開場13:40]
会場: 三重県四日市庁舎
本館1階 第11会議室
(四日市市新正4丁目21-5)

<津市>

日時: **8月9日(金)**
14:00~16:00[開場13:40]
会場: 三重県津庁舎
本館5階 52会議室
(津市桜橋3丁目446-34)

※四日市市、津市ともに市役所の本庁舎ではありませんので、ご注意ください。住所をよくご確認の上お越しください。

◎交流時間は1時間15分程度を予定しています。途中退出、休憩は自由です。

◎会場には、今回の実態調査のアンケート用紙も用意しています。その場でご記入いただいたり、お持ち帰りいただくことが可能です。



オンラインフォームでの回答が難しい方へ

アンケート用紙での回答をご希望の方は、**①お名前 ②郵便番号 ③住所 ④必要なアンケート用紙の種類(ひきこもり当事者/経験者用、家族用)**をご記入の上、「お問い合わせ」までメールまたはFAXにてお送りください。返信用封筒を同封し1週間以内に郵送いたします。(回答の際、郵送料のご負担はありません)

- ❗ 調査結果について: 調査の分析結果については、三重県のWebサイトや受託者のブログ等において公表する予定です。
- ❗ 個人情報について: 公表に際しては、統計的な情報に加え、みなさまから得られた情報についても言及する場合がありますが、その際は個人が特定できない形で行います。

お問い合わせ

調査に関するご不明な点やご質問等は、
ひきこもりUX会議までお問い合わせください。

 event@uxkaigi.jp

MAIL

 **03-4496-4382**
FAX [24時間受付]

ひきこもり 
UX会議 

ひきこもりや不登校、発達障害、性的マイノリティの当事者・経験者で立ち上げた当事者団体。当事者の視点から「生存戦略」のための提案・発信をしています。

WEB uxkaigi.jp Facebook/X [@uxkaigi](https://www.facebook.com/uxkaigi)

令和6年度 三重県ひきこもり実態調査報告書

—当事者・家族・支援機関の声から見えてきた支援の課題と提言—

令和7年（2025年）1月発行

調査主体

三重県

調査実施・編集・発行

一般社団法人ひきこもりUX会議

〒140-0004 東京都品川区南品川4-4-17 品川サウスタワー

E-mail : info@uxkaigi.jp

<https://uxkaigi.jp/>

調査・分析アドバイス

関水 徹平（明治学院大学社会学部社会福祉学科 准教授）

本報告書は、令和6年度三重県委託事業「ひきこもり当事者・家族に対する実態調査事業」として実施した調査の結果をまとめたものです。

本報告書の内容は、出典を明記することで自由に引用・転載していただけます。

令和6年度

三重県ひきこもり 実態調査報告書

当事者・家族・支援機関の声から
見えてきた支援の課題と提言

一般社団法人ひきこもりUX会議

調査・分析アドバイス
関水徹平（社会学者）